

思文閣出版

図書目録

二〇二〇

Shibunkaku Publishing
Publications 2020
No.48

◇より詳細な情報・目次はホームページをご覧ください

◇本目録の表示価格は消費税別です

◇本目録は2020年3月現在の在庫書籍を中心に作成したものです

未刊で、定価、頁数等決定していないものは空欄となっています。また内容に多少の変更があるかもしれないことをあらかじめおことわりいたします。品切一覧掲載の図書や【品切】表示についても、ご要望にお答えできる場合もありますので、お問い合わせ下さい。

◇ISBN（国際標準図書番号）について

図書を特定するための番号です。

2006年以前の刊行物については10桁規格表記、2007年以降の刊行物は13桁規格表記となっております。

●ご購入・ご注文について

◇最寄りの書店へお申し込み下さい

小社刊行書は、書店にて取扱っております。店頭が無い場合は、書店にご注文下さい。

◇直接小社へご注文の場合は、規定の送料を頂戴致します。書名、巻数、冊数と住所、氏名、電話番号をご記入の上、お申し込み下さい。代引でご送付、書籍代+送料を現品と引き換えに配達員へお支払い下さい。代引手数料は弊社負担です。（公費の後払い可）

——送料規定——

（合計税込価格）	20,000円未満	20,000円以上
（送料）	600円	無料

◇電話、FAX、e-mailでもご注文いただけます。本目録末尾をご参照の上、お申し込み下さい。

◇【オンデマンド版】商品は、受注生産のため、ご注文から2週間ほどお時間いただきます。

◇各々の刊行図書のパンフレット、チラシは無料でご送付いたします。その旨ご明記の上、お申し込み下さい。

◇お客様の個人情報は、商品発送、商品案内などに思文閣グループ各社で利用し、それ以外の第三者にはお客様の同意なく提供しません。詳細はホームページ「思文閣グループ個人情報保護方針」をご覧ください。

●書店の皆様へ

帳合取次は次の通りです

トーハン・日販・楽天BN・八木書店・日教販・西村書店

もくじ		54	美術史
			史論・史料 54
			仏教美術 56
			墨跡・書 57
			絵画 58
			工芸史 60
			染織史・服飾史 62
			和紙 63
			茶道 63
			華道 66
		67	文化史
			法制史 67
			経済史 67
			技術史 69
			建築史・庭園史 70
			比較文化史・文明史 71
			民俗・文化人類学 73
		77	考古学
		78	文 学
			史料 78
			上代 80
			中古 80
			中世 81
			近世 83
			近代 83
			比較文学 84
			中国文学 86
		87	随筆・随想・その他
4	辞典		
5	日本史		
	史料集 5		
	個人著作集・全集 9		
	叢書 10		
	古代 10		
	中世 14		
	近世 23		
	近代 30		
	地方史・通史 34		
36	東洋史		
38	思想・教育史		
	通史 38		
	個人著作集・全集 38		
	近世 38		
	近代 40		
42	医学史		
	史料集 42		
	個人著作集・全集 43		
	通史・年表 43		
	部門史 44		
	人物研究 44		
	史論 45		
	医療人類学 46		
47	宗教史		
	禪宗 47		
	天台宗・真言宗 49		
	浄土宗・浄土真宗 49		
	法華宗 50		
	神道 51		
	宗教一般・その他 52		

2018年4月～2019年12月 刊行図書一覧

書名 編著者名	本体価格	掲載頁	書名 編著者名	本体価格	掲載頁
住友史料叢書 第33回 朝尾直弘監修／住友史料館編	¥9,500	6頁	戦国・織豊期大坂の都市史的研究 大澤研一著	¥13,300	29頁
吉田清成関係文書 第7巻 京都大学文学部日本史研究室編	¥21,000	7頁	大名庭園の近代 小野芳朗・本康宏史・三宅拓也著	¥8,000	33頁
東寺廿一口供僧方評定引付 第3・4巻 伊藤俊一・富田正弘・本多俊彦編	各 ¥6,500	7頁	天皇のダイニングホール 【2刷】 山崎鯛介、メアリー・レッドファーン、今泉宜子著	¥2,500	33頁
東寺百合文書 第十三巻 京都府立京都学・歴史館編	¥13,500	7頁	近代天皇制と社会 高木博志編	¥7,300	34頁
藤原道長事典 【2刷】 大津透・池田尚隆編	¥6,000	13頁	植民地帝国日本における知と権力 松田利彦編	¥15,000	34頁
『御堂関白記』の研究 倉本一宏著	¥8,000	13頁	大阪舎密局の史的展開【オンデマンド版】 藤田英夫著	¥6,000	34頁
古代寺院史の研究 【初版】 菱田哲郎・吉川真司編	¥13,000	13頁	訓読 豊後国志 太田由佳訳／松田清注	¥7,000【品切】	
日本古代即位儀礼史の研究【オンデマンド版】 加茂正典著	¥10,000	14頁	植民地朝鮮の勸農政策 土井浩嗣著	¥9,000	37頁
古代天皇祭祀・儀礼の史的研究 佐野真人著	¥12,000	14頁	江月宗玩 欠伸稿訳注 画賛篇 芳澤勝弘編著	¥8,000	48頁
戦国期六角氏権力と地域社会 新谷和之著	¥9,000	22頁	東陽英朝 少林無孔笛訳注 (二) 芳澤勝弘編著	¥13,000	48頁
古代・中世の地域社会 大山喬平・三枝暁子編	¥9,000	22頁	賢者の王国 愚者の浄土 工藤美和子著	¥6,500	50頁
中世禁裏女房の研究 松蘭斉著	¥8,000	22頁	法隆寺史 上 法隆寺編	¥6,800	53頁
茶の湯とイエズス会宣教師【オンデマンド版】 スムットニー祐美著	¥5,000	22頁	文人画 往還する美 河野元昭著	¥15,000	56頁

書名 編著者名	本体価格	掲載頁		
正倉院宝物に学ぶ3 奈良国立博物館編	¥3,000	56頁	パリ万国博覧会とジャポニズムの誕生【3刷】 寺本敬子著	¥6,500 72頁
園城寺の仏像 第四巻 鎌倉彫刻篇 園城寺監修／園城寺の仏像編集委員会編	¥18,000	57頁	森と火の環境史 米家泰作著	¥7,500 73頁
琉球船と首里・那覇を描いた絵画史料研究 琉球船と首里・那覇を描いた絵画史料研究会編	¥18,500	59頁	和食とは何か【4刷】 和食文化国民会議監修／熊倉功夫・江原絢子著	¥900 75頁
住吉如慶筆 伊勢物語絵巻 伊勢物語絵研究会編	¥27,600	59頁	和食の歴史【2刷】 和食文化国民会議監修／原田信男著	¥900 75頁
北野天満宮 信仰と名宝 京都文化博物館企画・編集	¥2,500	60頁	和食と日本酒 和食文化国民会議監修／増田徳兵衛著	¥900 75頁
墨の興趣 短歌と墨紀行 堀江春美著	¥3,000	60頁	地域名菓の誕生【オンデマンド版】 橋爪伸子著	¥9,700 76頁
近代京都の美術工芸 並木誠士編	¥11,000	62頁	和食手帖【2刷】 和食文化国民会議監修	¥1,500 76頁
そそうの哲学【2刷】 朴珉廷著	¥5,000	65頁	幽霊の歴史文化学【2刷】 小山聡子・松本健太郎編	¥2,500 76頁
花道の思想【3刷】 井上治著	¥1,800	66頁	神話文学の展開 三浦俊介著	¥12,000 82頁
近代日本の衣服産業 岩本真一著	¥7,000	68頁	説話研究を拓く 倉本一宏編	¥9,000 82頁
田中久重と技術の継承 河本信雄著	¥7,600	69頁	絵入謡本と能狂言絵 神戸女子大学古典芸能研究センター編	¥4,200 83頁
庭と建築の煎茶文化【2刷】 尼崎博正・麓和善・矢ヶ崎善太郎編著	¥5,500	71頁		

大槻幹郎・加藤正俊・林雪光編著

黄檗文化人名辞典

1988／菊判／720頁
本体15,000円 ISBN4-7842-0538-1

森繁夫編／中野莊次補訂

名家伝記資料集成〔全5巻〕

1984・1991／A 5判／総5400頁
本体130,000円 ISBN4-7842-0682-5

入矢義高監修／古賀英彦編著

禅語辞典

1991・2009／A 5判／600頁
本体9,500円 ISBN4-7842-0656-6

波多野幸彦監修／東京手紙の会編

くずし字辞典

2000・2015／A 5判／1454頁
本体6,000円 ISBN4-7842-1024-5

わが国の近世文化にカルチャーショックを与えた黄檗文化の総合辞典。黄檗僧はもとより檀越・外護者・学者・画家などの黄檗文化形成に寄与した人物伝(900人)のほか、黄檗法系譜と総索引を収録。総索引は僧名(道号)・法諱・法諱(諱字)・別号・檀越帰依者の五索引を取めた。

短冊の蒐集、伝記研究で知られた森繁夫氏が20数年の歳月をかけて調査編集した草稿を、短冊、古筆など広く古典籍の蒐集で著名な中野莊次氏が更に20数年かけて浄書、補訂したもの。鎌倉末期から昭和20年までに没卒した国学者・歌人・漢学者・文人・高僧・芸術家等の45,000名の伝記資料。【2刷】

禅語録中の難解な語句(約5,500)について、平易なことばで解釈を施した画期的な辞典。中国語学研究の第一人者である入矢義高氏監修のもと、古賀英彦氏が十年の歳月を費やして編集。いわゆる漢文の語法では読めない口語の解説が備わり、漢文を読むすべての人に必携の書。【7刷】

天皇・公家・武将・僧侶・茶人・文人・商人などの実用の書である自筆消息(書状)からその筆跡(35,000字)を、また必要に応じて中国の代表的書家・文人からも1字1字拾集し、採字した各文字にはその人名を明らかにした画期的な辞典。消息(書状)の解読、鑑賞などに幅広く活用できる。【6刷】

史 料 集

〔監修〕近衛通隆 〔編集〕陽明文庫
〔編集顧問〕熱田公・益田宗

陽明叢書 記録文書篇

〔全12輯・全31冊・別輯1〕

- 第1輯 御堂関白記(全5冊) 〔①②④品切〕〔解説〕土田直鎮
揃 本体48,600円
- 第2輯 岡屋関白記・深心院関白記・後知足院関白記
(全1冊) 〔解説〕橋本義彦
本体14,000円
- 第3輯 後法成寺関白記(全3冊) 〔解説〕今枝愛真
揃 本体34,600円
- 第4輯 後深心院関白記(全3冊) 〔解説〕今枝愛真
揃 本体36,000円
- 第5輯 人車記(全4冊) 〔解説〕上横手雅敬
揃 本体48,000円
- 第6輯 平記・大府記・永昌記・愚昧記(全1冊)
〔解説〕山本信吉・新田英治・石田祐一
本体14,000円 〔品切〕
- 第7輯 中右記(全4冊) 〔解説〕益田 宗
揃 本体55,000円
- 第8輯 後法興院記(全4冊) 〔解説〕益田 宗
揃 本体56,000円

近衛家伝来の文庫襲蔵の記録及び文書中より中世の未公刊史料を中心に影印で刊行。各輯ごとに書誌および史料的位置、当時の時代背景、さらに近衛家にも触れた解説を付す。

- 第9輯 法制史料集(全1冊)
〔解説〕杉橋隆夫・佐古愛己
本体12,000円
- 第10輯 名家消息集(全1冊) 〔解説〕朝尾直弘
- 第11輯 紙背文書集(全3冊) 〔解説〕佐藤泰弘
- 第12輯 所領関係文書集(全1冊)
〔解説〕田中 稔・熱田 公
- 別 輯 宮城図(全1冊) 〔解説〕村井康彦・瀧浪貞子
本体18,000円

編集 中村幸彦・多治比郁夫
岡村 繁・中野三敏・井上敏幸

広瀬旭荘全集

〔全11巻〕

1982〜/B 5判/平均560頁/既刊揃 本体172,000円

- 日記篇(日間瑣事備忘)(全9巻) 〔編集〕多治比郁夫
揃 本体127,500円
- 随筆篇(全1巻) 〔解説〕中野三敏
1986 / 472頁 / 本体14,500円

詩文篇(全1巻) 〔解説〕井上敏幸
2010 / 892頁 / 本体30,000円

今川文雄翻刻・校訂/高橋貞一解説
ぎょく ずい
玉 薬

1984・1992 / A 5判 / 544頁
本体14,000円 ISBN4-7842-0746-5

今谷明・高橋康夫編
室町幕府文書集成奉行人奉書篇
〔全2巻〕

1986 / A 5判 / 総1200頁
揃 本体15,000円

九条兼実の孫、道家が30年にわたり記した玉薬は、玉薬・明月記と並んで鎌倉時代の代表的な公卿の日記として中世史研究必須の史料。自筆原本は現存せず、今回の翻刻では高橋貞一博士所蔵本(全10冊 江戸初期筆写)を底本とし、陽明文庫本及び京都府立総合資料館本を対校本とした。 【2刷】

室町時代の基本的史料である奉行人奉書。南北朝時代から永禄11年9月の信長入京までの4000余通を一通ごとに編年集成し、足利義材・義澄・義維の奉行人奉書を下巻に収録した。

杉本勲・酒井泰治・向井晃編
幕末軍事技術の軌跡
佐賀藩史料『松乃落葉』
1987／A 5判／450頁
本体8,500円 ISBN4-7842-0467-9

監修・小葉田淳／朝尾直弘
編集・住友史料館
住友史料叢書
1985～／A 5判／平均400頁／既刊34冊
既刊揃 本体315,000円

京都大学
文学部 **博物館の古文書**

幕末期、西欧科学技術導入が最も進んでいた佐賀藩の藩主鍋島直正の側近として活躍した本島藤太夫松蔭の編著で、杉本博士を中心とする「西南諸藩洋学史研究会」が翻刻、解説、異本との校訂などしたもの。翻刻にあたっては佐賀県立図書館鍋島文庫所蔵本（全4巻）を底本とした。

1620年代から大坂で銅の精錬を業とし、世界銅産市場においても重要な位置を占めた住友家は、近代の財閥につながる豪商の一典型である。その鉱業史料は、わが国屈指の基本史料であり、本叢書は1万数千点にのぼる近世史料のうち、重要で継続する記録類を中心に編集。

京都大学文学部国史研究室所蔵の古文書の中からテーマ毎に編集、代表的なものを写真で紹介し、その解説・釈文を付す。関係史料や地図・表なども併載し、古文書の研究と鑑賞に資す。

ISBN4-7842

- | | | |
|------|--------------|--------------------|
| 第1輯 | 長講堂領目録と島田家文書 | 〔解説〕大山喬平 (-0494-6) |
| 第2輯 | 若狭秦家文書 | 〔解説〕熱田 公 (-0513-6) |
| 第3輯 | 細川頼之と西山地蔵院文書 | 〔解説〕大山喬平 (-0529-2) |
| 第4輯 | 勤修寺家本職掌部類 | 〔解説〕吉川真司 (-0553-5) |
| 第5輯 | 駿河伊達家文書 | 〔解説〕今岡典和 (-0571-3) |
| 第6輯 | 東大寺文書 | 〔解説〕久野修義 (-0598-5) |
| 第7輯 | 伊勢御師と来田文書 | 〔解説〕西山 克 (-0622-1) |
| 第8輯 | 大山崎宝積寺文書 | 〔解説〕仁木 宏 (-0647-7) |
| 第9輯 | 浄土宗西山派と三結寺文書 | 〔解説〕大山喬平 (-0733-3) |
| 第10輯 | 葛川明王院文書 | 〔解説〕田良島哲 (-0756-2) |
| 第11輯 | 永昌記紙背文書 | 〔解説〕佐藤泰弘 (-0778-3) |
| 第12輯 | 伊勢松本文書 | 〔解説〕西山 克 (-0811-9) |

1987～／B 4判／32頁
(各) 本体2,000円

大濱徹也・熊倉功夫・筒井紘一校訂
萬象録〔全9巻〕
高橋箒庵日記
1986～／A 5判／平均450頁／既刊8冊
既刊揃 本体66,000円

〆近代茶道鼓吹の第一人者。とされた高橋箒庵。本書は、その箒庵が記した明治45年5月から大正10年6月までの日記である。政治・経済・文化・美術・芸能など多岐にわたる事柄、更には斯界人との交友を綴った一大メモワール。最終巻には解説・総索引を付す。

梅溪 昇 編
明治期外国人叙勲史料集成
〔全6巻〕
1991／B 5判／総3120頁
本体150,000円 ISBN4-7842-0666-3

国立公文書館所蔵「公文録」（8～18年）「官吏進退」（19～25年）「叙勲」（26～45年）から、外国人叙勲に関する史料を集成したもので、2087件、31ヶ国、延約7600名を含む。叙勲理由・経歴などが記され、政治・外交・経済・社会・文化・科学など多方面にわたる国際環境を知ることができる。

宮内庁書陵部編
花園院宸記〔全35巻〕
1992～／巻子仕立（桐箱及び艶箱入）
全24回・1～35巻
10回配本（第17・19巻）品切／揃 本体8,145,486円（品切除く）

伏見宮家に伝来した本宸記は延慶3年14歳より元弘2年36歳までの自筆日記。社会情勢のみならず文学・芸能などにおよぶ内容は、能筆とともに鎌倉末期の一級史料。コロタイプ印刷で裏書もふくめ再現。別冊解説付き。

佐治家文書研究会編
佐治重賢氏
所 蔵 **小堀政一関係文書**
1996／A 5判／390頁
本体8,800円 ISBN4-7842-0921-2

佐治重賢氏所蔵文書（総点数7千点）のうち、特に近世前期政治史に重要な位置を占め、また茶人としても著名な小堀政一（遠州）に関わる文書を三部構成で翻刻・収載。小堀政一関係文書は、国奉行・代官の史料としては希有のものであり、近世初期の幕領支配の様子を極めて具体的に知ることができる。

鹿王院文書研究会編
鹿王院文書の研究
2000／A 5判／530頁
本体13,000円 ISBN4-7842-1037-7

臨濟宗寺院の鹿王院（京都市右京区）所蔵の中世文書（五山禅林と幕府・朝廷との関係や京中及び諸国に展開する所領・荘園にかかわる貴重史料など）約900点を収録。第1部（文書篇）には編年で釈文を収め、第2部（解題・研究篇）には文書全体の解題のほか研究成果を収録。

京都大学日本史研究室編

京都大学日本史研究室および京都大学附属図書館所蔵の古文書古記録の内、古代から近代まで各時代にとって史料の価値の特に高い史料群を、活字あるいは影印にて刊行。

京都大学史料叢書〔全23冊〕

- 兵範記・範囲記・知信記(全4冊) ISBN4-7842 [解説]上横手雅敬
 兵範記(一)～(三) (各) 本体10,500円 ①(-0525-X) ②(-0559-4) ③(-0568-3)
 兵範記(四)・範囲記・知信記 本体30,000円 ISBN978-4-7842-1986-5
 兵範記紙背文書(全1冊) [解説]佐藤泰弘
 西山地藏院文書(全1冊) 本体13,000円 ISBN978-4-7842-1816-5 [解説]早島大祐
 京都雑色記録(全3冊) [解説]朝尾直弘
 (各) 本体14,000円 ①(-1133-0) ②(-1135-7)
 ③ISBN978-4-7842-1627-7
 [解説]山本四郎
 吉田清成関係文書(全7冊)
 書翰篇(1)～(3) (各) 本体13,000円 ①(-0804-6) ②(-0925-5) ③(-1048-2)
 書翰篇(4) 本体15,000円 ISBN978-4-7842-1428-0
 書類篇(1) 本体19,500円 ISBN978-4-7842-1666-6
 書類篇(2) 本体21,000円 ISBN978-4-7842-1818-9
 書類篇(5)・書類篇(3) 本体21,000円 ISBN978-4-7842-1917-9
 安祥寺資財帳(全1冊) [解説]中町美香子
 本体5,500円 ISBN978-4-7842-1516-4

1988～
A5判
平均400頁大記(全1冊)
永昌記(全1冊)
東大寺文書(全1冊)光豊公記(全1冊)
田中不二麿関係文書(全1冊)

フォス美弥子編訳

海国日本の夜明け

オランダ海軍ファビウス駐留日誌

2000/A5判/400頁

本体5,000円 ISBN4-7842-1047-4

蒸気艦スピン号(のちの観光丸)の前艦長、長崎海軍伝習の起案者、日本海軍創成の助言者であったオランダ海軍中佐G・ファビウスは幕末の日蘭関係の立役者であった。本書には、ファビウスの連続3度のべ8カ月にわたる本邦初紹介の駐留日誌のほかその間の動向をつなぐ公文書を収録。

鮫島文書研究会編

鮫島尚信在欧外交書簡録

2002/A5判/620頁

本体12,800円 ISBN4-7842-0962-X

鮫島尚信が初代駐仏公使として在動中に、ヨーロッパ各国の外相並に政府要人や学界・産業界の人々に宛てて出した公信442通(英仏)を原文と翻訳で収録。明治初期におけるわが国現地外交の実態を知る貴重な史料集。原史料は“Correspondance envoyée depuis 1871”(鹿児島純心女子大学蔵)

伊藤俊一・富田正弘・本多俊彦編

東寺廿一口供僧方評定引付

2002～/A5判/平均370頁/第一期全4冊

揃 本体26,000円

東寺廿一口供僧方は鎌倉後期に公家(朝廷)の支援によって創られた国家祈禱を行う寺僧組織。構成員による自治的な共同経営で、供僧全員参加の評定により方針の決定、実行がなされる寺僧組織の中核であった。この議事録である引付を編年史料として整理・翻刻し、校定・注釈を加える。

京都府立総合資料館/京都府立京都学・歴史館編

東寺百合文書

2004～/A5判/平均440頁/既刊13冊

既刊揃 本体129,500円

東寺に襲蔵されてきた総数18,000点・27,000通におよぶ日本最大の古文書群(平成9年国宝に指定)。本史料には「ひらかなな之部」刊行中の『大日本古文書』(東京大学史料編纂所)未収録の「カタカナ之部」を翻刻。巻末に収録史料の花押一覧を併載。

田島 公 編

禁裏・公家文庫研究

2003～/B5判/既刊7冊

②品切/既刊揃 本体72,800円(品切除く)

勅封のため全容が不明であった東山御文庫本を中心に、近世の禁裏文庫所蔵の写本や、公家の諸文庫収蔵本に関する論考・史料紹介・データベースを収載。

山中 裕 編

御堂関白記全註釈

〔第2期・全8冊〕

2003～2010／A5判
揃 本体50,500円

山中 裕 編

御堂関白記全註釈

〔第1期・全8冊〕

2012／A5判
揃 本体56,500円

本篇：赤松俊秀校訂／総索引：『隔蓑記』研究会編
かくめい き

隔蓑記

〔全7巻／本篇6冊・総索引1冊〕

1997／A5判／平均700頁
本体70,000円 ISBN4-7842-1311-2

『隔蓑記』研究会編

かくめい き

隔蓑記 総索引

2006／A5判／760頁
本体14,000円 ISBN4-7842-1312-0

太田勝也編

近世長崎・対外関係史料

2007／A5判／728頁
本体16,000円 ISBN978-4-7842-1362-7

塵海研究会編

北垣国道日記「塵海」

2010／A5判／652頁
本体9,800円 ISBN978-4-7842-1499-0

東京国立博物館古典籍叢刊編集委員会編

九条家本延喜式

〔全5巻〕

東京国立博物館古典籍叢刊

2011～／A5判／平均500頁

1～4(各) 本体15,000円

原田正俊編

天龍寺文書の研究

2011／A5判／716頁
本体14,000円 ISBN978-4-7842-1571-3

藤原道長の「御堂関白記」は、一級の日記史料で平安朝研究には不可欠のものである。本註釈は、京都と東京における研究会の成果を盛り込み、原文・読み下し・註で構成され、日記研究の基本文献としての体裁を整えている。

第1回 長和4年

第2回 寛弘3年

第3回 寛弘7年

第4回 寛弘4年

第5回 寛弘8年

第6回 寛弘5年

第7回 長和5年

第8回 御堂御記抄／長徳4年～長保2年

藤原道長の日記「御堂関白記」の原文・読み下しと詳細な註により構成するシリーズ。全16冊(第1期・第2期)完結を機に、入手困難な第1期(国書刊行会・高松書店発行)の全8冊を復刊。なお、「寛弘6年」については、初版刊行時の特殊事情を考慮して、編者のもとで註釈部分の再検討を行い、大幅な改訂を加えて改訂版として刊行。

寛弘元年・寛弘2年【オンデマンド版】・寛弘6年【改訂版】・
長和元年・長和2年・寛仁元年・寛仁2年上・寛仁2年下～
治安元年

鹿苑寺住持鳳林承章の寛永12年(1635)から寛文8年(1668)までの33年間にわたる自筆日記で、近世の日記の中でも一級の記録。鹿苑・相国両寺に関する記事は勿論のこと、当時の宮廷文化をとりまく多彩な人物との交流が伺える。総索引の完成を機に、全7巻セットとして復刊。

全6巻のデータベースをもとに、原文表記に準じつつ『隔蓑記』の内容に対応しうる詳細な索引。人名と事項および寺社・地名の3分類に分けて編集し、人名索引では史料掲出の異称・別称などの参照項目を設け、さらに事項索引では諸分野にわたる項目をできうる限り掲げて利用者の便に応える。

「長崎御役所留」(国立公文書館 内閣文庫所蔵)・「長崎諸事覚書」(同)・「長崎記」(東北大学附属図書館 狩野文庫所蔵)および「長崎旧記」(筑波大学附属図書館所蔵)の4点を収める。「長崎御役所留」は長崎奉行所に受け継がれてきた文書・記録類の編纂物であるが、この現存史料としては唯一。

北垣国道(1836～1916)は、京都府知事に就任した明治14年(1881)から、北海道庁長官・拓殖務次官などを経て、隠棲した明治34年(1901)までの活動や人々との交流を日記に書き残した。明治期地方官の実情を記し、京都のみならず中央政治史や地方自治・土木史・北海道史研究に寄与する資料。

国宝・九条家本延喜式は、平安～鎌倉時代の書写と見られ、さらにはその紙背に平安時代後期を中心とする多数の古文書が残されていることから、『延喜式』諸本の中で最も重要な写本である。FMスクリーン印刷により、紙背も含め全冊を影印で刊行。最終巻には紙背文書の翻刻を付す。

京都嵯峨・天龍寺の古文書は、仏教史・寺院史のみならず多数の朝廷・幕府発給の文書、荘園関係文書を含み、政治史・社会経済史研究に必須の文書群である。第1部には鎌倉時代～慶長5年の中世天龍寺関係文書・関連諸塔頭文書を掲載、第2部に解説・論考を取録する。

飯沼賢司編

あ そしもののかり

阿蘇下野狩史料集

2012 / A 5判 / 314頁

本体7,500円 ISBN978-4-7842-1611-6

皇學館大学神道研究所編

訓讀註釋 儀式 踐祚大嘗祭儀

2012 / B 5判 / 890頁

本体15,000円 ISBN978-4-7842-1619-2

佐々木克・藤井譲治・三澤純・谷川穰編

岩倉具視関係史料〔全2巻〕

2013 / A 5判 / 総1108頁

本体24,000円 ISBN978-4-7842-1659-8

今村家文書研究会編

今村家文書史料集

〔上 中世～近世編・下 近代編〕

2016 / B 5判 / 総644頁

揃 本体18,000円

大阪大学会沢正志斎書簡研究会編

あいざわせい し さい

会沢正志斎書簡集

2016 / A 5判 / 348頁

本体11,500円 ISBN978-4-7842-1828-8

坂本亮太・末柄豊・村井祐樹編

高雄山神護寺文書集成

2017 / A 5判 / 630頁

本体12,500円 ISBN978-4-7842-1883-7

阿蘇の五岳の西山麓に広がる広大な原野、下野（しもの）。そこで中世に行われた「下野狩神事」は、源頼朝の富士の巻狩りの手本となったとされる狩神事であり、阿蘇宮最大の重要行事であった。その史料である『下野狩日記』『下野狩旧記抜書』とその関連文書、阿蘇家所蔵の関連史料を翻刻。

三代儀式の一つとして貞観期に作られたとされる、朝廷儀式の次第書『儀式』（十巻）の前半部に含まれ、祭祀に関わる儀式を今に伝える貴重な史料「踐祚大嘗祭儀」の原文翻刻に訓読および各事項についての詳細な注釈・校異、ならびに解題・平面図等を付す。

憲政資料室所蔵文書・対岳文庫所蔵文書・内閣文庫所蔵文書に次ぐ、第4の岩倉具視関係文書群を活字化。『岩倉公実記』編纂時に利用されたものの最も主要な部分で、東京奠都のいきさつや、他の史料集などで紹介されていない未刊行書簡や書類が多数。原本校正を綿密に行い完全活字化。

京都の今村家に伝えられた文書群のうち、戦国期～近世前期の史料、由緒や経営関係、幕末の加茂川筋関連、「穢多」「非人」関係、幕末～明治初年の公用日誌を中心とした近代文書を上下2分冊で翻刻し、解題を付す。文書全点の目録および絵図類の画像とトレース図を収録したCDを上下両巻に収める。

大阪大学文学研究科が所蔵する会沢正志斎書簡を活字翻刻。会沢正志斎は、後期水戸学を代表する儒学者の一人。本書簡群は、会沢が、弟子で甥でもある寺門政次郎およびその父喜太平に対して宛てた書簡を主とし、会沢著作の書肆とのやりとりに関する記述が多く存在するのも特徴。

神護寺伝来の中世文書について、同寺現蔵分のみならず、寺外流出分についても能う限り探索・収集を行い、総数496点を編年して配列。これらに加え「伝法灌頂日記」「神護寺略記」などの記録類についても、記録編として収載。寺僧集団、政治史研究、荘園研究など多方面に裨益する画期的な一冊。

個人著作集・全集

土田直鎮編

桃裕行著作集〔全8巻〕

第1巻	修訂版 上代学制の研究【オンデマンド版】	本体 15,200円
第2巻	上代学制論攷【オンデマンド版】	本体 13,900円
第3巻	武家家訓の研究	本体 5,800円
第4巻	古記録の研究(上)【オンデマンド版】	本体 8,900円
第5巻	古記録の研究(下)	本体 5,800円
第6巻	松江藩と洋学の研究	本体 5,900円
第7巻	暦法の研究(上)【オンデマンド版】	本体 9,700円
第8巻	暦法の研究(下)【オンデマンド版】	本体 6,700円

1988～94 / A 5判 / 平均300頁

永年、東大史料編纂所にて古記録や編年史料の調査・編纂に携わった著者の業績。本著作集では、未定稿および書き込みも含め、氏の業績を全8巻に集成する。

村田正志著作集〔全7巻〕

1983～85 / A 5判 / 402～704頁

揃 本体79,000円

永年の業績を新たな加筆・訂正を補って集大成。古文書・古記録を通して実証につらぬかれた歴史眼がすみずみまで窺える。第4巻「証註椿葉記」や第7巻「風塵録」は貴重な史料の紹介・翻刻である。

林屋辰三郎(代表)・村井康彦・山路興造・川嶋將生・熊倉功夫編

民衆生活の日本史〔全3巻〕

1994～／四六判／平均250頁

第1回〈木〉本体2,500円 ISBN4-7842-0840-2 【3刷】

第2回〈火〉【品切】 ISBN4-7842-0910-7

第3回〈金〉【品切】 ISBN4-7842-0918-2

木・火・金の五行の元素を各巻タイトルにし、民衆生活への親密性・平易性・日常性を視座に日本史を綴る。時代の特徴を生み出し、日本人を支えてきた五つのうち三つの気候の分析を試みる。各巻は思想・産業・生活・風俗・信仰・特論の5篇、カラー口絵8頁と解説からなる。

叢書

徳川黎明會編

金鯨叢書(きんこそうしょ)

史学美術史論文集

1974～／第1～20巻A5判・第21巻～B5判
34～40冊(1～33品切)／揃 本体66,000円(品切除く)

徳川林政史料研究所の「研究紀要」と徳川美術館の重要名物類を対象とした史学・美術史学の研究論文を収録。

小社発売分は第40輯で終了。41輯以後は徳川美術館(TEL052-935-6262)へお問い合わせ下さい。

古代

山中 裕 著

平安時代の古記録と貴族文化

思文閣史学叢書

1988・1994／A5判／510頁
本体8,800円 ISBN4-7842-0857-7

古記録・儀式書・かな日記・歴史物語等の根本史料から、摂関政治の本質および年中行事を主とする平安貴族文化の実態を説く。第1篇では藤原師輔と源高明をとりあげ、第2篇では御堂関白記を中心に道長の政治を論じ、また史実と歴史物語の関係を検討し、第3・4篇で平安時代の有職故実を解明。【2刷】

村井康彦著

文芸の創成と展開

1991／A5判／400頁
本体4,800円 ISBN4-7842-0658-2

歴史と文学の虚実——私日記・説話・歴史物語などを通して平安貴族の生活、受領の実態、武士の精神構造、女性たちの愛憎をさぐる。村井文化史学。の粋29篇を収め、著者の一到達点を提示する一書。

瀧浪貞子著

日本古代宮廷社会の研究

思文閣史学叢書

1991／A5判／620頁
本体11,800円 ISBN4-7842-0677-9

先入観を極力排し、奈良・平安時代を連続して考察することにより、光明子立后論の盲点を衝き、学問的に忌避されがちな孝謙女帝の復権を果すなど創見に富む著者初の論文集。

山中 裕 編

古記録と日記〔上・下〕

1992／A5判／(上)252頁(下)266頁

(各) 本体2,900円

上(ISBN4-7842-0752-X) 下(ISBN4-7842-0753-8)

古記録と日記文学は同じ日記とはいえ、まったく異なる分野であり、従来の研究は古記録を歴史学、“かな”の日記を国文学の分野で扱ってきたが、本書においては日記という大きな見地から平安朝の古記録と日記文学の本質を明らかにすることを主眼としている。挿入図版60余点。

山中 裕 著

源氏物語の史的研究

思文閣史学叢書

1997／A5判／470頁
本体9,200円 ISBN4-7842-0941-7

王朝文化・有職故実研究の第一人者が源氏物語を史的に読み解く。紫式部の生涯と後宮／源氏物語と時代背景／源氏物語の内容と時代性／源氏物語の準拠と史実、の4篇と付篇からなり、特に第三・四篇は、摂関制・年中行事・準拠と史実などの面から論じた、著者の面目躍如たる一書。

西別府元日著

律令国家の展開と地域支配

思文閣史学叢書

2002 / A 5判 / 400頁

本体8,200円 ISBN4-7842-1111-X

土地に対する国家的管理の実相、民衆掌握の様相、地域社会と国家との関係、の3視点から8～9世紀の諸政策を対比的に分析・検討し、律令国家支配の理念とその構造的変化を追究する。

秋吉正博著

日本古代養鷹の研究

2004 / A 5判 / 280頁

本体6,500円 ISBN4-7842-1181-0

律令国家体制下の養鷹の実態、放鷹文化の構造を解明。朝廷の放鷹が近隣諸国や国内の地方の放鷹と隔絶しているかのごとくされてきた従来の研究に対し、東アジアの国際情勢と照応しながら体制の内外を横断し展開する朝鮮半島系と中国系という二極の放鷹文化の伝統意識を動態的に捉える。

栄原永遠男著

紀伊古代史研究

2004 / A 5判 / 430頁

本体7,500円 ISBN4-7842-1199-3

古代の紀伊をテーマに扱ってきた永年の成果をまとめる。第Ⅰ部では、紀国造と名門貴族である紀朝臣の考察と倭政権との関係を扱い、政治と経済の動向は第Ⅱ部でとりあげる。第Ⅲ部には史料論5篇を収録。

佐藤宗諒先生退官記念論文集刊行会編

『親信卿記』の研究

2005 / A 5判 / 600頁

本体9,800円 ISBN4-7842-1252-3

平親信の日記『親信卿記』は、藏人の年中行事に関わる一級の史料である。本書は、四方拝・供立春水など80項目余の行事ごとに記事を抽出・分類し、その内容の基礎的な研究を試みたものであり、関係補論6篇のほか古代史の個別論考4篇も収録。

中村修也著

今昔物語集の人々 平安京篇

2004 / A 5判 / 220頁

本体2,300円 ISBN4-7842-1213-2

虚実ないまぜ話柄の豊富な説話文学の古典から平安京という都市で生きる人々——商人・検非違使・怪盗・陰陽師・絵師たち——のさまざまな姿を活写。【目次】都人の楽しみは神社詣で／不思議な力の商人たち／盗賊団の跋扈する都／平安京の冥界と霊力／都に生まれた芸術家／昔も変わらぬ食生活

官文娜著

日中親族構造の比較研究

思文閣史学叢書

2005 / A 5判 / 430頁

本体7,200円 ISBN4-7842-1241-8

近代以降、日本は西洋異文化（近代文化）との融合を果たしたが、中国はそれが不可能であった。なぜそのような状況がうまれたのか。異文化の特質解明という視点から日本と中国の血縁親族構造の比較を検証してその原因を解明した、著者初の論文集。

中村修也著

日本古代商業史の研究

思文閣史学叢書

2005 / A 5判 / 400頁

本体7,200円 ISBN4-7842-1268-X

人間の生活は商人による多様な交易によって支えられ営まれている。本書では、これらの商人や市に関わる人々の存在形態を、交易の発生から出雲・平城京・平安京などにおける都市空間の生活の場で解析し、日本古代における商人と商業の業態を明かす。

兵範記輪読会編

増補改訂 兵範記人名索引

2013 / A 5判 / 524頁

本体9,000円 ISBN978-4-7842-1713-7

1980年の輪読会発足より蓄積された研究成果を集成。（増補）史料大成本を底本とし、男子の部と女子の部よりなり、人名項目のもとに掲出年月日と原文表記を掲げ、原本の情報を盛り込んだ、研究者必携の一書。増補改訂にあたり、本文篇の誤り・遺漏等を改訂、「異称・通称名索引」を増補。

上田正昭著

東アジアのなかの日本

2009 / 四六判 / 376頁

本体2,400円 ISBN978-4-7842-1479-2

海を媒介とするアジアとのかかわりを重要なテーマとしてきた著者がまとめた最新の一書。【内容】東アジアのなかの京都盆地／嵯峨野と秦氏／神々のあるさと／銘文研究二十年と古代史／鎮守の森と南方熊楠／歴史のなかの聖徳太子像／和歌のこころ／保津川開削と了以・素庵 など

林 陸朗 著

奈良朝人物列伝

『続日本紀』薨卒伝の検討

2010 / A 5判 / 468頁

本体7,000円 ISBN978-4-7842-1517-1

『続日本紀』には王臣・僧侶等の死没記事のあとにその人の略伝的な記事を掲げることがある。こうした伝記的な記事を薨卒（こうしゅつ）伝といい、撰者の批評的記事を交えて極めて特色ある史料として注目される。54の全薨卒伝について、現代語訳・訓読・原文・語句解説・考察で構成。

仁明朝史の研究

承和転換期とその周辺

2011／A5判／356頁

本体7,000円 ISBN978-4-7842-1547-8

鹿内浩胤著

日本古代典籍史料の研究

2011／A5判／376頁

本体6,700円 ISBN978-4-7842-1552-2

渡邊 誠 著

平安時代貿易管理制度史の研究

2012／A5判／396頁

本体7,000円 ISBN978-4-7842-1612-3

佐古愛己著

平安貴族社会の秩序と昇進

2012／A5判／572頁

本体7,800円 ISBN978-4-7842-1602-4

山中 裕 著

栄花物語・大鏡の研究

2012／A5判／404頁

本体7,200円 ISBN978-4-7842-1640-6

武田佐知子著

古代日本の衣服と交通

装う王権 つなぐ道

2014／A5判／420頁

本体6,800円 ISBN978-4-7842-1723-6

渡辺 滋 著

日本古代文書研究

2014／A5判／480頁

本体9,200円 ISBN978-4-7842-1715-1

近藤好和著

日本古代の武具

『国家珍宝帳』と正倉院の器仗

2014／A5判／470頁

本体8,500円 ISBN978-4-7842-1766-3

山下克明著

平安時代陰陽道史研究

2015／A5判／460頁

本体8,500円 ISBN978-4-7842-1780-9

仁明朝史研究会の研究成果をもとに、様々な分野・視点から仁明朝期の画期性を解き明かす論文集。

【目次】九世紀東部ユーラシア世界の変貌（山内晋次）／九世紀の調庸制（吉川真司）／九世紀の輸送体系（佐藤泰弘）／「化他」の時代（堀裕）／平安京野寺（常住寺）の諸問題（西本昌弘）／銭貨と土器からみた仁明朝（高橋照彦）／造瓦体制の変革期としての仁明朝（網伸也）／定額寺の修理と地域社会の変動（菱田哲郎）／承和期の乾漆併用木彫像とその後の展開（根立研介）／平安時代前期の陵墓選地（山田邦和）／斎宮・離宮院変遷の歴史的背景（山中章）

史書・法制史料・儀式書など日本古代史の基本史料を対象に、伝来論的アプローチを中心に「文献学的研究」と「書誌学的研究」の二部構成で研究の方法論を提示。著者が発見した新史料『小野宮年中行事裏書』（田中教忠旧蔵『寛平二年三月記』）全丁の影印・翻刻も収録。

従来、平安時代の貿易に対する国家の関与は、内外の交易者と対立的に捉えられることが多かったが、人々の活動を即座に国家権力と対峙させる理解は今や再考を迫られている。本書は海商の貿易活動を国家が管理する「制度」を中心にすえて、その消長を明かすことで、新たな貿易史像を呈示する。

従来、律令官司制の変質、中世国家機構の形成過程との有機的な関連はほとんど追究されてこなかった。本書は、平安から鎌倉初期にかけての各制度の総体的な把握を試みることに、律令官人制から平安貴族社会、中世公家社会の成立過程を明かし、日本の古代から中世への移行の特質を探る。

従来『栄花物語』はとくに国文学の分野でとりあげられ、歴史学の方面からの研究は少ない。本書は『栄花物語』に内包される歴史書としての特徴を考究し、かつ『大鏡』の歴史的意義についても論究。従来からの歴史物語という分野に収まりきれない可能性を提示する。

衣服が着用される儀礼の空間としての都と地方が、連続した人工的空間としての道路で結ばれていること、その道路の国家と公民における意味、そこでの衣服の機能などを考察の対象とした諸論考を冒頭に配し、古代の中国や朝鮮半島の衣服を継受しながら形成されてきた日本列島の衣服制を見通す。

古代中国から文書主義を継受した段階にはじまり、最終的にそれを換骨奪胎して日本的新秩序として再編成するまでの諸過程を、日本古代社会で作成・利用されたおもな文書形式（符・庁宣・下文、移、牒、解など）を対象として分析。古代から中世への移行にかかわる日本社会の特質に迫る。

光明皇太后による献納品目録『国家珍宝帳』に書かれた古代器仗の情報と正倉院宝物は古代の器仗（武具）のありようを知るための貴重な基本文獻・伝世品である。本書は両者をそれぞれ詳細に解説し、図版編には正倉院器仗を中心に多数の器仗を収録。日本古代の器仗を理解するための基本図書。

陰陽道の日本の特質、陰陽師たちの天文観測技術や呪術・祭祀など活動の実態とその浸透、彼らの信仰などをさまざまな角度から明かす。また、陰陽道の背景となった諸典籍、陰陽師たちが著し伝えた主な関連史料を、解説を付しながら紹介。陰陽師の日記『承久三年具注暦』の翻刻を収録。

倉本一宏編

日記・古記録の世界

2015 / A 5判 / 792頁
本体12,500円 ISBN978-4-7842-1794-6

日記とは何か、古記録とは何か、それらを記録することの意味、記主や伝来をめぐる諸問題、古代・中世における使われ方など、単に日記・古記録を利用するだけにとどまらない意欲作35論考を収録。多様な領域の研究者が活発な議論を交わした、日文研共同研究「日記の総合的研究」の成果。

坂江 渉 著

日本古代国家の農民規範と地域社会

2016 / A 5判 / 464頁
本体9,000円 ISBN978-4-7842-1787-8

「農民規範」と「浮浪人」をキーワードに国家が地域社会に期待した農民像、律令国家の社会統治原理を明かす。一方、風土記や記紀にみえる神話や伝承、民間歌謡を素材として村落における農民結合のあり方、族長層と農民との支配一庇護関係を論じ、国家と地域社会の関係を双方の視点から分析。

龍谷 寿 著

平安王朝の葬送

死・入棺・埋骨
2016 / 四六判 / 304頁
本体3,700円 ISBN978-4-7842-1832-5

日本古代摂関・院政期の天皇(桓武〜安徳天皇)と貴族の葬送儀礼における具体相をさぐり、相違点を考察。平安王朝の死、入棺、葬送、埋骨の様相を通覧することから、皇権の在り方を考える。平安朝史研究に精通した著者による一書。土葬から火葬への変遷が一覧できる表を付載。

川端 新 著

荘園制成立史の研究
【オンデマンド版】2016 / A 5判 / 532頁
本体10,600円 ISBN978-4-7842-7026-2

荘園制の成立過程、およびそれに規定された荘園制の構造的特質を問うことは、中世国家、社会を基礎づける構造的成立過程やその特質を問うことである——。荘園制形成の通説に再検討を迫る博士論文を主軸に、付編には院政期裁判制度を論じた未発表稿を含む6論文を収録。初版2000年。

田中文英著

平氏政権の研究
【オンデマンド版】2016 / A 5判 / 490頁
本体9,800円 ISBN978-4-7842-7016-3

11世紀末・平正盛の時代以降、平氏がその政治権力を形成・拡充しつつ、中央政界に進出して政権を確立し、やがて没落してゆく過程を8章にわけてとりあげ、平氏の権力基盤・組織と政治構造とを分析することにより、平氏政権の歴史的位置を考察する。初版1994年。

中野渡俊治著

古代太上天皇の研究

2017 / A 5判 / 288頁
本体5,400円 ISBN978-4-7842-1887-5

奈良時代から平安時代にかけての太上天皇を考察の対象として、律令法上の規定、『六国史』等の史書に見える実態や、上表文などに見る天皇や臣下との関係を分析。太上天皇の地位の歴史的変遷を解明するとともに、太上天皇が、皇位継承や天皇の正当性の問題に深く関わる様相を明らかにする。

吉川真司・倉本一宏編

日本的時空観の形成

2017 / A 5判 / 608頁
本体12,500円 ISBN978-4-7842-1892-9

日本における古典的・伝統的な時空観はいつ、どのように形成されたのか。空間認識・時間認識を形作る様々な要素——日本の地理的・気候的環境、国家伝来の暦法と時刻制、政治制度、さらには仏教の影響など——を、文献史学、考古学、歴史地理学、国文学の研究者がそれぞれの視点から分析。

大津透・池田尚隆編

藤原道長事典

御堂関白記からみる貴族社会
2017・2018 / A 5判 / 462頁
本体6,000円 ISBN978-4-7842-1873-8

『御堂関白記全註釈』の成果をふまえて、約1050項目を新たに書きおろし、11の大分類に整理。各ブロック冒頭には、専門の執筆者による詳細な解説を収録。小項目は御堂関白記にみられるおもな語や表現を、分野別に網羅。最新の研究成果にもとづいた新たな平安朝の貴族社会像を提示。【2刷】

倉本一宏著

『御堂関白記』の研究

2018 / A 5判 / 388頁
本体8,000円 ISBN978-4-7842-1957-5

藤原道長の日記『御堂関白記』について、先駆的な研究を深めてきた著者による、論文(新作含)からエッセイまでを蒐めたアンソロジー。特に自筆本と古写本の特質を抽出し、その座標を確立。『御堂関白記』研究のみならず、古記録研究そのもの、また摂関政治論や王朝文化論に資する。

菱田哲郎・吉川真司編

古代寺院史の研究
【オンデマンド版】2020 / B 5判 / 514頁
本体13,000円 ISBN978-4-7842-7046-0

畿内とその周辺の古代寺院を中心に、国内の他地域、中国・朝鮮半島も視野に入れ、その展開過程を明かす総合的研究。最新の調査成果の読み解きを行い、儀礼や経営に関して考古学、文献史学双方からの再構成を試みる。現地の巡見、研究発表を重ねてきた古代寺院史研究会の成果。初版2019年。

加茂正典著

日本古代即位儀礼史の研究

【オンデマンド版】

2019 / A 5判 / 498頁

本体10,000円 ISBN978-4-7842-7042-2

佐野真人著

古代天皇祭祀・儀礼の史的研究

2019 / A 5判 / 416頁

本体12,000円 ISBN978-4-7842-1977-3

大嘗祭はもちろん、剣璽渡御儀礼・即位式といった広義の即位儀礼をとりあげることに、恒武・平城朝における即位儀礼の儀式的意味と歴史的意義を明らかにする。さらに資料篇として古代即位儀礼史料年表、新嘗祭・大嘗祭関係文献目録を収載し、巻末には索引を付す。初版1999年。

恒武天皇朝以降に見られるとされる天智天皇系皇統意識（新王朝意識）の見直しを出発点に、恒武天皇朝・嵯峨天皇朝における儀礼の導入や整備、文徳天皇朝以降の儀礼の変遷や新たな儀礼の創出について考察。平安時代前期を中心とした古代日本の儀礼秩序の構築過程の一端を明かす。

中 世

高橋康夫著

京都中世都市史研究

思文閣史学叢書

1983・2003 / A 5判 / 540頁

本体8,800円 ISBN4-7842-0318-4

橋本初子著

〈第13回角川源義賞〉

中世東寺と弘法大師信仰

思文閣史学叢書

1990 / A 5判 / 580頁

本体9,800円 ISBN4-7842-0621-3

川嶋将生著

中世京都文化の周縁

思文閣史学叢書

1992 / A 5判 / 430頁

本体7,800円 ISBN4-7842-0717-1

工藤敬一著

荘園公領制の成立と内乱

思文閣史学叢書

1992 / A 5判 / 440頁

本体8,800円 ISBN4-7842-0750-3

三浦圭一著

日本中世の地域と社会

1993 / A 5判 / 496頁

本体8,800円 ISBN4-7842-0755-4

笹本正治著

戦国大名武田氏の研究

思文閣史学叢書

1993 / A 5判 / 440頁

本体7,800円 ISBN4-7842-0780-5

佐藤博信著

続中世東国の支配構造

思文閣史学叢書

1996 / A 5判 / 358頁

本体7,800円 ISBN4-7842-0916-6

中世京都の都市空間形成過程における種々の問題を、辻子の発生と展開、平安京北辺・後小松院仙洞御所跡敷地・土御門四丁町等の再開発、あるいは六町の成立と構造などの検討を通してさぐり、今日の歴史的都市の保全修景計画をも射程に入れて中世都市像を追究。人名・事項索引を付す。【2刷】

中世東寺における弘法大師信仰の実態を、御影供、仏舍利信仰、東寺の大湯屋、東寺の造営事業、大師宝前仏事などを通して明かす。東寺観智院金剛藏聖教、東宝記、検非違使庁関係文書などを駆使しての広博な視野のもとに精緻な研究を問うてきた著者の、中世宗教文化史研究上画期的な労作。

“近世都市”へと変貌を遂げていく中世京都の姿を、洛中洛外図や祇園会の記録を通し、また声聞師・庭者など室町文化を支えた都市周縁の非人たちの動向と合わせて論じ、上層町衆と新興町人との世代交代という、中世から近世への明らかな時代転換が見られる寛永文化に目を注ぐ。

九州において鎌倉前期（承久の乱後）に完成する荘園公領制の構造を、その前提にある院政期から鎌倉幕府支配体制の確立へと収束していく在地勢力の内乱、幕府の九州支配の一大特色である小地頭制という政治的社会のあり方とともに究明する。

地域史・技術史・流通史に先駆的な業績を残した著者が「地域史をどう書くかということではなくて地域社会の中から歴史をどう描くか」を課題として、中世後期の地域社会における民衆生活の全体像を、支配関係・村落共同体・差別構造・技術・信仰などから重層的に明かした珠玉の論集。

甲斐武田氏が素材に、戦国時代の国境の在り方、棒道に代表される道の意味、国人領主を支配下に組み込む過程、さらに民衆の側から見た戦国大名、職人・商人の支配構造を明かしていく14篇。従来の研究に「あまりに武田氏の権力を大きく評価しすぎたのではないか」とする著者の問題提起。

南北朝から戦国期における東国の権力構造の諸問題を多方面から明かした論考18篇を収める。関東足利・上杉両氏の動向を中心に、内乱、家臣団をめぐる諸相、都市・寺社論。さらには下総光福寺文書・鎌阿寺文書・常陸穴戸家文書・扇谷上杉朝良文書・上総大野家文書などの史料論をも言及する。

大山喬平編

中世荘園の世界

東寺領丹波国大山荘

1996 / B 5判 / 340頁

本体9,600円 ISBN4-7842-0893-3

5年間の大山荘の調査結果をふまえたシンポジウムをもとに編んだ中世荘園の全貌に迫る待望の書

【執筆】大山喬平／西田辰博／水野章二／小林基伸／芦田茂／村田修三／久下隆史／金田章裕／海老澤衷／服部英雄

上島有・大山喬平・黒川直則編

東寺百合文書を読む

よみがえる日本の中世

1998・2015 / B 5判変 / 164頁

本体2,500円 ISBN4-7842-0978-6

国宝・東寺百合文書から50点を選び、「東寺」「武家」「民衆」の3テーマで構成。テーマ毎に編者による概説、各文書には第一線の研究者による解説と釈文を付し、写真は大型図版で掲載。東寺百合文書の持つ多様な魅力とともに、一通の文書を読み解く面白さも紹介する。

【2刷】

金井静香著

中世公家領の研究

思文閣史学叢書

1999 / A 5判 / 330頁

本体6,000円 ISBN4-7842-0996-4

公家領の総体的な研究は未だ少なく、荘園公領制や院政・家制度といった関連分野においても、十分に論じられているとは言いがたい。本書は、そういった状況を踏まえ、王家領も含めた公家領の諸側面を明らかにすることにより、その総合的特質と変容過程の解明にとりくんだ意欲作。

八木聖弥著

太平記的世界の研究

1999 / A 5判 / 290頁

本体6,800円 ISBN4-7842-1021-0

本書では『太平記』の描く時代を広く文化史的視点から論じ、多様な価値観が統合された、その時代性を浮き彫りにする。【内容】研究史／『太平記』とその時代／『太平記』の世界の信仰／猿楽能と『太平記』の世界／『太平記』の世界から幽玄の世界へ

原田信男著

中世村落の景観と生活

関東平野東部を中心として

思文閣史学叢書

本体10,800円 ISBN4-7842-1022-9

現地調査にもとづき、地形や伝承、中世・近世文書や地誌類などの資料、さらに地理学・考古学などの隣接諸科学も援用し、典型的な中世村落の事例復原を試み、生活の諸相をふくめて総合的かつ具体的に考察。(挿入図表130余点)
1999 / A 5判 / 640頁

鍛代敏雄著

中世後期の寺社と経済

思文閣史学叢書

1999 / A 5判 / 404頁

本体8,000円 ISBN4-7842-1020-2

中世寺社勢力が後退し戦国期宗教が台頭した転換期における、政治経済上勢力を誇った石清水八幡宮と本願寺教団を主な対象とし、寺領・社領を中心に論じられてきた寺社と経済をめぐる問題に商業史・交通史・都市史の視点から迫り、中世後期の社会経済の変革の実態を具体的に描く。

村井康彦・笠谷和比古編

公家と武家〔全4冊〕

国際日本文化研究センターで行われた公家（貴族）と武家に焦点を合わせた共同研究の成果。武士層が成長した地域と、文官支配が優越した地域との差異に着目。前近代社会における支配エリートであったそれらの身分や職能のもつ意味、その秩序の形式、社会的役割といったものを多角的に検討。

- | | |
|--------------------|-----------|
| I その比較文明的考察 | 【品切】 |
| II 「家」の比較文明的考察 | 本体 9,400円 |
| III 王権と儀礼の比較文明的考察 | 本体 7,800円 |
| IV 官僚制と封建制の比較文明的考察 | 本体 8,500円 |

1995～2008 / A 5判 / 平均490頁

笠谷和比古編

国際シンポジウム

公家と武家の比較文明史

本体8,000円 ISBN4-7842-1256-6

国際日本文化研究センターで内外の第一線の研究者が一堂に会し行われたシンポジウム報告。【内容】I 文人型社会と戦士型社会 II 王権と儀礼 III 貴族とは何か IV 封建制度と官僚制度 V 思想・宗教・文化
2005 / A 5判 / 490頁

小西瑞忠著

中世都市共同体の研究

思文閣史学叢書

2000 / A 5判 / 340頁

本体6,400円 ISBN4-7842-1026-1

陸路水路の要衝大山崎を分析し、国家権力と密接な関係をもつ商業的共同体という観点から論じた大山崎研究、港湾都市である堺都市論、自治都市の成立過程と内部構造について公界と会合に着目した大湊研究、戦後の都市論への見解を示した論考。都市共同体の全体的構造や住民の実態に迫る。

佐藤博信著

江戸湾をめぐる中世

2000 / A 5判 / 270頁
本体5,600円 ISBN4-7842-1045-8

小川 信 著

中世都市「府中」の展開

思文閣史学叢書

2001 / A 5判 / 576頁
本体11,000円 ISBN4-7842-1058-X

堀池春峰監修／綾村宏・永村眞・湯山賢一編集

東大寺文書を読む

2001 / B 5判変 / 192頁
本体2,800円 ISBN4-7842-1074-1

下坂 守 著

中世寺院社会の研究

思文閣史学叢書

2001 / A 5判 / 598頁
本体9,800円 ISBN4-7842-1091-1

田中文英著

院政とその時代

佛教大学鷹陵文化叢書 8

2003 / 四六判 / 310頁
本体2,200円 ISBN4-7842-1149-7

水野章二編

中世村落の景観と環境

山門領近江国木津荘

2004 / A 5判 / 390頁
本体6,800円 ISBN4-7842-1198-5

脇田晴子／M・コルカット／平雅行共編

周縁文化と身分制

2005 / A 5判 / 350頁
本体5,500円 ISBN4-7842-1231-0

熱田 公 著

中世寺領荘園と動乱期の社会

思文閣史学叢書

2004 / A 5判 / 540頁
本体9,000円 ISBN4-7842-1203-5

(財)世界人権問題研究センター編

散所・声聞師・舞々の研究

2004 / A 5判 / 590頁
本体8,200円 ISBN4-7842-1219-1

元木泰雄著

院政期政治史研究

思文閣史学叢書

1996・2000 / A 5判 / 406頁
本体7,800円 ISBN4-7842-0901-8

房総を含む江戸湾一帯を東西両国の出入口として捉え、そこでの人と物との流れを時の権力との絡みから再検討しようとした論考11篇。二階堂文書・鶴岡八幡宮文書・金沢文庫文書・妙国寺文書など関係史料から氏族の存在とその歴史的性情(専門職能)について考察する。

古代国府の後身ともいべき領域は、国府(こう)、府中と呼ばれる。中世府中は古代国府と戦国期以降の城下町の間位置しながら意外と見逃されていた一種のmissing link(見失われた環)であったが、本書では詳細な個別研究を集大成、中世都市としての諸国府中の全体像を明かす。

東大寺が有する膨大な文書群(平成10年国指定)の中から50余点を選び、その豊かな世界を紹介する。写真は大型図版で掲載し、テーマごとに編者による概説、各文書には第一線の研究者による解説と釈文を付す。【構成】文書の伝来／勧進と檀越／寺家と寺領／法会と教学／文書の姿

中世社会においてその活動を総体的に把握しようとされてこなかった比叡山延暦寺を主たる対象とする。惣寺がいかなるものであったかはもとより、惣寺を基盤として形成されていた寺院社会、ひいては中世社会の本質を探る、著者初めての論文集。

古代国家から中世国家への国家権力形態の転回のうえで最も重要な画期・院政期をかたちづくった各権門の動向についての論考8篇を収録。荘園支配など地域社会にも目を向け、社会的にも政治的にも大きな変化が生じた激動の時代を分析した既発表の論考を大幅に改稿。

木津荘検注帳の検討や聞き取り調査など、多面的に中世村落の景観に迫る。最重要港であった木津が鎌倉以降今津にとってかわられる主原因は琵琶湖の水位変動だったことや、湖畔はラインではなく生態系と生業を有するゾーンであること、棚田景観が主として室町期に形成されたことなどを論証。

前近代社会を近代化の呪縛を脱した地平から見直し、周縁部分をテーマとすることで新たな前近代社会像を構築。【執筆者】武田佐知子／田端泰子／マーチン・コルカット／吉田伸之／デビッド・ハウエル／ルーク・S・ロバーツ／コンスタンティン・N・ヴァボリス／松井章／平雅行／脇田晴子／脇田修／塚田孝

中世畿内における荘園研究の先駆者の一人である著者が遺した主要な業績を4部構成でまとめる。高野寺領荘園支配の確立過程・紀州における惣の形成と展開・室町時代の興福寺領荘園について・中世大和の声聞師に関する一考察など全16篇・付論1篇を収録。

部落史・身分制・芸能史研究などによって、散所問題はさまざまな視点からとりあげられてきた。本書では、永年の共同研究の成果として山城・近江地域に所在した散所の個別的な検証を通して、地域散所研究の到達点を提示。本論のほか座談会・文献目録・年表を併載。

卒論で武家棟梁の政治的限界に気づいて以来大きな政治力を有する荘園領主権門の分析に傾倒してきた著者の研究成果を纏め、権門としての摂関家の特質に注目した新たな平安期政治史を提示。さらに平氏政権をとりあげ、諸権門の相剋・対立、職能分離した権門の鼎立に至る過程に迫る。【2刷】

上島 有 著 (第21回角川源義賞)

東寺・東寺文書の研究

1998 / A 5判 / 872頁
本体17,000円 ISBN4-7842-0979-4

鹿毛敏夫著

戦国大名の外交と都市・流通

豊後大友氏と東アジア世界
思文閣史学叢書
本体5,500円 ISBN4-7842-1286-8

阿部能久著

戦国期関東公方の研究

思文閣史学叢書
2006 / A 5判 / 320頁
本体5,700円 ISBN4-7842-1285-X

森 茂暁 著

中世日本の政治と文化

思文閣史学叢書
2006 / A 5判 / 480頁
本体9,000円 ISBN4-7842-1324-4

源城政好著

京都文化の伝播と地域社会

思文閣史学叢書
2006 / A 5判 / 400頁
本体7,800円 ISBN4-7842-1325-2

勝山清次編

南都寺院文書の世界

2007 / A 5判 / 350頁
本体5,800円 ISBN978-4-7842-1369-6

橋詰 茂 著

瀬戸内海地域社会と織田権力

思文閣史学叢書
2007 / A 5判 / 396頁
本体7,200円 ISBN978-4-7842-1333-7

稲垣弘明著

中世蹴鞠史の研究

鞠会を中心に
2008 / A 5判 / 300頁
本体5,500円 ISBN978-4-7842-1390-0

上横手雅敬編

鎌倉時代の権力と制度

2008 / A 5判 / 358頁
本体6,500円 ISBN978-4-7842-1432-7

新見康子著

東寺宝物の成立過程の研究

2008 / A 5判 / 638頁
本体12,000円 ISBN978-4-7842-1368-9

永年、東寺と東寺文書の研究に携わってきた著者が、近世文書や聖教類も含めた東寺文書とその整理の歴史を、寺史や伝来も併せて総大成。【内容】東寺の歴史／東寺文書の伝来と現状(上)(下)／東寺百合文書の整理と目録作成／東寺文書をめぐって 付：文書編年目録／索引 挿入図版多数

西日本の戦国大名のアジア外交の実態とそこに潜む意識構造について解明するとともに、政治・経済・文化的にアジア諸国と緊密な関係にあった西国大名による都市・流通政策の実態を明らかにする。

2006 / A 5判 / 300頁

室町幕府の東国支配機関であった関東府の長である関東公方。公方発給文書の様式変化にみる権力構造の実態、鶴岡八幡宮・鎌阿寺や禅宗・一向宗などの寺社勢力との関係、関東公方家の後裔である喜連川家の幕藩体制下の位置、さらに武家故実書『鎌倉年中行事』の成立背景を探る。

鎌倉時代から室町時代にかけて、現存している古文書や、政治と深く関わった宗教者から、「中世日本」とはどのような時代だったのかをひもとく、さらに『増鏡』や『太平記』、『博多日記』という記録史料など、文芸作品からのアプローチをも試みる。中世の政治と文化を総合的に明かす論考15篇。

京都とその近郊の中世文化史に取り組んできた著者が、今までの成果をまとめた一書。在地(荘園)をめぐる動向、公武の文芸交流と伝播、さらに河原者・声聞師の被差別民衆の諸相と室町・戦国期の人物論を取めた。

東大寺宝珠院に伝わった法華堂文書と宝珠院文書、興福寺一乗院坊官二条家に伝来した一乗院文書および一乗院御用日記の調査をもとに、摂津国長洲荘関係史料を用いた論考や、中世と近世の興福寺を論じた研究などを収録し、東大寺と興福寺の寺領と寺院組織研究を新たに進展させる一書。

特産物の塩、周辺物資の海上輸送、在地権力の動向、海賊衆や真宗勢力の台頭、制海権をめぐる抗争など、瀬戸内海・四国をとりまく実態を明かす。【内容】第1編：瀬戸内海社会の形成と展開／第2編：瀬戸内海社会の発展と地域権力／第3編：地域権力と織田権力の抗争

室町期以降の蹴鞠会の挙行形態の歴史を体系的に論じる。とくに15世紀後半における蹴鞠会について、新興武家層を参会者として加えた場でより遊興性を加味しながら変容し、「故実」に代わって「新儀」が定着すること、それが近世の家元制度の萌芽と認められることなどを明かす。

鎌倉時代史をリードしてきた編者と、次世代を担う関西の若手研究者により結成された鎌倉時代研究会の初の論集。

【執筆】佐伯智広／樋口健太郎／長村祥知／伊藤啓介／宮本晋平／熊谷隆之／滑川敦子／吉田賢司／上横手雅敬／芳澤元／坂口太郎／木村英一

南北朝時代の寺誌である『東宝記』や東寺百合文書にみられる宝物目録などの豊富な史料をもとに、具体的に東寺に残る文化財の伝来を体系化した一書。今後の文化財の活用や保存を前提に、本来の保管形態を復元し、伝来を確定して位置付けをしなす。カラー口絵4頁、挿入図版80点。

小森正明著

室町期東国社会と寺社造営

思文閣史学叢書

2008 / A 5判 / 356頁

本体7,000円 ISBN978-4-7842-1421-1

寺社の造営事業は、寺社を中心とする経済活動―寺社領経済―の発展に大きな効果をもたらした。本書は、鎌倉府体制下にあった室町期の東国社会に、寺社造営事業と寺社領経済が与えた影響を考察する。「香取文書」など中世東国の「売券」の長年にわたる分析に基づく成果。

森 茂暁 著

増補・改訂

南北朝期公武関係史の研究

2008 / A 5判 / 612頁

本体9,000円 ISBN978-4-7842-1416-7

南北朝期の公家政局の構造、および朝廷と幕府との関係を、豊富な史料をあけて実証的に読み解き、その後の中世政治史の発展を決定づけた、1984年文献出版刊行の名著を増補・改訂して復刊。増補にあたっては、32頁に及ぶ新補注を付し、旧版刊行後に見いだされた基礎データ等を収録。

山田彩起子著

いんぐう

中世前期女性院宮の研究

2010 / A 5判 / 310頁

本体5,600円 ISBN978-4-7842-1496-9

院政・鎌倉期における女性院宮（女院・后）の多様な存在形態を様々な視点から分析。第一部では、国母の存在形態の多様性と王家における役割・位置付けを検証し、第二部では、摂関家出身の女性院宮の摂関家における独自の役割の大きさを論証する。中世の公家社会研究に寄与する一書。

桃崎一郎著

中世京都の空間構造と礼節体系

2010 / A 5判 / 584頁

本体7,200円 ISBN978-4-7842-1502-7

貴人と牛車ですれ違う場合の正しい作法は？ 参内するときはどこで牛車を降りればよいのか？ 中世の京都で実践された礼節体系の考察を通じて、中世京都の空間構造を明らかにし、室町殿権力の形成・展開過程をも論ずる。

仁木 宏 著

京都の都市共同体と権力

思文閣史学叢書

2010 / A 5判 / 330頁

本体6,300円 ISBN978-4-7842-1518-8

中世京都の都市構造モデルを前提に、その変容から町（ちょう）の成立を読み解く。自力救済社会における武家と都市民の対峙が、やがて公儀を創出し、都市共同体を確立させることを明かし、中近世移行期における自治、共同体、権力の葛藤を正面から見すえ、都市の本質を具体的、理論的に分析する。

矢内一磨著〈第6回全国大学国語国文学会賞〉

一休派の結衆と史的展開の研究

2010 / A 5判 / 370頁

本体7,800円 ISBN978-4-7842-1525-6

一休没後も存続した一休派の結衆とその史的展開を解明することで、中世末期の寺院研究史上の欠如を埋める。一休の印可、法嗣否定による法統断絶の危機、門派結衆の軸としての一休塔所での評議、門派での祖師忌法会を第一部でとりあげ、大徳寺復興や在俗信仰者の結衆について第二部で扱う。

谷 昇 著

後鳥羽院政の展開と儀礼

2010 / A 5判 / 328頁

本体6,000円 ISBN978-4-7842-1536-2

後鳥羽天皇（上皇）が課せられた政治課題とそれに対する対応＝政策理念が、宮中の儀式・行事である公事と修法・寺社参詣参籠等宗教儀礼の中に具現しているとする視点から、それらが果たした政治的役割を個別具体的に検証し、多面的な視点に立った後鳥羽理解、政治史叙述を企図した一書。

丸島和洋著

戦国大名武田氏の権力構造

2011 / A 5判 / 436頁

本体8,500円 ISBN978-4-7842-1553-9

甲斐武田氏を分析対象とし、家中を代表して他大名との外交を担った「取次」に着目。領国支配における意思伝達経路の検討とあわせて、大名権力の中核を構成する家臣や、大名と家臣の関係について見つめ直し、戦国大名の権力構造を明らかにする一書。

佐々木倫朗著

戦国期権力佐竹氏の研究

【オンデマンド版】

2016 / A 5判 / 306頁

本体6,100円 ISBN978-4-7842-7025-5

戦国期佐竹氏の権力形成過程、一族衆や国衆等の活動、佐竹氏と地域社会との関わりや地域編成について、佐竹氏が発給した「知行充行状」・秋田藩家蔵文書等の史料を中心に考察することで、従来捨象されがちであった戦国期の権力編成の姿を浮き彫りにする。初版 2011年。

東寺文書研究会編

東寺文書と中世の諸相

2011 / A 5判 / 654頁

本体11,000円 ISBN978-4-7842-1578-2

東寺文書を研究する過程で発見した様々な成果を世に問う、東寺文書研究会による論集。【執筆者】 大山喬平 / 岡本隆明 / 亀田俊和 / 酒井紀美 / 志賀節子 / 清水克行 / 高橋傑 / 高橋敏子 / 辰田芳雄 / 新見康子 / 西尾知己 / 西谷正浩 / 保立道久 / 真木隆行 / 宮崎肇 / 村井祐樹 / 山田徹 / 山家浩樹 / 渡邊大門

外山幹夫著

中世長崎の基礎的研究

2011 / A 5判 / 424頁
 本体7,500円 ISBN978-4-7842-1589-8

山本隆志著

東国における武士勢力の成立と展開

東国武士論の再構築

思文閣史学叢書

本体6,500円 ISBN978-4-7842-1601-7

三島暁子著

〈第30回田邊尚雄賞〉

じげがくじん

天皇・将軍・地下楽人の室町音楽史

2012 / A 5判 / 360頁
 本体6,600円 ISBN978-4-7842-1609-3

村井良介著

戦国大名権力構造の研究

2012 / A 5判 / 452頁
 本体7,000円 ISBN978-4-7842-1610-9

山本隆志編

日本中世政治文化論の射程

2012 / A 5判 / 344頁
 本体7,800円 ISBN978-4-7842-1620-8

河内将芳著

祇園祭の中世

室町・戦国期を中心に

2012 / A 5判 / 360頁

本体4,500円 ISBN978-4-7842-1631-4

森新之介著 〈第8回日本思想史学会奨励賞〉

摂関院政期思想史研究

2013 / A 5判 / 352頁
 本体6,500円 ISBN978-4-7842-1665-9

細川涼一著

日本中世の社会と寺社

2013 / A 5判 / 452頁
 本体7,700円 ISBN978-4-7842-1670-3

亀田俊和著

かんれい しぎょう

室町幕府管領施行システムの研究

2013 / A 5判 / 544頁
 本体9,800円 ISBN978-4-7842-1675-8

村石正行著

中世の契約社会と文書

2013 / A 5判 / 352頁
 本体7,500円 ISBN978-4-7842-1668-0

中世長崎、特に肥前国西南部の松浦郡・高来郡・彼杵郡を中心に、松浦氏・有馬氏などの在地武士団の成立・発展、領国支配の実態や南蛮貿易の推移について論じ、その独自性を明かす。長崎大学名誉教授、長崎市史編さん委員会委員長を務める著者が長年の研究成果をまとめた一書。

武士研究は国家史的職能論から、政治史的論究が求められている。本書は東国武士を武士勢力としてとらえ、京・鎌倉での活動と運動しながら本領で法会・祭礼を主催するなかで政治的支配力を形成していることを、具体的に論じる。

2012 / A 5判 / 384頁

南北朝・室町時代を通じて天皇・将軍が学び、権威のシンボルとなった「笙」。その位置づけの変化は、いかなる展開をもたらしたのか。天皇家・将軍家の笙の御師範、地下楽人豊原氏の約150年にわたる活動に着目。公・武・楽家という3者の関わりの中から、権威と密接に関わった音の文化を考察。

戦国大名権力の動向は、近世に向けた一貫した過程と捉えることができるのか？ 本書は、主に毛利氏を事例に、戦国大名、「戦国領主」の重層的な権力構造の分析から、戦国期の権力諸関係の特質を、理論的かつ実証的に描くことにより解明する。

編者の指導を受けた執筆者による、歴史学・思想史・民俗・生活史など、多岐にわたる研究論文を収録。【執筆者】関周一／山田雄司／濱口誠至／阿部能久／井上智勝／新井敦史／山澤学／苅米一志／山野龍太郎／佐々木倫朗／須賀忠芳／平野哲也／蘭部寿樹／小山聡子／佐藤喜久一郎／門口実代

室町期の都市京都を文字どおり代表する祭礼であった祇園祭(祇園会)を通して、中世京都を考える。祇園会の見物という行為の検討により、その特質をうきばりにし、さらに神輿渡御の神幸路・御旅所と都市空間との関係、戦国期の祇園祭の再興の意味や、「闖取」の実態についても解き明かす。

本書は、摂関院政期における民衆仏教史観の研究史を整理し、当該期の思想家たちや事象の考察および実証研究を深めることにより、通説としての民衆仏教史観と切り結び、その実態を鋭く描き出す。日本の思想史上、極めて重要な時期の一つとされる摂関院政期の思想史叙述に修正を迫る一書。

律宗・律僧が中世社会で果たした役割を中心に、女性や被差別民などへ常にまなざしを注ぎ、境界領域から歴史を問い続けてきた著者の主要な研究成果を一書にまとめる。【内容】中世律宗と公武政權／中世社会と律僧／中世の北野社と石清水八幡宮／源義経の妻と母

室町幕府を存続させた政策とは？ 本書は室町幕府の政権基盤強化に大きな貢献を果たしたと評価できる管領施行システムの約250年の沿革と意義を分析・解明する。固定的な制度ではなく、社会的な変化に連動していることを指摘し、日本中世の政治・社会を理解する上での指針となることを明かす。

従来、中世の契約慣習のなかで債権者から渡され債務者の側に残る文書についての研究は等閑視されてきた。本書は売買・貸借などの契約関係を題材に、契約者双方の文書作成のあり方を検証、「塵芥集」の法慣習なども援用しながら、双方向の文書授受と文書作成が一般的に行われた可能性を示す。

村井祐樹著

戦国大名佐々木六角氏の基礎研究

2013 / A 5判 / 530頁
本体11,600円 ISBN978-4-7842-1663-5

浜口誠至著

在京大名細川京兆家の

政治史的研究
2014 / A 5判 / 328頁
本体6,500円 ISBN978-4-7842-1732-8

本間洋子著 (第10回林屋辰三郎藝能史研究奨励賞)

中世後期の香文化

香道の黎明
2014 / A 5判 / 426頁
本体8,200円 ISBN978-4-7842-1733-5

杉山一弥著

室町幕府の東国政策

2014 / A 5判 / 388頁
本体7,200円 ISBN978-4-7842-1739-7

呉座勇一著

日本中世の領主一揆

2014 / A 5判 / 380頁
本体7,200円 ISBN978-4-7842-1721-2

山田雄司著

怨霊・怪異・伊勢神宮

2014 / A 5判 / 448頁
本体7,000円 ISBN978-4-7842-1747-2

湯之上隆著

日本中世の地域社会と仏教

静岡大学人文社会科学部研究叢書46
2014 / A 5判 / 384頁
本体8,000円 ISBN978-4-7842-1773-1

平尾良光・飯沼賢司・村井章介編

大航海時代の日本と金属交易

別府大学文化財研究所企画シリーズ③
「ヒトとモノと環境が語る」
本体3,500円 ISBN978-4-7842-1768-7

下坂 守 著

中世寺院社会と民衆

衆徒と馬借・神人・河原者
2014 / A 5判 / 432頁
本体7,500円 ISBN978-4-7842-1779-3

橋本道範著

日本中世の環境と村落

2015 / A 5判 / 444頁
本体8,400円 ISBN978-4-7842-1764-9

実証的な研究が不十分であった戦国大名佐々木六角氏について、可能な限り一次史料を用い、六角氏や家臣の動向、実態など基礎的事実を明らかにする。また附編として、応仁元年(1467)～元和6年(1620)の、六角氏及び家臣の名が見える記録類を全て網羅した230頁におよぶ史料集の稿本を付す。

戦国期に室町幕府の政策決定に参画した大名を「在京大名」と規定し、その中でも代表的な存在である細川京兆家の政治的位置を明らかにすることで、戦国期幕府政治の構造的特質を解明。幕府儀礼・奉行人奉書による裁許の補完と幕政代行等を検討し、制度史中心の幕府政治史を相対化する試み。

香を柱(た)き鑑賞する催しである香会と香木・薫物の贈答を香文化とし、香道発生期の一次史料を基に、三條西実隆や志野宗信と香との関係・「香会」の具体的内容・天皇への香木献上及び下賜を具体的に考察する3視点から、中世後期の香文化を解明。香道について初めての実証的な歴史的研究。

室町幕府の東国政策という視点から室町期東国社会をとらえ直し、その焦点を平時・戦時それぞれの東国の儀礼と秩序、東国における足利氏一族庶子の存在意義、室町幕府・鎌倉府の境界領域ならびに政治・経済的に競合する地域社会における諸階層の動向にあわせて再検討する。

中世の多種多様な一揆の中でも、最初に時代を牽引したのは年貢公事の徴収者にして地域社会の治安維持者であった在地領主による〈領主の一揆〉であり、これまで多くの研究の蓄積がある。本書はその蓄積の上に〈領主の一揆〉の構造・機能・結合論理を解明し、新しい国人一揆論を提示する。

古代・中世社会に大きな意味を持ち、社会の底流で歴史を動かしてきた怨霊・怪異。早良親王・天神・崇徳院などの怨霊や、様々に記録・伝承される怪異など、その諸相を歴史的に跡付ける。さらには親鸞や伊勢神宮といった、神と仏をめぐる領域をも射程に入れて集大成する。

写経や法会、開板事業、偽文書等様々な事象を通して、個人や集団の宗教行為がいかなる社会性を持ったのか。仏教と社会との関係性を問ふ。静岡県を中心とした地域の寺社文書の詳細紹介、紀行文から見る地域社会等、「宗教」「地域社会」をキーワードに古代から近代の社会を概観する論集。

分析科学と文献史学の融合を目指すシリーズ第3弾。最新の鉛同位体比分析の成果から、日本の銅生産や中世～近世日本の金属流通のありよう、南蛮貿易の意義などに新たな視角を提示。巻末に戦国時代関連資料の鉛同位体比一覧を掲載。
2014 / B 5判 / 224頁

山門の嗽訴の検討から、山門の「惣寺」がどのような組織と機能をもつものであったかを明らかにしたうえで、足利義満以降の武家政権との関係や、近江坂本の在地人と日吉社の大津神人が山門の活動にどのような影響を与えたかを論じ、中世都市京都の変容についても、絵画史料を駆使して明かす。

第1部では、中世琵琶湖漁撈と京都での消費という問題を中心に、中世村落にとっての「水辺」における漁撈の歴史的意義を問い、第2部では、小さなムラが地域資源利用の主導権を握るとする「生業の稠密化」論を提起。自然環境と人間との関係性を中心に据えた村落論を構築する意欲作。

上島 有 著

中世アーカイブズ学序説

2014 / B 5判 / 428頁

本体13,000円 ISBN978-4-7842-1542-3

著者の永年の研究成果を「アーカイブズ学序説」としてまとめる。序章では、文書を「かたち」「かたまり」「かさなり」の総体かつ動態としてとらえ、古代から近現代まで一貫した観点でとらえる理論的枠組みを提唱。本論・補論で、中世・近世にまたがる個別文書群について論究する。

嵯峨井建著

神仏習合の歴史と儀礼空間

【オンデマンド版】

2015 / A 5判 / 430頁

本体8,600円 ISBN978-4-7842-7000-2

神宮寺における神祇奉斎、寺院附属の鎮守社、仏教儀礼である神前読経、神職系図に基づいた神道周縁の仏法との関わり、神仏への天皇行幸、中近世をつうじた京都における神仏習合など、豊富な事例とともに神仏習合の諸形態を丹念にまとめた実証研究。初版 2013 年。

河内将芳著

中世京都の民衆と社会

【オンデマンド版】

2016 / A 5判 / 414頁

本体8,800円 ISBN978-4-7842-7003-3

中・近世移行期京都で公文書の宛所となった自律的な社会集団の三類型、すなわち地縁結合としての町、職縁結合としての酒屋・土倉、信仰結合である法華一揆について、各社会集団の人的結合の側面を重視。いかに都市民衆の上に表出し交差したのか、その歴史的展開を具体的に検討。初版 2000 年。

河内将芳著

中世京都の都市と宗教

【オンデマンド版】

2016 / A 5判 / 424頁

本体6,800円 ISBN978-4-7842-7006-4

「町衆」の祭礼としてイメージされてきた中世の祇園会（祇園祭）や「町衆」の信仰とされてきた法華信仰・法華宗等、都市社会と宗教・信仰との関係について、山門延暦寺に関する研究成果や中近世移行期統一権力の宗教政策論に即してとらえ直し、その実態をあらためて問い直す。初版 2006 年。

山田雄司著

崇徳院怨霊の研究

【オンデマンド版】

2016 / A 5判 / 318頁

本体6,400円 ISBN978-4-7842-7005-7

日本史上最大の怨霊とされる崇徳院怨霊が「いつ」「誰によって」「いかなる状況下で」語られるようになったのか、そして崇徳院怨霊の跳梁を記す『保元物語』がいかにしてまとめ上げられていったのかを、文書・記録・物語の相互関係を細部にわたって検討することにより解明。初版 2001 年。

伊藤喜良著

日本中世の王権と権威

【オンデマンド版】

2016 / A 5判 / 414頁

本体8,300円 ISBN978-4-7842-7012-5

今なお、永続的に研究が続けられて進捗している中世天皇制の研究。本書は中世前期から室町時代にかけての、天皇制と公家政権にまつわる社会思想、民衆意識、身分制等を祭祀・説話・浄穢観・救生等の鋭い切り口で分析した意義深い論文集である。初版 1993 年。

田中健夫著

対外関係と文化交流

【オンデマンド版】

2016 / A 5判 / 690頁

本体13,800円 ISBN978-4-7842-7009-5

中世日本の東アジアへの対応、足利義満の外交の特質、琉球王国の国際的位置、島津氏と琉球との関係、さらに近代に及ぶ対馬の藩政と朝鮮修好との関係など、中世から近世に至る日本の東アジアを中心とした対外関係と文化交流に光をあてる。16世紀の対馬宗氏の2史料を収録。第二版1991年。

森茂曉著

鎌倉時代の朝幕関係

【オンデマンド版】

2016 / A 5判 / 530頁

本体10,600円 ISBN978-4-7842-7022-4

日本中世の公家と武家、さらに朝廷と幕府との関係を通して中世国家の構造と特質を究明することを研究課題としてきた著者が、鎌倉時代に即してまとめたのが本書。関東中次、蒙古襲来、六波羅探題などをめぐる諸問題を通して朝幕関係を詳細に検討した近年の研究動向に応える力作。初版 1991 年。

湯之上隆著

日本中世の政治権力と仏教

【オンデマンド版】

2016 / A 5判 / 352頁

本体8,800円 ISBN978-4-7842-7018-7

当該期の政治権力と仏教を中心とする宗教との関係—とりわけ天皇・鎌倉幕府・室町幕府と仏教の実態、思想・文芸の担い手であった僧侶・寺院の宗教文化活動について究明。政治・経済の諸分野を考慮し、宗派・教学の枠を越え、従来の視点では見過ごされてきた事実を解明。初版 2001 年。

永島福太郎著

中世畿内における都市の発達

【オンデマンド版】

2016 / A 5判 / 338頁

本体6,800円 ISBN978-4-7842-7028-6

中世史の本舞台である畿内における中世都市の発達の姿を明らかにした永島史学の本領が発揮された一書。旧制学位請求論文で、史観欠如の評を恐れて公刊を見合わせたが、若干の補正を加え、ここに上梓する。初版 2004 年。

三浦圭一著

中世民衆生活史の研究

【オンデマンド版】

2016 / A 5判 / 448頁

本体9,000円 ISBN978-4-7842-7027-9

小西瑞恵著

日本中世の民衆・都市・農村

2017 / A 5判 / 422頁

本体8,500円 ISBN978-4-7842-1880-6

濱崎加奈子著

香道の美学

その成立と王権・連歌

2017 / A 5判 / 330頁

本体5,000円 ISBN978-4-7842-1915-5

石井伸夫・仁木宏編

守護所・戦国城下町の構造と社会

阿波国勝瑞

2017 / A 5判 / 368頁

本体6,600円 ISBN978-4-7842-1884-4

長澤伸樹著

楽市楽座令の研究

2017 / A 5判 / 456頁

本体9,000円 ISBN978-4-7842-1908-7

新谷和之著

戦国期六角氏権力と地域社会

2018 / A 5判 / 352頁

本体9,000円 ISBN978-4-7842-1935-3

大山喬平・三枝暁子編

古代・中世の地域社会

「ムラの戸籍簿」の可能性

2018 / A 5判 / 544頁

本体9,000円 ISBN978-4-7842-1946-9

松蘭斉著

中世禁裏女房の研究

2018 / A 5判 / 552頁

本体8,000円 ISBN978-4-7842-1956-8

スムットニー祐美著

茶の湯とイエズス会宣教師

中世の異文化交流【オンデマンド版】

2019 / 四六判 / 250頁

本体5,000円 ISBN978-4-7842-7041-5

渡辺惣官職、農業技術の階級性格、日根荘開発と勸進集団の動向、天皇と民衆、加地子得分の形成と一色田の動向、中世村落寺院と置文、内乱と村落、惣村の起源と役割、中世後期村落の経済生活など、主に畿内地域の民衆生活に関する諸論稿を収録。初版 1981 年・底本四版 1990 年。

都市とそこに生きた民衆、武士、悪党、女性、そしてキリスト教徒の姿を再検討し、これまでの理解とは異なった中世の社会を甦らせる。前者『中世都市共同体の研究』に続く中世史研究の集大成。

香道は、日本文化の隠れた頂点である。本書は、香道研究にとって最も重要にもかかわらず、最もあいまいにされてきた、香道成立にいたる過程とその美学を、「王権」と「連歌」の切り口から解き明かす。香道史の空隙を埋めるとともに、日本人にとって香りとは何かを再考する。

戦国時代、100 年以上にわたり阿波国の中心地であった守護町「勝瑞」。ユニークな空間構造をもつ 16 世紀の地方都市・勝瑞の姿を、考古学、歴史学、地理学など多様な視角から解き明かし、中世都市史研究を大きく前進させる一書。

楽市楽座令は日本中世における流通政策の完成型とされてきた。本書は他の流通政策や交通網・経済といった、地域ごとの政治的・社会的情勢と法令との相関関係を見ることで、楽市楽座令や楽市場が、地域ごとにいかなる意義をもち、中近世移行期の社会変動にどう位置づけられるのかを再考する。

戦国期に南近江をおさめた六角氏。在地領主や惣村、寺社などの諸階層が織りなす近江の地域社会において、六角氏はどういうにしてその権力を維持できたのか。六角氏と地域社会をつなぐ人々の動きに着目し、城郭論や寺院論の成果も取り入れ、六角氏権力の歴史的な位置づけを問う。

政治史や社会経済史、宗教史、都市史など様々な専門分野を持つ研究者が、日本全国のムラの成立過程や、「ムラの戸籍簿」作成の過程で見出した地域社会・個別のムラの特徴について分析の深化を試みた。「ムラの戸籍簿」研究会、10 年間におよぶ活動の集大成。村落史研究の新たな地平を拓く。

中世という激動の時代、翻弄される朝廷を支え、中世文学の担い手として活躍した禁裏女房の実態に迫るべく、さまざまな文献資料を渉猟し繋ぎ合わせることで、一人ひとりの軌跡を追ひ、全体像の復元を試みる。巻末に天皇の在位期間ごとの女房一覧表と女房たちを輩出する「家」の系図を掲載。

従来は漠然としか考えられていなかった茶の湯とキリスト教との関係を、ローマイエズス会文書館より収集した本邦初公開の史料を元に、詳細に明かす。そこから、キリスト教宣教師達が、いかに茶の湯の精神的側面を高く評価し、茶の湯による接客を重視していたかが浮き彫りになる。初版 2016 年。

近 世

金井 圓 著

日蘭交渉史の研究

思文閣史学叢書

1986・1997 / A 5判 / 500頁

本体8,500円 ISBN4-7842-0446-6

三浦按針を乗せたリーフデ号の漂着から、徳川鎖国・オランダ東インド会社の解散・外国船打払令を経て、開国に至る二世紀半の対外関係史の要をなす日蘭交渉史の知られざる諸局面を、主として在外未刊行史料に基づき実証する論考13篇に、通史・史料を添える。

【2刷】

杉本 勲 編

近代西洋文明との出会い

黎明期の西南雄藩

1989 / A 5判 / 300頁

本体4,600円 ISBN4-7842-0566-7

佐賀藩を中心とした幕末期の西南雄藩と近代西洋文明との出会い、またその受容の歴史を、関連する諸側面から掘下げ、近代化の諸相を明らかにする。【執筆】杉本勲 / 杉谷昭 / 長野暉 / 飯田賢一 / 岩松要輔 / 羽場俊秀 / 酒井シヅ / 矢部一郎 / 大森實 / 齋藤信 / 向井晃 / 酒井泰治

洞 富雄 著

鉄 砲 ——伝来とその影響——

1991・2001 / A 5判変 / 530頁

本体9,800円 ISBN4-7842-0657-4

『鉄砲伝来記』（1939）以来半世紀、日本史家としての関心から鉄砲に取り組んできた著者の総決算。

【内容】歴史を変えた鉄砲の伝来 / 種子島銃製造法の伝播 / 鉄砲の起源に関する諸問題 / 秀吉の朝鮮侵略・維新内乱と鉄砲 / 二人の特異な砲術家

【3刷】

源了圓・末中哲夫編

日中実学史研究

1991 / A 5判 / 486頁

本体9,800円 ISBN4-7842-0639-6

実学思想の研究で知られる源教授、実学研究の末中教授、北京人民大学教授で明清実学思潮の共同研究の核である葛榮晋氏を中心として編まれた初の日中実学史共同研究報告。日中両国の実学の伝統と歴史に与えた役割を明らかにする17篇。

総合教育センター（TEL0120-435-288）専売商品です。

太田勝也著

鎖国時代長崎貿易史の研究

思文閣史学叢書

1992 / A 5判 / 664頁

本体13,800円 ISBN4-7842-0706-6

寛永鎖国の成立期から江戸時代中期の正徳新例に至るまで、幕府の貿易政策を徹底追究。糸割符仕法・相対売買法・貨物仕法・制定高制度・銅代物替貿易・長崎会所貿易・宝永新例・正徳新例の展開を数量的考察とともに実証的に体系づける。基礎的史料を豊富に取り込んだ手堅い研究の成果。

田崎哲郎編

在村蘭学の展開

1992 / A 5判 / 330頁

本体5,800円 ISBN4-7842-0701-5

地方における蘭学受容の諸相。【内容】在村の蘭学と地域医療の近代化（青木歳幸）飯沼塾とその門人の動向（遠藤正治）美作在村蘭学概論（下山純正）下野における蘭学の系譜（菊地卓）新潟県における洋学の系譜（蒲原宏）明治前期地方医師の概況（田崎哲郎）蘭馨堂門人・鳥海松亭（平野満）

佐藤昌介著

洋 学 史 論 考

思文閣史学叢書

1993 / A 5判 / 410頁

本体7,800円 ISBN4-7842-0782-1

明治維新の胎動を準備した大槻玄沢・高野長英・小関三英・福沢諭吉・渡辺崋山らの諸業績の分析を通して洋学の受容と発展を解明し、あわせて近代化に果した軍事の科学化と軍制改革・軍楽などを論じる。

三尾 功 著

近世都市和歌山の研究

1994 / A 5判 / 376頁

本体7,000円 ISBN4-7842-0825-9

御三家紀州徳川家の城下町として発展した近世都市和歌山の城下の変遷を、長年和歌山市史編纂に携わってきた著者が豊富な史料に基づき考証する。

【内容】和歌山城 / 城下町和歌山 / 城下町の生活 / 維新期の城下町 / 城下町和歌山断章

田中喜男編

歴史の中の都市と村落社会

1994 / A 5判 / 458頁

本体6,500円 ISBN4-7842-0853-4

I 城下町の構造 松本四郎 / 深井甚三 / 田中喜男 / 高瀬保 / 寒川旭 II 交通・流通 村上直 / 伊藤一美 / 和泉清司 / 白川部達夫 / 老川慶喜 III 思想・技術 逆井孝仁 / 楠瀬勝 / 三上一夫 IV 城柵・所領経営 新野直吉 / 藤井一二 / 隼田嘉彦

小川國治著

転換期長州藩の研究

思文閣史学叢書

1996 / A 5判 / 422頁

本体8,800円 ISBN4-7842-0908-5

宮崎道生著

シーボルトと鎖国・開国日本

1997 / A 5判 / 370頁

本体8,500円 ISBN4-7842-0926-3

小川亜弥子著

幕末期長州藩洋学史の研究

1998 / A 5判 / 284頁

本体6,800円 ISBN4-7842-0967-0

鎌田道隆著

近世京都の都市と民衆

思文閣史学叢書

2000 / A 5判 / 390頁

本体7,800円 ISBN4-7842-1034-2

渡辺武館長退職記念論集刊行会編

大坂城と城下町

2000 / A 5判 / 436頁

本体8,800円 ISBN4-7842-1062-8

笠谷和比古著

関ヶ原合戦と近世の国制

2000 / A 5判 / 280頁

本体5,800円 ISBN4-7842-1067-9

長友千代治著

江戸時代の図書流通

佛教大学鷹陵文化叢書 7

2002・2003 / 四六判 / 324頁

本体2,200円 ISBN4-7842-1119-5

遠藤正治著

〈第16回矢数医学賞〉

〈第2回徳川賞〉

本草学と洋学

小野蘭山学統の研究

本体7,200円 ISBN4-7842-1150-0

仙田善雄著

幕藩権力と寺院・門跡

思文閣史学叢書

2003 / A 5判 / 320頁

本体7,200円 ISBN4-7842-1166-7

鈴木康子著

近世日蘭貿易史の研究

思文閣史学叢書

2004 / A 5判 / 480頁

本体9,600円 ISBN4-7842-1178-0

長州藩の宝暦改革とその後の展開を、改革派の権力確立過程、藩財政と経済政策、検地の実態、西廻り海運の整備、撫育方と開作事業、などから意欲的に論じた一書。【内容】宝暦改革の前提／宝暦期の藩財政と経済政策／宝暦検地／西廻り海運と港町の整備／撫育方と開作事業／産業の開発と統制

“東西文化融合の架橋者”シーボルト。本書は、永年のシーボルト・コレクション（日本文化の組織的な蒐集品）の実地調査によってえられた未公開・新発見の史料を駆使してシーボルトの本質と実態に迫り、その本領と今日の意義を近世史学の泰斗が解き明かした力作。

幕末維新期の変革に洋学が如何なる役割を果たしたかを射程にすえ、この変革の重要な担い手となった長州藩における洋学の受容と展開の実態に軍事科学化という側面から迫り、また洋学史的側面からのアプローチにより長州藩明治維新史研究の空白を埋めることをも目指した意欲作。

著者が京都市史編さん所時代におこなった京都市内全域の旧家・会所・小社寺などの民間史料調査をもとに、戦国から幕末維新までの京都市論を展開

【内容】近世統一権力と民衆／近世都市と市民生活／政治・都市・市民

豊臣大坂城時代はもちろん、難波宮、大坂（石山）本願寺から現代にいたるまで、多彩な視角から大坂城と都市大坂を考察。

【内容】1 大坂城とその城下／2 大坂城下の諸相／3 難波・難波宮・本願寺

関ヶ原合戦が内包していた諸問題の再検証と、合戦後の領地配分（地政学的状況）にみられる支配の実態、將軍制をめぐる思惑と確執、家康と秀頼の関係などを通して豊臣と徳川の「二重公儀体制」の実態を明かし、徳川家康の政權構想と近世天皇制との関係を論じる。

京・大坂・江戸を中心とした出版文化の隆盛にともなって、広汎な図書流通がみられた。版元・本屋・貸本屋と読者を結ぶさまざまなルート、さらに実用書の出版や宣伝方法など、豊富な図版（130余点）を通して平易に明かす。

【3刷】

本書では、日本本草学の頂点、小野蘭山の学統を考察の対象にし、洋学の影響を受け国際的視野を備えた博物学的な本草研究の実態を探り、わが国最初の近代的植物図譜『草木図説』誕生の環境を明かす。

2003 / A 5判 / 400頁

宗派・教団単位に考察されてきた従来の研究に対し、中世社勢力の中心であった顕密系寺院の近世的あり方を分析することによって、江戸幕府の寺院行政の展開をより明瞭に解明。さらに、旧社権門の頂点に位置した門跡を分析対象とし、近世における門跡制の特質を明らかにする。

輸出商品の生産から販売までを、個別商品の輸出状況の調査、一定期間の輸出商品全体の把握、日蘭貿易状況に現れた国内外の諸情勢という三つの複合的な視点から追究。近世における日蘭貿易の状況と推移を明かし、日本とアジア・ヨーロッパ市場の動向を長崎貿易を接点としてとらえた国際的研究。

倉地克直著

漂流記録と漂流体験

2005 / A 5判 / 352頁
本体7,500円 ISBN4-7842-1225-6水藤 真著
むな ふだ

棟札の研究

2005・2008 / A 5判 / 230頁
本体3,800円 ISBN4-7842-1243-4

山下 恭著

近世後期瀬戸内塩業史の研究

2006 / A 5判 / 300頁
本体6,000円 ISBN4-7842-1287-6

張翔・園田英弘共編

「封建」・「郡県」再考

東アジア社会体制論の深層

2006 / A 5判 / 412頁
本体6,500円 ISBN4-7842-1310-4

李 元植 著

朝鮮通信使の研究

1997・2006 / A 5判 / 736頁
本体15,000円 ISBN4-7842-0863-1

西村幸信著

中世・近世の村と地域社会

2007 / A 5判 / 404頁
本体6,200円 ISBN978-4-7842-1353-5

鈴木康子著

長崎奉行の研究

2007 / A 5判 / 420頁
本体6,200円 ISBN978-4-7842-1339-9

藤井讓治著 りょうち あてがいせい

徳川将軍家領知宛行制の研究

思文閣史学叢書

2008 / A 5判 / 412頁
本体7,500円 ISBN978-4-7842-1431-0

渡辺尚志編

畿内の豪農経営と地域社会

2008 / A 5判 / 508頁
本体7,800円 ISBN978-4-7842-1385-6

山田慶兒編

東アジアの本草と
博物学の世界〔全2巻〕

(各) 本体7,500円

漂流体験は、奉行所や藩でつくられる公式記録にとどまらず、民間でも記録され、さまざまな形で残された。本書では1830年に漂流した神力丸の漂流記録を比較検討し、漂流記録の史料価値についての試論を示す。さらに記録を通して漂流体験を再現し、漂流民の異国認識や異国交流の実態を探る。

棟札は寺社などの上棟式・大修理・屋根替のさい、建物名・願主・工匠名・上棟年月日などを記して棟木に打ちつけた板。本書は、国立歴史民俗博物館が行った棟札調査報告書をもとに、定義・概要・書式の考察から棟札の意味・価値など多方面から検討を加え、研究の整理と方向性を示す。 【2刷】

第1編では、赤穂・前川浜の塩田開発、龍野藩の塩専売制・赤穂塩の龍野・関東方面への流通を醤油業との関連でとりあげ、塩業史の問題を再検討。赤穂の石炭導入の経費と竹原の給銀分析を通して労働者の格式と賃金問題を第2編で取り扱い、塩業史研究の未開拓分野を埋める。

日中の知識人による「封建・郡県」をめぐる対話の歴史を再検討。中央と地方の関係だけではなく、秩序と規範、教育と学問、自国と外来勢力、科举制と身分制、家族とコミュニティの構造、官僚制、さらに議会民主制などの視角も取り入れた13篇。国際日本文化研究センターでの共同研究。

江戸時代、日朝善隣外交において、根幹をなしていた朝鮮通信使——彼らが果たした役割を、政治外交と文化交流の両側面から捉える。数多くの文献・史料の検証から、両国交歓の実態を明かすと同時に、両国文化の異同・相互の認識と理解、筆談唱和のもつ意義とその影響について究明。 【2刷】

大和を中心とした中世・近世の村落構造に關しての諸論考を集成。第一部には、村落中間層のあり方に着目し、学界で支配的な「自力の村」論に真っ向から異論を唱えたものなど主要論文を収め、第二部では、松波勘十郎と郡山藩領についての新発見など『広陵町史』近世篇に結実した業績を収める。

長崎奉行は長崎という町の支配だけでなく、貿易の監視、外国との政治的交渉などの要務もになった。本書では、17世紀後期から18世紀中期の長崎奉行の職掌や幕府内における位置づけや長崎奉行自体が変化してゆく状況を解明し、背景となる幕府の経済政策や、日本側の外国人に対する意識についても考察。

近世社会、特に領主社会での徳川将軍家と大名との関係を成立させる領知制。本書はその領知制を基礎のところで成立させている領知朱印状そのものに注目し、徳川将軍家の領知宛行制の形成過程とその特質を明らかにする。各章末に領知朱印状の一覧を付す。

18世紀末以降、河内国丹南郡岡村(現藤井寺市)の庄屋を世襲した豪農・地方名望家が岡田家であり、同家が作成・授受した「岡田家文書」は、1万数千点にもおよぶ。本書は岡田家文書を多角的に分析し、畿内における村落と豪農の特質を経済・社会構造の観点から解明する。

日本で遭遇した東の本草学と西の博物学。それらにおける知的冒険の展開を、学問・産業・芸術のような分野への影響をも含めて、多角的に考察した21篇。国際日本文化研究センターでの共同研究の成果。

1995・2008 / A 5判 / 平均370頁

【2刷】

梅溪 昇 著

洪庵・適塾の研究

1993 / A 5判 / 540頁
本体12,000円 ISBN4-7842-0766-X

梅溪 昇 著

続 洪庵・適塾の研究

2008 / A 5判 / 726頁
本体9,500円 ISBN978-4-7842-1388-7

吉村豊雄・三澤純・稲葉継陽編

熊本藩の地域社会と行政

近代社会形成の起点

2009 / A 5判 / 420頁
本体9,000円 ISBN978-4-7842-1458-7

新藤 透 著

まつまえかげひろ

しんらのきろく

松前景広『新羅之記録』の 史料的研究

2009 / A 5判 / 518頁
本体12,000円 ISBN978-4-7842-1466-2

伏見元嘉著

中近世農業史の再解釈

『清良記』の研究

2011 / A 5判 / 430頁
本体7,800円 ISBN978-4-7842-1562-1

菅野洋介著

日本近世の宗教と社会

2011 / A 5判 / 380頁
本体7,800円 ISBN978-4-7842-1572-0

杉江 進 著

近世琵琶湖水運の研究

2011 / A 5判 / 464頁
本体9,000円 ISBN978-4-7842-1551-5

白峯顕成著

藤村庸軒をめぐる人々

2011 / A 5判 / 790頁
本体16,500円 ISBN978-4-7842-1554-6

藤井譲治編

織豊期主要人物居所集成 (第2版)

2016 / B 5判 / 480頁
本体6,800円 ISBN978-4-7842-1833-2

笠谷和比古編

一八世紀日本の文化状況と 国際環境

2011 / A 5判 / 582頁
本体8,500円 ISBN978-4-7842-1580-5

洪庵と両親の画像、夫人八重の生涯、適塾解体修理、洪庵と福沢諭吉・大隈言道・古賀茶溪・萩原広道・戸塚静海などとの交流のほか新史料の紹介も織りまぜ、適塾研究の第一人者が洪庵と適塾をめぐる縦横にとりくんだ一書。口絵(カラー1頁・モノクロ7頁)に人名索引を併載。

適塾研究第一人者による研究成果の続篇。折りに触れて書き継がれつがれてきた諸論稿と各地での講演録、雑誌『適塾』に掲載された史料紹介などをまとめる。

永青文庫細川家文書の地方行政記録綴「覚帳」、村役人層をはじめとする住民の評価・褒賞記録綴「町在」の系統的分析で、19世紀段階の近世行政システムを解明し、近代社会の成立や地域の近代化の前提条件を明かす。近世地域社会論の成果と課題を踏まえ、西国大藩の地域社会像を描き出す。

中世から近世初期の北方史研究における最重要史料『新羅之記録』について、はじめて書誌学的(史料学的)考察を試みる。書名の読み方・その著者、現在知り得る全写本の収集・分類、著者が著作にあたって使用した史料、記述内容の信憑性、後世に編纂された史料に与えた影響、の5課題を設定。

伊予国の戦国武将土居清良の一代記『清良記』第七巻は『親民鑑月集』とも呼ばれ、「我が国最古の農書」と評される。その分析から、近世農業の始まりとしての農書という定説を覆し、中世農業の最終段階を初めて諸説したと位置づけ直す。さらに、中近世の過渡期における農業史について再考する。

南奥州と関東地方を主に、戦国期以降に深く地域社会に浸透していった仏教寺院・僧侶・神道・修験道などの把握を試み、東照宮や寛永寺を中心とした幕府権威をも視野にいれ、いかにして17世紀から19世紀後半にかけての社会秩序が形成されたのかを分析し、その秩序が明治以降へ連なったのかを考察。

古代以来、全国流通路の中でも重要な位置を占めていた琵琶湖水運の近世について、近世前期琵琶湖水運の構造と特質、廻船規定、諸浦の盛衰を取り上げて論究。またその前提として織田信長による琵琶湖水運支配、琵琶湖を航行した船の名称をも具体的に検討し、従来の認識・評価の問題点を指摘。

周辺の人々の事蹟をたどることで、現在も続いている庸軒流の開祖、藤村庸軒の実態について新たな角度からのアプローチを試みる。巻末には「藤村庸軒流系譜」を収録。【内容】三宅亡羊／千宗旦／藤村恕堅／藤村正員／久須見疎安／北村幽安／山本退庵／大文字屋宗積／有馬涼及／田屋横井等侍

織豊期を生きた主要人物の移りゆく居所と行動を通時的に網羅し、一覽に供する研究者必携の書。【収録人物】織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、足利義昭、明智光秀、細川藤孝、前田利家、毛利輝元、伊達政宗、上杉景勝、石田三成、福島正則、近衛信尹、西笑承兌、北政所、浅井茶々など25名

日本の一八世紀社会は、儒学・本草学・博物学・蘭学等各分野において多くの成果を生み出し、近代化に多大な影響を与えた。それはいかにして形成され、どのような影響を受けつつ展開を示したのか。様々な視点からの論文で総合的に探求する、国際日本文化研究センターの共同研究成果。

上田長生著

幕末維新期の陵墓と社会

2012 / A 5判 / 400頁
本体6,200円 ISBN978-4-7842-1604-8

太田由佳著

松岡恕庵本草学の研究

2012 / A 5判 / 390頁
本体7,500円 ISBN978-4-7842-1617-8

斉藤利彦著〈平成24年度歌舞伎学会奨励賞〉

近世上方歌舞伎と堺

佛教大学研究叢書 14

2012 / A 5判 / 348頁
本体6,300円 ISBN978-4-7842-1608-6

藤井譲治著

近世史小論集

古文書と共に

2012 / A 5判 / 490頁
本体6,000円 ISBN978-4-7842-1621-5

福澤徹三著

一九世紀の豪農・名望家と地域社会

2012 / A 5判 / 330頁
本体6,000円 ISBN978-4-7842-1642-0

佐藤隆一著

幕末期の老中と情報

水野忠精による風聞探索活動を中心に

2014 / A 5判 / 520頁
本体9,500円 ISBN978-4-7842-1702-1

尾脇秀和著

近世京都近郊の村と百姓

佛教大学研究叢書 22

2014 / A 5判 / 294頁
本体4,800円 ISBN978-4-7842-1731-1

鈴木則子編

歴史における周縁と共生

女性・穢れ・衛生

2014 / A 5判 / 370頁
本体6,800円 ISBN978-4-7842-1714-4

岸 泰子 著

近世の禁裏と都市空間

2014 / A 5判 / 320頁
本体6,400円 ISBN978-4-7842-1740-3

野村 玄 著

天下人の神格化と天皇

2015 / A 5判 / 384頁
本体7,000円 ISBN978-4-7842-1781-6

陵墓に政治的意味を付与し、祭祀を行おうとする政治権力（朝廷・山陵奉行）と在地社会の軋轢・葛藤が最も明確に現れた陵墓管理・祭祀に注目。社会における天皇の位置づけや天皇認識を町・村社会の具体的なレベルから広範囲かつ実態的に描き出し、幕末の天皇・朝廷と社会の関係を解明する。

江戸前～中期に活躍し、近世日本において本草学が博物学的に発展してゆくなかでその一翼を担った人物として評価されている京都の本草家松岡恕庵（1668～1746）を主題に据え、その学問の実像に迫る。松岡恕庵に関する基本的研究書。巻末に資料編として松岡恕庵著作・関連資料目録を付す。

元禄期以降の展開、特に上方歌舞伎が特質を大きく転換した化政期から幕末期の実態を究明。堺における歌舞伎興行の全貌を解明することで、京・大坂の興行、さらには大芝居、中々芝居の役者たちの動向をも照射し、上方歌舞伎の地域的展開の一端を明らかにする一書。

著者の研究活動の初発から近年までに書かれた小論のうち、主要な研究の前提あるいはその後の展開に関わるものを収録。「戦国の若狭」「秀吉の時代」「家康・秀忠・家光」「京都と所司代・町奉行」「大名と領知」「安定期社会を考える」の6部で構成。巻末に「著書・論文等一覧」を付す。

生産力の先進地域であった畿内と生産力的には劣る信濃の二地域を対象に、19世紀の豪農・名望家と地域社会の関係を総合的に論じる。大規模豪農と中小豪農の経営レベルの比較、金融活動の分析を中心に、畿内・信濃の地域間比較の視点も加え、その生業・営為を近世・近代を通じて明らかにする。

水野忠精を題材とした老中の情報収集を軸に、同時代の他の事例も交えて、幕末期の老中による政治情報収集の実態とその情報内容、さらにはこれらの扱われ方を実証的に分析。基本的な老中の情報収集ルートの枠組を明らかにし、敗者となった幕閣の政治活動にも、一定の歴史的評価を与える。

相給村落であった山城国乙訓郡石見上里村と、同村百姓にして公家家来でもあり、庄屋・医師・手習師匠としても活動した大烏家を研究対象にとあげる。建前と実態という「表裏」の運用により、社会の「穏便」を実現しようとする意識や調整に着目して、近世百姓の変容と実態を多面的に明かす。

日本歴史で女性の周縁化（地位の劣化）が進行していく過程を、宗教・儀礼・穢れ・医学・衛生という側面から検討を加える。【執筆者】鈴木則子／平雅行／宮崎ふみ子／武藤康弘／武田佐知子／加藤美恵子／濱千代早由美／三枝暁子／白杉悦雄／瀧澤利行／尾鍋智子／梶谷真司／林葉子／池川玲子

禁裏が関係する信仰や儀礼の場・空間の特性に注目。都市を基盤として存在した禁裏、禁裏によって形成・維持された都市、という両側面からなる近世京都の特性を中世・近代への展開も視野に入れて明かす。天皇が表出する場の特性や天皇と民衆の関係性などにも言及し、多角的な視点から論じる。

豊臣秀吉や徳川家康の神格化が、なぜ近世前期の政治過程において要請され、それらはどのように実現したのかを解明。そこでの天皇・朝廷の行動と意味を再検討するとともに、その後の徳川將軍家が天下人の神格や天皇・朝廷といかに向き合ったのかを、網吉期までを視野に入れ叙述する。

登谷伸宏著

近世の公家社会と京都

集住のかたちと都市社会

2015 / A 5判 / 392頁

本体8,000円 ISBN978-4-7842-1795-3

森 洋久 編

すみのくら

角倉一族とその時代

2015 / A 5判 / 628頁

本体8,800円 ISBN978-4-7842-1797-7

笠谷和比古編

徳川社会と日本の近代化

2015 / A 5判 / 730頁

本体9,800円 ISBN978-4-7842-1800-4

国文学研究資料館編

幕藩政アーカイブズの 総合的研究

2015 / A 5判 / 504頁

本体8,500円 ISBN978-4-7842-1798-4

国文学研究資料館編

近世大名のアーカイブズ資源研究

松代藩・真田家をめぐって

2016 / A 5判 / 408頁

本体7,000円 ISBN978-4-7842-1840-0

竹村英二著

江戸後期儒者のフィロロギー

原典批判の諸相とその国際比較

2016 / A 5判 / 256頁

本体5,500円 ISBN978-4-7842-1838-7

竹本千鶴著 〈第15回茶道文化学術奨励賞〉

織豊期の茶会と政治

【オンデマンド版】

2016 / A 5判 / 476頁

本体9,500円 ISBN978-4-7842-7007-1

原淳一郎著

近世寺社参詣の研究

【オンデマンド版】

2016 / A 5判 / 416頁

本体8,300円 ISBN978-4-7842-7013-2

松浦 章 著

江戸時代唐船による日中文化交流

【オンデマンド版】

2016 / A 5判 / 474頁

本体9,800円 ISBN978-4-7842-7011-8

山澤 学 著

日光東照宮の成立

近世日光山の「荘厳」と祭祀・組織

【オンデマンド版】

本体8,500円 ISBN978-4-7842-7004-0

中近世移行期における公家町の形成過程を検討し、戦国期まで内裏周辺の領域に帯びていた空間的特質が、公家町の建設によりどのように変容したのかを明かす。さらに公家が近世都市京都においていかなる集住・居住形態をとっていたのかを解明し、近世京都の空間・社会構造の特質を論じる。

京都・保津川開削で有名な角倉了以に代表される「吉田・角倉家」とそれを取り巻く人々の事業、技術や資料を様々な観点から論じ、「吉田・角倉の業績」を考える。日文研共同研究の成果。【内容】吉田・角倉家の系譜／吉田家の医業／社会基盤と角倉／海外貿易と船の技術／算術／嵯峨本と古活字

明治政府が独立を堅持できたのは、先行する徳川日本の文明的力量という素地があったからであるという視点にたち、徳川社会はどのような力をいかにして形成しえたのか、総合的に究明する多分野の研究者による書き下ろし論文 25 本。国際日本文化研究センター共同研究の成果。

幕政・藩政文書それぞれの管理・伝来について具体的に検討し、各藩において文書管理の実務にあたったものたちへ焦点を当てることで、幕藩文書管理の歴史に新たな知見を示す。近世から近代へとつながるアーカイブズ研究にさらなる実証的研究を積み上げる、国文学研究資料館共同研究の成果。

近世大名は、組織的・人的な活動を通じて多様な文書類を歴大に発生させた。松代真田家に伝来した七万数千点に及ぶ多様な文書類を中心に、藩庁の全体構造や各部局の機能などについて、記録管理の観点から分析を試みたはじめての実証的研究。国文学研究資料館共同研究の成果。

江戸時代後期～幕末の日本では「市井」の儒者たちを担い手として、客観性と実証性を備えた高度な考証的学問が発展した。彼らの学問の方法・思想を跡づけることで、日本における実証的学問の成立は清朝考証学と近代の西洋体験を基盤とするという従来の所論に再考を迫る。

織田信長による名物茶器をしつらえた茶会場の場を、従来のようにわび茶の史的变化の一齣として見ていくのではなく、室町殿中の座敷飾りが段階的に発展した「大名茶湯」として捉えて、中世史の中に位置付け、織田・豊臣政権における支配構造の側面を茶会場の場を通して明かす。初版 2006 年。

古くは貴人たちの熊野詣から寺社参詣は日本人の信仰心をあらわす一つの姿であった。本書は「寺社参詣」という行動様式そのものを研究対象の根本にすえて、江戸時代に隆盛を迎えたさまざまな寺社参詣の広がりを思想的・文化史的立場から位置付けた一書である。初版 2007 年。

江戸時代「唐船」と呼ばれる中国帆船の往来が日中文化交流の大動脈を担い、長崎を窓口とした「唐船」による通商関係は、舶来文化の受容において重要な役割を果たした。本書は日中双方の史料を用い、日本側の視点のみから論じられることの多い長崎貿易の一面を多角的に論じる。初版 2007 年。

東照宮を支えた将軍ないし天皇を頂点とした力学、神格を再生産すべく構築された祭祀組織と祭礼の特質、建築・空間を規定した同時代社会、その裾野に広がる町の形成、これら全体を構造的に把握することにより明かす。初版 2009 年。

2016 / A 5判 / 420頁

佐野真由子著〈第23回日本比較文学学会賞〉

幕末外交儀礼の研究

欧米外交官たちの將軍拝謁

2016／四六判／432頁

本体5,000円 ISBN978-4-7842-1850-9

片山正彦著

豊臣政権の東国政策と徳川氏

佛教大学研究叢書29

2017／A5判／258頁

本体6,000円 ISBN978-4-7842-1875-2

安国良一著

日本近世貨幣史の研究

2016／A5判／320頁

本体6,800円 ISBN978-4-7842-1848-6

平野 恵 著 〈第3回日本生活文化史学会賞〉

十九世紀日本の園芸文化

江戸と東京、植木屋の周辺

【オンデマンド版】

本体10,900円 ISBN978-4-7842-7031-6

白井哲哉著

日本近世地誌編纂史研究

【オンデマンド版】

2017／A5判／386頁

本体9,200円 ISBN978-4-7842-7030-9

小堀宗実著

新・小堀遠州の書状

2017／B5判／166頁

本体4,200円 ISBN978-4-7842-1886-8

横山輝樹著

徳川吉宗の武芸奨励

近世中期の旗本強化策

2017／A5判／264頁

本体7,500円 ISBN978-4-7842-1899-8

国文学研究資料館編

アーカイブズの構造認識と編成記述

【オンデマンド版】

2017／A5判／402頁

本体8,000円 ISBN978-4-7842-7034-7

高木久史著

近世の開幕と貨幣統合

三貨制度への道程

2017／A5判／304頁

本体6,500円 ISBN978-4-7842-1902-5

大澤研一著

戦国・織豊期大坂の都市史的研究

2019／A5判／584頁

本体13,300円 ISBN978-4-7842-1963-6

徳川幕府終焉まで計17例の欧米諸国の外交官による將軍拝謁を検討し、幕府が自らの儀礼伝統に則り、同時に西洋の慣習とも齟齬のない形で、外交儀礼の様式を完成させていたことを明かす。政治交渉とは異なる次元で展開した、もうひとつの幕末史である。

近年発見された「九月一七日付家康書状」。そこから新たに見えてきた豊臣と徳川の関係とは……。新出史料の分析を中心に、豊臣・徳川の政治的関係を見しつづ、豊臣政権の東国政策の一端を明かす。第五回「徳川奨励賞」授与の研究をもとに、これまでの通説をくつがえすことを試みた意欲作。

近世には多種類の貨幣が流通し、その数は膨大であるが、こうした複雑さのいっぽう、近世の権力は貨幣制度を確立したとも認識されている。近世貨幣はどのように生まれ、流通し、終焉をむかえたのか——。一国一通貨という貨幣観を解きほぐし、その独自の機能や意味づけを問いなおす良著。

旧来の園芸史では言及されなかった本草学・見世物研究分野を視野に入れ、また大田南畝らが主導した化政期以降の狂歌界との関連を指摘する等文芸分野との統合をはかり、「園芸文化」という新領域を開拓した記念碑的名著。初版2006年。2017／A5判／546頁

領主支配における文化行為の意義に着目。地誌編纂の一つの政治的文化行為と位置づけ、その機能や実態について明かす。また地方史・地域史研究に対する歴史的考察の観点から、様々な地誌の具体的編纂活動と体制をとりあげ、東アジア地域の歴史認識・地理認識を全体的に考察。初版2004年。

「綺麗さび」とよばれる新たな境地を茶道にもたらした小堀遠州。紫衣事件で配流の身となった澤庵宗彭、処罰を主導した金地院崇伝の双方とも親しく、それゆえの苦悩など、江戸初期の社会とそこで生きた遠州の人となりをも、遠州茶道宗家十三世小堀宗実家元の解説により読み解く。

江戸時代中期、質実剛健の士風はすたれ、幕府の中核部隊である旗本五番目の面々は満足に乗馬も出来ない体たらくであった。こうしたなか、吉宗は新旧様々な武芸奨励を実施し、軍事演習しながらの大規模な狩猟をも敢行した。番士を鍛え直すべく始められた、吉宗の武芸奨励の実態に迫る。

本書はとくに重要となるアーカイブズ群の構造的な理解（構造認識）とその表示（編成記述）について、第一編で研究動向や理論的な整理をし、第二・三編で近世・近代の多様な文書群をとりあげ実践的な議論を展開。国文学研究資料館で行われた共同研究の成果。初版2014年。

16世紀に民間で自生的に成立した貨幣システム（金貨・銀貨・銭）をベースに、信長・秀吉・家康政権の時代を通じて、近世的な貨幣統合が政策的に達成された。本書は、地域別の定点観測的な事例研究に基づき、その統合過程の復元を試みる。

16世紀から17世紀初頭にかけて大坂は都市としてどのような構造と特質を有し、どのような変遷を遂げたのか。文献をはじめこれまで未活用だった絵図や出土遺物の墨書など、多彩な史料を駆使して都市大坂の変容過程を具体的に実証し、都市史における意義を明らかにする。

長尾政憲著

福沢屋諭吉の研究

1988 / A 5判 / 592頁
本体9,800円 ISBN4-7842-0517-9

永井 和 著

近代日本の軍部と政治

1993・2002 / A 5判 / 450頁
本体8,600円 ISBN4-7842-0770-8

園田英弘著 〈第16回サントリー学芸賞〉

西洋化の構造

黒船・武士・国家
 1993・2000 / A 5判 / 380頁
本体7,500円 ISBN4-7842-0801-1

服部 敬 著

近代地方政治と水利土木

1995 / A 5判 / 400頁
本体6,600円 ISBN4-7842-0873-9

田中正弘著

近代日本と幕末外交文書編纂の研究

1998 / A 5判 / 480頁
本体9,800円 ISBN4-7842-0958-1

H・コータツツイ／G・ダニエルズ編
 大山瑞代訳／横山俊夫解説

英国と日本

架橋の人びと
本体8,000円 ISBN4-7842-0977-8

中村博武著

宣教と受容

明治期キリスト教の基礎的研究
 2000 / A 5判 / 610頁
本体12,000円 ISBN4-7842-1025-3

芳賀 徹 編

岩倉使節団の比較文化史的研究

2003 / A 5判 / 358頁
本体6,500円 ISBN4-7842-1145-4

佐々木克編

明治維新期の政治文化

2005 / A 5判 / 390頁
本体5,400円 ISBN4-7842-1262-0

福沢諭吉（1835～1901）が適塾に入り、蘭学を本格的に研究した修学時代からはじめて明治15年『時事新報』を発刊するまでの生活と事績を実証的に究明。幕府外国方としての時期や特に書物商としての「福沢屋諭吉」に注目し近代的出版企業の内容・実態を明らかにした諸論は特筆に値する。

「戦前の内閣」について「軍人の内閣」というフィルターを通して内閣史に光をあてる。【内容】軍人と内閣 視角と定義／軍人首相内閣論／軍人閣僚と戦前内閣／現役将校の官界進出／政軍関係理論に関する一考察 内閣官制と帷幄上奏 初期内閣と帷幄上奏勅令／内閣官制の制定と帷幄上奏 【2刷】

「蒸気船の時代」から始まった日本の近代化の特質と諸相を明かし、従来の近代化論に一石を投じる。【内容】「極東」の終焉／蒸気船ショックの構造／海防の世界／郡県の武士／森有礼研究・西洋化の論理／「選挙」と「選抜」E・S・モースのニューイングランドにおける知的環境 【3刷】

淀川・安威川・神崎川の水利構造の変遷と分析、沿岸住民の治水運動と中央・地方議会と政党の対応、近代化と中央集権的近代国家の性格を地域史の視座から問う。【内容】近代国家の成立と水利慣行／水利組合の成立とその機能／淀川改修運動と地方政治の動向／日露戦後の農事改良政策と水利問題

外交文書の編纂事情、編纂した外交文書集の内容構成、諸本の性格、また徳川幕府外国方の編集構想から明治初期外務省の編集組織の確立過程、太政官における幕末外交文書編纂の開始事情とその後の推移など、広範な第一次史料を駆使してその全容をはじめ具体的に考察。

ロンドン日本協会百周年を記念して、英国を中心とする日本文化・歴史研究者が日英交流百年史上重要な人物23名を取り上げ二つの文化の間に生きた人々を紹介する。

1998 / A 5判 / 560頁

日本におけるキリスト教の宣教と受容を新資料の検証から解明。教典成立史、新造語の成立経緯などの原理的な問題、浦上信徒総流罪に対する長崎外国人居留地の英字新聞や宣教師の書簡の解明、さらには上海租界地の宣教、内村鑑三と英字新聞の論争などから東アジアがうけた衝撃の一端を明かす。

内外の史料を駆使し、比較文化史的視角から岩倉使節団を論じた共同研究。編者をはじめ、日米英の8名が日米英仏伊における使節団を論じる。【執筆者】芳賀徹／マリウス・ジャンセン／マリーン・メイヨ／イアン・ニッシュ／松村剛／太田昭子／シドニー・ブラウン／泉三郎

“19世紀における国際環境の中で、明治維新を考える”という京都大学人文科学研究所の共同研究「明治維新期の社会と情報」の研究成果をまとめたもの。政治史、文化史、思想史、精神史を融合した“政治文化”という視点から、明治維新期の諸問題にアプローチを試みた11篇。

長谷川精一著

森有礼における国民的主体の創出

2007 / A 5判 / 466頁

本体9,000円 ISBN978-4-7842-1367-2

明石岩雄著

日中戦争についての歴史的考察

2007 / A 5判 / 352頁

本体5,500円 ISBN978-4-7842-1347-4

永井 和 著

日中戦争から世界戦争へ

2007 / A 5判 / 516頁

本体7,600円 ISBN978-4-7842-1334-4

宇田 正 著

鉄道日本文化史考

2007 / A 5判 / 352頁

本体5,500円 ISBN978-4-7842-1336-8

青山忠正著

明治維新史という冒険

佛教大学鷹陵文化叢書 18

2008 / 四六判 / 332頁

本体2,400円 ISBN978-4-7842-1394-8

丸山宏・伊従勉・高木博志編

みやこの近代

2008・2010 / A 5判 / 268頁

本体2,600円 ISBN978-4-7842-1378-8

丸山宏・伊従勉・高木博志編

近代京都研究

2008 / A 5判 / 628頁

本体9,000円 ISBN978-4-7842-1413-6

久留島浩・高木博志・高橋一樹編

文人世界の光芒と古都奈良

大和の生き字引・水木要太郎

2009 / A 5判 / 508頁

本体7,800円 ISBN978-4-7842-1481-5

高久嶺之介著

近代日本と地域振興

京都府の近代

2011 / A 5判 / 364頁

本体6,500円 ISBN978-4-7842-1570-6

鹿 雪瑩 著

ふるい よしみ

古井喜実と中国

日中国交正常化への道

本体3,800円 ISBN978-4-7842-1590-4

森有礼の思想的・実践的な課題が国民的主体の創出にあったととらえる視点から、これまで先行研究の大半が忌避してきた外国語の史料や文献をも検討し、国民的主体の形成、外交、言語、歴史、道德教育、国家、天皇という七つのテーマに即して、森の言説と政策の総体的な解釈を試みた一書。

日中戦争の全面化は、太平洋戦争への決定的転換点であった。またその結果は、日本の対中国政策の破綻でもあるとともに、中国市場の全面的開放と開発という、国際資本の試みの挫折といえる。本書は、日中戦争の原因について歴史学から考察する。

華北に利権を求める日本。英・米・ソに対しどのような対応をしたか。日本が世界戦争へ歩んでゆく姿を明かす。

【内容】東アジア20世紀史の中の日本／日本陸軍の華北占領地統治計画について／日中戦争と日英対立／1939年の排英運動／日中戦争と帝国議会／日中戦争と陸軍慰安所の創設

日本の近代化のなかで陸蒸気＝鉄道がもたらしたものは計り知れない。本書では「文化の鏡」としての鉄道をとりあげ、知識人の体験や一般人の認識から民俗・観光（巡礼）・教育との関わりを通して、鉄道が日本人の内面的形成に果たした文化的役割を明らかにする。

かつて「明治維新」は国家の模範、「勤王の志士」は国民の規範であったが、それらは国家が創りあげた虚像である。その本当の顔は身近な所に潜みおり、明治維新の真の姿を見つけ出す作業は、文字通り冒険なのである。平易な文体と豊富な図版・地図で明治維新史の魅力を紹介する。

2年にわたり『京都新聞』に平易な文体で連載されたものを再構成しまとめたもの。京都大学人文科学研究所・共同研究「近代京都研究」で論じられたさまざまな分野の具体的な主題をもとに、近代現代の京都の根本問題を見通す視座を形成しようとする試みの85篇。 図版多数収録【2刷】

歴史都市・京都は、近代に大きく変わったまちであった——。本書は、京都という都市をどのように相対化できるのか、普遍性と特殊性を射程に入れながら、近代史を中心に分野を超えた研究者たちが多数参加し切磋琢磨した京都大学人文科学研究所・共同研究「近代京都研究」の成果である。

近代奈良において水木要太郎（1865～1938）により形成された水木コレクションを主な分析素材とし、日本史・考古・建築史・国文・美術史・地理学等にわたる学際的な一書。多岐にわたるコレクションの形成過程や収集意図のもつ歴史的意義を解明。国立歴史民俗博物館での共同研究の成果。

近代京都府下の道路や運河開鑿・観光資源・開拓村を対象に、地域振興の視点から考察する。またその地域社会における様々な要求の噴出、地域改善の動きを、交通体系の変化・新技術や議会の導入・地域の人々の活動の問題を踏まえ、政治行政史と社会史を組み合せながらつづさに描き出す。

国交正常化に大きな役割を果たしながら、十分な研究がなされてこなかった古井喜実(1903～95)に注目し、「古井喜実文書」ほか日中の資料を駆使しながら、古井を中心とした自民党内親中派による国交正常化への軌跡、交渉の裏側を検証。 2011 / A 5判 / 356頁

早川廣中・本井康博共編著

増補改訂 新島八重と夫、襄

会津・京都・同志社

2012／四六判／212頁

本体1,200円 ISBN978-4-7842-1628-4

本井康博著

新島襄を語る〔全10冊〕

2005～／四六判／平均250頁

〔各〕本体1,900円

第1回 千里の志 【品切】

第2回 ひとりは大切 【品切】

第3回 錨をあげて 【品切】

第4回 敢えて風雪を侵して 【品切】

第5回 元祖リベラリスト 【品切】

第6回 魂の指定席 【品切】

第7回 ハンサムに生きる 【品切】

第8回 ビーコンヒルの小径

第9回 マイナレなればこそ

第10回 志を継ぐ

本井康博著

新島襄を語る 別巻〔全4冊〕

2013～／四六判／平均306頁

〔各〕本体1,900円

小山俊樹著

憲政常道と政党政治

近代日本二大政党制の構想と挫折

2012／A5判／384頁

本体7,000円 ISBN978-4-7842-1662-8

八木聖弥著

近代京都の施薬院

2013／A5判／304頁

本体3,500円 ISBN978-4-7842-1705-2

松田利彦・陳延媛編

地域社会から見る帝国日本と植民地

朝鮮・台湾・満洲

2013／A5判／852頁

本体13,800円 ISBN978-4-7842-1682-6

尾谷雅比古著

近代古墳保存行政の研究

2014／A5判／368頁

本体7,200円 ISBN978-4-7842-1734-2

武田知己・萩原稔編

大正・昭和期の日本政治と国際秩序

転換期における「未発の可能性」をめぐって

2014／A5判／392頁

本体6,500円 ISBN978-4-7842-1717-5

杉本弘幸著

近代日本の都市社会政策と

歴史都市の社会史 マイノリティ

2015／A5判／412頁

本体7,200円 ISBN978-4-7842-1789-2

2013年のNHK大河ドラマ「八重の桜」の主人公、新島八重にスポットをあて、その生涯を解説。白虎隊記念館館長、早川廣中氏と同志社大学本井康博教授による対談「山本八重から、新島八重へ」を掲載。資料篇として、新島八重とその兄、山本覚馬に関する重要史料を活字化して収録。【3刷】

同志社大学神学部教授のかたわら、同志社大学社史資料センター・アーキビストとして、新島襄関係資料の整理・収集にあたり「新島ワールド」のコンシェルジュ（案内人）と自他ともに認める著者が、話し言葉でその魅惑的世界を紹介する入門書シリーズ。

2013年のNHK大河ドラマの時代考証を依頼された著者による、新島襄・八重についての各地の講演をまとめる。

（一）日本の元氣印・新島八重（四）襄のライフは私のライフ

（二）八重さん、お乗りになりますか

（三）八重の桜・襄の梅（五）自己発見のビルグリム

戦前日本において、二大政党制の導入に込められた理念とは何か。二大政党制をめざす政治家やメディアの戦略とは。政党政治の崩壊と二大政党制の関係は、どのようなものであったか。これらの視角から、「憲政の常道」と日本の政党政治をとらえなおし、二大政党政治が抱える諸課題を提示する。

貧窮病者を救済するために設置された施薬院。明治維新から大正にかけて、施薬・施療のために人生をかけた安藤精軒。貧困者への医療普及を目指した精軒がとった手段は「施薬院」の復興であった。「施薬院」を中心として京都医界の歴史を描き出し、近代化していく日本の一側面を考察する。

「支配される側」からの視点と、「帝国史」という視点——異なるレベルの問題の有機的関連性を見いだす日文研共同研究の成果。【内容】研究の現状／地域社会団体／宗教・慣習と社会教化／慣習と法の「近代化」／知識人・有力者・エリート／都市と衛生・娯楽／戦時体制下の地域社会

古墳の取り扱い、近代天皇制イデオロギーの具現化をめざす国家の施策を、中央・地方庁を含む「行政」が実施する。本書では、従来の研究では抜け落ちていた「行政」に注目。河内長野市の文化財担当職員である著者が、行政と対峙する地域・民衆の動きにも目を向けて文化財保存行政を論じる。

転換期の日本の対外認識や秩序像、政治構想や経済構想、そして中国イメージをめぐる、史料に基づく実証を通じて、新たな解釈や時代像を提示する共同研究論集。【執筆者】武田知己／五味俊樹／伊藤信哉／大木康充／和田守／佐賀香織／神谷昌史／長妻三佐雄／萩原稔／武井義和／西谷紀子

近代日本の社会政策・社会福祉の受益者である社会的マイノリティはどのように政策形成に関与しようとし、政策に包摂されていったのか。蔓延する貧困と格差への対応を模索し続けている現代社会に、政策の受益者の動向から再構成した社会政策史・社会福祉史の実証研究を提示する一書。

小野芳朗編著

水系都市京都

水インフラと都市拡張

2015 / A 5判 / 310頁

本体5,400円 ISBN978-4-7842-1815-8

宮間純一著

戊辰内乱期の社会

佐幕と勤王のあいだ

2016 / A 5判 / 328頁

本体7,500円 ISBN978-4-7842-1829-5

宮澤正典著

近代日本のユダヤ論議

2016 / A 5判 / 358頁

本体5,000円 ISBN978-4-7842-1842-4

谷川 穰 著

明治前期の教育・教化・仏教
【オンデマンド版】

2016 / A 5判 / 374頁

本体7,500円 ISBN978-4-7842-7015-6

本井康博著

新島襄の師友たち

キリスト教界における交流

2016 / A 5判 / 460頁

本体4,200円 ISBN978-4-7842-1867-7

今尾文昭・高木博志編

世界遺産と天皇陵古墳を問う

2017 / 四六判 / 304頁

本体2,300円 ISBN978-4-7842-1872-1

中川 理 編

近代日本の空間編成史

2017 / A 5判 / 548頁

本体7,800円 ISBN978-4-7842-1891-2

高木博志編

近代日本の歴史都市

古都と城下町

【オンデマンド版】

本体12,000円 ISBN978-4-7842-7032-3

小野芳朗・本康宏史・三宅拓也著

大名庭園の近代

2018 / A 5判 / 472頁

本体8,000円 ISBN978-4-7842-1909-4

山崎綱介／メアリー・レッドファーン／今泉宜子著

天皇のダイニングホール

知られざる明治天皇の宮廷外交

2017・2018 / A 5判 / 284頁

本体2,500円 ISBN978-4-7842-1903-2

豊富な地下水により清涼な飲料水を得てきた京都は、灌漑・防火用の表流水の欠乏に悩まされつづけた都市でもあった。近代京都の都市史を水量・水質・水利権に着目して水インフラという視点から論じるとともに、同一水系の伏見が一度は独立市制を志しながら京都市へ合併される顛末を明かす。

鳥羽・伏見の戦いで幕を開けた戊辰内乱は、当時の社会全体を巻き込み、あらゆる身分の人びとに日和見を許さなかった。みずからの抱えるべき正当性を探し求める者、保身のために立場を翻す者、混乱に乗じて地位の上昇を図る者……。新出史料を活用し、様々な思惑が交錯する内乱期の社会像を描出。

ナチス・ドイツの崩壊、中東戦争を経た今も、日本の「ユダヤ論議」は脈々と続いている。大正期から1990年代までの、日本における「ユダヤ論議」をたどる。特に、昭和戦前期を中心に、日本と上海におけるユダヤ避難民対策についても、その実態を論証。付「ユダヤ・イスラエル関係文献目録」

近代日本の学校教育制度の定着過程で、宗教は教育といかなる関わりを持ち、学校教育の「非宗教」性はどのように醸成されたのか。日本近代史、仏教史、宗教史、教育史といった諸分野がとりこぼしてきた問題の重層性・複雑性を、教化・宗教（仏教）との関係から浮き彫りにする。初版2008年。

本書は、新島襄をめぐる人々の中からキリスト教にゆかりの深い人物、なかでも新島が属した「組合教会」（会衆派）という自派の関係者から30余名をとりあげた「交遊録」。

【内容】新島襄／アメリカ人との交流／組合教会派との交流／他教派との交流／家族（資料と講演）

仁徳天皇陵と呼ぶのか、大山古墳と呼ぶのか一考古学の成果との齟齬、天皇陵指定の経緯、陵墓公開運動、社会への広がり（ウェブ・教科書・報道）など世界文化遺産登録に向けた動きの中で浮かびあがる天皇陵をめぐる諸問題を多角的に取りあげ、これからの天皇陵のあり方を考える。

わが国戦前の空間はどのように編成されてきたのか―従来の個別事業史を乗り越え、日本の近代化過程のなかで議論することを掲げ、インフラストラクチャーと制度や政治等との関わりを考究。建築史、都市計画史、土木史、造園史、歴史学の一線の研究者が、広く空間変容の実相を描き出す。

「古都」京都、「加賀百万石」金沢等、都市は様々な歴史性を纏っているが、それは近代化の過程で発見、選ばれたイメージであった。「都市の歴史性」をキーワードに、多分野の研究者による京大人文研・共同研究の成果。初版2013年。

2017 / A 5判 / 602頁

大名庭園は、その都市のなかでの位置づけも、近代に大きな変容をとげている。現在流布している各庭園のイメージは、じつは近代に形作られたとあってよい。後楽園・兼六園・偕楽園・栗林公園をとりあげ、大名庭園のいまを知るために決して見落とすことができない近代の歴史を掘り起こす。

明治記念館本館は、明治天皇と昭憲皇太后が外国からの賓客をもてなすため、宮中晩餐会で使用した赤坂仮皇居御会食所の遺構である。その知られざる歴史を紐解き、当時の宮廷外交の実態について「建築」「テーブルアート」「人物」のテーマから読みとく。明治記念館開館70周年記念出版 【2刷】

竹内幸絵・難波功士編

広告の夜明け

大阪・万年社コレクション研究

2018 / A 5判 / 316頁

本体5,200円 ISBN978-4-7842-1911-7

高木博志編

近代天皇制と社会

2018 / A 5判 / 552頁

本体7,300円 ISBN978-4-7842-1955-1

松田利彦編

植民地帝国日本における知と権力

2019 / A 5判 / 980頁

本体15,000円 ISBN978-4-7842-1965-0

藤田英夫著

大阪舎密局の史的展開

京都大学の源流 【オンデマンド版】

2019 / A 5判 / 288頁

本体6,000円 ISBN978-4-7842-7043-9

1890年、大阪で一つの広告代理店が創業——その名は「万年社」。1999年に倒産するまでのおよそ100年の間に同社が広告研究のために収集した広告資料や文献等の「万年社コレクション」。本論集では、主に万年社の創業時～戦前までの紙媒体資料を用い、同時代の広告業界を様々な角度から活写する。

明治維新から戦後まで、現代の象徴天皇制へとつながる近代天皇制を、「社会」をキーワードに検討。【執筆者】高木博志／幡鎌一弘／本康宏史／上田長生／尾谷雅比古／市川秀之／能川泰治／廣木尚／福家崇洋／中野慎之／田中智子／池田さなえ／ジョン・ブリー／平山昇／遠藤俊六／河西秀哉

日本の台湾・朝鮮・満洲国等への支配において、学問的知識・政策構想・イデオロギー等多様な形をとって現れた「知」に着目。「知」が帝国の支配に果たした役割や植民地支配の中での被支配者の「知」のあり方を考察。日文研の国際共同研究（台湾・韓国の機関と開いた研究企画も含む）の成果。

京都大学総合人間学部に残されている「三高の白金罎塙」をきっかけに始めた京都大学のルーツを探る旅。大阪舎密局に始まるその歴史を多数の資料・文献の調査に基づき、化学史という視点から解き明かす。初版1995年。

地方史・通史

近江史跡会編

近江文化財全集〔全2巻〕

1974 / B 5判 / 総796頁

本体12,000円

門脇禎二・朝尾直弘共編

京の鴨川と橋

その歴史と生活

2001 / 四六判 / 250頁

本体2,200円 ISBN4-7842-1082-2

京都橘女子大学女性歴史文化研究所編

京都の女性史

2002 / A 5判 / 242頁

本体2,400円 ISBN4-7842-1123-3

石田孝喜著

京都 高瀬川

角倉了以・素庵の遺産

2005 / A 5判 / 250頁

本体2,200円 ISBN4-7842-1253-1

金田章裕著

大地へのまなざし

歴史地理学の散歩道

2008 / A 5判 / 322頁

本体4,500円 ISBN978-4-7842-1405-1

50にわたる市町村の文化財を、建造物・仏像・絵画・工芸品・史跡・名勝・天然記念物・無形文化財・民俗資料・古墳出土品など数千点にのぼる資料の中から約二千点を選び、市町村ごとに解説。概説として「近江路の文化財」を付す。巻末には参考文献を付した。

歴史都市京都のシンボルの存在である鴨川とそこに架かる橋について、平安京以前から昭和まで、各時代の様子を具体的に明らかにし、人々の暮らしの中でのどのような意味を持っていたかをさぐる。【執筆者】門脇禎二・増淵徹・田端泰子・細川涼一・朝尾直弘・林久美子・横田冬彦

平安時代から近代まで、京都に生きた女性に視点を据えた8論文。同研究所所蔵『遊客名簿』の分析から近代京都の遊郭について明らかにした論文などを収録。

【執筆者】松浦京子／増淵徹／鈴木紀子／田端泰子／林久美子／横田冬彦／小野和子／細川涼一／光田京子

洛中と伏見港をむすぶ高瀬川は、慶長16年に角倉了以によって開削、大正9年にその運河としての使命を終えるまで、近世京都の経済発展に寄与した。本書では、運河開削の歴史をたどり、舟入や橋の変遷、高瀬舟と舟運の推移など、多方面からその歴史と文化を明かす（挿入図版110点余）。

条里制から世界地図まで、広範な研究を展開してきた著者の諸論稿。【内容】道行く人びと／景観史への道程／町と村の発達／英国の世界認識と世界覇権／世界の大地への関心／北海道殖民地区画の特性と系譜／古代都市の情景／南海道／琵琶湖岸の変遷と土地利用／禍福おりなす大地／文化の探求

アレキサンダー・ベネット著
エトス

武士の精神とその歩み

武士道の社会思想史的考察

本体4,800円 ISBN978-4-7842-1426-6

武家政権から、明治維新までの、武士文化の発展と変遷の過程を考察。文化人類学者クリフォード・ギアツによる宗教の定義を援用し、各時代における武士の精神を精査することで、武士の気風や動機などの進展過程を明かす。

2009 / A 5判 / 296頁

辻本雅史編

知の伝達メディアの歴史研究

教育史像の再構築

2010 / A 5判 / 300頁

本体5,700円 ISBN978-4-7842-1500-3

学校を、制度化された一つの「知の伝達メディア」と見ることで、多様に広がっている他のメディアと比較並列的に捉えることや、人の関係性の変容についての考察が可能になる。学校教育史や制度史・実践史・思想史に偏ってきたこれまでの教育史像を、メディアの視点から全面的に書き換える共同論集。

高木博志・山田邦和編

歴史のなかの天皇陵

2010 / A 5判 / 340頁

本体2,500円 ISBN978-4-7842-1514-0

神功皇后陵（五社神古墳）墳丘への研究者の立入調査、仁徳天皇陵（大仙古墳）の世界遺産登録の動きなど、現在も関心を集めている陵墓。京都アスニー連続講座をもとに、考古から近代まで陵墓の歴史を易しく説く。研究者によるコラム14本に加え、執筆者による座談会を収録。図版多数。【2刷】

原田信男編

地域開発と村落景観の歴史的展開

多摩川中流域を中心に

2011 / A 5判 / 486頁

本体9,000円 ISBN978-4-7842-1555-3

関東平野西部の多摩川中流域をフィールドに、開発と景観という観点から、地球環境の変遷を問う人間の営みの歴史をたどる。豊富な考古遺跡・遺物にくわえ、村絵図・地方文書等の文献史料を手がかりとし、旧石器時代から前近代にわたって通史的に論じる。20年をかけて行われた共同研究の成果。

吉越昭久・片平博文編

京都の歴史災害

2012 / A 5判 / 322頁

本体2,300円 ISBN978-4-7842-1643-7

京都における歴史災害を「水害」「火災」「震災」「土砂災害」「気象災害」など種類ごとに分類。歴史学のみならず工学・情報学などの成果も取り入れ、歴史災害の復原、減災の智慧について最新の研究を披露する。立命館大学で採択されたG-COEプログラム「文化遺産の防災」の成果。

武田佐知子編

交錯する知

衣装・信仰・女性

2014 / A 5判 / 688頁

本体12,000円 ISBN978-4-7842-1738-0

サントリー学芸賞・浜田青陵賞・紫綬褒章を受けた編者の大阪大学退職を記念し、学縁に連なる31名が衣装・信仰・古代史の諸相・女性・文化の交錯をテーマに、最新の研究成果を持ち寄る論文集。

片平博文著

貴族日記が描く京の災害

2020 / A 5判 / 416頁

本体5,000円 ISBN978-4-7842-1984-1

繰り返し起こる自然災害。なぜ人々は京の都に住み続け、発展させることができたのか。平安・鎌倉期の貴族の日記から平安京の季節災害（洪水、台風、火災）の情報を抽出し、文字情報を地理学的手法で空間情報に置き換えて視覚化。日記を読むだけでは見えてこない平安京の姿を浮かび上がらせる。

東 洋 史

大庭 脩 編

漢簡の基礎的研究

1999 / B 5判 / 220頁
本体13,000円 ISBN4-7842-1000-8

【内容】簡牘書檄の功能と特征（大庭脩・李均明・劉軍）漢代太初曆考——漢簡に見られる『節氣』を手掛かりとして（吉村昌之）日本における中国古印の研究 付：日本収蔵中国古印図録（陳波）『居延漢簡補編』の出版（大庭脩）中国簡牘研究文献目録〔1903～1997年〕（門田明）

太田 修 著

朝鮮近現代史を歩く

京都からソウルへ
 佛教大学鷹陵文化叢書 20
本体1,900円 ISBN978-4-7842-1450-1

近代において朝鮮半島から離散していった人々など、彼らにおける植民地支配と戦争の歴史がいかなるもので、それが現代の人々によってどのように記憶されたか。その歴史と縁のある場所を訪れ、そこでの様々な出会いから生まれた成果。
 2009 / 四六判 / 270頁

樂 玉璽 著

青島の都市形成史：1897-1945

市場経済の形成と展開
 2009 / A 5判 / 364頁
本体6,800円 ISBN978-4-7842-1453-2

青島がドイツ・日本との間に持った経済関係や、その関係が築かれた歴史的要因、青島の経済発展の過程や特徴、さらに青島が全中国へ与えた影響を解明。日中両国の広範な資料を用いることにより、詳細かつ中立的・客観的な立場での考察を試みる。

曾田 三郎 著

立憲国家中国への始動

明治憲政と近代中国
 2009 / A 5判 / 400頁
本体8,000円 ISBN978-4-7842-1464-8

立憲国家中国の形成という観点から叙述する中国近代史。内閣制を中心とする行政制度の改革や省制・省政の改革を軸に、大隈重信などの政治指導者や、有賀長雄のような伊藤系の法学者などの影響を具体的に把握することで、明治憲政の影響を動態としてとらえる。

松浦 章 著

近世東アジア海域の文化交渉

2010 / A 5判 / 472頁
本体9,000円 ISBN978-4-7842-1538-6

海によって隔てられた東アジア諸地域間の交流は、波濤を越えた船の往来によって支えられていた。本書は清代帆船やその後に登場した汽船に乗って海を渡った人・物・書籍や文化をとりあげ、中国・日本・朝鮮・琉球などの人々の交流の諸相を明らかにする。

北東アジア交流研究プロジェクト 藤井一二編

東アジアの交流と地域展開

2012 / B 5判 / 248頁
本体4,800円 ISBN978-4-7842-1639-0

金沢星稜大学ORCプロジェクトの一環として2002～2004年度を中心に共同研究を進めてきた成果。【内容】中国発見の日本《和同開珎》銭と国際交流 / 20世紀前半、旧満州における日本人ジャーナリスト / 韓国の経済・経営の進展と韓国日系企業の事業展開 / 韓国の経済成長とその源泉について 他

韓哲晝・原田敬一・金信在・太田修著

植民地朝鮮の日常を問う

第2回佛教大学・東國大学校共同研究
 佛教大学国際学術研究叢書 3
本体2,800円 ISBN978-4-7842-1660-4

朝鮮「植民地時代」の「日常」を検討する四編。【内容】日帝の韓国併吞に対する韓国民の認識と対応 / 韓国併合前後の都市形成と民衆 / 日帝強占期における「古都・慶州」の形成と古跡観光 / 戦時期大邱の朝鮮人女子学生の学校生活
 2012 / A 5判 / 306頁

松浦章著

近世中国朝鮮交渉史の研究

2013 / A 5判 / 328頁
本体6,000円 ISBN978-4-7842-1709-0

朝鮮から北京に赴いた赴京使による定期的な外交交渉と、漂着船や交易船による不定期な海を介した交渉の両面から考察。付：天理大学附属天理図書館蔵「漂人問答」全文影印。
 【内容】朝鮮使節の北京への道程 / 朝鮮情報から見る中国 / 中国漂着朝鮮船と朝鮮漂着中国船 / 黄海の交渉史

曾田 三郎 著

中華民国の誕生と大正初期の日本人

2013 / A 5判 / 328頁
本体6,500円 ISBN978-4-7842-1695-6

中国・日本双方の報道を通して大正初期の日本を見てゆくと、両国間の緊密な関係性がみえてくる。日本の国会では中国のあり方・対中国政策が盛んに議論され、その如何が世論を動かした。臨時約法を始めとする中華民国誕生を取り巻く諸問題を通して、大正初期の日本人を捉え直す。

小野容照著

朝鮮独立運動と東アジア

1910—1925

2013 / A 5判 / 424頁

本体7,500円 ISBN978-4-7842-1680-2

朝鮮独立運動はいかなる国際的要因によって展開していたのか。同時代の日本・中国・台湾の社会運動や民族運動との相互作用を明らかにし、その検討作業から、朝鮮独立運動を朝鮮固有の運動ではなく、東アジア全体の社会・運動・思想状況との相互関係の中で展開した運動として捉え直す試み。

菊池誠一編

朱印船貿易絵図の研究

2014 / A 4判横綴 / 104頁

本体7,800円 ISBN978-4-7842-1712-0

17世紀の日本と東南アジアの交易や、ベトナムのホイアンに存在した「日本町」の様子を描いた絵図、名古屋市情妙寺所蔵「茶屋交趾貿易渡海絵図」と、新出史料の九州国立博物館所蔵「朱印船交趾渡航図巻」。これらのカラー図版に、美術史・歴史学および考古学などの研究者による論考を収録。

山崎覚士著

中国五代国家論

佛教大学研究叢書 12

【オンデマンド版】

本体7,300円 ISBN978-4-7842-7019-4

五代十国時代には何らかの秩序があったと考えられないか。第一部は「平王」等の爵位や藩鎮制、国書の検討から「中国」一諸国間の支配関係を考察。第二部では海上に新たな国際秩序をつくろうとした呉越国に焦点をあてる。初版 2010 年。2016 / A 5判 / 364頁

土井浩嗣著

植民地朝鮮の勸農政策

2018 / A 5判 / 448頁

本体9,000円 ISBN978-4-7842-1948-3

日露戦争から世界恐慌までの時期を対象とし、保護国期・植民地期における朝鮮の勸農政策の形成・展開過程を解明。近年議論が硬直化しがちな朝鮮植民地農政の再検討を試みる。技術普及と人材育成という勸農政策の視点から照射し、朝鮮の植民地農政を近代農学の導入・定着過程として描き直す。

久米雅雄監修／寧楽美術館編集

寧楽美術館の印章

方寸にあふれる美

2017 / B 5判 / 192頁

本体4,000円 ISBN978-4-7842-1904-9

日本における印章五大コレクションのうちのひとつ、寧楽美術館所蔵の中国古印コレクションの中から、整理を終えた代表的な 219 顆を紹介。官印・私印を年代順・実物大で掲載する。整理にあたっての断代（時代判定）手順など、くわしい解説も収録。

思想・教育史

通 史

源了圓・玉懸博之共編

国 家 と 宗 教

日本思想史論集

1992 / A 5判 / 540頁

本体12,000円 ISBN4-7842-0702-3

国家というものの存在と、それを内から浄化し批判する重要な契機としての宗教——「国家と宗教」という問題に思想史的見地から取り組む論文集。

個人著作集・全集

(社)日本弘道会編／古川哲史監修

増補・改訂 西村茂樹全集

〔全12巻〕

2004～／A 5判／平均900頁

揃 本体212,000円

西村茂樹(1828-1902)は、幕末には儒学・洋学を修めた優れた経世家であり、明治には急激な近代化・西洋化が進む中、日本文化崩壊への危惧から保守主義的思想家として倫理・道徳の問題にとり組んだ。昭和51年の復刻版(全3巻)を解体、新たに収集したものを加え、全12巻で再構成した。

太田兵三郎他編

藤原惺窩集〔全2巻〕

1978 / A 5判 / 総1024頁

本体12,000円 ISBN4-7842-0368-0

昭和16年「海潮音」の主幹太田兵三郎の編集で、国民精神文化研究所から刊行されたものの復刻。光圀校訂の惺窩先生文集、羅山編の惺窩文集のほか、自筆草稿、日記残簡あるいはその著とされる寸鉄録など、惺窩に関するあらゆる史料を収録。日本儒学の祖惺窩の唯一無二の重要史料。

近 世

海原 徹 著

近世私塾の研究

1983・1992 / A 5判 / 650頁

本体14,000円 ISBN4-7842-0747-3

広瀬淡窓、本居宣長、杉田玄白、シーボルト、緒方洪庵、藤田幽谷・東湖、月性、吉田松陰など近世の代表的な私塾の動態と人的交流を多方面から総合的かつ体系的に解明・分析し、その果たした役割と意義を探り、近代への胎動を追求した初の本格的な研究書。写真・図版多数収録。【2刷】

三宅正彦著

京都町衆伊藤仁斎の思想形成

1987 / A 5判 / 378頁

本体5,800円 ISBN4-7842-0484-9

朱子学は幕藩国家の支配階級のみならず被支配階級とくに京都町衆にも浸透する。仁斎も熱烈な朱子学徒であったが、なぜ仁斎は朱子学を否定して独自の思想体系仁斎学に至ったか。その歴史的意義と思想的展開を、徹底した稿本研究を通して、京都町衆の存在形態と意識的特質の検証の中に探る。

柴田 純 著

思想史における近世

1991 / A 5判 / 310頁

本体5,800円 ISBN4-7842-0650-7

個人と社会、主観と客観の相剋に挑む問題作。【内容】近世思想史研究の課題と方法／近世前期における学文の歴史的位置／那波活所の思想／那波活所と徳川頼宣／徳川頼宣の藩教学思想／近世における法と理／近世初頭の社会と儒者／思想史における近世／宋明学を受容と日本型中華意識

今中寛司著

徂徠学の史的研究

1992 / A 5判 / 424頁
本体12,000円 ISBN4-7842-0737-6

第一章においては、新史料「徂徠先生年譜細君墓表一卷」、徂徠自筆『勝覺寺縁起』により徂徠の前半生を明らかにし、第二章では徂徠学における「古文辞」の学と、それを生み出した私塾護園について論じ、第三章において徂徠の業績と評価を総合的にまとめる。

古川哲史著

葉隠の世界

1993 / 四六判 / 320頁
本体2,816円 ISBN4-7842-0807-0

武士道思想を代表する文献『葉隠』を、岩波文庫版の校訂者でもある著者が平易な文体で詳しく紹介する。追腹、諫言、国学など主要テーマに切り込んだ第Ⅰ部：葉隠十話、殉死の精神と葉隠の本質との関わりを説いた第Ⅱ部：葉隠四話の二部からなる。巻末に殉死墓分布地図を付載。

川村 肇 著

在村知識人の儒学

1996 / A 5判 / 278頁
本体6,400円 ISBN4-7842-0912-3

近世後期の在村知識人の諸相を具体事例にそってとりあげ、民衆の儒学と教育の近代化の関係を探る。【内容】民衆儒学と教育近代化／幕末維新期の民衆における漢学教育／儒学と農業／漢学教養の形成／儒学と救民行為／儒学と主体形成／崎門派の在村儒学と学校構想／在村知識人と近代化

本山幸彦著

近世国家の教育思想

2001 / A 5判 / 296頁
本体7,000円 ISBN4-7842-1069-5

幕藩体制の教育政策を縦覧、経済・社会と関連させながら政治と教育の関係を解明。また幕府・諸藩の教育機関設立の趣旨、幕臣や藩士に対する奨学の論旨、教育機関発達の諸条件など、体制の維持・存続・強化のための教育思想・施策の具体像をも明かす。『明治国家の教育思想』（品切）の姉妹篇。

須藤敏夫著

近世日本釈奠の研究

2001 / A 5判 / 340頁
本体8,000円 ISBN4-7842-1070-9

儒学が近世封建社会を支え、発展したという通説について、孔子を祭る行事、釈奠を通じ考察。江戸幕府と米沢・長州・水戸の各藩校、足利学校を取り上げ、近世における釈奠と教育の実態を把握することにより、近世儒学と学校教育の性格を考える。近世教育史、儒学・思想史研究の空白を埋める。

木村政伸著

近世地域教育史の研究

2006 / A 5判 / 290頁
本体5,700円 ISBN4-7842-1274-4

近世農村社会に存在した多様な内容・水準を持つ教育の構造と、その構造がいかなる社会的背景、過程を経て変容していったのかを明らかにする。【内容】研究課題と研究視点／唐津藩における私塾教育の展開／浮羽地域における教育構造の変容

任 正 赫 著

朝鮮科学史における近世

洪大容・カン・志筑忠雄の自然哲学的宇宙論
2011 / A 5判 / 282頁
本体6,000円 ISBN978-4-7842-1587-4

18世紀朝鮮で、宇宙の構造と生成について論じた学者、洪大容。本書は洪の無限宇宙論の、宇宙論発展史における意味や朝鮮科学史および18世紀自然科学における位置を検討し、洋の東西の宇宙論の本質を解き明かしていく。付録として洪大容著『鑿山問答』の原文と日本語訳を収載。

山田芳則著

熊沢蕃山の思想冒険

2015 / A 5判 / 218頁
本体5,000円 ISBN978-4-7842-1783-0

蕃山の一つ一つの著作の思想構造の解明をめざし、それぞれの著作を比較することで、蕃山の思想の変化に注目し、その変化の意味を問う。また中江藤樹『翁問答』や池田光政の藩政改革をとりあげて、岡山藩における蕃山の政治体験の意味を解明し、多様な蕃山の思想を立体的に浮かび上がらせる。

井上敏幸監修／高橋昌彦編著

廣瀬淡窓

2016 / B 6判 / 334頁
本体2,500円 ISBN978-4-7842-1817-2

従来の評伝が、淡窓の著作に傾注して叙述されてきたのに対して、本書は、淡窓の日記や自叙伝、著書をはじめ、書簡や漢詩、周辺史料などから淡窓の生涯を再検討し、新たな淡窓像を構築。とくに漢詩を多くとりあげ、その背景についても解説。著述と出版についても、最新の調査から詳細に検討。

大野 出 著
がんざんだい し みくじぼん

元三大師御籤本の研究

おみくじを読み解く 【オンデマンド版】
本体4,000円 ISBN978-4-7842-7008-8おみくじの源流を探っていくと、必ずたどり着くのが元三大師御籤。現代のおみくじも多くは元三大師御籤本に由来している。江戸時代のそれらの史料群を時系列に従って比較、分析し、近世の「天道」信仰をあぶり出す。初版 2009 年。
2016 / A 5判 / 204頁

前田 勉 著

江戸教育思想史研究

2016 / A 5判 / 596頁
本体9,500円 ISBN978-4-7842-1866-0

辻本雅史著

近世教育思想史の研究

日本における「公教育」思想の源流
【オンデマンド版】
本体7,500円 ISBN978-4-7842-7020-0

大戸安弘・八鍬友広編

識字と学びの社会史

日本におけるリテラシーの諸相
【オンデマンド版】
本体7,500円 ISBN978-4-7842-7023-1

海原 徹 著

近世の学校と教育

【オンデマンド版】
2016 / A 5判 / 376頁
本体7,500円 ISBN978-4-7842-7021-7

学問が出世に結びつかない身分制社会の近世日本において、学ぶ理由が明確でないなか、学校はいかに生まれ、なにを求めたのか。学習の方法、教育の目的に注目し、官学／私学、儒学／国学／蘭学といった枠組みを超え、17世紀から明治初期までを見通し、江戸教育思想史に新たな地平を拓く。

18世紀の後半の幕藩公権力に取り組まれた教育的諸政策に思想的考察を加え、その教育史的意義を明かすと共に、そこで展開される思想と論理がいかなる構造と特質をもって近代の国家主義的教育政策に繋がっていくかを解明。初版1992年。2016 / A 5判 / 376頁

近代学校制度導入以前の、日本の識字と学びの歴史的展開と諸相を、様々な史料から多面的に掘り起こし、実証的な検証を試みる。地域性と個性を意識した事例の検証が十分とはいえない現状に一石を投じる気鋭の論文集。初版2014年。2016 / A 5判 / 374頁

私塾を理解するには、私塾と対置される官・公立学校、その登場を育んだ広範な寺子屋の底辺を解明することが必要とする著者が、士庶の教育の相異、就学率、学費、遊学、女子教育、教育統制などあらゆる角度から「近世の学校」を照射し、その教育観を鮮明に浮かび上げられる。初版1988年。

近 代

山田芳則著

幕末・明治期の儒学思想の変遷

1998 / A 5判 / 258頁
本体5,600円 ISBN4-7842-0982-4

山口静一編

フェノロサ社会論集

2000 / A 5判 / 330頁
本体7,800円 ISBN4-7842-1028-8

巖 平 著

三高の見果てぬ夢

中等・高等教育成立過程と折田彦市
2008 / A 5判 / 352頁
本体7,500円 ISBN978-4-7842-1399-3

富永 望 著

象徴天皇制の形成と定着

2010 / A 5判 / 316頁
本体4,800円 ISBN978-4-7842-1492-1

真田将之著

西村茂樹研究

明治啓蒙思想と国民道徳論
2010 / A 5判 / 488頁
本体7,800円 ISBN978-4-7842-1491-4

山田方谷・阪谷明廬・坂田賢軒・大西祝ら主に吉備地方の思想家10名をとりあげ、幕末期の儒学思想の特質、近代西洋文明との接触による儒学思想の変容、明治期の儒学思想の課題、さらに儒学批判を通じた明治期における西洋思想形成の過程を解明し、儒学が果たした地域的役割をも考察した論集。

明治期の美術運動に足跡を残したことで著名なフェノロサだが、来日当初の目的は東京大学でミル、スペンサー、ヘーゲルなど社会思想を講じることだった。本書では日本の学会誌や新聞・総合雑誌に発表された政治・経済・社会・宗教・哲学・比較文化論等に関する主要な論文・講演13篇を収める。

明治前期における中等・高等教育の成立過程を、第三高等学校およびその前身校の変遷に即して明かす。京都大学大学文書館所蔵「第三高等学校関係資料」等を駆使し、三高校長職にあった折田彦市に注目。高等学校がいかなる理由で設けられたのか、日本近代教育史研究の欠落を埋める一書。

定義・起源が明確にされてこなかった象徴天皇制。「象徴天皇（制）」という言葉に着目して、その使用法を検証し、さらに吉田茂の憲法運用と、それに異を唱える政治勢力や憲法学者の天皇観を明かすことで、象徴天皇制が新憲法の運用の積み重ねにより形成、定着していったことを実証。

明治の啓蒙思想家・道徳運動家である西村茂樹の思想について、従来の「保守」と「進歩」という二項対立的な枠組みから脱却し、時代状況に応じた問題意識の変遷と主張の展開を、史料に基づいて跡づけることにより明らかにする。

小股憲明著

明治期における不敬事件の研究

2010 / B 5判 / 576頁

本体13,000円 ISBN978-4-7842-1501-0

本間千景著

韓国「併合」前後の教育政策と日本 佛教大学研究叢書 8

2010 / A 5判 / 300頁

本体5,600円 ISBN978-4-7842-1510-2

小枝弘和著

William Smith Clark の教育思想の研究 札幌農学校の自由教育の系譜

2011 / A 5判 / 380頁

本体3,000円 ISBN978-4-7842-1561-4

宮澤正典著

同志社女学校史の研究

2011 / A 5判 / 374頁

本体2,800円 ISBN978-4-7842-1574-4

田中智子著

近代日本高等教育体制の黎明 交錯する地域と国とキリスト教界

2012 / A 5判 / 448頁

本体7,000円 ISBN978-4-7842-1618-5

高橋文博著

近代日本の倫理思想 主従道徳と国家

2012 / A 5判 / 332頁

本体5,500円 ISBN978-4-7842-1656-7

井上章一編

学問をしぼるもの

2017 / A 5判 / 384頁

本体2,500円 ISBN978-4-7842-1898-1

数多く発生しながら体系的な研究がされてこなかった明治期の不敬事件を網羅。豊富な実例を整理・検討することによって明治国家の特質を考察し、天皇制と教育の関係、ひいては天皇制と近代日本および国民の関係を明かす大著。資料編として、228 事例と 13 参考事例の概要および参考文献を収載。

第2次日韓協約から第1次朝鮮教育令発布後の期間に着目し、当該期の修身教科書への影響や教員の養成・日本人教員の配置など、現地における学校教育を検証。日本に対する朝鮮民衆の対応と抵抗により、日本側の植民地教育政策がどのような変容を迫られたのかを、多彩な史料に基づき解明する。

“Boys, Be ambitious!”で知られる、ウィリアム・スミス・クラーク（1826-86）の教育思想の全体像について、アメリカに存在するクラーク関連資料や、手紙や草稿類などの資料をも活用し、彼が過ごしてきた環境を明らかにすることで、その教育思想や実践の特質の主要因を究明する。

現在の同志社女子大学・同志社女子中学校・高等学校の前身である「同志社女学校」。その1877年（明治10）創設から1945年（昭和20）までについて、新島襄と女子教育、同志社女学校と朝鮮、昭和戦時下の同志社女子部など、個別詳細に論じる。

主に1870年代初頭から1890年代初頭までを対象とし、各地域の高等教育体制の展開過程を、府県という地域行政主体、文部省という国の行政主体、伝道を志すキリスト教界、という三勢力の交錯のうちに描く。高等教育史を府県・国・民間勢力の相互関係史として再構成する一書。

近代日本における倫理思想をめぐる論文集（付 資料解題）。「明治十年代の道徳教育」「徳育論争における福澤諭吉」「道徳教育における主従関係の近代」「近代日本における経済と倫理」「阿部次郎の社会思想」「安部能成と平和論」「アジアの中の日本」「天皇・武士・民衆」「和辻哲郎の戦後思想」等。

時局による言論の制約、マルクス主義の流行、はたまた所属学会への配慮や、恩師・先輩への気遣い等煩わしい人間関係……。人文学の研究者達も、社会の様々なものに拘束されている。そんな学者達の息苦しさの歴史を、科学史的に明かそうと企画された国際日本文化研究センター共同研究の成果。

中野 操 監修

大坂医師番付集成

1985 / 大判帙入 / 索引・解説 B 6 判 220 頁
本体15,000円 ISBN4-7842-0079-7

原 三信 編

日本で初めて翻訳した解剖書

1995 / A 4 判 / 100 頁
本体8,738円 ISBN4-7842-0884-4

その土地柄か、大坂には最も多くの番付が残されている。寛政から明治に至る、現在判明している医師番付の全て45点を影印版で再現。別冊に詳細な人名索引及び解説を付す。医学・蘭学・洋学史における人物研究の根本史料。45種（原寸及び3分の2縮少）。和紙使用オフセット印刷。

【内容】阿蘭陀外科免状／六代原三信が写した「人体解剖書」原本と「レメリン解剖書」／原三信本とレメリン解剖図（対照）／六代原三信が写した訳本「人体解剖図」の解説書／阿蘭陀外科術式図譜絵巻／解説（酒井シヅ：日本最初の西洋解剖書の翻訳）

磯貝 元 編

明治の避病院

駒込病院医局日誌抄
 1999 / A 5 判 / 530 頁
本体13,000円 ISBN4-7842-0998-0

わが国の代表的な避病院、駒込病院勤務医の当直医局日誌全11帖（明治32～42年）から編者（元駒込病院副院長）による脚注を付して抄録。ペスト・チフス・赤痢患者の悲惨な状態、医師や看護婦の診療への取り組み、医局内の行事や人事など伝染病をとりまく当時の様子が生々しく活写されている。

池田文書研究会編

東大医学部初代総理池田謙斎 池田文書の研究

〔全2冊〕
 2006～2007 / A 5 判 / 総740 頁
揃 本体14,600円

池田謙斎宛の約4千通の文書類を翻刻。内容は、東大医学部の前身である幕府医学所関係文書およびその関係者からの書簡など、東京大学中樞部・陸軍軍医部・宮内省侍医として関係のあった各宮家、同僚侍医、また患者としての華族や高級官僚などによる書簡を上・下2分冊で収録。

日本医学史学会関西支部（杏林温故会）編

醫 譚

〔全3巻〕
 自第1号（昭和13年）至第17号（昭和19年）
本体24,000円 ISBN978-4-7842-1424-2

昭和12年、医学史研究の会である杏林温故会創立が相談された。その機関誌『醫譚』は医学史・科学史研究の貴重な古典であり、入手困難な昭和19年刊行17号までを復刻。
 2008 / A 5 判 / 総1090 頁
総合教育センター（TEL0120-435-288）専売商品です。

森本武利編著／酒井謙一訳

京都療病院お雇い医師ショイベ 滞日書簡から

2011 / A 5 判 / 346 頁
本体7,000円 ISBN978-4-7842-1581-2

治療・教育・研究にあたって優れた成果を挙げたドイツ人のお雇い医師ショイベ（1877～81）。滞日中に母へ送った書簡の翻訳を通して、ショイベの生涯をはじめ、ほかのお雇い外国人達との交流や居留地での生活から明治初期の京都の風俗にいたるまでを、生き生きとよみがえらせる。

緒方洪庵記念財団 除痘館記念資料室編

緒方洪庵の「除痘館記録」を読み解く

2015 / A 5 判 / 216 頁
本体2,300円 ISBN978-4-7842-1806-6

第一部で「除痘館記録」の原本図版・翻刻・現代語訳・註と解説、第二部に論考を配し、幕末という当時の歴史的背景や具体相、あるいは洪庵を取り巻く状況や環境などを丁寧に解説することで、より多くの人々が緒方洪庵と除痘館事業の活動を再認識できるよう構成し、病いと闘いに迫る。

増田知正・呉秀三・富士川游選集校訂

日本産科叢書

1971・2017 / 菊判 / 1332 頁
本体20,000円 ISBN4-7842-0031-2

明治28年に産科史珠玉の原典を網羅・集大成したものの復刻。中條流産科全書、濃洲乗付流産方から始め、賀川学統前後、蛭田学統等、全59の原典史料を収録。日本産科学史考としての逸話は未刊本の訳書其他数部にすぎない。【2刷】
総合教育センター（TEL0120-435-288）専売商品です。

小石家文書研究会編
究理堂所蔵 京都小石家来簡集

2017 / B 5判 / 346頁
本体14,400円 ISBN978-4-7842-1918-6

小石家究理堂が現在所蔵する貴重な史料のうち、医者・蘭学者による書簡を選んで影印(一部を除きカラー)・翻刻を収録。さらに史料に内在する論点を深めた論考も収め、元俊・元瑞をはじめとした小石家歴代の交友関係と旺盛な学事交流の実態を浮かび上がらせる。

個人著作集・全集

岡田靖雄編・解説
くれしゅうぞう

呉秀三著作集〔全2巻〕

1982 / A 5判 / 平均450頁
揃 本体29,000円

明治35年日本神経学会を創立、わが国近代精神神経学を開拓建設すると共に、日本医史学会の初代理事長を務め、数多くの広範な医史学領域での研究を残した呉博士の業績を集大成。【構成】医史学篇(23篇) / 精神医学篇(31篇)
総合教育センター (TEL0120-435-288) 専売商品です。

通史・年表

三木 栄・阿知波五郎共著

人類医学年表

1981 / B 5判 / 550頁
本体23,000円 ISBN4-7842-0070-3

人類の医の知識の始原期から一万年間の鳥瞰編年記録。重要な医の業績、医倫理、医学に影響を及ぼした宗教・哲学・思想・国々の興亡、疫病の流行、飢饉の発生など、今昔東西人類・人間医学の全動向を辿る。人名・件名索引を付す。
総合教育センター (TEL0120-435-288) 専売商品です。

三木 栄 著

朝鮮医事年表

1985 / A 5判 / 586頁
本体20,000円 ISBN4-7842-0397-4

有史以来第二次世界大戦終結までの朝鮮史料および関連史料による医学・医療・疾病関係の事蹟を年次・月次・日次に別け掲載した医事年表。典拠は全て明記。朝鮮医学史のみならず、東洋医学史の基本的文獻。
総合教育センター (TEL0120-435-288) 専売商品です。

三木 栄 著

補訂 朝鮮医学史及疾病史

1991 / B 5判 / 650頁
本体17,000円 ISBN4-7842-0653-1

本書は朝鮮医学史と朝鮮疾病史の二部構成よりなり、広く自然科学史・本草学、獣医学さらにアジア医学史との相互関係にもふれる大作。初版私家版は昭和49年刊。

総合教育センター (TEL0120-435-288) 専売商品です。

京都府医師会編〈第34回毎日出版文化賞特別賞〉

京都の医学史〔全2冊〕

本文篇・資料篇

2017 / 菊判 / 総2142頁
本体38,000円 ISBN978-4-7842-1876-9

古代医学から中国医学、オランダ医学、近代医学、痘科、産科、鍼灸、宮廷医家、町医師、看護等、すぐれた医家を輩出した京都の医学史を体系的に編纂。資料編には、究理堂の資料と解説・医家門人帳・京都の医事年表・良医名鑑を収録。
総合教育センター (TEL0120-435-288) 専売商品です。

深瀬泰旦著 〈第15回矢数医史学賞〉

天然痘根絶史

近代医学勃興期の人びと

2002 / A 5判 / 450頁

本体8,500円 ISBN4-7842-1116-0

福田真人・鈴木則子編

日本梅毒史の研究

医療・社会・国家

2005 / A 5判 / 392頁

本体7,000円 ISBN4-7842-1247-7

深瀬泰旦著

小児科学の史的変遷

2010 / A 5判 / 604頁

本体9,000円 ISBN978-4-7842-1526-3

牛痘接種法は、日本ではお玉ヶ池種痘所において実践され、お玉ヶ池種痘所は蘭学という学問を普及させる上での拠点となった。それは日本近代医学興隆の礎ともいえる。天然痘の根絶を目ざす人びとに焦点をあてながら、この近代医学勃興期とも呼べる時代を活写する。

「家」・共同体・国家、さらに国際社会がどのような形で身体や性、性感染症に介入してきたのかを解明する共同研究9篇。

【内容】序論 荻野篤彦 I 梅毒の登場と近世社会の変化
鈴木則子／瀧澤利行 II 近代国家と梅毒 福田真人／宮崎千穂／大川由美／金澤真希 III 梅毒紀行 中西淳朗／福田真人

永年にわたって小児科の開業医として地域医療に従事してきた著者が、内外の原典をたどり、医史学の視点から小児科学の誕生と発展の跡をたどる。

【内容】感染症の変遷／歴史的な小児科書を読む／疾病概念の変遷／小児科の診断と治療／小児科学の誕生と小児病院

人 物 研 究

中野 操 著

大坂名医伝

1983 / 四六判 / 250頁

本体1,500円 ISBN4-7842-0069-X

飯沼愨齋生誕二百年記念誌編集委員会編

飯 沼 愨 齋

1984 / B 5判 / 518頁

本体12,000円

福島義一著

こうりょうさい

高良齋とその時代

附・日本散腫薬伝来史

本体3,800円 ISBN4-7842-0906-9

岡田靖雄著

精神 齋藤茂吉の生涯

2000 / 四六判 / 354頁

本体3,000円 ISBN4-7842-1056-3

外山幹夫著

医療福祉の祖 長与専斎

2002 / 四六判 / 200頁

本体2,000円 ISBN4-7842-1107-1

明治30年生まれの医学博士、大阪在住半世紀以上、大阪をこよなく愛する著者が、橋本宗吉・中天游・緒方洪庵ら先人たちの貴重な業績と足跡を通して、わが国の近代化の中で大坂が果たした役割をさまざまな角度からわかりやすく語った好著。巻末に大坂風土記年表を付す。

飯沼愨齋の生涯と学問を、植物学・医学・薬学・化学・人文など諸分野の専門家により明かす。資料編には飯沼愨齋著作所在目録／平林莊所蔵諸品目録／国立科学博物館所蔵飯沼愨齋腊葉目録／西村・飯沼・小島家略系図／年譜を収録。

総合教育センター (TEL0120-435-288) 専売商品です。

寛政11年(1799)徳島に生まれ、本草、医学を修め、長崎でシーボルトらに西洋医学を学び、大坂で眼科を開業した高良齋の生涯と業績を、眼科学界で活躍してきた著者が纏める。高良齋著訳書の研究、研究文献、年表をも収めた基本図書。

1996 / A 5判 / 270頁

精神科医の著者が、精神科医茂吉と歌人茂吉との相克を描く。

【内容】精神科医となる 医科大学入学まで／医科大学の時代／巢鴨病院の時代 長崎、そして留学 長崎医学専門学校時代／留学 青山脳病院 病院火災から再建へ／うちのめされて、いきる 晩年 疎開／のこされた日び／齋藤茂吉という人

長崎・大坂で医学を学び、長崎医学校の初代校長となった長与専斎。日本近代の医療・衛生・福祉の確立者ともいべき長与の生涯に焦点をあて、明治新政府の政策のなかで近代医療福祉制度がどのように整備されていったのか、その功績を家族・交友関係など幅広い視点から明かす。

中山 沃 著

お がたこれよしでん

緒方惟準伝

緒方家の人々とその周辺

本体15,000円 ISBN978-4-7842-1563-8

古西義磨著

緒方郁蔵伝

幕末蘭学者の生涯

2014 / A 5判 / 186頁

本体2,500円 ISBN978-4-7842-1774-8

鳥井裕美子著

前野良沢

生涯一日のごとく

2015 / B 6判 / 334頁

本体2,500円 ISBN978-4-7842-1786-1

洪庵の嫡子で、宮廷医療への西洋医学導入、大阪大学医学部・軍医学校の前身創設などに貢献した緒方惟準。その自叙伝「緒方惟準先生一夕話」を軸として、その生涯と交遊を詳述。幕末・明治初期の医学界をものがたる基本図書。

2012 / A 5判 / 1018頁

緒方郁蔵は、備中で生まれ、適塾に入門、多くの医書を翻訳。緒方洪庵の義兄弟となり、独笑軒塾を開いた。除痘館で種痘の普及に尽力し、土佐藩開成館の医局教頭や大阪医学校で翻訳や教育に従事。本書はその生涯を、遺された著書や資料を読み解き、真摯に生きたその実像を明かすものである。

解体新書の訳者として知られる江戸時代の蘭学者・前野良沢の評伝。『解体新書』刊行を中心に論じられてきた良沢の生涯を、彼の著訳書や周辺資料から再検討し、新たな良沢像を構築。巻末に前野良沢年譜・主な参考文献を付す。

史 論

石田純郎編著

緒方洪庵の蘭学

1992 / A 5判 / 366頁

本体4,800円 ISBN4-7842-0751-1

片桐一男著

蘭学、その江戸と北陸

大槻玄沢と長崎浩斎

1993 / 四六判 / 364頁

本体8,800円 ISBN4-7842-0769-4

洪庵に代表される日本の蘭医学。蘭学者および彼らが学んだ原典とその著者たちのプロソグラフィ（集団履歴調査法）的研究を通して日本の医学の質を明かす。【内容】緒方洪庵の蘭学／蘭学書原著者たち／東アジアの西洋学／ヨーロッパ医療界における蘭学のモデルの位置付けについて

寛政11年越中高岡の町医の子である長崎浩斎は、西洋眼眼科、漢詩を学んだ後、文化14年に江戸に遊学、大槻玄沢の門下に入る。本書は玄沢と浩斎の往復書簡を中心に、長崎家に残る書簡、写本、版本などの紹介を通して、当時の地方の蘭方医家の様子や、江戸と地方との交流に光をあてる。

青木歳幸著

在村蘭学の研究

1998 / A 5判 / 460頁

本体8,600円 ISBN4-7842-0963-8

信濃において、医師による医療のひろがり、医師の組織化、医療の近代化等の医療をめぐる歴史的变化に、在村蘭学がいかに関わったのか、江戸時代の地域社会でどのような歴史的展開をしたか、とくに庶民生活とどう関わったかを明かし、蘭学の全体像にたいしての位置付けと見直しにとりくむ。

石田純郎著

オランダにおける蘭学医書の形成

2007 / A 5判 / 336頁

本体6,800円 ISBN978-4-7842-1338-2

『解体新書』原著者、蘭訳者の経歴を具体的に検討することで、日本の受容した蘭学の性格を解明。他の代表的な受容蘭学医書も精査することにより、受容した蘭学のヨーロッパにおける学統を明かし、その背景となる1800年頃までヨーロッパに存在した古いタイプの職人としての外科医の様子を描出。

京都橘大学女性歴史文化研究所編

医療の社会史

生・老・病・死

2013 / A 5判 / 304頁

本体2,800円 ISBN978-4-7842-1677-2

研究所の研究成果。【内容】平安中後期における貴族と医師／鎌倉幕府の医師／『本草綱目』に見る中国医療の到達点／室町・戦国期の山科家の医療と「家薬」の形成／曲直瀬玄朔とその患者たち／幕末京都における医家と医療／明治前期の村と衛生・病気／錯乱と祟りの間／母乳が政治性を帯びるとき

中島医家資料館・中島文書研究会編著

備前岡山の在村医

なかしま

中島家の歴史

2015 / B 5判 / 318頁

本体10,000円 ISBN978-4-7842-1826-4

中島家は在村医として郷里に尽くしたこと、戦中戦後に家を封印していたことにより、書籍・古文書・器物類の散逸を免れた。本書は、その貴重な書籍・古文書・器物類の解説・分析を通して、歴代の生涯、研究論文、史料翻刻、蔵書目録および年表を収録。中島家の医業の歩みに光を当てる一書。

奥沢康正著

京の民間医療信仰

安産から長寿まで

1991 / A 5判 / 340頁

本体2,800円 ISBN4-7842-0642-6

安産、長寿、病氣平癒祈願など、神仏に医療加護を願う信仰は根強く生きている。本書は、京都の眼科医が市内の寺社の民間医療信仰を紹介した異色の京都案内。170の寺社の御利益やその歴史的背景を、地図や写真も交えながら紹介し、現代における信仰のあり様などを考察する。

山下政三著

脚気の歴史 ビタミンの発見

1995 / A 5判 / 540頁

本体14,000円 ISBN4-7842-0881-X

ビタミン発見の背景には、長い脚気との闘いの歴史や、日本の漢方脚気医学の陰の貢献があり、ビタミン発見にいたるまでの、さまざまな伝説も語り継がれている。本書は、ビタミンB1欠乏症の専門家が、脚気の歴史をもとに全く新しい視点からビタミン発見の真相解明に迫る20世紀医療文化史。

川村純一著

病いの克服

日本痘瘡史

1999 / A 5判 / 400頁

本体4,700円 ISBN4-7842-1002-4

古代より人類を苦しめた痘瘡（天然痘）が根絶されるまでの歴史を、膨大な史料から描き出す。【内容】痘瘡の称呼の変遷／痘瘡の起源と伝来／疱瘡の流行／痘瘡の犠牲者／痘瘡の医学／種痘／痘瘡にかかわる民俗／文芸作品に見る痘瘡／痘瘡の根絶／人類は再び痘瘡に襲われることはないか

星野一正編著

生の尊厳

日米欧の医療倫理

1999 / A 5判 / 336頁

本体2,800円 ISBN4-7842-0992-1

バイオエシックス・生命倫理について、日米欧の識者がそれぞれの現状を報告するとともに、よりよい医療のための制度のありかたをさぐる。本書は、第20回大学医学部医科大学倫理委員会連絡懇談会記念国際シンポジウム「日米および諸外国の医療についての倫理委員会の在り方」の成果。

杉田暉道・藤原壽則共著

今なぜ仏教医学か

2004 / 四六判 / 280頁

本体2,500円 ISBN4-7842-1195-0

仏典に説かれている医療にさかのぼり、仏教医学の基本にたちもどり、高齢化社会における終末期医療のあり方が問われている今日、仏教はどのような役割を果たすことができるのか——仏教と医療現場とのかわりの実態と未来について具体的に明かす。

川村純一著

文学に見る痘瘡

2006 / A 5判 / 300頁

本体5,000円 ISBN4-7842-1323-6

古来から、人々は痘瘡（天然痘）と戦ってきた。また一方では痘瘡神が祀られ、多くの民俗行事が発達するなど、痘瘡と馴れ親しんできたともいえる。平安朝から昭和まで、主に江戸時代を中心に46の文学作品を通じて、当時の民衆の痘瘡に対する疾病概念および医療事情を浮き彫りにする。

宗田 一 著

図説 日本医療文化史

1993・2017 / B 4判 / 494頁

本体55,000円 ISBN4-7842-0543-8

古代～近代までの医学・医療の発達と展開過程を広く文化史の中で捉えた医学史研究第一人者ならではの研究成果。いわば医療から見た日本文化史。図版を豊富に挿入、巻末には収録写真（図版）一覧・索引（人名・事項）を付す。【2刷】総合教育センター（TEL0120-435-288）専売商品です。

宗教史

禅宗

川上孤山著／荻須純道補述

増補 妙心寺史

1975・1984／A5判／830頁
本体9,800円 ISBN4-7842-0429-6

大正4年に刊行された『妙心寺史』は、草創から維新时期まで六百年の妙心寺の沿革を、本山・塔頭はもちろん地方寺院に至るまでその記録・文書を鑑渉して描いた大著である。復刻にあたっては荻須純道師による「明治以降の妙心寺」を増補した。付・松原一流（古月・白隠）系正脈図。【2刷】

白石虎月編

東福寺誌

1979／菊判／1250頁
本体12,000円 ISBN4-7842-0121-1

日本の禅宗の歴史に大きな役割を果たしてきた東福寺。本書は、昭和5年に東福寺の末寺明光寺の住職、白石虎月師によって出版されたものの復刻。開創以来の歴史を明らかにすると共に、中世・近世禅宗史や禅宗関係文化財を知る上で貴重な編年史料集である。

玉村竹二著 〈第3回角川源義賞〉

日本禅宗史論集〔全4巻〕

1975～／菊判／平均1200頁
巻上 本体15,000円、巻下之一・二【品切】、索引【未刊】

日本禅宗史研究第一人者の業績の集大成。禅宗史だけでなく中世の文学・建築・美術など各分野にわたって裨益するところ極めて大。

相国寺史料編纂委員会編／藤岡大拙・秋宗康子校訂

相国寺史料〔全10巻・別巻1〕

1984～1997／A5判／平均550頁
別巻 品切／揃 本体149,000円(品切除く)

足利家の菩提寺として創建、五山の第二位に叙され、明貿易の交渉にもあたった相国寺。本史料集は「相国考記」（永徳2年～慶長14年）と小畠文鼎師が本山及び塔頭所蔵の文書・史料から抄録・編纂した「相国寺史稿」全40冊（慶長10年～慶応3年）よりなり、別巻に「萬年山聯芳録」を収録した。

玉村竹二著

五山禅林宗派図

1985／B5判／420頁
本体15,000円 ISBN4-7842-0403-2

禅宗史料研究の第一人者が、永年の研究成果を基に五山禅林の宗派図を体系的にまとめた画期的な一書。

【内容目次】 解題と凡例／宗派綱要（譜源）—中国伝法／五山禅林宗派図（八十一項目）関山派印証系譜／道号検索／法諱（下字）検索／道号・法諱異称対照表

蔭木英雄著

中世風狂の詩

一休『狂雲集』精読抄

1991／四六判／388頁
本体4,800円 ISBN4-7842-0676-0

五山文学を専門とする著者が、『狂雲集』を通して一休の文学的人間像のデッサンに臨む。20のテーマを設定し、関連する史料をも交えながら行間を探る。腐敗墮落した当時の世相を逆手に取って愛欲の詩をうたい、正法護持につとめる一休の姿がそこにある。付一休年譜

可睡斎史料集編集委員会編

可睡斎史料集〔全5巻〕

1990～／A5判／平均340頁
揃 本体77,000円

静岡県袋井市在の曹洞宗専門道場、万松山可睡斎は、全国に四カ寺あった曹洞宗の触頭「僧録」の一つで、駿河・遠江・三河・伊豆四カ国にある曹洞宗寺院を支配した。そのため、江戸幕府の曹洞宗に対する宗教行政・寺院支配に関する膨大な文書・記録類を残している。各巻に収録史料の解題を付す。

平久保章編

新纂 木菴全集〔全8巻〕

1992／A5判／総4,100頁
本体145,000円 ISBN4-7842-0738-4

伽藍の整備と禅僧としての学徳で黄檗宗禅基を確立した第二世木菴禪師の語録8種（木菴禪師語録・木菴禪師東來語録・東來集・黄檗木菴禪師語録・木菴和尚瑞聖寺語録・黄檗木菴語録など）のほか平譜・寿章などを加えて原本を収録。頭注を付し最終巻には冠首索引・准冠首索引・総索引を付載。

入矢義高短篇集

空 花 集 (くうげしゅう)

1992 / 四六判 / 306頁

本体2,427円 ISBN4-7842-0730-9

平久保 章 編

新纂
校訂 即非全集 [全4巻]

1993 / A 5判 / 総1,632頁

本体67,000円 ISBN4-7842-0810-0

伊藤真昭・上田純一・原田正俊・秋宗康子編

相国寺蔵 西笑和尚文案 (せいしゅうおしょうぶんあん)

自慶長二年至慶長十二年

2007 / A 5判 / 396頁

本体7,000円 ISBN978-4-7842-1343-6

玉村竹二監修 / 瑞泉寺史編纂委員会編

妙心寺派語録 [全2巻]

瑞泉寺史別巻

1984・1987 / A 5判 / 総1166頁

揃 本体28,000円

横山住雄著

瑞 泉 寺 史

2009 / A 5判 / 584頁

本体20,000円 ISBN978-4-7842-1487-7

芳澤勝弘編著

こうげつそうがん かんしんこう

江月宗玩 欠伸稿訳注

2009～2018 / A 5判 / 総1914頁

乾 本体9,500円 坤【品切】画賛篇 本体8,000円

佐藤秀孝・館 隆志共編

蘭溪和尚語録

蘭溪道隆禅师全集 1

2014 / B 5判 / 662頁

本体15,000円 ISBN978-4-7842-1777-9

芳澤勝弘編著

東陽英朝 少林無孔笛訳注
(一)(二)

2017～ / A 5判 / 平均628頁

(各)本体13,000円

中国文学の泰斗による珠玉の短篇21本。【内容】陶淵明とわたし／一休の艶詩／頼山陽／玄沙の臨濟批判／語録の言葉と文体／詩偈について／無著道忠の禅学／大拙・熊楠・慧海／中国口語史の構想／白話文と白話小説／中国の妓女／中国の看板の由来／NHK批判／京都タワー倒れよ ほか

木菴とともに万福寺の首座となった明僧の即非如一は隠元の徳、木菴の道、即非の禅とたたえられた高僧。本全集には語録・詩偈集を収めた『即非禅师全録』ほか二点を影印で刊行。異本との校訂は頭注で示し、詳細な索引を併載。

秀吉・家康のブレーンとして、寺社・外交政策に活躍した相国寺中興の祖・西笑承兌の書状文案『西笑和尚文案』全10冊を、紙背文書も含め活字化。朝鮮出兵、関ヶ原合戦直後の政治状況などをうかがい知れる史料。『鹿苑日録』の原本の一部『文禄中日記』、西笑が活躍した時期の「相国寺本坊文書」も翻刻。

瑞泉寺史編纂に際し、中世に属する妙心寺派の語録を刊行。中世禅僧の詳細な行状を通して新たな史実解明をもたらす貴重史料。第1巻には、いわゆる四派以前を収録し、第2巻には、景川派と聖澤派の語録を収録。各巻に解説を付す。

応永22年(1415)、臨濟宗妙心寺中興の祖・日峰宗舜の開創にかかる青龍山瑞泉寺(愛知県犬山市)は、濃尾平野の妙心寺教団の中心になってその発展に寄与してきた。その600年にわたる歴史を、通史編、伽藍・塔頭編、史料編の三部構成で伝える。

大徳寺の復興に尽くした江月宗玩(1574-1643)の語録『欠伸稿』の龍光院蔵自筆本を翻刻。影印で刊行されている写本「孤蓬庵本」のほぼ半分だが、「孤蓬庵本」にはない偈頌などを収録。多くの文化人との交流も記録されており、貴重資料ともなっている。画賛篇に、「仏祖賛」「賛」部の訳注を収める。

鎌倉中期の渡来僧・蘭溪道隆は、鎌倉禅宗の基礎を築いた高僧で、大覚派の祖・建長寺の開山。覆宋五山版『蘭溪和尚語録』を底本とし、文政本『大覚禅师語録』と大正新脩大藏經本『大覚禅师語録』の当該箇所より文字の対校をなし、原文影印と翻刻に、訓註・補注・解題を付して全貌を明かす。

妙心寺四派の一つ、聖澤派の開祖・東陽英朝禅师(1428～1504)の語録『少林無孔笛』六巻を現代語訳し、詳細な注を付す。晦渋な修辭が続く、難解で知られた「文字禅」の代表である語録を、禅学の大家が500年の歳時を超えて、現代に甦らせる。全三冊。

天台宗・真言宗

鷲尾遍隆監修／綾村宏編

石山寺の信仰と歴史

2008／A 5判／180頁
本体1,800円 ISBN978-4-7842-1387-0首藤善樹・坂口太郎・青谷美羽編
じゅうしんいん

住心院文書

2014／A 5判／230頁
本体6,000円 ISBN978-4-7842-1744-1

琵琶湖畔に伽藍を構える石山寺は、聖武天皇の勅願により創建、観音信仰の聖地として知られる。また、紫式部が源氏物語の着想を得たという伝説が残るなど、多くの人により信仰と文化が育み守られてきた名刹。その信仰・歴史・美術・文学・經典を、第一線の研究者がオールカラーで解説。図版150点。

全国の本山派山伏を統べる聖護院門跡の院家先達として、全国的に広大な叢を所有していた京都の住心院。その住心院に現蔵される貴重な古文書や、出来る限りの旧蔵文書も採集し、さらに若干の関連史料をくわえて、修験道史を研究するうえで根本史料となる文書群202点を活字化。

浄土宗・浄土真宗

中井真孝著

法然伝と浄土宗史の研究

思文閣史学叢書

1994／A 5判／430頁
本体8,800円 ISBN4-7842-0861-5

都市的な顔と田舎的な体を具有する浄土宗の性格が形成された過程を「法然上人伝」「中世浄土宗寺院」「近世本末関係」を軸に解明する待望の論集。

【内容】1篇 法然上人伝の研究／2篇 中世浄土宗寺院の研究／3篇 近世本末関係の研究／付篇

中井真孝著

法然絵伝を読む

佛教大学鷹陵文化叢書12

2005／四六判／234頁
本体1,800円 ISBN4-7842-1235-3

法然伝研究の第一人者が描く“絵伝に読む法然像”——国宝『法然上人行状絵図』（知恩院蔵）から、その生涯のトピックスとなる事項を選び、読み下しに現代語訳と解説を付し、あわせて他本とも比較（口絵カラー4頁・挿図45点）。

【内容】法然絵伝の系譜／法然の生涯／法然をめぐる人びと

今堀太逸著

権者の化現（ごんじゃのけげん）

天神・空也・法然

佛教大学鷹陵文化叢書15
本体2,300円 ISBN4-7842-1321-X仏・菩薩が衆生を救うためにこの世に現れた仮の姿について明かす。【目次】第1部「天神」日本国の災害と道真の霊／第2部「空也」六波羅蜜寺の信仰と空也／第3部「法然」浄土宗の布教と法然
2006／四六判／312頁

平 祐史 著

法然伝承と民間寺院の研究

2011／A 5判／444頁
本体9,000円 ISBN978-4-7842-1534-8

近世社会において、浄土宗寺院はどのような変化をとげたのか。日本各地の民間寺院に伝わる開創・宗祖伝承や地名、史料等の考察を通じて、浄土宗教義の変容や民俗信仰との関わり合いを明らかにし、歴史民俗と浄土教学史という双方の立場から、浄土宗寺院における近世化の実態に迫る。

大本山くろ谷

金戒光明寺 宝物総覧

2011／A 4判変／516頁
本体28,000円 ISBN978-4-7842-1564-5

京都白川の浄土宗大本山、金戒光明寺は多くの文化財を所蔵しており、その公刊がかねてより望まれていた。法然上人八百年大遠忌にあたり、仏像・仏画・仏典・絵画・古文書など貴重な寺宝をオールカラーで掲載。仏教美術・仏教史・美術史他に寄与する一書である。

豊田元彦監修／西山禅林学会発行

『観経疏之抄』玄義分 中・下

浄土宗叢書 第1巻・第2巻
揃 本体12,000円西山国師が善導大師の『観経疏』を講述した際、門弟、観鏡證入筆録の『他筆抄』といわれる文献の影印研究。時宗総本山遊行寺に蔵される現存最古写本を底本に、天文5年（1536）の書写奥書をもつ大谷大学図書館所蔵本を対校本とする。
2011・2014／B 5判／総450頁

中井真孝校注

新訂 法然上人絵伝

2012 / A 5判 / 486頁
本体2,800円 ISBN978-4-7842-1654-3

今井雅晴先生古稀記念論文集編集委員会編

中世文化と浄土真宗

2012 / A 5判 / 654頁
本体13,000円 ISBN978-4-7842-1636-9

中井真孝著

法然上人絵伝の研究

2013 / A 5判 / 478頁
本体9,500円 ISBN978-4-7842-1694-9

大桑 斉 著

近世の王権と仏教

2015 / A 5判 / 352頁
本体6,500円 ISBN978-4-7842-1811-0

工藤美和子著

平安期の願文と仏教的世界観

佛教大学研究叢書 2

【オンデマンド版】

本体7,400円 ISBN978-4-7842-7014-9

工藤美和子著

賢者の王国 愚者の浄土

日本中世誓願の系譜

2019 / A 5判 / 272頁
本体6,500円 ISBN978-4-7842-1958-2

法然上人の伝記中、最も浩瀚であり先行する諸伝を集大成した『法然上人行状絵図』（浄土宗総本山知恩院蔵・国宝）の詞書を、著者の長年にわたる法然伝研究の成果をもとに、新たに校訂を施した本文と、簡潔な語注によって提供する平成版定本。法然上人の生涯を原文で味わえる一冊。

筑波大学名誉教授・今井雅晴先生の古稀を記念して、国内のみならず海外にもおよぶ幅広い層の研究者が、親鸞と浄土真宗史研究の進展を期した最新研究28本を寄せた大冊。

【内容】中世文化の中の浄土真宗／法然から親鸞へ／親鸞の思想／親鸞とその家族／親鸞とその門弟／浄土真宗の展開

著者のライフワークである法然上人絵伝の研究を集大成した学界待望の論文集。知恩院本『法然上人行状絵図』の成立、絵伝諸本の個別研究を始め、専修念仏に先立つ百万遍念仏の歴史的展開を考察した2論文、古代仏教に関する論考4編を含む計19編。法然上人伝記研究の基本文献として貴重な一冊。

近世は国家も社会も思想も、宗教世界を克服した世俗世界ではなく、幕藩体制そのものが神聖性を帯びていたことを明かす。救済信仰という様相をもつ真宗という存在に着目し、徳川幕府の成立から網吉期までを中心に、近世国家の宗教性を論証。さらに仏教的世界としての近世を論じた論考を収録。

願文自体が何を語ろうとしているのかを分析することで、天皇から中下級貴族・女性・僧侶にいたる人々の仏教理解や具体的信仰、所属する社会集団内部での各々構成員が果たした役割、具体的な宗教的実践のあり方を明かす。初版2008年。2016 / A 5判 / 368頁

平安初期から院政期にかけて、「賢者」として、人々を悟りへと導こうとした文人貴族、天皇・上皇がいた。一方、人は仏の誓願によってしか救われないと気づき、自らは「愚者」であると自覚した法然たちがあらわれた。彼らの誓いの言葉を通して、日本浄土思想史に新たな知見を示す。

法 華 宗

佐藤博信著

安房妙本寺日我一代記

2007・2009 / 四六判 / 212頁
本体3,000円 ISBN978-4-7842-1373-3

豊かな歴史と伝統、由緒を持つ千葉県安房郡の日蓮宗妙本寺は、所蔵史料が未公開なこともあって十分な歴史的検討がなされてこなかった。本書では、その安房妙本寺の歴代住職のなかで、戦国時代の日我（永正5年～天正14年）の一代記を古文書や記録などの諸史料を用いて年代記風に記述。【2刷】

神 道

今谷 明 編

王 権 と 神 祇

2002 / A 5判 / 348頁
本体6,500円 ISBN4-7842-1110-1

齋藤盛之著

一 宮 ノ オ ト

2003 / B5判 / 180頁
本体2,200円 ISBN4-7842-1138-1

山本信吉・東四柳史明編

社寺造営の政治史

神社史料研究会叢書Ⅱ

2000 / A 5判 / 312頁
本体6,500円 ISBN4-7842-1051-2

藺田稔・福原敏男編

祭礼と芸能の文化史

神社史料研究会叢書Ⅲ

2003 / A 5判 / 300頁
本体6,500円 ISBN4-7842-1159-4

棚町知彌・橋本政宣編

社家文事の地域史

神社史料研究会叢書Ⅳ

2005 / A 5判 / 376頁
本体7,500円 ISBN4-7842-1257-4

梶山林繼・宇野日出生編

神社継承の制度史

神社史料研究会叢書Ⅴ

2009 / A 5判 / 348頁
本体7,500円 ISBN978-4-7842-1418-1

橋本政宣・宇野日出生編

賀茂信仰の歴史と文化

神社史料研究会叢書Ⅵ

2020 / A 5判 / 258頁
本体7,800円 ISBN978-4-7842-1978-0

ジョン・グリーン編

変容する聖地 伊勢

2016 / A 5判 / 340頁
本体2,800円 ISBN978-4-7842-1836-3

王権と宗教に関する新たな見取り図を描き出すことを目指した意欲的な論集。国際日本文化研究センターにおいて各分野の研究者によって行われた共同研究の成果。

一宮には日本人の思想の千年の軌跡が詰まっている——平安時代から中世にかけて行われた社格である一宮の称をもつ全国の神社は、その文化財もふくめさまざまな由緒を持っている。一宮をめぐるさまざまな考察と各一宮の特色や歴史を平易に明かす。

神社史料の有効活用・研究の深化普及を目的とする研究会の成果。社寺造営が持つ政治・経済的側面に焦点をあて、一級史料を駆使して、その歴史的意義と実態を明かす9篇。

【執筆者】山本信吉／梶山聡／木越祐馨／東四柳史明／横田光雄／松尾恒一／西岡和／中野光浩／橋本政宣

神社を祭場・舞台として繰り上げられる祭礼と芸能を特集した9篇。

【執筆者】松尾恒一／廣瀬千晃／梶田潔／森本ちづる／宮永一美／藺田稔／高橋寛司／軽部弦／浦井祥子／福原敏男

諏訪・伊勢・北野各神社の社家における和歌・連歌等の文化活動に焦点をあて、その歴史的意義と実態をさぐる10篇。

【執筆者】井上敏幸／神作研一／川平敏文／吉良史明／加藤弓枝／棚町知彌／菊地明範／橋本政宣／入口敦志

古代より近代にいたるまで神社が継承されてきた諸問題について、主に制度史としての視点での論文9篇を収録。

【執筆者】山本信吉／西中道／嵯峨井建／宮永一美／千枝大志／宇野日出生／鈴木瑞磨／梶山林繼／福原敏男／橋本政宣

今まで学術的に十分に考察されていなかった上賀茂神社・下鴨神社を中心とした賀茂信仰の歴史と文化を、多様な視点から紐解く一書。【執筆者】橋本政宣／嵯峨井建／黒田龍二／京條寛樹／樋笠逸人／森本ちづる／山本宗尚／間瀬久美子／宇野日出生

古代から近代・現代までの伊勢神宮の時代的な変容をテーマとした、国内外の一線の研究者による共同論集。今日の伊勢神宮は、悠久の古代から変わることなく受け継がれてきた聖域というイメージで語られるが、本書では、伊勢神宮が歴史の変転のなかで経てきた変化の重要性を考える。

宗教一般・その他

龍谷大学350周年記念学術企画出版編集委員会編

仏教東漸

祇園精舎から飛鳥まで

1991 / B 5判 / 264頁

本体5,400円 ISBN4-7842-0699-X

古賀英彦著

訳 大乘起信論

2003 / 四六判 / 290頁

本体3,400円 ISBN4-7842-1130-6

本井康博著

アメリカン・ボード200年

同志社と越後における伝道と教育活動

2010 / B 5判 / 676頁

本体5,000円 ISBN978-4-7842-1543-0

武田佐知子編

太子信仰と天神信仰

信仰と表現の位相

2010 / A 5判 / 354頁

本体6,500円 ISBN978-4-7842-1473-0

大取一馬責任編集

とくしぶんこほん

禿氏文庫本

龍谷大学善本叢書29

本体14,000円 ISBN978-4-7842-1539-3

第20回国際仏教文化学術会議実行委員会編

生命論と霊性文化

仏教への問い

佛教大学国際学術研究叢書1

本体2,000円 ISBN978-4-7842-1449-5

第21回国際仏教文化学術会議実行委員会編

仏教と平和

佛教大学国際学術研究叢書2

2011 / A 5判 / 242頁

本体1,500円 ISBN978-4-7842-1599-7

第22回国際仏教文化学術会議実行委員会編

仏教と癒しの文化

佛教大学国際学術研究叢書4

2013 / A 5判 / 190頁

本体1,900円 ISBN978-4-7842-1706-9

第23回国際仏教文化学術会議実行委員会編

仏教と社会

佛教大学国際学術研究叢書5

2015 / A 5判 / 194頁

本体1,900円 ISBN978-4-7842-1820-2

350周年を迎えた龍谷大学によるシンポジウムの成果。口絵24頁(カラー26点・モノクロ5点)、写真集(モノクロ35頁)収録図版200点。【執筆】陳舜臣／井ノ口泰淳／網干善教／施萍婷／美友邦／西川杏太郎／藤枝晃／森安孝夫／山田明爾／上野アキ／藤枝晃

理論と実践の両面から大乘仏教の中心思想を明らかにした、大乘仏教の概説書である『大乘起信論』を中国語学研究の第一人者が訓註。

アメリカ最古のプロテスタント外国伝導組織、アメリカン・ボードについて、京都と北越を対象とし、その活動を検証する。

【目次】日本ミッション／北日本ミッション／資料紹介(ミッション年次報告)／その他

時代、階層を越えて崇敬を得てきた、聖徳太子・天神信仰の多角的な比較研究。美術史、文学史、宗教史、芸能史などの第一線の研究者による13篇。【執筆】武田佐知子／鶴崎裕雄／高島幸次／濱岡伸也／下鶴隆／松本真輔／伊藤純／榊原小葉子／稲城正己／脇田晴子／松浦清／鈴木幸人／竹居明男

龍谷大学大宮図書館所管の「禿氏文庫」の内容は梵文經典、中国・日本の仏書、真宗史・仏教美術の典籍等にわたる。龍谷大学仏教文化研究所のもと、仏教・真宗・国史・国文の4班での調査結果を影印として一冊にまとめる。

2010 / A 5判 / 674頁

2007年佛教大学での「第20回国際仏教文化学術会議」の基調講演および研究発表を修正・加筆し、研究成果として刊行。

【執筆】池見澄隆／島蘭進／梁銀容／金洛必／斎藤英喜／李聖田／藤堂俊英

2009 / A 5判 / 208頁

2009年、韓国・圓光大学での第21回国際仏教文化学術会議の基調講演ならびに研究発表を収録。仏教思想を基盤に、改めて「平和」という大きな課題に向き合った、韓国と日本の研究者による多面的な議論の成果。【執筆】梁銀容／水谷幸正／康東均／原田敬一／金容煥／大谷栄一／韓乃彰

仏教的な観点から人間の心と癒しへの方法を考え、新たな方向性を示す論文集。

【内容】癒し文化のビジョン／仏教と癒しの文化／病める社会の診断とその治療／日本仏教に見る救済と癒し／懺悔修行を通じる現代人の仏教的治癒／鎮める学習への転換

仏教の社会共同体における役割などの問題について、韓国と日本の研究者が、多方面から議論した成果。【内容】中世通世者にみる自己と世間／現代社会における宗教の一役割／日本における死者祭祀と仏教／持続可能な生態社会のための仏教者の生命清規／近世の大藏経刊行と宗存／仏教と戦争

高木慶子著

たか き せん え もん

高木仙右衛門に関する研究

「覚書」の分析を中心として

本体2,000円 ISBN978-4-7842-1684-0

長島要一訳・編注／カール・スコウゴ＝ピーターセン原著

デンマーク人牧師がみた日本

明治の宗教指導者たち

2016／四六判／328頁

本体3,700円 ISBN978-4-7842-1860-8

法隆寺編

法隆寺史 上

古代・中世

2018／A5判／554頁

本体6,800円 ISBN978-4-7842-1924-7

江戸時代末期～明治初期に起きたキリシタン弾圧事件「浦上四番崩れ」。中心人物である高木仙右衛門の「覚書」を分析、宗教学・歴史学の視点から、信教の自由獲得に果たした役割を論証。仙右衛門の曾孫による、キリスト教史研究。

2013／A5判／228頁

【2刷】

1911年に来日したデンマーク人牧師、カール・スコウゴ＝ピーターセンが帰国後刊行した印象記『現代の日本から』を本邦初公刊。その宗教指導者へのインタビューから、日本の問題点やキリスト教との関わりが、時には美化され、時には赤裸々に伝わってくる。「異文化理解」再考をせまる一書。

1400年におよぶ歴史を通観する、初の寺史。法要、組織、美術、建築等を総合することで、日本仏教の始源から現代までの各時代の信仰の姿を浮き彫りにする。同寺所蔵の数万点におよぶ文書・記録を整理した成果等新史実をも盛り込んで叙述する。全3巻の上巻。

木村重信著作集〔全8巻〕

1999～2004 / A 5判 / 各巻平均500頁
揃 本体75,000円

ジャポニズム学会編

ジャポニズム入門

2000・2014 / A 5判 / 288頁
本体2,800円 ISBN4-7842-1053-9

デザイン史フォーラム編

国際デザイン史

日本の意匠と東西交流

2001・2014 / A 5判 / 304頁
本体2,900円 ISBN4-7842-1079-2

田中日佐夫・田中修二共著

海を渡り世紀を超えた 竹内栖鳳とその弟子たち

本体3,048円 ISBN4-7842-1106-3

永井隆則著

モダン・アート論再考

制作の論理から

2004・2017 / A 5判 / 288頁
本体2,800円 ISBN4-7842-1188-8

クラウディア・デランク著 / 水藤龍彦・池田祐子訳

ドイツにおける〈日本=像〉

ユーゲントシュティールからバウハウスまで

2004 / A 5判 / 312頁
本体3,800円 ISBN4-7842-1194-2

西槇 倅 著

中国文人画家の近代

豊子愷の西洋美術受容と日本

2005 / A 5判 / 384頁
本体5,500円 ISBN4-7842-1230-2

徳川美術館編

尾 陽〔全9巻〕

徳川美術館編集

2005～ / B 5判 / 平均150頁
揃 本体27,000円

世界各地のフィールドワークにもとづく多彩な民族芸術論はもとより、現代美術論・現代文明論など主要な学術的成果をおさめた著者自選の論文集。適宜挿入図版を収め、各巻に索引と一線の研究者による解説を併載した。

ジャポニズムの全体像に迫ろうとした一書。ジャポニズム学会20周年記念出版。これまであまり紹介されなかった地域も含め各国別の個性的な展開をやさしく読み解き、さらに建築、音楽、写真、モードという絵画・工芸以外の分野におけるジャポニズムをも射程に入れる。 【7刷】

日欧デザイン史上における「影響関係」「交流」を国別にまとめ比較通覧した国際交流史としてのデザイン史。各国の年表と概説的解説、生没年・原綴を付した人名索引、挿図約180点を収録。大阪大学大学院文学研究科美学研究室主催フォーラムの成果。 【5刷】

栖鳳の滞欧期の「西欧文化体験」を扱い、その後の作品との関連にもふれ、第2章では「栖鳳山脈」の作家たちの画業をとりあげる。第5回国内国勧業博覧会（1903年）出品作で100年ぶりに発見された屏風「羅馬之図」をカラーで誌上初公開。 2002 / A 5判 / 220頁

作家の〈制作の論理〉への関心から〈芸術性〉を探ろうとしてきた著者の論考をまとめる。第Ⅰ章は総論、理論的考察を収め、第Ⅱ章ではその各論としてジェリコー、モロー、ゴッホ、マティス、セザンヌなどを取りあげる。第Ⅲ章には日本における受容論を、第Ⅳ章では美術館論を収めた。 【2刷】

<第26回ジャポニズム学会賞>

ドイツの美術・デザイン・建築における日本美術ひいては横断的な日本=像の変遷をたどる。裾野の広い日本=像の提示を可能にした彩色写真に関する考察、ヨハネス・イッテンにおける「山水画」「南画」の影響についての考察などは特筆。

中国近代を代表する文人・芸術家、豊子愷（1898-1975）は、抒情漫画や身辺雑事・文学・美術・音楽などを題材に軽妙洒落な散文を遺した。「中国」「日本」「西洋」という三つの視点を受け、「文化の越境者」豊子愷が日本を通して西洋美術を受容したことの意義を問う。

従来『金鯢叢書』（11頁参照）に収録されていた美術関係の部分に新収蔵品紹介や修理報告などを収め、別本としたシリーズ。第9号で終刊。

松本郁代・出光佐千子・彬子女王編
風俗絵画の文化学Ⅱ
 虚実をうつす機知
 2012 / A 5判 / 450頁
 本体7,000円 ISBN978-4-7842-1615-4

風俗絵画とは虚実をうつす機知の媒体である。美術史・歴史学・文学・文化人類学等を専門とする研究者が、風俗絵画分析を進め、粘り強く議論を繰り返して生まれた学際的文化研究15篇。

松本郁代・出光佐千子・彬子女王編
風俗絵画の文化学Ⅲ
 瞬時をうつすフィロソフィー
 2014 / A 5判 / 434頁
 本体7,000円 ISBN978-4-7842-1775-5

「風俗絵画研究会」の文化学的探求の研究成果をまとめたシリーズ第3弾。哲学的思考(フィロソフィー)へと解釈を広げた13篇。【執筆】出光佐千子／宮下規久朗／呉孟晋／中野慎之／倉橋正恵／中野志保／宮崎もも／館野まりみ／松本郁代／吉住恭子／松本直子／森道彦／米倉迪夫／下坂守

中川 馨 著
動物・植物写真と日本近代絵画
 2012 / A 5判 / 256頁
 本体5,000円 ISBN978-4-7842-1598-0

明治後期から太平洋戦争以前の日本における動物・植物写真を考察範囲とし、それらの写真集の歴史にもスポットをあてて概説。特に京都出身の岡本東洋(1891～1969)撮影の写真・写真集群や資料から、多彩な近代美術家たちと写真家との交流を浮き彫りにし、その関連性を鮮やかに導き出す。

城市真理子著
室町水墨画と五山文学
 2012 / A 5判 / 336頁
 本体6,000円 ISBN978-4-7842-1607-9

ながらく伝歴不明の画師であった室町時代中期の画僧、岳翁の作品を手がかりに、室町時代の詩画軸における詩と絵画の関係、禅林での詩画軸の制作行程、禅僧の文人意識の絵画への反映を論じ、詩文僧による〈詩画軸制作システム〉を解明していく。

木村重信著
世界を巡る美術探検
 2012 / A 5判 / 308頁
 本体2,400円 ISBN978-4-7842-1638-3

世界のほぼ全域で行ったフィールドワークのルポルタージュ。ヨーロッパ・アジア・アフリカ・オセアニア・アメリカの5つに分けて、先史時代から現代まで時代順に構成。現地調査した著者の観察を中心に、歴史という時間的縦軸と、地域という空間的横軸とを交差させて叙述。世界美術への招待。

古画備考研究会編
原本『古画備考』のネットワーク
 2013 / A 5判 / 498頁
 本体9,200円 ISBN978-4-7842-1674-1

『古画備考』とは江戸末期までの日本の絵画に関する情報をまとめた大部な書物。本書は活字本の蔭に隠れ今まで知られなかった原本を徹底的に解剖することにより、江戸時代後期に『古画備考』を〈書画情報〉総合集積の場として、大規模に繰り広げられていた古画研究ネットワークの実態を探る。

島尾新・彬子女王・亀田和子編
写しの力
 創造と継承のマトリクス
 2014 / A 5判 / 278頁
 本体4,000円 ISBN978-4-7842-1711-3

二項対立的に「オリジナル」と「コピー」を捉え、模本を原本に劣るものとして考えるのではなく、日本美術における模写の伝統を様々な角度から再検討する試み。
 【内容】中国への憧れを写す／図像の伝承としての「写し」／「写し」の意味と役割

富坂賢・柏木智雄・岡塚章子編
通天楼日記
 横山松三郎と明治初期の写真・洋画・印刷
 2014 / A 5判 / 602頁
 本体16,400円 ISBN978-4-7842-1729-8

横山松三郎(1838～84)が上野池之端に開業した写真館兼私塾・通天楼での出来事を記した日記「通天楼日記」の翻刻と影印、ならびに自身の履歴書「横山松三郎自筆手記」、門人作成の「横山先生履歴草稿」の翻刻を収載。史料が限られた日本写真史・洋画史・印刷史の実態を明かす一級史料群である。

河野元昭著
琳派 響きあう美
 2015 / A 5判 / 880頁
 本体9,000円 ISBN978-4-7842-1785-4

著者の日本近世絵画史全体にわたる業績の中から、その中核をなす琳派研究を集大成。光悦・宗達・光琳・乾山・抱一・其一など、琳派と呼ばれる芸術家たちが互いにどう影響しあい、独自の美を生み出してきたのか。今なお人びとを魅了する才能あふれるクリエイターたちの実像に迫る27篇。【2刷】

冷泉為人著
円山応挙論
 2017 / A 5判 / 436頁
 本体9,500円 ISBN978-4-7842-1907-0

応挙とはどのような画家なのか。応挙の写生とは何なのか。応挙の写生を〈速写の写生〉〈形似の写生〉〈生写の写生〉の3つに分類して論究。誰もが納得する絵画を描き続ける「職人」としての応挙の姿を浮かび上がらせる。冷泉家25代当主である著者の、50年にわたる日本近世絵画研究の集大成。

八反裕太郎著 〈第14回林家辰三郎藝能史研究奨励賞〉

描かれた祇園祭

山鉾巡行・ねりもの研究

2018 / A 5判 / 970頁

本体15,000円 ISBN978-4-7842-1906-3

茨城大学社会連携センター・五浦美術文化研究所編

岡倉天心 五浦から世界へ

茨城大学国際岡倉天心シンポジウム2016

2018 / A 5判 / 216頁

本体3,200円 ISBN978-4-7842-1931-5

河野元昭著

文人画 往還する美

2018 / A 5判 / 752頁

本体15,000円 ISBN978-4-7842-1923-0

ジラルデッリ青木美由紀編著

オスマン帝国と日本趣味／ ジャポニスム

2020 / A 5判 / 300頁

本体6,500円 ISBN978-4-7842-1979-7

祇園祭を主題とした絵画作品は数多く、その膨大なゆえに、今までの研究には、祇園祭の全体を見渡す視点が大きく欠落していたといわざるを得ない。祇園祭の山鉾巡行並びに江戸中期に始まる神輿洗のねりものを描いた絵画作品、つまり「描かれた祇園祭」から、その祭儀の変遷を読み解く。

2016年のシンポジウムを再構成し書籍化。五浦とボストンを往復する生活の中で天心は何を思い、『茶の本』を書いたのか。附録に、東日本大震災で流出した六角堂の復元記録、天心の主な遺品の解説をカラーで掲載。六角堂と『茶の本』から、天心の思想をひもとき、「天心とは何者か？」に迫る。

日本近世絵画史全体にわたる業績のなかから、知と美の共演というべき文人画研究を集成。乾山・大雅・蕪村・呉春・玉堂・竹田・米山人・文晁・華山……彼らが中国文人画の影響のもと、何を学び、何を理想として、どのような画境へ到ったのか——生き方をも含めた研鑽の跡をたどる26篇。

日本趣味の美術工芸品は、イスタンブルの地に、どのような経緯でもたらされたのか？日本あるいは外国製による日本趣味の美術工芸品を陶磁器・刺繍・寄木細工等の専門家が現地調査した成果を元に、草創期の日本・トルコの交流、ヨーロッパ周辺に及んだもう一つのジャポニスムの諸相を明かす。

仏教美術

宇野茂樹著

仏教東漸の旅

はるかなるブッダの道

1999 / 四六判 / 296頁

本体2,500円 ISBN4-7842-0991-3

奈良国立博物館編

正倉院宝物に学ぶ

2008 / 四六判 / 438頁

本体3,000円 ISBN978-4-7842-1439-6

奈良国立博物館編

正倉院宝物に学ぶ2

2012 / 四六判 / 348頁

本体2,500円 ISBN978-4-7842-1658-1

奈良国立博物館編

正倉院宝物に学ぶ3

2019 / 四六判 / 376頁

本体3,000円 ISBN978-4-7842-1905-6

中野玄三著

続日本仏教美術史研究

2006 / A 5判 / 540頁

本体11,000円 ISBN4-7842-1269-8

はるかなる信仰の足跡をたどる旅の記録。

【内容】 釈迦の遺跡を訪ねて／インド寺院と石窟寺院／バキスタンの仏教美術／新疆ウイグルの遺跡のあちこち／河西回廊の仏教遺跡／中国中原の石窟／河北・山西・山東省の石窟／韓国の石仏／追録（インドの早期石窟）写真多数掲載。

日々、宝物の保存と修理に携わる宮内庁正倉院事務所の研究者をはじめ、東大寺・奈良国立博物館ゆかりの国内外の研究者が、正倉院研究の現在、八世紀の東アジア文化、宝物の保存・伝承の3つのテーマで報告・討論。正倉院宝物の精粹がわかる一書。

宮内庁正倉院事務所の研究者をはじめ、東大寺・奈良国立博物館ゆかりの国内外の研究者が、正倉院宝物の様々な面を報告・討論する第2弾。今回は2008～2010年の正倉院学術シンポジウム「正倉院研究の現在」「皇室と正倉院宝物」「正倉院宝物はどこで作られたか」の3テーマを収録。

宮内庁正倉院事務所をはじめ、東大寺・奈良国立博物館ゆかりの国内外の第一線級の研究者が、正倉院宝物の様々な面を報告・討論する第3弾。2011年～2013年正倉院学術シンポジウム「正倉院宝物のはじまりと国家珍宝帳」「正倉院宝物の近代」「鑑真和上と正倉院宝物」の3テーマを収録。

前著から約20年。現役引退後も京都府下の8市町村史の編纂や奈良国立博物館の調査に携わり、美術作品の調査研究を続ける中から生まれた知恩寺本十体阿弥陀像、東寺本仁王経五方諸尊像、西大寺本馬頭観音像、神護寺薬師如来立像ほかについての研究成果15篇を収録。

中野玄三著

続々日本仏教美術史研究

2008 / A 5判 / 820頁

本体17,000円 ISBN978-4-7842-1415-0

中野玄三・加須屋誠著

仏教美術を学ぶ

2014 / A 5判 / 348頁

本体3,000円 ISBN978-4-7842-1720-5

高梨純次著

近江の古像

2014 / A 5判 / 420頁

本体9,000円 ISBN978-4-7842-1761-8

園城寺監修／園城寺の仏像編纂委員会編

園城寺の仏像〔全5巻〕

天台寺門宗教文化資料集成 仏教美術・文化財編

2016～ / A 4判 / 平均190頁

中野美術史学の集大成。『八幡縁起』、宇良神社本『浦嶋明神縁起』、談山神社本『多武峯縁起』、北野天満宮本『聖廟縁起』、平等寺本『因幡堂縁起』、観智院本『九曜秘暦』、真福寺本『覚禪鈔』、密教図像と鳥獸戯画、南山城真輪院本「両界曼荼羅」、南山城村真輪院本「星曼荼羅」などの研究成果15篇。

中野美術史学の軌跡を、加須屋誠との対談をとおして振り返り、仏教美術を学ぶことの課題・方法・魅力を余すところなく収録。【内容】神護寺薬師如来立像をめぐる／六道絵と来迎図／密教の絵画と図像／社寺縁起絵の世界／東アジアの動物表現／中野玄三論

近江の地は、仏教美術の宝庫であり、特に仏像は質・量ともに全国有数のレベルを誇る。滋賀県立琵琶湖文化館・県立近代美術館で、近江の仏像に関する展覧会の企画や調査・研究に30年以上にわたって携わってきた第一人者が、主に8世紀から11世紀の近江の古仏について、研究成果を集大成する。

園城寺の開祖、智証大師の生誕1200年を記念して、園城寺および縁の寺に所蔵される仏像を網羅的に収録するシリーズ。像全身の正面・左右斜め・側面等、多数のカットをオールカラーで掲載。2巻に秘仏・重要文化財 如意輪観音坐像、3巻に秘仏・国宝 新羅明神坐像を収録。

ISBN978-4-7842

第1巻 智証大師篇 本体 12,000円 -1765-6
第2巻 平安彫刻篇Ⅰ 本体 18,000円 -1864-6
第3巻 平安彫刻篇Ⅱ 本体 18,000円 -1910-0

第4巻 鎌倉彫刻篇 本体 18,000円 -1970-4
第5巻 南北朝～桃山彫刻篇

宇野日出生編／京都府京都文化博物館・京都市歴史資料館企画

京都 実相院門跡

2016 / B5判 / 144頁

本体2,000円 ISBN978-4-7842-1835-6

春の桜爛漫、新緑の「床みどり」、秋の「床もみじ」、冬の「雪化床」（ゆきげしょう）——四季の美しさで巷に知られた門跡寺院、実相院の内情についての探求を試みた初の研究書。豊富なカラー頁と建築・庭園・絵画・彫刻・文学・史料それぞれの専門研究者による最新の研究成果を収録。

墨跡・書

田山方南編／禅林墨蹟刊行会

禅林墨蹟拾遺

中国篇・日本篇・解説

1977 / A 3判 / 和装挟入

本体300,000円 ISBN4-7842-0223-4

林雪光・鏡島元隆・加藤正俊編

近世禅林墨蹟〔全3巻〕

黄檗・曹洞編／臨済編一・二

1974 / A 3判 / (各)図版150頁・解説50頁

揃 本体99,000円

『禅林墨蹟』に収録されなかった墨蹟、その後発見された墨蹟419点を収録。その中には浙翁如琰、少林妙嵩、無門慧開、断橋妙倫など著名でありながらかつて確たる墨蹟の見出せなかったものや、方庵智圻、唯堂守一、以中智及、行已知共など新発見のものなどを含み、量・質ともに重要な一書。

日本の禅宗七百年の歴史の中でも、本来の意味で日本文化として栄えたのは近世である。本集では、原則として未発表の作品を中心に、近世および近代初頭の黄檗80・曹洞86・臨済292の計458人の禅僧の墨蹟を収録、釈文と禅僧の略伝を付した。墨蹟を通じ、各禅宗の宗風・歴史を知り得る好書。

三浦康廣編著

慈雲尊者墨蹟集成

〔図版篇2冊・解説篇1冊〕

1989 / B 4判 / 図版篇500頁・解説篇230頁

本体78,000円 ISBN4-7842-0563-2

幕藩体制下の仏教界にあきたらず、梵語原典研究に邁進し、釈迦の教義の根源に迫った、江戸後期真言宗の高僧、求道と学識の人、慈雲欽光。その遺墨は護法の精神によって貫かれ、名利とは無縁の高い理想を掲げて精進した姿を偲ばせる。墨蹟609点を精選し、慈雲研究第一人者による解説を付す。

宸翰英華別篇編輯会編

宸翰英華 別篇 北朝

〔図版篇1冊・解説篇1冊〕

1992／図版篇B 4判・240頁 解説篇A5判・380頁

本体48,000円 ISBN4-7842-0728-7

春名好重著

平安時代書道史

1993／A 5判／300頁

本体3,689円 ISBN4-7842-0759-7

波多野幸彦著

書の文化史

書状にみる人と書

1997・1998／A 5判／380頁

本体3,800円 ISBN4-7842-0948-4

村上翠亭・高城竹苞共著

近衛家熙写手鑑の研究

仮名古筆篇

1998／A 4判／280頁

本体12,000円 ISBN4-7842-0968-9

片桐洋一解説

橘為仲朝臣集

2003／和装桐箱入／釈文・解題98頁

本体55,000円 ISBN4-7842-1160-8

前田多美子著

三藐院 近衛信尹（さんみゃくいんこのえのぶただ）

残された手紙から

2006／A 5判／270頁

本体2,300円 ISBN4-7842-1299-X

高橋利郎著

近代日本における書への眼差し

日本書道史形成の軌跡

2012／A 5判／304頁

本体4,800円 ISBN978-4-7842-1595-9

増田孝・日比野浩信編

慶安手鑑

2017／B 5判／352頁

本体4,000円 ISBN978-4-7842-1878-3

昭和19年刊の帝国学士院編『宸翰英華』には収録されなかった、光厳天皇および光明・崇光・後光厳・後円融の北朝五代の天皇の主要な宸翰原本101点を収録。解説篇には、13名の研究者になる詳細な釈文・解説に、系図、年譜、自署・花押一覧を付す。

飛鳥時代、律令政治を背景に隆盛したわが国の書は、平安時代に入るとますます盛んになり、文化の発達とともに発展を遂げ、頂点に達した。本書は、わが国の書の歴史の上で最も重要な平安時代の書の推移と特色を明らかにするものである。カラー図版4点、モノクロ挿入図版29点を収載。

鎌倉時代の慈円・藤原定家、安土桃山時代の織田信長・古田織部・近衛信尹・伊達政宗、江戸時代初期の後陽成天皇・沢庵宗彭・千宗旦・松花堂昭乗・金森宗和などの手紙を中心に140点余を図版掲載し、人と書の表現を考える。

【内容】筆跡の研究と手紙／人と書の変遷／人と書 【2刷】

陽明文庫蔵・近衛家熙写手鑑（予楽院臨書手鑑・重美）所収の仮名古筆（臨摸断簡）100点をとりあげ、全図を原寸大（一部縮小）で収録し、筆者名・古筆名・書誌事項・釈文など各一点ずつについて詳細な考証を加え、原本などの参考図版85点も併載。

藤原定家手沢の伝西行筆歌集の完全複製——橘為仲（?～1085）は、藤原経衡・僧能因・素意・出羽弁・周防内侍などの歌人と交友があり、和歌六人党の一人とされた人物。勅撰集に合計九首収められている。本書は二本ある家集のうちの一本。西行の筆蹟として尊重されてきた雄品である。

本阿弥光悦・松花堂昭乗とともに「寛永の三筆」として日本書道史上にその名を謳われてきた三藐院近衛信尹（のぶただ）。本書ではその生涯を彼の残した手紙から読み解き、隠れた素顔を明らかにし、さらに能書としていかに遇されてきたのかを改めて考えなおす。

毛筆で書かれた文字資料が、近代に「書」として位置付けられていく過程を、書道史に関する出版をはじめ、宝物調査や展覧会の列品などから探り、近代における書道史形成の軌跡をたどる。また、近代数寄者が私的に書跡を鑑賞する場について考察。その書跡へのまなざしの影響の大きさを論じる。

古筆了佐により、慶安四年（1651）版行の大型木版本『御手鑑』の影印・釈文（翻刻）・筆者略伝・索引をコンパクトに収録。文献出版刊『慶安手鑑』（1989年）より増田孝論文再録。影印は状態のよい版本から撮り直し、新たに論文、釈文、筆者略伝、索引を収録。収録点数は古筆切136点、短冊616点。

絵 画

日本肖像画図録

京都大学文学部博物館図録第3輯

1991／B 5判／140頁

本体1,117円 ISBN4-7842-0645-0

1910年代後半から20年代末にかけての三浦周行教授による古文書蒐集の時期のものを中心に、京都大学文学部国史研究室には多くの人物肖像画が所蔵されている。南北朝時代から幕末までの制作になる天皇・公卿・武士・女性・画家・文人・学者・宗教家・僧侶の肖像画149点を収め、解説を付した。

京都国立博物館編

黄金のとき 桃山絵画

2000 / B 4判 / 400頁
本体40,000円 ISBN4-7842-1044-X

逸翁美術館・柿衛文庫編

没後220年 蕪村

2003 / A 4判 / 210頁
本体2,200円 ISBN4-7842-1162-4

戸田勝久著

戸田勝久画集 空の調べ

1999 - 2008
2008 / B 4判変 / 96頁
本体3,800円 ISBN978-4-7842-1441-9

宗像健一編著

たのむらちくでん
田能村竹田基本画譜2011 / B 4判変 / 総398頁
本体28,000円 ISBN978-4-7842-1566-9

森田りえ子著

森田りえ子作品集

1979 - 2011
2012 / A 4判変 / 356頁
本体24,000円 ISBN978-4-7842-1596-6

羽衣国際大学日本文化研究所 伊勢物語絵研究会編

宗達伊勢物語図色紙

2013 / B 4判変 / 220頁
本体19,000円 ISBN978-4-7842-1679-6

逸翁美術館編

月を愛でる

うつろいと輝きの美
2014 / A 4判 / 112頁
本体1,000円 ISBN978-4-7842-1778-6

山岸恒雄著

セザンヌと鉄斎

同質の感動とその由縁
2015 / A 5判 / 358頁
本体2,800円 ISBN978-4-7842-1796-0琉球船と首里・那覇を描いた
絵画史料研究2019 / B 4判 / 184頁
本体18,500円 ISBN978-4-7842-1947-6

伊勢物語絵研究会編

住吉如慶筆 伊勢物語絵巻

2019 / A 4判 / 328頁
本体27,600円 ISBN978-4-7842-1959-9

黄金のとき・ゆめの時代——狩野派の画師が活躍した桃山時代の代表的な絵画100点を紙上展覧。

【内容】 永徳の季節／神と歌—三十六歌仙／西洋との邂逅／英傑たちの乱舞／秀吉にみちびかれて／巨大さへの憧憬／城廓障壁画—名古屋城本丸御殿／浮世の愉楽

南画・俳諧、さらに俳画の大成者として足跡を残した与謝蕪村(1716-83)の没後220年を記念し、逸翁美術館と柿衛文庫が共同で編集。南画・俳画・嫁入手・扇面・草稿・短冊・俳書・書簡など、新出作品もふくめ全176点を解説を付してカラーで収録。書簡については巻末に翻刻・解説を併載。

アクリル画の吟遊詩人ともいうべき幻想的な画風の戸田勝久が奏でる、懐かしい夢の世界。1999年から2008年までのアクリル画作品のなかから154点をカラーで掲載。

図版篇には厳選された140点(カラー95点・モノクロ45点)の作品を大型図版で収録。解説篇には総論と基本作品の詳細を極めた個別解説のほか、題詩・落款・印譜・年譜などを収録。美術史はもちろん、大分県・煎茶・漢詩・儒学・歴史など広範な研究に大いに益する、竹田研究の決定版。

現代日本画壇で最も注目を集める作家の一人である画伯の初期作品から最新作までを集大成。30年間の画業のなかから本画500点・素描31点を、オールカラーの大型図版で掲載。「花」「人」の2部にわけ、年代順で配列し、画伯自身の作品解説63点を付す。インタビュー・制作風景等収録のDVD付。

「宗達伊勢物語図色紙」59面の全てをカラー、原寸大で掲載。色紙に描かれた伊勢物語の世界の解釈、伊勢物語絵巻・絵本との比較対照、宗達における色紙の位置づけ、裏書の解説、色紙の特徴的な構図と技法、色紙成立の動機、色紙をめぐる人的ネットワークなどに関する新たな知見を収録。

2014年10月から逸翁美術館で開催された、同名の展覧会図録。「詠う」「描く」「作る」「飾る」「奏でる」をテーマに、和歌・俳句や書画・絵巻、硯箱や櫛などの工芸品から楽器にいたるまで、それぞれの世界で表現された、「月」本来の持つ自然と調和する美しさを感じられる作品77点を紹介。

フランスの画家ポール・セザンヌと富岡鉄斎。両者の絵の同質性については、以前より指摘があったが、その理由については、明かされていない。本書は、この同質性が何に由来するものなのか、また何を意味するものなのかを、両画家の生い立ちや教育、思想、哲学、人生観、芸術観等から明かす。

第二尚氏時代から明治時代前期(18~19世紀)にかけての、首里と那覇の景観と、琉球の船を描いた絵画史料を集成し、全図を大型カラー図版で掲載。最新の研究成果により、各絵画史料に解説を加える。さらに、琉球史、対外交渉史研究に携わる執筆者による、収録史料に関わる論考を収録。

伊勢物語絵の最高水準を示す作品とされる「住吉如慶筆 伊勢物語絵巻」(東京国立博物館蔵)。本書は、絵巻全体の構成や場面解説及び解釈の最新研究成果を提示。絵画史、国文学のみならず歴史学や住宅建築史、さらに文化史や服飾史等の幅広い視点から、如慶が描く伊勢物語絵の魅力にせまる。

京都文化博物館企画・編集

北野天満宮 信仰と名宝

天神さんの源流

2019 / B 5判 / 244頁

本体2,500円 ISBN978-4-7842-1962-9

堀江春美著

墨の興趣 短歌と墨紀行

堀江春美画集

2019 / A 4判 / 104頁

本体3,000円 ISBN978-4-7842-1982-7

岩永てるみ・阪野智啓・高岸輝・小島道裕編

「月次祭礼図屏風」の復元と研究

よみがえる室町京都のかげやき

2020 / A 4判 / 150頁

本体16,000円 ISBN978-4-7842-1985-8

2019年2月23日から4月14日にかけて京都文化博物館で開催された同名展の公式カタログ兼書籍。北野天満宮が所蔵する神宝を中心に、ゆかりある美術工芸品、歴史資料を一堂に集め、複雑・多様な信仰世界を構築した北野天満宮の長い歴史をひもとき、展観する。

「絵を描くこと 歌を詠むことは私にとって 生かされて在ることへの感謝であり 祈りであり 証しです」

理事として伝統ある日本南画院を牽引する傍ら、水墨画と和歌という二つの表現方法で作品を生み出してきた著者の、創作の軌跡をたどる初の画文集。

東京国立博物館所蔵「月次祭礼図屏風模本」の失われた原本を解明するため、日本画、美術史、文献史学など多方面の専門家が協働し、学際的に復元が試みられ、その過程で様々な新知見が得られた。バールに包まれた室町時代の京都に光をあてる画期的プロジェクトの成果を公開。

工 芸 史

加藤唐九郎他編

陶 器 全 集 [全4巻]

1976 / 菊判 / 総2900頁

本体37,000円 ISBN4-7842-0207-2

本書は、昭和6年に陶器研究・鑑賞界で望み得る最高の執筆者をむかえ、はじめて陶磁の世界に近代研究の光をあてた不滅の名著である。再刊にあたっては、第一線で活躍中の研究者により一部改訂を加え、全巻に新たに索引を付した。

徳力彦之助著

金唐革史の研究

1979 / B 4判 / 200頁

本体35,000円 ISBN4-7842-0267-6

1470年頃、ルネサンスの最盛期にフィレンツェで生まれた金唐革。本書は金唐革の発祥以来の歴史、各国別の金唐革の特色、技法を網羅し、ルネサンス・ロココ・バロック期を中心とする豪華絢爛な貴重な図版を多数収録した豪華本である。皮革工芸家、染織工芸家座右の書。

大塚和義編

北太平洋の先住民交易と工芸

2002 / A 4判 / 150頁

本体2,800円 ISBN4-7842-1087-3

海峡をこえ島々をめぐり半島から大陸へ——北太平洋の諸地域をつなぐ先住民のさまざまな交易ルートの実態を明かし、あわせて彼らの文化遺産である伝統的な工芸芸術を紹介する大型ビジュアル本（カラー図版150点余を収録）。

デザイン史フォーラム編（藤田治彦責任編集）

アーツ・アンド・クラフツと日本

2004・2015 / A 5判 / 304頁

本体2,900円 ISBN4-7842-1207-8

19世紀後半から20世紀初頭にイギリスで繰り広げられたアーツ・アンド・クラフツ運動は、「生活」のための工芸運動であり、また社会改革をめざすデザイン運動でもあった。この運動と日本との関わりを多角的に論じ、デザイン・工芸・美術・社会・産業・環境・生活などの立体的な関係を考察。【2刷】

ダーティントン・ホール・トラスト&ピーター・コックス編
藤田治彦監訳

ダーティントン 国際工芸家会議報告書

陶芸と染織：1952年

1952年ダーティントン・ホールにおいて、バーナード・リーチを中心に17か国122名の工芸家・批評家が参加した国際工芸家会議の報告書の翻訳。テーマは工業化社会における工芸家の役割、工芸と芸術との関わり、工芸教育、工芸批評の確立などで、日本からは柳宗悦と濱田庄司が参加し、その講演と轡轡成形の実演は欧米の参加者に深い印象を残した。本文篇で翻訳を、資料篇で原典および関連資料を掲載した。

2003 / A 5判 / 590頁

本体8,500円 ISBN4-7842-1141-1

高円宮妃久子編

根付 高円宮コレクションⅡ

2006 / 菊判 / 220頁
本体4,000円 ISBN4-7842-1273-6

扇子 忠 著

皇室の饗宴とボンボニエール

2005 / B 5判変型 / 244頁
本体2,300円 ISBN4-7842-1270-1エドモンド・ドゥ・ヴァール著 /
金子賢治・鈴木禎宏解説 / 北村仁美・外館和子訳

バーナード・リーチ再考

スタジオ・ボタリーと陶芸の現代
本体4,800円 ISBN978-4-7842-1359-7

デザイン史フォーラム編(藤田治彦責任編集)

近代工芸運動とデザイン史

2008 / A 5判 / 336頁
本体2,900円 ISBN978-4-7842-1438-9

広田肇一著

日名子実三(ひなごじつそう)の世界

昭和初期彫刻の鬼才

2008 / B 5判 / 170頁
本体2,000円 ISBN978-4-7842-1436-5

天貝義教著

応用美術思想導入の歴史

ウィーン博参同より意匠条例制定まで

2010 / A 5判 / 400頁
本体7,500円 ISBN978-4-7842-1505-8

小泉和子著

ふなだんす

船簞笥の研究

2011 / A 5判 / 410頁
本体6,000円 ISBN978-4-7842-1503-4

岡 佳子 著

近世京焼の研究

2011 / A 5判 / 434頁
本体6,300円 ISBN978-4-7842-1558-4

小林 仁 著

中国南北朝隋唐陶俑の研究

2015 / B 5判 / 438頁
本体13,000円 ISBN978-4-7842-1790-8

木村法光著

正倉院宝物と古代の技

2015 / A 5判 / 522頁
本体15,000円 ISBN978-4-7842-1809-7

根付とは煙草入れや印籠などの挾紐の先端につけて落ちないようにする留め具。本書では、コレクターとして知られた故高円宮殿下が蒐集された貴重な内外の作家によるコレクション——古根付・現代根付・印籠・緒締めなど——約330点をカラー図版で紹介。

明治維新以降、皇室の饗宴でご下賜されてきた記念の品、砂糖菓子を入れる銀の小箱・ボンボニエール。日本の金工芸の粋が凝縮された芸術品と歴史を紹介。明治維新後の皇室とその周辺、皇室の儀礼と儀式、皇室・宮家のご慶事一覧なども収録。巻頭カラー図版30頁、モノクロ図版183点。

リーチは日本で民芸運動に関わると同時に、欧米ではスタジオ・ボタリーの普及に大いなる影響を与えた。ロンドンで活躍する気鋭の陶芸家による批判的リーチ論を通じて、陶芸史におけるリーチの位置、現代陶芸の意味を探る。

2007 / A 5判 / 298頁

「近代工芸運動」という視点を導入することにより、「近代デザイン史」という視点では抜け落ちている、各国における芸術分野での歴史・重要な動向を様々な点から解き明かす。

【内容】第1部 ヨーロッパの近代工芸運動 / 第2部 欧米の近代工芸運動とアジア

鬼才と呼ぶにふさわしい鋭い才能で、日本近代彫刻史に確かなページを記した日名子実三の足跡を、残された作品と資料によって検証し、日名子芸術の全貌を紹介する。巻頭には大型カラー図版を配し、人体像を中心とした彫像のほか、各種のメダルや大型の記念碑など多岐にわたる活動を総覧。

応用美術とは、工芸美術・装飾美術・デザインを表す概念である。ウィーン万国博覧会への日本初参加から二度の内国勸業博覧会を経て、「デザインの法」である意匠条例が制定されるまで、その思想が明治期日本でいかに学習され、美術・工芸界において指導的役割を果たしたかを解明。

近世海運において船乗りが使っていた造形的にも特異なデザインを備えた金庫および衣裳櫃を船簞笥という。本書では、酒田湊・小木湊・三国湊の主要産地の調査をもとにその成立から終焉までを海事史研究の視点も織り込んで歴史的に考察し、家具・道具史研究の歴史的研究の一事例を試みる。

桃山時代から江戸時代末まで京都で焼かれたやきものの窯業的な変遷を、文献史料と出土資料によって明らかにする。名工たちの陶業を産業としてとらえ、技術の系譜や産業的な展開、受容層のあり方、流通・市場の動向などの視点から京焼陶工の実態や作風、あるいは京焼の通史を見直した一書。

始皇帝の「兵馬俑」で知られる俑は、死者と共に埋葬される副葬明器で、中国の南北朝から隋唐時代は質量ともに一つの黄金期である。本書は、豊富な実物調査に基づいて、膨大な資料を造形的特質、様式の変遷、地域性等によって整理、多くの図版と共に美術史・陶磁史的視点から様々な論点を提示。

長年、正倉院事務所保存課に勤務し、正倉院宝物の調査・研究、保存・管理に携わってきた著者の研究成果。正倉院宝物はどのような材料で製作されているのか。奈良時代の匠が用いた技術が優れていた理由が何なのか。このような関心を元に発表してきた論文を一書にまとめ、研究の便に供する。

米田該典著

正倉院の香薬

材質調査から保存へ

2015 / A 5判 / 440頁

本体10,000円 ISBN978-4-7842-1821-9

竹内順一／岡佳子／ルイズ・コート／

ちぐさ アンドリュウ・M・ワツキー編

「千種」物語

二つの海を渡った唐物茶壺

本体3,200円 ISBN978-4-7842-1870-7

並木誠士・青木美保子編

京都 近代美術工芸の ネットワーク

2017 / A 5判 / 352頁

本体2,500円 ISBN978-4-7842-1882-0

並木誠士編

近代京都の美術工芸

制作・流通・鑑賞

2019 / A 5判 / 608頁

本体11,000円 ISBN978-4-7842-1938-4

鄭銀珍著

韓国陶磁史の誕生と 古陶磁ブーム

2020 / A 5判 / 466頁

本体14,000円 ISBN978-4-7842-1983-4

本書は、1994年から開始した第二次正倉院薬物調査に参加し、宝庫に伝存する香薬の材質調査の成果を中心に、長年考究してきた香薬についても加味して、著者により全編書き改めたもので、先駆的な研究成果の集大成である。理系・文系を問わず、有機物の「文化材」保存とは何かを問う。

唐物茶壺「千種」の歴史的な変遷を経糸に、「千種」をめぐる多様な文化事象を緯糸に織りなされた、壮大な物語。日本、アメリカ、中国の研究者による、歴史、美術、考古学、科学などの多角的な分野を網羅した最新の研究成果を収録。

2016 / A 5判 / 284頁

人を中心とした、近代京都の美術工芸にまつわるヒト・モノ・コトのネットワークからアプローチするところみは、他の地域の近代を考える上でも重要な手がかりとなる。ビッグネームだけでは構築されない美術工芸の現場をあぶり出すことにより、よりヴィヴィッドな美術史が見えてくる。

明治・大正期の京都で制作・流通・鑑賞された絵画、工芸、建築、庭園、定期刊行物などの広範なジャンルをとりあげ、近代京都の美術工芸をめぐる状況の解明を試みる。いまだ途上にある、近代京都の美術工芸研究を更新し、その作品や資料の評価、位置づけを問い直す論集。

「高麗青磁」と「朝鮮白磁」に代表される韓国古陶磁。19世紀中葉以降、古陶磁が「美術品」として「再発見」され、研究が本格化される中で、大きな役割を担ったのが浅川伯教・巧の兄弟。本書は、浅川兄弟の活動を軸に、近代韓国陶磁史の誕生と古陶磁ブームの全容を鮮やかに浮かび上がらせる。

染織史・服飾史

松浦俊海監修／野上俊子他編

壬生寺創建一千年記念

壬生狂言古衣裳

1992 / A 4判 / 300頁

本体58,000円 ISBN4-7842-0721-X

貫 秀高 著

日本近世染織業発達史の研究

1994 / A 5判 / 780頁

本体12,000円 ISBN4-7842-0852-6

京都国立博物館編

みやこ

花洛のモード きものの時代

2001 / A 4判 / 550頁

本体25,000円 ISBN4-7842-1072-5

尾形充彦著

正倉院染織品の研究

2013 / B 5判 / 416頁

本体20,000円 ISBN978-4-7842-1707-6

〈日本風俗史学会・野口信造賞〉

重要無形民俗文化財「壬生狂言」の衣裳は、死者の生前の衣裳を奉納したもので、奉納年や没年が墨書されている。染色資料にあつて、墨書年から制作年の下限を推定できる、きわめて貴重な存在。カラー図版114頁・モノクロ図版32頁。

近世において、大規模産業として成長し、文化・生活の向上に大きな役割を果たした染織業。本書はその発達の推移を、生糸の輸入状況や技術の発達などの関連において、詳しく分析した労作。

桃山から江戸時代の「きもの」に焦点をあて、小袖・打掛・胴服・羽織・具足下着・振袖・帷子などから筭・カンザシ・髪形、さらに肖像画・洛中洛外図・屏風などに描かれたモードもふくめて全225点を収録（オールカラー）。「今用御ひいなかた」（翻刻）と「御用雛形帳」の調査一覧表なども併載。

宮内庁正倉院事務所で研究職技官として、染織品の整理・調査・研究に従事してきた著者による、35年にわたる研究成果。正倉院事務所が行った第1次・第2次の古製調査や、国際古代染織学会の古代織物調査方法に影響を受け、身につけた調査研究方法により進めてきた正倉院染織品研究の集大成。

和 紙

日本・紙アカデミー編

紙一昨日・今日・明日

日本・紙アカデミー 25年の軌跡

2013 / A 5判 / 180頁

本体2,000円 ISBN978-4-7842-1704-5

紙の製法の確立や生産、紙のリサイクルの可能性、紙を利用したアートやデザイン、産地ごとに固有の顔をもつ和紙の製法など、多様なアプローチから紙にかかわってきた人々による、紙が生み出した文化を様々な角度から分析。日本・紙アカデミー活動25年の記念にふさわしい論文集。

茶 道

市野千鶴子校訂

古田織部茶書〔全2巻〕

茶湯古典叢書 2・3

1976・1984 / A 5判 / 平均400頁

①本体6,200円 ②本体8,200円

利休の高弟・七哲の一人で織部流茶道の開祖である古田織部の茶道秘書を集成。一卷には「宗甫公古織へ御尋書」及び「古田織部正殿問書」を収め、二巻には「織部百ヶ条」「織部茶会記」「数寄道次第」「古織茶湯書」「古織伝」「茶之湯六宗伝記三」を収録。

谷 見 校訂

金森宗和茶書

茶湯古典叢書 4

1997 / A 5判 / 490頁

本体12,500円 ISBN4-7842-0944-1

「十三冊本宗和流茶湯伝書」(金沢市立図書館藤本文庫所蔵「茶道の書ホ」)を底本とし、校合には陽明文庫蔵『金森茶道故実』を用いた。他に所在判明の茶会記を収録。巻末には解題・参考文献・略年譜・金森宗和茶会記人名一覧・索引を併載。

谷 見・矢ヶ崎善太郎校訂

茶 譜〔全2冊〕

茶湯古典叢書 5

2010 / A 5判 / 総924頁

本体20,000円 ISBN978-4-7842-1528-7

近世茶書としては最も大部にして体系的なものの一つである茶譜(全18冊)。西尾市岩瀬文庫蔵本を底本として全編活字化。挿図についても写真版で全て収録。利休・織部・遠州・宗和・宗旦のそれぞれの茶匠とその時代の茶の湯を、確かな情報に基づいて茶の湯の分野ごとに再編集したものである。

名和修・筒井絃一・熊倉功夫監修／川崎佐知子校訂

御茶湯之記 (おんちやのゆのき)

予楽院近衛家熙の茶会記

茶湯古典叢書 6

本体15,000円 ISBN978-4-7842-1756-4

近衛家熙の茶会の晩年24年間、308会の記録で、家熙側近の者がそのつど記し遺したものと思われ、茶会の日付と場、客人、道具、献立が漏らさず書き控えられている。脚注・補注・年譜のほか解説3篇、茶人・道具・献立篇の索引を併載。2014 / A 5判 / 610頁

谷 見・矢ヶ崎善太郎校訂

片桐石州茶書

(かたぎりせきしゅうちやしょ)

茶湯古典叢書 7

2014 / A 5判 / 658頁

本体15,500円 ISBN978-4-7842-1758-8

『石州三百箇条』と称される茶書は、類似する書名で内容の異なる流布本が多く存在し、石州が書き残したものをもとに弟子たちが解説をほどこした書物と考えられる。流布本を整理し、怡溪系・醇翁系・不白系の3系統から底本と校合本を選び翻刻・校合。あわせて『大工之書』の翻刻を収録。

谷端昭夫著 〈第16回茶道文化学術賞〉

公家茶道の研究

2005 / A 5判 / 394頁

本体6,500円 ISBN4-7842-1265-5

これまで公家の茶の研究は断片的であった。本書では近世における「公家茶道」を取りあげ、その独自の形態、実態と特徴、茶道史における位置づけを考察し、茶のもつ文化の内実を深める。史料「後西院御茶之湯記」を併載。

戸田勝久著

れんぎょう

茶の湯 連翹抄

2005 / A 5判 / 602頁

本体7,600円 ISBN4-7842-1267-1

著者は、裏千家の茶家戸田即日庵に生れ、父は今日庵名誉教授直翁宗寛。今日庵業縁として三代目に当たり、教授者(茶名宗安)として茶の湯の指導と普及につとめ、併せてその啓蒙と研究に従事。本書はその業績を集大成(全30篇)した大著。

田中秀隆著

近代茶道の歴史社会学

2007 / A 5判 / 454頁
本体6,500円 ISBN978-4-7842-1377-1

岩間眞知子著

茶の医薬史

中国と日本

2009 / A 5判 / 520頁
本体9,000円 ISBN978-4-7842-1463-1

戸田勝久先生喜寿記念論集刊行会編

武野紹鷗 わびの創造

2009 / A 5判 / 614頁
本体12,000円 ISBN978-4-7842-1471-6

白崙顕成著

藤村庸軒年譜考〔全2冊〕

2009 / A 5判 / 総1800頁
本体35,000円 ISBN978-4-7842-1456-3

白崙顕成著

藤村庸軒流茶書

顕岑院本一

2012 / A 5判 / 528頁
本体10,500円 ISBN978-4-7842-1624-6

白崙顕成編

ちゃどうぼうげつしゅう

茶道望月集

顕岑院本二

本体16,000円 ISBN978-4-7842-1667-3

白崙顕成著

茶湯百亭百会 (ちゃのゆひやくていひゃくえ)

顕岑院本三

2015 / A 5判 / 926頁
本体20,000円 ISBN978-4-7842-1793-9

逸翁美術館編

茶の湯文化と小林一三

2009 / A 4判 / 148頁
本体1,905円 ISBN978-4-7842-1485-3

逸翁美術館編

茶会記をひもとく

逸翁と茶会

2012 / A 4判 / 92頁
本体1,000円 ISBN978-4-7842-1626-0

逸翁美術館編

復活！不味公大圓祭

小林一三が愛した大名茶人・松平不味

本体1,000円 ISBN978-4-7842-1685-7

「伝統文化とは近代に自己変革に成功した文化である」との近代茶道史テーゼにもとづき、近代国家の文化的アイデンティティの生成構造面から、茶道が日本の「伝統文化」として認知されるようになった過程を考察する。

もともと、茶は薬であった。しかし、茶がどのように記されているか、信頼できる史料に当たり、たどった研究はこれまでなかった。本書は、中国と日本の医薬書史料の影印を多数収録し、それらの史料から中国・日本の各時代における茶の様相とその時代の変遷を明らかにする一書。 【2刷】

裏千家今日庵業鉢であり、教授者（茶名宗安）と併せて、永年茶の湯研究に従事してきた戸田勝久先生の喜寿を記念し、武野紹鷗を基軸として、斯界の論者24人が原稿を持ち寄った論集。

漢詩集と茶会記をもとに編年で藤村庸軒の生涯を文献学的方法によって明かす大著。庸軒の茶は、深い教養に支えられた美的に人格形成をなしとげるための総合芸術であった。元禄文化を支え、文人墨客とのネットワークをつなぐキーマンであった庸軒の全体像に迫る。

京都の紫雲山くろ谷金戒光明寺の塔頭である顕岑院には多くの庸軒流茶書が伝えられている。本書には、その中から息子の正員が庸軒の茶話を筆記したと思われる『藤村庸軒茶談』のほか、観山によって定められた庸軒流茶道の基本となる稽古次第を中心に収める。

くろ谷金戒光明寺塔頭顕岑院所蔵の庸軒流茶書を翻刻。藤村庸軒孫弟子、風後庵又夢久保可季による享保8年（1723）成立の茶書。鳩庵横井等甫伝授の「庸軒流茶法」40巻、「七ヶ条極秘切紙」3巻の内容を盛り込み、庸軒流茶法を詳述。

2013 / A 5判 / 852頁

本書は、久田宗全の門弟とされる伊丹の町人、有岡道瑞がみずから参席した茶会から百会をまとめた茶会記。顕岑院本を一会ごと掲げ、各種写本との異同を示し、さらに同時代の茶会記との関係もさぐり、茶会記をひもときながら、人物・道具・飾り・料理などの多彩な世界を明かす。

逸翁美術館の新装オープンを記念して開催された特別展「茶人 逸翁 一茶の湯文化と小林一三」の展覧会図録。小林一三（逸翁）の世界を5つのテーマ「茶道との出会い」「逸翁の茶懐石」「逸翁と茶友」「逸翁の茶道観」「逸翁の愛した茶道具」にそってオールカラーで紹介。

2012年4月から逸翁美術館で開催された同名の展覧会図録。逸翁が西洋陶磁を茶道具に見立てるなど、新しい試みを茶会に取り入れて、実践したことはよく知られている。これらの基層となった逸翁の茶の湯との出会いや、近代数寄者としての歩みを、残された茶会記をひもときながら明かす。

松平不味の好みものや縁の作品などを集めて昭和29年に阪急百貨店の古美術街で開催した「不味公大圓祭」。当時の出品作品を中心に、不味に縁のある作品をカラーで収録。2013年4月6日～6月2日、逸翁美術館開催の展覧会図録。

2013 / A 4判 / 84頁

逸翁美術館・福岡市美術館編
茶の湯交遊録 小林一三と松永安左エ門
 逸翁と耳庵の名品コレクション
 2013 / A 4判 / 152頁
本体1,800円 ISBN978-4-7842-1726-7

電力事業再編を行い、戦後日本のインフラを築いた松永と、鉄軌経営モデルの原型を独自に作り上げ、宝塚歌劇の創始者である小林。対照的な二人の茶の湯の世界を、逸翁美術館と福岡市美術館の、それぞれのコレクションの名品でたどる。2013～14年に両館で行われた同名展の展覧会図録。

逸翁美術館編
器を楽しむ
 逸翁の茶懐石
 2015 / A 4判 / 102頁
本体1,000円 ISBN978-4-7842-1807-3

懐石とは、本来は「茶懐石」と呼ばれて、特に正式な茶事の席には欠かせない要素であり、小林逸翁は茶懐石に西洋の器を積極的に用いた先駆者だった。逸翁愛用の懐石の器に合わせて、時代とともに変遷する逸翁の茶懐石を紹介。2015年4月から逸翁美術館で開催の同名の展覧会図録。

岡本文音著〈平成24年度茶道文化学術奨励賞〉
茶の湯と音楽
 2012 / A 5判 / 376頁
本体7,800円 ISBN978-4-7842-1606-2

室町時代後期の草創期から江戸時代初期という茶の湯が発展拡大する時期の文献から、「音楽」の世界をとおしてみる茶の湯の美意識を、能楽（第1章）、「峯すり」（第2章）、茶の湯の釜の煮え音「五音ノ湯アヒ」（第3章）、茶の湯空間における音（第4章）の4つのトピックから明かす。

茶の湯文化学会編
講座 日本茶の湯全史〔全3巻〕
 2013～2014 / 四六判 / 平均344頁
（各）本体2,500円

茶の湯文化学会の創立20周年記念出版。日本文化史の中に位置づけられた茶の湯の展開を、茶の湯文化学会が総力をあげて俯瞰。初学者はもちろん、さらに深く茶の湯研究を志す人にとってのハンドブック的な要素ももたせた新しい概説書。
第1巻 中世 / 第2巻 近世 / 第3巻 近代

依田 徹 著〈平成25年度茶道文化学術奨励賞〉
近代の「美術」と茶の湯
 言葉と人とモノ
 2013 / A 5判 / 332頁
本体6,400円 ISBN978-4-7842-1693-2

明治維新で価値を落とした茶道具は、どのようにして美術作品として再評価されるようになったのか？千利休と岡倉天心に注目し、近代美術史の視点から、明治以降の茶道具の評価を捉え直す。美術作品と茶道具の境界線を問う、革新の一書。

野村美術館学芸部編
野村得庵の文化遺産
 2013 / A 5判 / 506頁
本体3,000円 ISBN978-4-7842-1701-4

野村グループの創始者・得庵野村徳七は大実業家であると同時に、偉大な数寄者であった。野村美術館設立30周年記念事業として、得庵の文化活動に焦点を当て、各分野の第一人者が論文集の形でまとめる伝記。1951年発行の『野村得庵』以降新発見の史料や研究動向をふまえ、新たな得庵像を提示。

戸田勝久著 おんらいしゅう
茶の湯 恩籙抄
 2014 / A 5判 / 652頁
本体5,500円 ISBN978-4-7842-1751-9

裏千家今日庵業縁として、教授者（茶名宗安）と併せて、茶の湯の研究に従事してきた著者の近年の業績を集成。「裏千家 今日庵歴代」（13篇）、茶の湯ゆかりの人物をめぐって茶の湯の精髓が語られる「茶の湯掃苔抄」（12篇）、「江戸東京茶の湯散歩」（深川編8篇・日本橋編16篇）の3部構成。

中村静子著 げんぱくそうたん
元伯宗旦の研究
 2014 / A 5判 / 430頁
本体7,800円 ISBN978-4-7842-1760-1

「利休の孫」として知られる元伯宗旦の生涯は病気がちで不明な部分が多く、残された史料から全体的な姿を解明することは難しい。徳川幕府体制が確立し、大名茶全盛を迎えた時代に、誰に仕えることなく自身の茶の湯を追求し続けた宗旦の姿を、多数の史料を読み解くことで複眼的に究明する。

大益茶道院発行／呉遠之著
 井上由紀子・田丸祥幹訳／高丹丹編訳
基礎茶式
 中国茶道研修方法
本体900円 ISBN978-4-7842-1824-0

日本の茶道・台湾の茶芸など様々な茶文化を研究・実践してきた著者が、中国の茶道「基礎茶式（大益八式）」を考案。「基礎茶式」の八つの作法に意味づけられた精神や、作法の手順、ポイントを、多くの挿図とともに紹介・解説。
 2015 / 四六判 / 156頁

朴珉廷著
そそうの哲学
 数寄茶湯の原点
 2019 / A 5判 / 272頁
本体5,000円 ISBN978-4-7842-1966-7

「龜相（そそう）」という言葉は普通、否定的に用いられるが、数寄茶湯では茶人の理想的姿（風体）として、肯定的に唱えられていたことを、茶書『山上宗二記』より考察。「茶禪一味」の考え方、「守破離」の最終段階「離」の境地から生まれる「自然体」としての「そそうの哲学」を論じる。
【2刷】

熊倉功夫著作集〔全7巻〕

2016～2017／A 5判／平均500頁
 (各)本体7,000円

ISBN978-4-7842

第1巻 茶の湯一心とかたち -1852-3
 第2巻 茶の湯と茶人の歴史 -1853-0
 第3巻 近代茶道史の研究 -1854-7
 第4巻 近代数寄者の茶の湯 -1855-4

伝統とは、美とは、日本とは一文化史の諸領域にわたり茶の湯を軸として、鋭敏な感覚で鮮やかに本質を明らかにし、分野を軽々と飛び越えて新たなパースペクティブを示し続けてきた著者が、自選によってまとめる七つの小宇宙。

第5巻 寛永文化の研究 -1856-1
 第6巻 民芸と近代 -1857-8
 第7巻 日本料理文化史 -1858-5

華 道

華道沿革研究会編

花道古書集成〔全5巻〕

1969・1996／A 5判／3400頁
 本体32,000円 ISBN4-7842-0087-8

本書は、初期東山時代の代表的秘伝書をはじめ、江戸初期、中期の諸流祖の花道書から幕末に至る主な花道書を収録し、昭和5年に刊行されたものの復刻。貴重な文献と作例図により生花の歴史・理論・技法の真髄に触れることができる。

【4刷】

続花道古書集成刊行会編

続花道古書集成〔全5巻〕

1972・1980／A 5判／2710頁
 本体35,000円 ISBN4-7842-0088-6

『花道古書集成』が刊本中心であるのに対し、未刊の古写本中心に続篇をおくる。花道草創の室町時代初期から各流各派成立、爛熟の時期江戸時代末に至る秘伝、稀覯本を網羅し、中でも「華厳秘伝之大事」「極儀秘本大巻」「藤掛似水華伝書」「諸花抛入百瓶圖」「雲の上」などは特筆。

【2刷】

井上 治 著

花道の思想

2016・2019／四六判／260頁
 本体1,800円 ISBN978-4-7842-1839-4

花道の思想を学術的に紐解くべく、第1部では歴史の流れを概括し、「出生」「花矩」「修行」の観点で花道思想の構造を整理。第2部では、江戸末期に揺れ動いた宇宙像が花道に及ぼした影響を見たのち、近代の花道家が花道文化の伝統とどう向き合ったかを「風流」「芸術」の概念から考察。

【3刷】

文化史

法制史

安高啓明著

近世長崎司法制度の研究

2010 / A5判 / 512頁
本体5,700円 ISBN978-4-7842-1477-8

長崎奉行所で構築されていた司法制度のもとでの、長崎奉行所の司法的権限に迫る。また法の浸透過程と受容した長崎奉行所の法体系を見出し、判例集「犯科帳」から当時犯罪に関与した人間模様、裁判の実相を明らかにする一書。

経済史

小葉田 淳 総監修 〈第8回優秀会社史賞〉

住友別子鉱山史〔全3巻〕

1991 / B5判 / 総1500頁
本体73,000円 ISBN4-7842-0643-4

上巻では元禄4年の開坑より明治32年、いわゆる旧別子時代の終わるまでを取扱い、下巻は閉山するまでとその後の補遺を記述し、別巻は別子銅山史上の事項を理解する助けとなる図録・写真・史料等を収載した。開坑300年記念出版。

小葉田 淳 著

日本銅鉱業史の研究

1993 / A5判 / 860頁
本体19,000円 ISBN4-7842-0760-0

金銀山の個別の史的研究を集成した、『日本鉱山史の研究』（学士院賞）、『続日本鉱山史の研究』につづく本書には、足尾・面谷・別子など日本を代表する鉱山の個別の史的調査研究に加え、付篇として産銅に関する近世の銅貿易と鑄銭についての論稿を収めた。

荻慎一郎著 〈第7回高知出版学術賞〉

近世鉱山社会史の研究

1996 / A5判 / 640頁
本体12,800円 ISBN4-7842-0900-X

鉱山社会史研究の視点から、従来の研究で欠落していた支配・経営構造、技術受容と生産体制、労働組織、鉱山法や住民の社会生活などの実態を大葛金山・院内銀山などの一次史料を通して明かす先駆的な業績。

小葉田 淳 著

貨幣と鉱山

1999 / A5判 / 300頁
本体7,800円 ISBN4-7842-1004-0

日本貨幣史・鉱山史の泰斗が中世から近世にいたる貨幣と鉱山に関する近年の論考を集成する。【内容】元禄・宝永の京銭座の鑄銭、とくに宝永通宝大錢鑄造について／正徳・享保の新銀鑄造と銀銅吹分け／近世、日向椎葉山の銅山について／近世、日向延岡領の銅山についてほか全11篇

黒正巖著作集編集委員会編

黒正巖著作集〔全7巻〕

2002 / A5判 / 総2800頁
本体56,000円 ISBN4-7842-1122-5

1920～40年代、社会経済史学の誕生に大きな役割を果たした黒正巖の業績を全7巻構成で明らかにする。【構成】第1巻 百姓一揆の研究／第2巻 百姓一揆論／第3巻 岡山藩の研究／第4巻 社会経済史の研究／第5巻 経済地理学の研究／第6巻 日本経済史／第7巻 農史の研究 年譜・著作目録

大阪経済大学日本経済史研究所編

東アジア経済史研究 第1集

中国・韓国・日本・琉球の交流
大阪経済大学日本経済史研究所研究叢書 第17冊
本体4,000円 ISBN978-4-7842-1498-3

日本からの研究の発信だけでなく、世界、アジアにおける研究情報を系統的に取り込み、データベース化し国際的な研究の発展と交流を目指して行われた東アジア経済史研究会「近世・近代の東アジア経済史研究」を基にした10篇。
2010 / A5判 / 344頁

松村幸一著

一六世紀イングランド農村の資本主義発展構造

大阪経済大学日本経済史研究所研究叢書 第18冊

本体14,000円 ISBN978-4-7842-1575-1

本書は、大阪経済大学日本経済史研究所所長などを歴任した故人の一貫したテーマであった、16世紀イングランド農村史研究における主要な論文をとりまとめて、一書に編成したものである。巻末に索引・業績一覧を付す。

2011 / A 5判 / 660頁

桑田 優 著

伝統産業の成立と発展

播州三木金物の事例

2010 / A 5判 / 302頁

本体6,500円 ISBN978-4-7842-1523-2

兵庫県三木市の伝統産業、三木金物は近世後期に勃興し、現在にいたっている。本書は、流通機構の発達など社会的な背景にも着目し、三木金物が特産品として全国市場へ進出してゆく過程を跡づける通史である。

齋藤康彦著

す き し ゃ

近代数寄者のネットワーク

茶の湯を愛した実業家たち

本体4,000円 ISBN978-4-7842-1603-1

近代実業家と茶の湯に関わる単なるエピソードの紹介ではなく、従来顧みられなかった茶会記録である『茶会記』のデータ分析を通して政界・官界・実業界を横断するネットワークを描出。近代実業家の財閥の枠を超えた交流を明かす。

2012 / A 5判 / 308頁

朝尾直弘監修／佐友史料館編

住友の歴史〔上・下〕

2013・2014 / 四六判／(上)286頁(下)322頁

(各)本体1,700円 上【3刷】

【上】 創業者の肖像/東アジアの銅貿易と住友/火と水と土石とのたたかい/鉱山都市と積出港市/銅貿易を支える仕組み/銅の生産と関連諸産業/住友の江戸進出 【下】 イエの構成と組織/大名との交際/都市大坂が育んだ住友/文化と公共への貢献/幕末・明治の変革/近代化への対応/世界市場への参入

岩本真一著

ミシンと衣服の経済史

地球規模経済と家内生産 【オンデマンド版】

2017 / A 5判 / 330頁

本体6,600円 ISBN978-4-7842-7033-0

19世紀後半から20世紀半ばにかけて、シンガー社のミシンは世界を席巻し、東アジアは最終市場であった。こうした状況下でのシンガー社の日本進出を中心に、近代日本のミシンの普及と衣服産業の展開を分析。断片的にしか知られてこなかった近代日本衣服産業の概要と特徴を明かす。初版2014年。

板垣貴志著

牛と農村の近代史

家畜預託慣行の研究

2014 / A 5判 / 266頁

本体4,800円 ISBN978-4-7842-1725-0

明治以降の近代化のなかで発展から取り残された中国山地。そこでは前近代的バールに包まれた家畜預託慣行が急激に拡大していた。本書は、牛を介して取り結ばれる人々の社会関係を明らかにし、それが近代農村で果たした歴史的意義を解明。宮本常一民俗学に共鳴する社会経済史。

今井典子著

近世日本の銅と大坂銅商人

2015 / A 5判 / 316頁

本体7,500円 ISBN978-4-7842-1805-9

銅の最大市場である大坂の銅商人社会が成立・変容する過程を軸にして、銅の生産・流通の歴史を通覧。住友家文書や初村家文書など関連史料を丁寧に読み解き、長崎貿易の動向・幕府の統制・相場の変動なども視野に入れながら論じた本邦初の銅の近世通史。

谷彌兵衛著

近世吉野林業史

【オンデマンド版】

2015 / A 5判 / 540頁

本体11,100円 ISBN978-4-7842-7001-9

いま日本の林業は存亡の危機に直面している。吉野の地に生まれ、林業とそれに携わる人々の浮沈を間近に見て育った著者が、吉野林業の光と影を、史料に基づいて実証的に明らかにした本書は、吉野林業を初めて通史的にとりあげた研究として、画期的意義を有する。初版2008年。

岩本真一著

近代日本の衣服産業

姫路市藤本仕立店にみる展開

2019 / A 5判 / 368頁

本体7,000円 ISBN978-4-7842-1981-0

兵庫県姫路市の小規模裁縫業者（藤本仕立店）の家文書を主な史料としながら、その創業から廃業までの姿を追った。戦時経済統制や他産地の動向など、時代の流れに翻弄された同家の実態を浮き彫りにすることで、新たな切り口から近代衣服産業の展開を描く。

日本産業技術史学会会誌

技術と文明

1985～／B5判／平均100頁／41冊

①～⑨・⑬～⑲ 各 本体2,000円

⑩～⑲ 各 本体1,942円

三宅宏司著 〈第7回日本産業技術史学会賞〉

大阪砲兵工廠の研究

1993／A5判／520頁

本体9,600円 ISBN4-7842-0776-7

丸山 宏 著

近代日本公園史の研究

1994・2003／A5判／400頁

本体8,400円 ISBN4-7842-0865-8

東 徹 著

佐久間象山と科学技術

2002／A5判／284頁

本体7,600円 ISBN4-7842-1101-2

日本産業技術史学会編

日本産業技術史事典

2007／B5判／550頁

本体12,000円 ISBN978-4-7842-1345-0

加藤偉重著

シーボルトが蒐集した シダ標本

2010／A5判／388頁

本体7,000円 ISBN978-4-7842-1550-8

白幡俊輔著

軍事技術者のイタリア・ルネサンス

築城・大砲・理想都市

2012／A5判／294頁

本体5,600円 ISBN978-4-7842-1625-3

大島佐知子著

老農・中井太郎と農民たちの近代

2013／A5判／388頁

本体7,500円 ISBN978-4-7842-1710-6

河本信雄著

田中久重と技術の継承

時計から からくり人形、そして電信機

佛教大学研究叢書36

本体7,600円 ISBN978-4-7842-1960-5

1984年設立の日本産業技術史学会は、産業研究の各分野、経済学、日本史等の専門家による学際的交流の下で、産業技術史研究の基礎確立を目指す。本誌はその研究発表の場。

小社発売分は第41冊で終了。次号以降は日本産業技術史学会事務局（TEL06-6954-4239）へお問い合わせ下さい。

明治3年から昭和20年にいたる大阪砲兵工廠はわが国の産業近代化の中で特異な役割りを果たしてきた。本書では、同工廠を支えた鉄鋼・材機・冶金・金属加工・化学などの技術的諸分野の内容と生産体制、職工の就業実態及びそれらの変遷過程を明かす。関係図表120余点。

近代欧米都市起源の公園が、いかに近代化の装置として導入され、衛生問題、都市問題、記念事業、経済振興策、政治的役割などさまざまな問題を孕みながら受容されてきたか、その歩みを社会史のダイナミズムのなかにとらえた一書。

【2刷】

象山が入手したとする蘭書を書誌的に明かし、そこでの記載内容と象山が様々な局面で語っている内容との対応関係を調査。「東洋道德、西洋芸術」という言葉で時代をリードした人物を正しく位置づけ、わが国における科学技術の受容という問題を考察するための基礎的な実証的研究。

明治維新以降、めざましい発展を遂げてきた近代化の歩みを支えた産業技術の変遷を跡づける。23の大項目と344の小項目で系統的・組織的に日本の産業技術史を俯瞰した画期的な事典。近代化以前からの「草の根」における技術と技能の蓄積に対しても光を当て、民間の「現場」の力を重視する。

オランダ国立植物学標本館ライデン大学分館に所蔵されている、シーボルトコレクションの約1,000点のシダ標本を、20年にわたり調査した成果を豊富な図版（カラー口絵14点・モノクロ600点）とともにまとめる。標本642点・1,009カットのカラー画像を収録したDVD付き。

軍事技術という観点から、ルネサンス期イタリアにおける戦争と社会の関係を考察。具体的には、15～16世紀イタリアの築城術の「理想都市」「軍事的機能」という2つの要素に着目し、その変容過程を、建築家の残した著作や活動・軍事思想からの解明で試みる。

農業近代化の過程で重要な役割を果たした「老農」といわれた農事改良者たちは近代化のなかで忘れられた存在である。除草機「太一車」の発明者として知られる中井太郎について、ライフヒストリーをたどりながら、彼の技術・思想や、その全国巡回を支えた組織・団体などを明かす。

江戸～明治にかけ、職人・技術者・起業家として実用電信機の製造を果たした田中久重の生涯を追う。時計造りの技術が、からくり人形に伝播し、明治維新後は産業技術の近代化に貢献。ひいてはIT技術に繋がる、技術継承の実像に迫る。

2019／A5判／286頁

谷直樹 著

中井家大工支配の研究

1992 / A5判 / 340頁
本体7,800円 ISBN4-7842-0707-4

中井家大工支配の初期形態から支配の確立・変容をたどる。
【内容】 中井家大工支配の成立過程／農村大工の大工役と諸役免除／公儀作事における中井家の職務と財政構造／中井家支配下の棟梁衆および家中の変遷／中井家六か国大工支配の整備と再編成 ほか

石田潤一郎 著

都道府県庁舎

その建築史的考察
 1993 / A5判 / 440頁
本体8,600円 ISBN4-7842-0775-9

明治維新以降、今日まで100件をこえる都道府県庁舎が建設されてきた。本書では、一次史料をもとに同庁舎の歴史的展開を個別にあとづけ、地方行政制度史・地域史の中で位置づけるとともに、図版史料によってその平面計画及び立面意匠の具体的な把握も試みた。収録図版200余点。

川上 貢 著

近世上方大工の組・仲間

1997 / A5判 / 402頁
本体9,000円 ISBN4-7842-0922-0

中井家による五畿内・近江六か国大工組支配の仕組みのなかで、各地に組織・編成されていた大工組に焦点をあて、その成立、運営と変遷、さらには分裂と再編を、近世前期にまでさかのぼる新出史料をもとに検証した論集。

日向 進 著

近世京都の町・町家・町家大工

1998 / A5判 / 340頁
本体7,800円 ISBN4-7842-0984-0

「仮屋」のようにさりげなく組み立て、身近な素材に精緻な技術が注入され、洗練された造形として結実したのが京都の町家。本書は、京都町家の形成と展開の過程を事例として、町家が住居形態として一定の類型を保持し、存続してきた背景としての建築的・技術的・社会的・都市的な要因を解明。

谷直樹 編著

大工頭中井家建築指図集

中井家所蔵本
 2003 / B4判 / 360頁
本体18,000円 ISBN4-7842-1148-9

江戸幕府の京都大工頭を代々勤めてきた中井家の伝来史料には、同家の職務に対応して城郭、武家屋敷、内裏、公家屋敷、寺院、社寺、数奇屋、書院の指図があり、さらに洛中国・町絵図・橋図など土木関係の絵図も豊富（2011年重文指定）。図版517点を大判で収録し総論と各個解説を付す。

建部恭宣 著

京・近江・丹後大工の仕事

近世から近代へ
 2006 / A5判 / 270頁
本体5,500円 ISBN4-7842-1282-5

江戸から明治・大正にかけての京・近江・丹後における大工の活動状況を明かした労作。寺院造営における大工の仕事、就労状況、町大工の構成と作事棟梁制度の変遷、幕末の藩士住居の図面と用材など、資料の精査に基づいて大工活動の実態と近代化への歩みを考察する。

木村幸比古・中根史郎・中村昌生 著

春秋 京大和翠紅館

2009 / B5判 / 80頁
本体2,800円 ISBN978-4-7842-1417-4

京都の老舗料亭京大和がある東山霊山のふもととは、古くからの聖地であり、風光明媚な仙郷であった。その歴史・庭・建物を、カラー口絵と解説で紹介。特に、江戸時代の翠紅館の姿そのままに大正時代に建てられた建物や藪内流の茶室について、多数の図面とともに詳述する。

平井俊行 著

近世妙心寺建築の研究

2013 / B5判 / 376頁
本体9,500円 ISBN978-4-7842-1689-5

臨済宗妙心寺派本山の個々の建築について、本山や塔頭に残る中世～近世の古文書や棟札の解説、実測のみならず、それぞれの建造物の行事での利用状況まで分析し、近世妙心寺建築成立の意義を検討。京都府教育庁文化財保護課の修理技術者として、保存修理に携わった著者の研究をまとめた一書。

片平 幸 著

日本庭園像の形成

2014 / A5判 / 240頁
本体4,000円 ISBN978-4-7842-1718-2

「日本庭園」は西洋でどのように理解され、解釈されたのか、そして日本はそれに対してどのように反応したのか。19世紀末から20世紀初頭の欧米人の日本庭園論、それへの日本人の反応、という両者の「往還」を丁寧にたどり、1930年代に至って日本庭園の「独自性」が規定されていく過程をたどる。

永井聡子著

劇場の近代化

帝国劇場・築地小劇場・東京宝塚劇場

2014 / A 5判 / 230頁

本体3,500円 ISBN978-4-7842-1737-3

三宅拓也著 〈2016年度全日本博物館学会賞〉

近代日本〈陳列所〉研究

2015 / A 5判 / 640頁

本体7,800円 ISBN978-4-7842-1788-5

植松清志編著

大坂蔵屋敷の建築史的研究

2015 / B 5判 / 236頁

本体4,800円 ISBN978-4-7842-1724-3

小泉和子編

茶と室内デザイン

2015 / B 5判 / 224頁

本体3,500円 ISBN978-4-7842-1808-0

中川 理 著

京都 近代の記憶

場所・人・建築

2015 / A 5判 / 184頁

本体2,200円 ISBN978-4-7842-1812-7

黒田龍二著 〈第5回建築史学会賞〉

中世寺社信仰の場

【オンデマンド版】

2016 / A 5判 / 348頁

本体7,800円 ISBN978-4-7842-7017-0

桐浴邦夫著 〈平成30年度茶道文化学術奨励賞〉

茶の湯空間の近代

世界を見据えた和風建築

2018 / A 5判 / 280頁

本体5,800円 ISBN978-4-7842-1930-8

尼崎博正・麓和善・矢ヶ崎善太郎編著

庭と建築の煎茶文化

近代数寄空間をよみとく

2019 / A 5判 / 352頁

本体5,500円 ISBN978-4-7842-1944-5

明治・大正・昭和初期における劇場の近代化に大きな影響を与えた、帝国劇場・築地小劇場・東京宝塚劇場を取り上げ、当時の様々な言説、図版、写真、インタビューなどの資料を読み解き、西洋の劇場近代化過程とも比較しながら日本の劇場の近代化の特色を描きだす。

本書が扱う〈陳列所〉とは、「商品（物産）陳列所」などという名称を冠せられて建設された公共の陳列施設である。この種の施設が、都市の農業・工業・商業を奨励する目的で各地に設置された経緯を検証し、制度・活動・建築を含めて都市との関わりに注目。その実態を豊富な図版と共に明かす。

各藩の大坂蔵屋敷の敷地や立地、屋敷の変遷、建築構成や空間構成、藩主が参勤交代の際に滞在した御屋形（御殿）の機能、役人住居の階層性や居住性などについて、都市との関連も考慮に入れつつ、指図や文書史料を用いて検討を行い、未開拓の大坂蔵屋敷研究の新たな局面を切り開く。

書院造、草庵風茶室、数寄屋風書院造、和風住宅等……。日本的とされる日本住宅の室内デザインはほとんどが茶によって育まれた。茶が日本住宅の室内意匠にあたえた影響について、それぞれの専門の立場からの論考を収録。多くのカラー図版とともに、茶道と室内デザインの関係性を考える一書。

東京遷都により没落の危機に見舞われ、都市改造や近代建築の導入に積極的に取り組む一方で、「千年のみやこ」を演じてきた街、京都。いまある京都の魅力はいつ、どのように作られたのか？近代化の過程で生まれた様々なエピソードを、場所・人・建築をキーワードとして写真とともに綴る。

本書は、具体的な建築物や場のあり方を中心に、神社および寺院における宗教的営為の一端を明らかにしようとして試みたもので、中流以下の庶民層の信仰を主眼とし、周辺のと見なされてきた床下参籠の風俗、後戸の信仰・仏堂内の蔵などの歴史的な意義を考察した著者初の論集。初版1999年。

高度な技術と類まれな空間構成と意匠をもつ数寄屋建築は、世界から高い注目を集めているが、国内の建築史・茶の湯研究では非主流であり、否定的な見方さえされてきた。近代数寄屋建築の専門家が、茶の湯の系譜を考慮し、「茶の湯空間」が近代にどのように理解されてきたのかを読み解く。

近代茶道界は煎茶・抹茶がせめぎ合い、そして融合する時代であった。煎茶に興じた数寄者たちの背後にある煎茶文化をふまえなければ近代数寄空間（庭・建築）は理解できない。これまで茶の湯の視座からのみ語られてきた近代数寄空間を煎茶の要素からよみとく、新たな解釈を提示する。【2刷】

比較文化史・文明史

園田英弘編著

逆欠如の日本生活文化

日本にあるものは世界にあるか

2005 / A 5判 / 404頁

本体3,800円 ISBN4-7842-1248-5

「日本にあるものは外国にもある」というものの見方「逆欠如論」に基づき、日本の生活文化の諸相を分析。日本人が日常的に関わる生活文化を国際比較することによって、問題点の発見と理解を深める。国際日本文化研究センターの共同研究成果14篇。

今谷 明 編

王権と都市

2008 / A 5判 / 372頁

本体6,800円 ISBN978-4-7842-1396-2

清水恵美子著 〈2012年度芸術選奨文部科学大臣新人賞〉

岡倉天心の比較文化史的研究

ボストンでの活動と芸術思想

2012 / A 5判 / 548頁

本体10,700円 ISBN978-4-7842-1605-5

熊倉功夫編

日本の食の近未来

2013 / 四六判 / 260頁

本体2,300円 ISBN978-4-7842-1678-9

陳 凌虹著 〈第20回日本比較文学学会賞〉

日中演劇交流の諸相

中国近代演劇の成立

2014 / A 5判 / 418頁

本体8,000円 ISBN978-4-7842-1722-9

佐野真由子編

万国博覧会と人間の歴史

2015 / A 5判 / 758頁

本体9,200円 ISBN978-4-7842-1819-6

宗像衣子著

響きあう東西文化

マラルメの光芒、フェノロサの反影

2015 / A 5判 / 394頁

本体5,400円 ISBN978-4-7842-1814-1

椎名仙卓著

明治博物館事始め

【オンデマンド版】

2015 / 四六判 / 268頁

本体4,800円 ISBN978-4-7842-7002-6

岡本貴久子著

記念植樹と日本近代

林学者本多静六の思想と事績

日文研叢書

本体9,000円 ISBN978-4-7842-1843-1

王静著

現代中国茶文化考

【オンデマンド版】

2020 / A 5判 / 308頁

本体6,200円 ISBN978-4-7842-7045-3

寺本敬子著 〈第5回ジャポニズム学会奨励賞〉

パリ万国博覧会と ジャポニズムの誕生

2017・2018 / A 5判 / 370頁

本体6,500円 ISBN978-4-7842-1888-2

日文研での研究の集大成として、編者が壮大な展望のもと組織した共同研究「王権と都市に関する比較史的研究」の成果。日本、アジア・イスラーム、ヨーロッパの3領域から11篇の論文を収め、各時代・各地域での都市史のあり方を相互に比較検討し、「都市とは何か」という命題の解明に挑む。

明治時代に美術分野で活躍した思想家、岡倉覚三（天心、1863～1913）の、特にそのボストンでの活動に焦点をあてて考察。ボストンと日本における岡倉像の比較、同時代の文化的状況、美術、演劇、音楽の動向など複眼的な視座からのアプローチを通して、より立体的に「岡倉天心」像を再検証。

静岡文化芸術大学共同研究の成果。【内容】日本の伝統的食文化としての和食の行方/日本における家族の変化と食生活/食空間と将来/「食のとらえ方」のパラダイムシフトを求めて/高齢者と食の満足/鼻で食べることと目で食べること/国民食になった餃子/食生活の変遷からみた日本の食の来し方行く末

日本の明治期、中国の清末民国初期における日中演劇界の緊密な連携関係、とりわけ中国の近代演劇の成立に果たした日本の役割について、両国話劇のはしりである文明戯（中国）と新派（日本）の関係を中心に、新史料と具体的事象（人物の往来、脚本の翻訳、舞台芸術）を通して総合的に論じる。

近代以降を研究する上で、万国博覧会は決して見過ごすことのできない対象であるが、自国への関心の集中、現場の視点の欠如など偏りもあった。本書は従来の枠組みを超え、多様な領域の研究者のほか、アジア各国の研究者、政府関係者、業界関係者が集い、ともに議論を重ねた共同研究の成果。

19世紀フランス象徴主義の巨匠・詩人ステファヌ・マラルメについての諸芸術の相関的研究から、日本の伝統芸術・文化を欧米に紹介してその価値を究めたアーネスト・フェノロサとの関係へと至るものであり、東西の芸術文化の交流の諸相および日本文化の価値を、現代に向けて照らし出す一書。

明治初期、近代化と博覧会ブームを背景に次々と誕生した博物館、その「正史」からはこぼれがちな興味深いエピソードを通して、明治という時代が鮮やかに甦る。巻末に「主要参考文献」「博物館変遷図」「明治博物館年表」を付す。初版1989年。

近代日本で行われた「記念植樹」を歴史事象、林学の創成と展開等時代背景と照合しながら総合的に分析。特に、その主導的立場にあり、方法論を構築した林学者・本多静六に注目し、彼の思想を視野に入れながら記念植樹の歩みを跡づける。2016 / A5判 / 568頁

いまや現代中国のアイデンティティともいえる、茶文化。その茶文化を創造し、再構築した政治的・経済的文脈とは？どのようなプロセスを経て、いかなる力が働いているのか。茶そのものがもつ可能性とは。中国の現代茶文化を映し鏡として、文化が本来もつ意味と力を見つめ直す。初版2017年。

1867年・1878年のパリ万国博覧会を舞台に交差する国家の思惑、人と物。「アジア」の中に埋没していた日本のイメージが次第に像を結び、ジャポニズムという「熱狂」へと収斂していく。日仏両国の史料を駆使し、フランス、日本、パリの観衆の相互作用を通じてジャポニズムの誕生を明かす。 【3刷】

白幡洋三郎・劉建輝編著

異邦から／へのまなざし

見られる日本・見る日本

2017／A5判／256頁

本体2,800円 ISBN978-4-7842-1896-7

稲賀繁美編

海賊史観からみた世界史の再構築

交易と情報流通の現在を問い直す

2017／A5判／852頁

本体14,000円 ISBN978-4-7842-1881-3

大塚英志編

動員のメディアミックス

〈創作する大衆〉の戦時下・戦後

2017／A5判／520頁

本体4,800円 ISBN978-4-7842-1897-4

米家泰作著

森と火の環境史

近世・近代日本の焼畑と植生

2019／A5判／384頁

本体7,500円 ISBN978-4-7842-1973-5

日文研所蔵の明治～戦前期古写真と外地絵葉書など（外像）を素材に、近代以降、日本とその周縁をめぐる「異邦」のまなざしの往還と交錯を描出。近代以来、日本が外部のまなざしをいかに内面化し、外部を見始めたかという文明論的な継承・踏襲の姿を、浮かびあがらせる。カラー画像約500点。

文化交渉・交易全般における「海賊行為」を総合的に再検討することを目的とし、国際日本文化研究センターで行われた共同研究の報告書。【内容】インターネット時代の知的財産権と海賊行為／剽窃・贋作・模造品の遊泳術／「大航海時代」再考／認知か越境か？／海賊の修辞学

現代の日本まんが・アニメーションにおけるマーケティング技法として注目されるメディアミックスを、とくに戦時下日本における「動員」の技術として捉え直すことで、メディア、プロパガンダ研究史の更新を試みる論集。一次資料として、三木茂（1905～78 記録映画監督）インタビューを収録。

火を用いた人と環境との関わりとして焼畑をとらえ、焼畑の近世的展開と「進化」、土地制度史と焼畑、火と植生のポリティクス（政治）を問う。「人為の火」という観点から、日本の焼畑の歴史地理と環境史を再考する試み。

民俗・文化人類学

朝倉無聲著

見世物研究

巻頭言・郡司正勝／解説・守屋毅

1977・1999／A5判／408頁

本体6,800円 ISBN4-7842-0684-1

柳瀬木鶏編

菓子文庫シリーズ〔全7冊〕

舞台芸術や学問から見捨てられてきた見世物は、本書によって初めて歴史的視野と分類の体系を与えられた。記録類を残すまいとする本性に立ち向かい、文化史・民俗学・民族学さらに舞台芸術にも新しい視野を与えた昭和3年版の復刻。新たに補遺・参考資料・解説・索引を付した。【4刷】

日本古来からの和菓子の伝書を影印し、その翻刻とさらには今日の解説を加える。手すき紙を使用した愛蔵版。

料理新製 以毛百珍 本体 14,563 円

諸国名物 御前菓子秘傳鈔（全2冊） 本体 24,272 円

林氏塩瀬山城傳來記 本体 14,563 円

餅菓子即席 増補手製集 【品切】

古今名物御前菓子図式（全2冊） 本体 24,272 円

1990／B5判／和装帙入／平均80頁

奥沢康正訳

外国人のみたお伽ばなし

京のお雇い医師ヨンケルの『扶桑茶話』

1994／A5判／370頁

本体7,282円 ISBN4-7842-0806-2

鈴木達也著

喫煙伝来史の研究

1999／A5判／360頁

本体5,500円 ISBN4-7842-1018-0

明治5年に京都府が招聘したドイツ人医学教師ヨンケルは、講師の語る昔話を記録した。本書は、帰国後の1884年ウィーンで出版された『扶桑茶話』（「七福神の宝舟」「漁夫浦島」など33篇）の翻訳と、ヨンケルの履歴・業績・『扶桑茶話』をめぐる詳細な解説、京都府発行文書等の資料からなる。

喫煙が伝来して400年余となるがその経緯については不明部分も多く俗説や風説が流布している。本書では、キリシタン史・対外交渉史・欧州の伝来史まで幅広い史料の探索によってタバコ・キセル・種子などの具体的な伝来を明かす（在外の関係図版多数収録）。

内田順子著

宮古島狩俣の神歌

その継承と創成

2000 / A5判 / 300頁

本体6,600円 ISBN4-7842-1036-9

朱家駿著

神霊の音ずれ

太鼓と鉦の祭祀儀礼音楽

2001 / A5判 / 196頁

本体3,500円 ISBN4-7842-1095-4

大阪天満宮文化研究所編

天神祭

火と水の都市祭礼

2001 / B5判 / 200頁

本体2,600円 ISBN4-7842-1092-X

上田篤著

鎮守の森の物語

もうひとつの都市の緑

2003 / 四六判 / 300頁

本体1,700円 ISBN4-7842-1155-1

笹原亮二著

三匹獅子舞の研究

2003 / A5判 / 330頁

本体6,500円 ISBN4-7842-1151-9

金谷美和著

布がつくる社会関係

インド絞り染め布とムスリム職人の民族誌

2007 / A5判 / 330頁

本体6,200円 ISBN978-4-7842-1341-2

岩間香・西岡陽子編 / 京極寛写真

祭りのしつらい

町家とまち並み

2008 / B5判 / 224頁

本体2,200円 ISBN978-4-7842-1360-3

笹原亮二編

口頭伝承と文字文化

文字の民俗学 声の歴史学

2009 / A5判 / 444頁

本体7,000円 ISBN978-4-7842-1447-1

信多純一著

祈りの文化

大津絵模様・絵馬模様

2009 / B5判 / 170頁

本体3,500円 ISBN978-4-7842-1425-9

武田佐知子編

着衣する身体と女性の周縁化

2012 / A5判 / 500頁

本体5,800円 ISBN978-4-7842-1616-1

沖縄県宮古島狩俣集落における伝統的祭祀歌謡(神歌)の永年のフィールドワークをもとに、歌われる歌の諸表現が、そのつどどのように生み出され、それが演唱者や社会によってどのように意味づけられてゆくのか。歌詞のみによらない新たな歌謡分析の方法を提示した意欲的な一書。

中国・日本を中心とする広い漢字文化圏という背景を念頭におきつつ、音楽の源流を祭祀儀礼音楽に求め、太鼓と鉦や鈴などの呪具、音具に焦点をあて、音楽とは何かを考察する。音と文字の関係、中国の史料や楽器、出土品との比較・検証など、視野を広げた総合的な研究を展開。

口絵カラー 48頁 **天神祭の歴史** 天神祭の起源をさぐる / 天神祭の成立と発展 **描かれた天神祭** 天神祭船渡御図について / 近世絵画にみる天神祭 / 夢の中にある船渡御 **発展する天神祭** 「天神祭図巻」について / よみがえった天神丸と御迎人形 / 天神祭における渡御筋と空間演出

大阪万博の会場計画に「お祭り広場」として鎮守の森の概念を取りこんで以来、調査・研究にあたってきた著者の総決算。「鎮守の森はひとびとの生活や生産、信仰や芸能を含む文化複合体」という観点から、北は津軽から南は沖縄まで、鎮守の森を歩いた探訪記録。

神奈川県北部に伝わり、現在も演じられている三匹獅子舞をどのように理解し、記述することができるかという取り組みの成果。上演の実態に焦点を定め、どのように上演しているかを、観察とインタビューを主とした現地調査によって得た情報・資料によって解明を試みる。

染色業者カトリと彼らの生産する布について民族誌的記述を行い、布の生産・使用によって構築される社会関係について論じる。また同じ衣服体系を共有するムスリムとヒンドゥーの社会関係にも着目し、その様相を明かす。文化人類学的研究において布を視点として社会を分析するというモノ研究の新たな可能性を拓く。

祭りにはまち並みを飾るという側面がある。全国の祭礼を調査してきた編者が、豊富なカラー写真とともに、祭り飾りの歴史と現状、町家の装い、祭りの伝統文化を活用したまちづくり、まち並み保存と祭り、大阪の造り物史などについて執筆。巻末に、探訪ガイドにもなる祭礼百選を付す。

「口頭伝達を重視する民俗学、文献を重視する歴史学」という固定観念は崩れつつあるものの、明確な方法論は未だ打ち出されていない。フィールドワークによる生の資料と、文字で伝えられた資料両者の扱いかたに着目し、新たな研究方法について論じる。国立民族学博物館での共同研究の成果。

江戸時代から近江大津にて作られ、土産として民衆はもちろん文化人の間でも愛された民画・大津絵。その多彩に綾なす信仰、祈り、教訓、そして遊びの画題は、多くの人々の想念の数々を端的に映し出す。その起源・絵馬との共通点・画題の意味など新考察を加え、多くの図版をあげて解説した全大津絵の事典。

着衣という共通の素材を通して、特定の社会におけるジェンダーのあり方を考察。グローバルな視点から、世界における女性の周縁化を説き明かす論文集。取り上げる素材は、「民族衣装」「魔女」「リカちゃん人形」「マイケル・ジャクソン」等、多岐にわたる一書。

中嶋奈津子著
はやちねたけかぐら
早池峰岳神楽の継承と伝播
佛教大学研究叢書 18
本体4,600円 ISBN978-4-7842-1676-5

岡田万里子著
京舞井上流の誕生

2013 / A 5判 / 552頁
本体9,000円 ISBN978-4-7842-1672-7

鈴木達也著
世界喫煙伝播史

2015 / A 5判 / 592頁
本体8,500円 ISBN978-4-7842-1799-1

斎藤英喜編
神話・伝承学への招待

2015 / A 5判 / 266頁
本体2,300円 ISBN978-4-7842-1813-4

金 賢旭 著 (第4回林屋辰三郎藝能史研究奨励賞)
翁の生成
渡来文化と中世の神々
【オンデマンド版】

本体5,000円 ISBN978-4-7842-7010-1

和食文化国民会議監修
和食文化ブックレット
ユネスコ無形文化遺産に登録された和食

2015～2018 / A 5判 / 各96頁 / 全10冊
(各)本体900円

中安真理著
くご
箜篌の研究
東アジアの寺院莊嚴と絃楽器
本体6,000円 ISBN978-4-7842-1849-3

宇野日出生著
八瀬童子
歴史と文化
【オンデマンド版】
2016 / 四六判 / 226頁
本体4,500円 ISBN978-4-7842-7024-8

早池峰神楽とは、岩手県北上高地の主峰早池峰山麓の二つの集落に伝承される岳神楽と大償神楽の総称である。岳神楽と、その流れを汲む神楽に着目し、師弟構造と機能、岳神楽の継承と伝播について時代背景を踏まえながら解き明かす。
2013 / A 5判 / 234頁

〈第35回サントリー学芸賞・第9回林屋辰三郎藝能史研究奨励賞・第46回日本演劇学会河竹賞奨励賞〉一際異彩を放つ井上流派は、どのように誕生したのか。近世から近代にいたる流派の歴史を検証し、伝承作品群の成立背景を考証。近世後期京都における芸能的世界の解明に挑む。 【2刷】

前著『喫煙伝来史の研究』において、従来の諸説の問題点に光を当てた著者が、前編では新大陸からヨーロッパ、中近東、アフリカの諸地域へ伝播したタバコと喫煙について考察。後編では日本への伝来、アジア近隣諸国への伝播について、諸説を改めて見直し、時間軸上に矛盾のない説を展開する。

桃太郎は、なぜ桃から生まれてくるのだろうか——その答えは『古事記』のなかにあった。従来、別々のジャンルで扱われてきた「神話」「伝説」「昔話」について、総合・学問的に研究する「神話・伝承学」。本書は11の章と7つのコラムにより、魅力ある「神話・伝承学」の世界へ誘う入門書。

中世の翁信仰の生成過程を諸縁起や史料から読みとることで、そこに色濃く反映された韓半島からの渡来文化の姿を見いだし、さらに日本芸能のルーツである翁猿楽の成立についても、韓半島シャーマニズム文化の影響を指摘。初版2008年。
2016 / A 5判 / 252頁

和食の典型的なスタイル、和食文化というべき食べ方、食器、しつらい、マナー。さらに和食の食材、調理法、盛りつけなど、一番基本となる所が学べるテキストシリーズ。郷土料理を含めた広義の和食文化を視野に食育、地産地消、年中行事などとも絡めながら、やさしく説きおこす。関連図版多数掲載。

- | | |
|--------------------------------|------------------------|
| ①和食とは何か 【4刷】
熊倉功夫・江原絢子著 | ⑥食材と調理
大久保洋子・中澤弥子著 |
| ②年中行事としきたり
中村羊一郎著 | ⑦うま味の秘密
伏木亨著 |
| ③おもてなしとマナー 【2刷】
熊倉功夫・後藤加寿子著 | ⑧ふるさとの食べもの
今田節子・清絢著 |
| ④和食と健康 【2刷】
渡邊智子・都築毅著 | ⑨和菓子と日本茶
藪光生・中村順行著 |
| ⑤和食の歴史 【2刷】
原田信男著 | ⑩和食と日本酒
増田徳兵衛著 |

浄土では自然と音楽が湧きおこり、仏の功德を謳っている一寺院にて、その音楽を象徴したのが、建築物に飾られた楽器である。長く仏教建築を莊嚴しながらも廃れてしまった絃楽器「箜篌」。日中の文献を博捜し、その実態を明かす。
2016 / A 5判 / 280頁

京都八瀬の地に平安時代より生活してきた、八瀬童子。今まで非公開であった関係文書を調査し、民俗調査を行った著者が、苦難にみちた激動の歩み、今に伝わる思想・行動を歴史に裏付けられた「文化」としてとらえた一書。初版2007年。

斎藤英喜・井上隆弘編

神楽と祭文の中世

変容する信仰のかたち

2016 / A 5判 / 390頁

本体8,000円 ISBN978-4-7842-1871-4

MIHO MUSEUM編 / 伊東史朗監修

猿楽と面

大和・近江および白山の周辺から

2018 / B 5判 / 402頁

本体3,200円 ISBN978-4-7842-1936-0

森田都紀著

能管の演奏技法と伝承

2018 / A 5判 / 252頁

本体8,000円 ISBN978-4-7842-1932-2

ウェルズ恵子編

ヴァナキュラー文化と現代社会

2018 / A 5判 / 336頁

本体6,000円 ISBN978-4-7842-1933-9

橋爪伸子著

地域名菓の誕生

【オンデマンド版】

2018 / A 5判 / 486頁

本体9,700円 ISBN978-4-7842-7039-2

和食文化国民会議監修

和食手帖

2018・2019 / 新書判 / 192頁

本体1,500円 ISBN978-4-7842-1913-1

小山聡子・松本健太郎編

幽霊の歴史文化学

二松学舎大学学術叢書

2019 / 四六判 / 344頁

本体2,500円 ISBN978-4-7842-1964-3

京都文化博物館企画・編集

京都 祇園祭

町衆の情熱・山鉦の風流

2020 / B 5判 / 250頁

本体2,500円 ISBN978-4-7842-1987-2

小山聡子編

前近代日本の病気治療と呪術

2020 / A 5判 / 306頁

本体8,000円 ISBN978-4-7842-1988-9

「民俗芸能」と呼ばれ、古代以来伝わりとされる「神楽」。しかしその深層には、牛頭天王のような異神の信仰、死霊に関わる祭儀等、混沌とした「中世」の信仰の形が現れる。中世の信仰と思想を伝える「祭文」を軸に、中世神楽及び関連する陰陽道・密教・アジアの巫俗の世界を読み解く意欲作。

MIHO MUSEUMで開催された同名展覧会図録。平安後期から安土桃山時代にわたる350点(うち重文80点)の「面(おもて)」をカラーで掲載、約500点の面の表／裏を収録。大和四座の本拠地大和、加賀馬場、越前馬場、美濃馬場の祭礼に使われた面等を幅広く収集。猿楽(能楽の古称)の世界を紐解く。

室町時代末期から昭和期までの唱歌譜の解説と、近現代の演者の演奏技法の分析を通して、能管を中心とする能楽の演出の形成過程を歴史的に解明しようと試みる。これまでは社会的側面ばかりが注目されがちであった能研究の歴史に、音楽学の専門家が、演奏実践の観点から新たな1ページを刻む。

「ヴァナキュラー文化」とは、ある集団の生活に深く関連した文化と、特定の時期や時代や状況や土地で発生した文化、そうした文化の底流となっている伝統を指す。本書はヴァナキュラー文化研究を牽引する日米の執筆者による、文化についての意識を高め、より身近にするための指標となる一冊。

地域名菓の成立背景について研究した書籍はなかった。現在菓子のような位置をしめる「地域名菓」が近代に新たに成立した事を、近世からの連続性に注目しつつ実証。地域そのものを贈り、味わい、万人で共有することの可能な、唯一の食べ物である地域名菓。その栄枯盛衰の物語。初版2017年。

ユネスコ無形文化遺産に登録された「和食」とは、どのような文化なのか。その定義や歴史、食事マナーや調理方法、食材の特徴や資料など、教養から実践のための知識まで幅広く収めた一冊。【内容】和食とはなにか／日常の和食／和食の食材／加工食品／各地の食／食に関する資料 【2刷】

本来、目に見えないはずの幽霊——日本人はそれを文学作品や絵画、映像によって描いてきた。幽霊をどう感知し、表象するためにいかなる工夫をし、幽霊に何を求めたのか。歴史学、メディア学、文学、美術史学、宗教学、社会学、民俗学等様々な分野から日本人の精神世界の一端に迫る。 【2刷】

2020年3月24日～5月17日にかけて京都文化博物館で開催された展覧会の図録。山鉦を飾る舶来の希少な懸装品や華麗な装飾品の数々を紹介し、祇園祭の全貌を示すとともに、山鉦に込められた物語やその歴史、山鉦の装飾美として結実した京都の技術と芸術の粋を一堂に集めて、祇園祭の本質に迫る。

前近代では、病気の原因はモノノケ(物の気)とされることが多く、その治療は宗教者の呪術にまかされていた。本書は、霊魂観や神の性質の変化、治療者の移り変わり、大陸からの医書や薬学書の流入による医学の発達などを背景として、病気治療と呪術のあり様の展開を論及する。

考 古 学

山崎一雄著

古文化財の科学

1987・2002 / A5判 / 380頁
本体6,300円 ISBN4-7842-0482-2

岡本健一著

蓬莱山と扶桑樹 日本文化の古層の探究

2008 / A5判 / 442頁
本体5,500円 ISBN978-4-7842-1400-6

別府大学文化財研究所・九州考古学会・大分考古学会編

キリシタン大名の考古学

別府大学文化財研究所企画シリーズ②

「ヒトとモノと環境が語る」
本体3,800円 ISBN978-4-7842-1472-3

後藤宗俊著

せんぶつ

塙仏の来た道

白鳳期仏教受容の様相

本体5,700円 ISBN978-4-7842-1433-4

門田誠一著

文学のなかの考古学

佛教大学鷹陵文化叢書19

2008 / 四六判 / 308頁
本体2,300円 ISBN978-4-7842-1430-3

堀内明博著

日本古代都市史研究

古代王権の展開と変容

2009 / B5判 / 514頁
本体15,000円 ISBN978-4-7842-1457-0

門田誠一著

高句麗壁画古墳と東アジア

2011 / A5判 / 448頁
本体8,600円 ISBN978-4-7842-1546-1

石原 渉 著

いかり

碇の文化史

佛教大学研究叢書25

2015 / A5判 / 332頁
本体5,800円 ISBN978-4-7842-1791-5

古文化財の科学的研究の第一人者による45年余にわたる成果。正倉院宝物の調査、装飾古墳・高松塚・法隆寺金堂壁画・柴山寺八角堂・醍醐寺五重の塔・源氏物語絵巻などの顔料分析、正倉院の陶器・ガラスや緑釉陶などの科学分析、銅鏡・銅鐸・青銅器などの成分分析に関する報告を収録。【4刷】

中国伝来の神仙思想のうち、不老長生の仙境「蓬莱山」のイメージと、生命更新の仙木「扶桑樹」のシンボル。日本の古墳時代を解き明かすうえでの二大キーワードが、なぜか古代史や考古学の分野では、長らく見過ごされてきた。20年前より「前方後円墳＝蓬莱山起源」説を提唱してきた著者の集大成。

キリシタンにかかわる遺跡の発掘が進み、研究は新しい段階に入っている。考古学的成果だけではなく、文献学や分析科学等の他領域の成果も融合し、新しい戦国城下論・キリシタン考古学論・流通論等、新たな研究手法を提示。【2刷】

2009・2014 / B5判 / 178頁

インドから中国を経て奈良に伝来した塙仏が大分県虚空蔵寺跡で多数出土する。「塙仏の来た道」をたどり、祈りの諸相と、その途上に浮かぶ僧の信仰と人間像に迫る。虚空蔵寺跡調査に携わった著者が考古・美術史・文献史学など学際的に解明。2008 / A5判 / 322頁

考古学の分野を研究する著者が、小説や古典芸能などに描写された考古学的要素や、それらの背景となった歴史的あるいは文化的な背景について、考古学的に接近を試みる。民話、民謡なども広義の文学として取り扱い、文学と考古学の間に生まれる新たな可能性を提示。図版多数。

都市遺跡発掘調査に携わってきた著者の研究成果。長岡京の東宮と左京東院、平安京の条坊と市・町の形態などの王朝都市から、白河・鳥羽殿、源氏・平氏の館などの中世前期都市まで、都城の展開と変容過程を時系列的に分析し、古代王権のあり方を考古学の成果から解明。掲載図版多数。

高句麗古墳壁画に描かれた図像や題材のなかで、もっとも重要な対象である墓主像に焦点をあて、文献や金石文と照らし合わせながら体系的に考察。東アジア地域の壁画史料との相關的検討を行い、高句麗社会と文化の一端を復元し、古代のみならず、東アジアの歴史的時空の再構築をめざす労作。

歴史学という大きな枠組みの中から、時には考古学的な見地から出土遺物をとらえ、またあるときは文献資料や絵画資料を駆使し、民俗例や伝承、風俗といったものも絡めて、碇をただ単なる繫船具にとどめることなく、碇の変遷を通して見えてくる文化史を浮き彫りにしていく一書。

史 料

近衛通隆・田山方南監修／陽明文庫編
陽明叢書国書篇〔全15輯・全16冊〕

1975～1978／菊判／平均520頁
揃 本体189,500円

藤原氏の嫡流である近衛家に歴代集積・収蔵されて来た貴重な史料や文献は、今日、陽明文庫と命名され保存されている。この文庫の内から特に国文学に関係深いものを選び、専門家諸氏の解説を得て写真複製本として公開。

第1輯 古今和歌集	本体11,000円
第2輯 後拾遺和歌集	本体12,500円
第3輯 千載和歌集・長秋詠藻・熊野懷紙	本体10,200円
第4輯 平安歌合集（全2冊）揃	本体21,600円
第5輯 中古和歌集	本体12,800円
第6輯 中世和歌集	本体11,800円
第7輯 和漢朗詠集・新撰朗詠集	本体10,800円

第8輯 古楽古歌謡集	本体11,800円
第9輯 伊勢物語・大和物語	本体10,800円
第10輯 枕草子・徒然草	本体13,800円
第11輯 保元物語	本体13,300円
第12輯 平治物語・明徳記	本体12,000円
第13輯 宇治拾遺物語	本体10,800円
第14輯 中世国語資料	本体13,800円
第15輯 大手鑑・予楽院臨書手鑑	本体12,500円

近衛通隆・田山方南監修／陽明文庫編
陽明叢書国書篇
第十六輯 源氏物語〔全16冊〕

1979～1982／菊判／平均430頁
③品切／揃 本体138,000円（品切除く）

『陽明叢書国書篇全十五輯』に引き続き、第十六輯として、青表紙本系にも河内本系にも属さぬ別本として貴重な本文を伝える重要文化財指定「源氏物語」（鎌倉中期書写、陽明文庫収蔵）を原本さながらに写真版で収録、復刻を加え上梓。

徳川黎明會編
徳川黎明會叢書〔全11冊〕
1985～／A5判／平均450頁
揃 本体148,000円

徳川黎明會は、昭和6年尾張徳川家第19代侯爵徳川義親公により創立された。本叢書は、同財団所蔵の徳川家伝来あるいは蒐集の膨大な史料の中から、国文学、書道、美術資料として貴重な典籍を精選し、未公開のものを中心にまとめた。

絵巻聚成(一)	物語篇一	本体13,000円
古今和歌集	和歌篇一	本体13,000円
私家集・歌合	和歌篇二	本体12,000円
八代抄・新後拾遺和歌集	和歌篇三	本体14,000円
桐火桶・詠歌一鉢・綺語抄	和歌篇四	本体14,000円
和歌題林抄・三千首和歌・萱草	和歌篇五	本体14,000円
玉海・尾陽	古筆手鑑篇一	本体14,000円
蓬左・霜のふり葉・八雲	古筆手鑑篇二	本体13,000円
藁叢・桃江・文車	古筆手鑑篇三	本体14,000円
鳳凰台・水荳・集古帖	古筆手鑑篇四	本体13,000円
古筆聚成	古筆手鑑篇五	本体14,000円

伊井春樹編
古筆切資料集成〔全6巻〕

1989～1993／A5判／平均470頁
揃 本体49,000円

奈良・平安・鎌倉の貴重な古写本や卷子本が解体され、室町末期から江戸初期にかけて大量に出回った古筆切。本書では現物及び複製出版など、今日までに刊行されたものから、一葉ごとに忠実に翻刻し、作品別・伝称筆者順に集成。最終巻には補遺と共に詳細な索引を付す。

田中 登 編

平成新修古筆資料集

第一～五集【第一集品切】

2000～／A5判／平均260頁

①本体2,600円 ②～⑤(各)本体2,500円

小林 強・高城弘一共著

古筆切研究

第一集

2000／A5判／280頁

本体2,800円 ISBN4-7842-1040-7

大取一馬責任編集

平家物語語〔全4冊〕

龍谷大学善本叢書13

1993／A5判／平均520頁

本体42,000円 ISBN4-7842-0794-5

家郷隆文責任編集

四十人集〔全3冊〕

龍谷大学善本叢書18

1998／A5判／総2100頁

本体48,000円 ISBN4-7842-0970-0

秋本守英責任編集

類聚古集〔全3冊〕

龍谷大学善本叢書20

2000／B5判／総1800頁

本体57,000円 ISBN4-7842-1041-5

大取一馬責任編集

詞源要略・和歌会席

龍谷大学善本叢書24

2004／B5判／290頁

本体19,000円 ISBN4-7842-1196-9

安藤 徹 責任編集

三条西公条 源氏物語細流抄

龍谷大学善本叢書25

本体28,000円 ISBN4-7842-1234-5

大取一馬責任編集

太平記

龍谷大学善本叢書26

2007／A5判／794頁

本体15,000円 ISBN978-4-7842-1365-8

大取一馬責任編集

中世歌書集

龍谷大学善本叢書31

2013／A5判／650頁

本体13,300円 ISBN978-4-7842-1688-8

中本 大 編

めいようしゅう

名庸集 影印と解題〔全3巻〕

2013／A5判／総1282頁

本体38,000円 ISBN978-4-7842-1708-3

古筆切は国文学の研究上重要な資料であり、また優れた美術品でもある。それらは古筆を愛する人々や必要とする人々の共有財産となるべきとの観点から、編者蒐集の所蔵品の中から各約120点を解説と図版で分かりやすく紹介。

近年、古筆切に対する関心が高まりさまざまな研究がなされてきた。本書は著者蒐集の古筆切の選りすぐりの50点を紹介。1点ごとに影印・解題・釈文の他、関連資料についても言及し、詳細な解説を加える。古筆学研究者のみならず、国文学・書誌学・書学・書道史の研究者にとっても必読の書となろう。

龍谷大学図書館所蔵写字台文庫旧蔵の「平家物語」全12巻を影印で収録。同書は語り本系一方流諸本の中で覚一本の最善本として高く評価され、文学的にも最も完成された伝本といわれる最古写本。岩波本「日本古典文学大系」の底本となったものである。

本四十人集は平安～鎌倉期にかけての歌人41人の私家集を書写した40冊の叢書で、澄月や小澤蘆庵の門人らが書写し、さらに蘆庵による朱筆の校合・訂正が加えられ、伝本研究のみならず蘆庵の仮名遣いの訂正など興味深い史料である。全冊を影印で収め、各冊に収録分の解説を併載。

万葉集研究に不可欠の孤本『類聚古集』（国宝）を新撮によって完全収録。上段に原本影印、下段に書写状態を完全に反映させた翻刻を収めた。索引篇の各句索引では、本文のみならず朱書き・傍記・異本表記からも検索可能なものを備え、さらに逆引き索引も併載。同冊には研究論文2篇を加える。

室町後期の清原宣賢による自筆二点の史料を影印と翻刻で収録。和歌に関する分類体としての辞書である『詞源要略』と和歌作法書としての『和歌会席』は、いずれも清原家の和学（古典学）の成果であり、歌学史・辞書史の基本史料。

『細流抄』を親本とした三条西実隆の『源氏物語』講釈の開書にもとづき、子の公条が注釈書の草稿として作成したものと考えられる。三条源氏物語の歴史や『源氏物語』註釈史を考察する上で貴重な資料。影印と全文翻刻を収録
2005／B5判／706頁

龍谷大学図書館所蔵の『太平記』は、室町時代末期の写本で、巻1から巻12までの12冊である。現在の分類では丙類の天正本系統に分類され、国立国会図書館蔵義輝本と同じ祖本をもつ伝本であるという位置づけがなされている。また当該本は寫字臺文庫本の一つである。全冊を影印で収録。

龍谷大学図書館所蔵、写字台文庫とは、西本願寺歴代宗家が収集し、室町期にまでさかのぼる古刊本、古写本等のコレクション。その旧蔵歌書のうち、天下の孤本や最古の写本など貴重書と認められる5点の典籍を選び影印公開、解説を付す。
【内容】愚見抄／光闡百首／詞字注／自讃歌注／九代抄

幻の史料『名庸集』。室町時代の学僧が用いた「人名引き百科辞書」といえ、340余名の人名を「帝王」「聖賢」「補弼・將軍」「文人・驥客」「道家・諸子」「美人」「仙人」の順に配列。中世から近世初期にいたる文学史・歴史・美術史等の研究に資する。ツレの『燈分集』影印と、編者による解説を付す。

藤田保幸責任編集

中世国語資料集

龍谷大学善本叢書33

2017 / A 5判 / 340頁

本体17,400円 ISBN978-4-7842-1912-4

龍谷大学図書館所蔵資料より、国語学的に貴重な資料をえらび、カラー口絵・影印ならびに解説を収録。

〔解説〕 宇都宮啓吾 / 三宅えり / 余田弘実

〔内容〕 職原抄 / 異名尽 / 名目抄

上 代

桑原祐子著

正倉院文書の国語学的研究

2006 / A5判 / 300頁

本体5,400円 ISBN4-7842-1275-2

正倉院文書は、原本の存在、編纂物ではない、多種多様な内容、多量の同類文書・帳簿の存在、筆録者と年月日が特定できるなど、他の古代国語資料にはない特質を持つ。本書は具体的な語彙に注目、文字の形態と語の意義の関係を明かし、新語の発生・ゆれ・定着の過程を実証し、語の変遷を考察。

中 古

中川浩文論文集 下巻

源氏物語の国語学的研究

1985 / A5判 / 552頁

本体14,000円 ISBN4-7842-0198-X

京都女子大学、龍谷大学で教鞭をとり、物語文学・和歌文学・仏教文学の国語的研究・指導に励んだ氏の遺稿のうち、源氏物語の表現と語法の論考12篇、和歌「元輔集・紫式部集」に関する論考4篇、仏教文学、主として和讃に関する論考8篇を収める。付・中川浩文略歴・著作目録

角田文衛・加納重文編

源氏物語の地理

1999 / A 5判 / 436頁

本体6,200円 ISBN4-7842-1010-5

作品の世界を交差する虚構と実在。等閑視されてきた源氏物語の地理的考察において創始的な研究論文を集成。作品中に形象した地理的世界を把握。【執筆】 玉上琢彌 / 長谷章久 / 角田文衛 / 増田繁夫 / 加納重文 / 大井重二郎 / 原田敦子 / 小山利彦 / 森本茂 / 池浩三 / 高橋和夫 / 奥村恒哉 / 福岡昭治

西崎 亨 著

訓点資料の基礎的研究

1999 / A5判 / 530頁

本体18,000円 ISBN4-7842-1001-6

不空羂索神呪心経・金光明最勝王経・三教指帰・古文孝経・論語抄・和漢朗詠集・音義断簡などの諸資料にみられる訓点についての貴重な基礎研究22篇を収録。

国文学研究資料館編

源氏物語 千年のかがやき

2008 / A 4判 / 168頁

本体1,900円 ISBN978-4-7842-1437-2

新出の国文学研究資料館蔵『源氏物語团扇画帖』全54枚をカラーで掲載し、詳細な解説を付す。あわせて図様が近似する他の源氏絵についても参考資料として多数掲載。描く・書き写す・鑑賞するという3つの観点から、源氏物語が千年間どのように享受されてきたのか、豊富なカラー図版で紹介。

川崎佐知子著

『狭衣物語』享受史論究

2010 / A 5判 / 650頁

本体12,000円 ISBN978-4-7842-1486-0

平安朝後期物語の『狭衣物語』の受容の様相を文献学的見地から分析検証し、連歌師紹巴が天正18年に著した『狭衣下紐』を享受史の中核に位置づけた一書。陽明文庫蔵『狭衣下紐』2種、宮城県図書館伊達文庫蔵『狭衣物語抄』など未紹介資料5種を全文翻刻掲載。物語文学研究の新スタンダード。

伊井春樹編

一千年目の源氏物語

シリーズ古典再生 1

2008 / 四六判 / 252頁

本体1,600円 ISBN978-4-7842-1408-2

たんなる古典復興ではなく、それらの作品を現代の眼でもう一度見直して再生することを目指して開催された国文学研究資料館主催シンポジウム「一千年目の源氏物語」、思文閣出版・京都新聞社主催シンポジウム「私の源氏物語」をもとにし、斯界の識者による「源氏物語論」を集約。

岡野弘彦編

日本の心と源氏物語

シリーズ古典再生 2

2009 / 四六判 / 246頁

本体1,800円 ISBN978-4-7842-1412-9

山中裕編

歴史のなかの源氏物語

シリーズ古典再生 3

2011 / 四六判 / 310頁

本体2,200円 ISBN978-4-7842-1423-5

逸翁美術館・池田文庫編

源氏物語 遊興の世界

2012 / A 4判 / 98頁

本体1,000円 ISBN978-4-7842-1655-0

歌人である編者が源氏物語に表れた日本の心を読み解く。【内容】『源氏物語』から読む日本人の心の伝統（岡野弘彦）『源氏物語』（グレート・ブックス）の演習方法と実際（須賀由紀子）民俗学から読む『源氏物語』（松田義幸）『源氏物語』の感染教育力（江藤裕之）ネットワーク時代の源氏物語（犬塚潤一郎）

摂関時代の文化のあり方、女流日記と女房文学の本質、とくに藤原道長の存在と紫式部との関係に重点を置いた編者渾身の『源氏物語』論を第一部とし、第二部以降では、准摂論、館会の本質と意義、年中行事・通過儀礼の宴と儀式の本質など、15人の気鋭が、最新の研究成果を展開する。

2012年9月15日～12月2日まで逸翁美術館で開催の同名の展覧会並びに、池田文庫で開催の「宝塚歌劇の源氏物語」展の展覧会図録。物語に描かれた「奏楽」等「遊興」に注目。屏風や画帖等に再現された「遊興」の世界を辿る。「幻」の写本 大澤本源氏物語」や、宝塚歌劇上演の『源氏物語』を紹介。

中 世

高橋貞一著

太平記諸本の研究

1980 / 菊判 / 860頁

本体15,000円 ISBN4-7842-0181-5

本書は、「太平記」の諸伝本を四系統に大別し、それぞれの伝本の性質、成立事情を考究、またその出典を国書、漢籍、仏典と分類して総合的に検討する。「太平記」の性格を究明し、その基礎的研究としては空前のものである。

大取一馬編

中古中世和歌文学論叢

龍谷大学仏教文化研究叢書 9

1998 / A5判 / 300頁

本体7,800円 ISBN4-7842-0983-2

四十人集の調査・研究過程で各執筆者が見出したテーマ。中古中世の和歌の理念や特質、古代和歌受容の問題、作品の成立や解釈に関わる問題、新出資料の価値や散佚私家集を解明する9篇。【執筆著】家郷隆文／石原清志／大取一馬／日下幸男／部矢祥子／中西潔／小林強／木村初恵／安井重雄

大取一馬編

中世の文学と学問

龍谷大学仏教文化研究叢書 15

2005 / A5判 / 492頁

本体8,400円 ISBN4-7842-1271-X

中世の文学や学問の特質の一端を考察し明らかにする。【執筆著】大取一馬 中世の学問 三輪正胤／安井重雄／来田隆 中世の文学 鈴木徳男／小山順子／忠住佳織／松田美由貴／浜畑圭吾／宮川明子 中世の作品の享受とその展開 西山美香／中條敦仁／小林強／万波寿子／日下幸男

糸井通浩編

日本古典随筆の研究と資料

龍谷大学仏教文化研究叢書 19

2007 / A 5判 / 482頁

本体7,200円 ISBN978-4-7842-1349-8

龍谷大学図書館所蔵の日本古典随筆に関する伝写本を調査した研究プロジェクトの成果。『枕草子』『徒然草』雨森芳洲『交隣提醒』についての論文7篇。古典随筆伝写本5本を翻刻。【執筆著】安藤徹／東望歩／外山敦子／糸井通浩／木村雅則／朝木敏子／山崎泰正／忠住佳織／万波寿子／雨森正高

日下幸男編

中世近世和歌文芸論集

龍谷叢書 15

2009 / A 5判 / 432頁

本体6,000円 ISBN978-4-7842-1446-4

編者の華甲記念として、関西を中心に活動する近世和歌輪読会による17篇。【執筆著】中世篇 安井重雄／阿尾あすか／長谷川千尋／長谷川薫 近世篇 大谷俊太／岡本聡／藤本孝一／海野圭介／小高道子／日下幸男／西田正宏／神作研一／盛田帝子／久保田啓一／中川豊／加藤弓枝／万波寿子

小田 剛 著

実国・師光全歌注釈

2009 / A 5判 / 608頁

本体18,000円 ISBN978-4-7842-1478-5

千載・新古今歌人の一人である藤原実国（1140年～1183年）、源師光（生没年未詳）の全歌注釈を試みる。歌（及び詞書など）の本文については、実国集「神宮文庫蔵本」、師光集「三手文庫蔵本」などによった。注釈は、校異、語注、（口語）訳、本歌・本説、補説・参考事項、類歌などを掲載。

酒井茂幸著

禁裏本歌書の蔵書史的研究

2009 / A 5判 / 344頁
本体5,600円 ISBN978-4-7842-1483-9

西崎亨著

くしゃろんおん ぎ 俱舎論音義の研究

2010 / A 5判 / 410頁
本体9,000円 ISBN978-4-7842-1509-6

逸翁美術館編

しゅてんどうじ あしびきえ 絵巻 大江山酒吞童子・芦引絵の世界

2011 / A 4判 / 96頁
本体1,000円 ISBN978-4-7842-1591-1

大取一馬編

典籍と史料

龍谷大学仏教文化研究叢書 28
2011 / A 5判 / 686頁
本体8,500円 ISBN978-4-7842-1592-8

磯水絵・小井土守敏・小山聡子編

源平の時代を視る

二松学舎大学附属図書館蔵 奈良絵本『保元物語』『平治物語』を中心に
二松学舎大学学術叢書
本体4,800円 ISBN978-4-7842-1735-9

大取一馬編

日本文学とその周辺

龍谷大学仏教文化研究叢書 33
2014 / A 5判 / 626頁
本体8,400円 ISBN978-4-7842-1771-7

浜畑圭吾著

平家物語生成考

2014 / A 5判 / 320頁
本体7,000円 ISBN978-4-7842-1769-4

芳澤勝弘編著

せつそうじょうりゅう

雪叟紹立 雪叟詩集訓注

2015 / A 5判 / 876頁
本体15,000円 ISBN978-4-7842-1801-1

三浦俊介著

神話文学の展開

貴船神話研究序説
2019 / A 5判 / 476頁
本体12,000円 ISBN978-4-7842-1949-0

倉本一宏編

説話研究を拓く

説話文学と歴史史料の間に
2019 / A 5判 / 452頁
本体9,000円 ISBN978-4-7842-1967-4

禁裏本の総体を蔵書群として捉え、同時代の公家日記や古歌書目録類を援用しつつその伝来の歴史を跡付ける。また、禁裏における歌学や古典文学の注釈・講釈に注目し、古典学の変遷を叙述する。中世後期以降、歴代天皇がどのような歌書を求め、書写し、収蔵していったかを明らかにする一書。

『俱舎論音義』は『阿毘達磨俱舍論』と『俱舎光記』から難解な単字や熟字である漢字を抽出して、その音・訓について註釈を加えた卷音義。語彙史料として、鎌倉初期国語アクセント資料としても有益な史料である。主な写本について、影印(写真版)と模写で掲載、論考と各種索引を付す。

2011年9月17日～12月4日まで逸翁美術館で行われた同名の展覧会図録。逸翁美術館所蔵「大江山絵詞」(重文)とサントリー美術館所蔵「酒伝童子絵」を各々全巻カラー掲載し、酒吞童子絵巻の二大系統を対比。館所蔵「芦引絵」(重文)など、逸翁小林一三の絵巻コレクションを一挙公開。

1961(昭和36)年、親鸞聖人大遠忌記念事業の一環として開設された、龍谷大学仏教文化研究所の研究者陣による、真宗学・仏教学・史学・国文学等の分野にまたがる広汎な仏教文化の最新研究成果。

二松学舎大学東アジア学術総合研究所「二松学舎大学附属図書館蔵 奈良絵本『保元物語』『平治物語』の翻刻と研究」の軌跡と成果。【内容】二松学舎大学附属図書館所蔵の奈良絵本『保元物語』『平治物語』の諸相／奈良絵本と軍記物語
2014 / A 5判 / 278頁

龍谷大学仏教文化研究所の研究者陣による指定研究、「龍谷大学図書館蔵中世歌書の研究」(平成23～25年度)において問題になった諸点や、温めてきた問題の論文を三部構成にまとめた一書。時代・分野が異なる専門領域をもつ各研究者により、和歌文学にとどまらず、多岐にわたる論文を収録。

治承寿永の源平争乱という“歴史”を題材に、様々な“物語”一諸本を生成してきた編者たちの思惑とは、何であったのか。本書では、平家物語諸本の比較を通して独自の表現や記事、改変された部分をあぶり出してその基盤を追究し、物語生成の動機や場、背景をつぶさに考察する。

愛知県豊橋市太平寺に架蔵される写本『雪叟詩集』は、室町後期の住持雪叟紹立及び周辺の禅僧の詩文集。妙心寺派の僧による詩、法語、古則に対する著語、文、書簡等であり、高度なテクニクはまさに「五山文学」そのものである。翻刻・訓読に加え、語句・表現についての注、索引を付す。

古代日本の「記紀神話」、神社内で作成・管理されてきた「神社神話」、中世日本の各種資料に見える神話の異伝、毘沙門天が登場する「仏教神話」、中世神話「貴船の本地」等を多角的に論じる。とりわけ古代～中世の貴船神社を主たるモチーフとして、その伝承や資料から神話文学論を展開する。

説話とは何か？まったくの創作でもなく古記録でもない、この作品たちはなぜ生まれ、編纂され、伝えられたのか？日本史学や日本文学、宗教学等の研究者が集い、それぞれの研究手法と知見を持ち寄り、説話文学と歴史史料の間を往還しつつ、説話研究に新たな地平を拓く。日文研共同研究の成果。

村上素道編

増補 蓮月尼全集

1980・2006／A5判／770頁
本体12,000円 ISBN4-7842-0182-3

江戸末期の歌人、大田垣蓮月は、次々と肉親と死別し、出家の後孤高の生涯を送るが、その作風は閑雅、清新、また作陶でも知られ、多芸の人であった。本書は、蓮月の歌、消息、伝記を収めた『蓮月尼全集』（昭和2年）に、新たに発見された歌集、書画帖（花くらべ）、消息51通を増補。【2刷】

山口恭子著

松花堂昭乗と瀧本流の展開

2011／A5判／356頁
本体8,600円 ISBN978-4-7842-1559-1

松花堂昭乗の書は瀧本流と呼ばれ、近世の書文化を席卷する一大書流へと成長していった。昭乗と瀧本流の書について造型的な面のみならず、昭乗の著述した文芸作品、瀧本流の法帖など、文献資料や版本に対する検討を行い、近世の書道史、出版史、文化史など広範な研究分野に新しい知見を提供。

石塚 修 著〈平成26年度茶道文化学術奨励賞〉

西鶴の文芸と茶の湯

2014／A5判／316頁
本体6,000円 ISBN978-4-7842-1730-4

浮世草子作家の嚆矢であり江戸時代前期を代表する作家の一人、井原西鶴。その文芸作品に、いかに当時の茶の湯文化が反映されていたのか。西鶴が浮世草子作家になる以前の俳諧師時代、さらに『好色一代男』から遺稿集にいたるまでの浮世草子作品をとりあげ、その影響関係を検証。

神戸女子大学古典芸能研究センター編

絵入謡本と能狂言絵

神戸女子大学古典芸能研究センター研究資料集2
2018／B5判／148頁
本体4,200円 ISBN978-4-7842-1954-4

神戸女子大学古典芸能研究センター及び同大所蔵『絵入謡本』『能狂言画帖』『能狂言絵巻』『能狂言図巻』の絵画部分をオールカラーで掲載。解題と詞章の翻刻を付す。いずれも能・狂言の内容を絵画化した興味深い作品で、とりわけ『絵入謡本』は加賀藩前田家旧蔵という確かな伝来を持つ優品。

柴田奈美著 〈第17回俳人協会評論賞〉

正岡子規と俳句分類

2002／B5判／568頁
本体18,000円 ISBN4-7842-1097-0

正岡子規の古典俳句を網羅した生涯の労作『分類俳句全集』所収の約10万句の中から「寒山落木」所収の子規の俳句約2万句に影響を与えたと思われる句を抜き出し、その実態を年代順に検証し、子規俳句の近代化の過程をたどった労作。

田島和生著 〈第20回俳人協会評論賞〉

新興俳人の群像

「京大俳句」の光と影

2005／四六判／298頁
本体2,300円 ISBN4-7842-1251-5

日中戦争から太平洋戦争へと突入した時代、新興俳句運動の旗手とされた同人誌『京大俳句』。しかし昭和15年、言論弾圧法規の治安維持法違反で逮捕者を出し、廃刊に追い込まれた。「幻の終刊号」などの資料をもとに、新興俳句運動が目指したものの、そしてなぜ弾圧されたかを探る。

井波律子・井上章一編

幸田露伴の世界

2009／A5判／318頁
本体5,000円 ISBN978-4-7842-1444-0

従来、全面的な研究のなかった露伴。文学面はもちろん都市・遊技・自然観察・人生論等々の著作から多角的にアプローチ。国際日本文化研究センターでの共同研究13篇。【執筆】井波律子／池内紀／白幡洋三郎／猪木武徳／細川周平／平松隆円／佐伯順子／井上章一／鈴木貞美／岩井茂樹／劉建輝

増田裕美子・佐伯順子編

日本文学の「女性性」

二松学舎大学学術叢書

2011／A5判／232頁
本体2,300円 ISBN978-4-7842-1549-2

3年間にわたり、日本文学と女性性の問題を正面から議論した二松学舎大学東アジア学術総合研究所の共同研究プロジェクトの成果。「純文学」からライトノベルまで多様な題材をとりあげる。【執筆】増田裕美子／市川裕見子／平石典子／佐伯順子／菅聡子／大貫徹／杉山直子／藤木直実／目野由希

逸翁美術館編

与謝野晶子と小林一三

2011 / A4判 / 94頁
本体1,000円 ISBN978-4-7842-1567-6

伊井春樹著

与謝野晶子の「源氏物語礼讃歌」

2011 / 四六判 / 226頁
本体1,400円 ISBN978-4-7842-1568-3

坂井 健 著

没理想論争とその影響

佛教大学研究叢書27
2016 / A5判 / 374頁
本体8,900円 ISBN978-4-7842-1834-9

2011年4月2日～6月12日に逸翁美術館で開催された同名の展覧会図録。晶子が源氏物語五十四帖それぞれの歌を詠んだ「源氏物語礼讃歌」短冊54枚、そのきっかけになった、上田秋成筆「源氏物語短冊貼付屏風」、それらの由来となる手紙を収録。新しい面からの両者の関係性を紹介する。

「源氏物語礼讃歌」とは、上田秋成筆「源氏物語短冊貼付屏風」に感銘を受け、与謝野晶子が源氏物語五十四帖それぞれに歌を詠んだものである。本書は「源氏物語礼讃歌」にまつわるエピソードを描くことにより、周辺の人々との交流を浮き彫りにする一書。

明治の文学者たちは、イデーをどのように把握、表現しようとしたのか。『早稲田文学』と『しがらみ草紙』を舞台に坪内逍遙と森鷗外との間で繰り広げられた「没理想論争」を軸に、明治の文学者たちがイデーと現実との関係をどのように捉えようとしたのか、文学史にどう影響したのかをたどる。

比較文学

日本比較文学会編

滅びと異郷の比較文化

1994 / A5判 / 516頁
本体14,000円 ISBN4-7842-0821-6

第一線の比較文化研究者が「滅び」と「異郷」のヴィジョンを東西の文学・文化・美術に探る。

【執筆者】河竹登志夫／大久保直幹／村松定孝／堀江珠喜／相野毅／小川敏栄／剣持武彦／斎藤幸子／館野日出男／森本真一／ジョン・ドーシー／富田仁／相良英明／西村靖敬／蔵本邦夫／小宮彰／松岡直美／飯田正美／今橋映子／榎本義子／前田千悦子／諸坂成利／ソートン不破直子／小田桐弘子／佐藤慶子／杉野元子／佐藤三武朗／山口静一／錢本健二／市川裕見子／盧英姫／村岡正明／沼野恭子／児玉実英／小玉晃一

川本皓嗣編

美女の図像学

1994 / 四六判 / 300頁
本体3,300円 ISBN4-7842-0820-8

容貌の美は、さまざまな文化の中で、それぞれの芸術的表現を与えられてきた。本書では、日韓中米の五人が、女性描写の伝統と美の思想を論じる。【内容】光の女（佐伯順子）ヒロインの図像学（尹相仁）影の女（アダム・カバット）ムスメたちの系譜（満谷マーガレット）朦朧の美学（張競）

工藤貴正著

中国語圏における厨川白村現象

隆盛・衰退・回帰と継続
2010 / A5判 / 378頁
本体6,000円 ISBN978-4-7842-1495-2

くろやがわはくそん

厨川白村（1880～1923）の著作が彼の死後、日本では急速に忘れ去られたのに対し、中国語圏（中国、台湾、香港）の知識人たちの間では、今なお知名度が高い。いかに受容・翻訳され、その特徴はいかなるものだったのか、基本的資料を示しながら考察した、厨川白村を軸とした日中台の文学交流史。

坂元昌樹・田中雄次・西槇偉・福澤清編

漱石と世界文学

2009 / 四六判 / 260頁
本体2,800円 ISBN978-4-7842-1460-0

「世界文学において漱石をとらえなおす」。夏目漱石が世界文学を意識し、そこから多大な影響を蒙ったことの検証だけでなく、漱石が日本文学を含め世界文学に与えたインパクト、世界で漱石文学がいかに受容されたのかなどをも見極める9篇。熊本大学教員を中心とした共同研究。

坂元昌樹・田中雄次・西槇偉・福澤清編

漱石文学の水脈

2010 / 四六判 / 260頁
本体2,800円 ISBN978-4-7842-1506-5

漱石文学がどのような思想と背景のもと生み出されたのか、日本を含む東アジア文化圏においてどのように受け入れられ、どのような影響を与えてきたか、「＜漱石＞への水脈」と「＜漱石＞からの水脈」の二つのテーマから検証する10篇。漱石ゆかりの熊本大学の教員を中心とした共同研究の成果。

坂元昌樹・西槇偉・福澤清編

越境する漱石文学

2011 / 四六判 / 284頁

本体2,800円 ISBN978-4-7842-1565-2

松村昌家編

谷崎潤一郎と世紀末

大手前大学比較文化研究叢書 1

2002 / A5判 / 212頁

本体2,800円 ISBN-4-7842-1104-7

川本皓嗣・松村昌家編

阪神文化論

大手前大学比較文化研究叢書 5

2008 / A5判 / 290頁

本体3,200円 ISBN978-4-7842-1398-6

川本皓嗣・上垣外憲一編

一九二〇年代東アジアの文化交流

大手前大学比較文化研究叢書 6

2010 / A5判 / 232頁

本体2,800円 ISBN978-4-7842-1508-9

川本皓嗣・上垣外憲一編

一九二〇年代東アジアの文化交流Ⅱ

大手前大学比較文化研究叢書 7

2011 / A5判 / 274頁

本体2,500円 ISBN978-4-7842-1584-3

川本皓嗣・上垣外憲一編

比較詩学と文化の翻訳

大手前大学比較文化研究叢書 8

2012 / A5判 / 280頁

本体2,500円 ISBN978-4-7842-1637-6

上垣外憲一編

一九三〇年代東アジアの文化交流

大手前大学比較文化研究叢書 9

2013 / A5判 / 258頁

本体2,800円 ISBN978-4-7842-1687-1

石毛弓・柏木隆雄・小林宣之編

日仏文学・美術の交流

「トロコワ・コレクション」とその周辺

大手前大学比較文化研究叢書 10

本体2,800円 ISBN978-4-7842-1745-8

石毛弓・柏木隆雄・小林宣之編

江戸文化が甦る

トロコワ・コレクションで読み解く琳派から溝口健二まで

大手前大学比較文化研究叢書 12

本体3,800円 ISBN978-4-7842-1847-9

大澤吉博著

言語のあいだを読む

日・英・韓の比較文学

2010 / A5判 / 550頁

本体9,000円 ISBN978-4-7842-1524-9

「〈世界〉からみた「漱石」」「〈世界〉をまなぐす「漱石」」の2テーマから考察する8篇。【内容】〈地方〉と〈世界〉の間で／異文化の対話／〈知〉の覇権へのまなぐす／精神病者をどう描くか／漱石作品と思想／漱石『文学論』の布石／第五高等学校時代の夏目漱石

日本比較文学会のシンポジウムをもとに、海外における谷崎評価も踏まえ、比較文学的見地から谷崎の文学に迫る。ノルダウの「世紀末」とクラフト＝エービングの「マゾヒズム」の翻訳を収録。【執筆】井上健／松村昌家／劉建輝／大島眞木／稲垣直樹／森道子訳／和田桂子訳

歌枕に詠まれないにしの芦屋の浜、歌人や作家に愛され、その作品に影響を与えてきた阪神間の風土、さらに開港早々慌ただしい歴史の舞台ともなった神戸——文学、歴史から阪神文化の神髄に触れる。【執筆】川本皓嗣／杉橋陽一／辻一郎／岩谷幹子／松原秀江／尾崎耕司／松村昌家

大正デモクラシー下の日本では、好景気と安定した国際関係により、海外交流が新展開を見せた。未開拓の部分も多い当時の文化交流の様相を、当該各国の研究者が明かす。

【執筆】上垣外憲一／趙怡／松村昌家／金春美／古田島洋介／Cody Poulton／陳凌虹／周小儀／川本皓嗣

未開拓の部分が多い1920年代の東アジアの文化交流。当該各国の研究者を結集してその様相を解明する第二弾。演劇・詩歌・芸芸などをテーマに東アジアを総観。【執筆】カレン・ローラ・ソーンバー／竹村民郎／程朝翔／周閏／劉岸偉／梁東国／趙怡／岩谷幹子／嚴安生

国際比較文学会（ICLA）会長であった故アール・マイナー氏の追悼と、同じくICLA会長を務めた川本皓嗣大手前大学学長の退官を祝うため、各国から集った研究者の共同論集。詩歌の翻訳から民謡、仏教、獅子舞、ベルシャの涙壺まで、比較文化と翻訳にまつわる事象を様々に論じる。

世界恐慌のため鎖国経済化が進み、東アジアでは、満洲事変を皮切り世界大戦へと発展する時代。戦争の影で見落とされがちな当時の文化交流を様々な視点から論じる。

【執筆】金孝順／嚴安生／王中忱／劉岸偉／趙怡／戰曉梅／李建志／劉建輝／馮天瑜／上垣外憲一／川田真弘

「日仏文化交流シンポジウム」の成果。日仏文学・美術の交感を論じた7篇を日仏両言語で収録。【執筆】岡佳子／マリ＝カトリス・サユット／エマニュエル・シュヴァルツ／クリス・ベルアド／柏木加代子／盛田帝子／クリストフ・マルケ

2014 / A5判 / 284頁

知られざる江戸版本、浮世絵の宝庫トロコワ・コレクションをテーマに、近世美術から近代映像作品を対象として、多彩かつ重厚な論を全文日仏両語で収録する大手前大学日仏文化交流シンポジウムの成果。

2016 / A5判 / 390頁

東京大学大学院で比較文学の指導に当たり、在職中に急逝した氏の研究成果。その主題は夏目漱石、漱石を中心とした日本文学その他言語への翻訳、外から見た日本文学と日本文化、そしてイギリスと世界との関わりである。30年以上にわたる多彩な研究の全体を広く学界に提示する遺稿集。

井上 健 編

翻訳文学の視界

近現代日本文化の変容と翻訳

2012 / A 5判 / 300頁

本体2,500円 ISBN978-4-7842-1600-0

翻訳文学はつねに複雑な要素をはらむ。最前線で活躍中の研究者たちが、比較文学・比較文化研究の立場から翻訳文学の諸相を語り可能性を探る。**【執筆者】** 山田潤治／私市保彦／柏木隆雄／井上健／中村ともえ／金志映／上西哲雄／ソーントン不破直子／リース・モートン／諸坂成利／依岡隆児

田澤佳子著

俳句とスペインの詩人たち

マチャード、ヒメネス、ロルカとカタルーニャの詩人

2016 / A 5判 / 352頁

本体5,000円 ISBN978-4-7842-1823-3

俳句はどんな形でスペイン語圏に伝わり、その詩にどんな影響を及ぼしたのか。現地の文化と風土を肌で感じてきた著者が、長詩を主流とするスペインの詩に俳句という究極の短詩がいかに受容されたかを、当時の文学書、雑誌や新聞、詩人たちの日記や書簡などを渉猟して、こまやかに読み解く。

中国文学

荒木 猛 著

きんべいばい

金瓶梅研究

佛教大学研究叢書6

本体8,500円 ISBN978-4-7842-1442-6

中国四大奇書の一つ『金瓶梅』。これまで淫書と目され禁書扱いであったためか、他の小説と比べて研究が遅れていた。本書は、明代の政治・社会の腐敗を暴露したこの小説を、執筆時代・素材・用語・服装など様々な側面から考察。

2009 / A 5判 / 496頁

黒田 彰 著

孝子伝・二十四孝の研究 【オンデマンド版】

2017 / 四六判 / 132頁

本体4,200円 ISBN978-4-7842-7029-3

孝思想に発した文学としての孝子伝は、中国の哲学や社会制度とも深く関わり、またわが国における説話文学史に大きな影響を与えてきた。本書は、2001年発行の『孝子伝の研究』より、孝子伝・二十四孝に関するテキスト概論のみを取り出してオンデマンド印刷により復刊したもの。

随筆・随想・その他

阿南慈子著

ありがとう、あなたへ

2001・2008／四六判／208頁
本体1,200円 ISBN4-7842-1090-3

多発性硬化症という難病におかされながら、多くのボランティアの口述筆記によって手紙・詩・エッセイ・童話を遺した阿南慈子の作品集。真摯にいのちと対峙した中から紡ぎ出されたその言葉は、生命の大切さ、愛することの喜びを語りかける、「今、生きているあなたへ」のメッセージ。 【6刷】

田中 登 編著

小松茂美 人と学問

古筆学六十年

2002／A5判／256頁
本体2,200円 ISBN4-7842-1120-9

被爆体験の病床で『平家納経』と出会い学究に志し、東京国立博物館を経て古筆学研究所を設立、ついには古筆学を大成した小松茂美の60年におよぶ学問の歩みをたどる。第1部では、個々の著作に則してその内容と業績を紹介し、第2部では、折り折りの新聞記事と書評など50篇を収録。

西岡正子編

老舗に学ぶ京の衣食住

佛教大学四条センター叢書5

2013／A5判／242頁
本体1,900円 ISBN978-4-7842-1673-4

公開講座録。店主・女将が自店の歴史・品物について語る、本物の京都学。【掲載店】二軒茶屋 中村楼・松栄堂・祇園辻利・祇をん 幾岡屋・嵐山 熊彦・龍善堂・半兵衛麩・松文商店・村山造酢・彩雲堂・本家 尾張屋本店・上七軒 大文字・京つけもの西利・泰生織物・亀末廣・いもぼう平野屋本家

五十嵐隆明著

老僧が語る京の仏教うらおもて

2013／四六判／232頁
本体900円 ISBN978-4-7842-1683-3

永観堂禅林寺の住職をかつて勤めた著者による、あまり語られない京都を中心とした近代仏教界の内幕。幕末維新の動乱と寺院との結びつき、仏教界の戦争協力と、戦後の反省。「古都税」導入の動きと反対運動など。具体的な僧侶名やエピソードを交えて語る仏教界のあれこれ。

児玉 修 著

死して^{がんこん}巖根にあらば 骨も也^また清^{きよ}からん

寂室元光の生涯

2014／四六判／390頁
本体1,800円 ISBN978-4-7842-1750-2

臨済宗永源寺の開山である寂室元光（1290～1367）は、生涯を通じて大利に依らず、名聞利養を否定し、知的で洗練された文藻を備えた、日本禅宗史上希に見る純粹清烈の僧である。映像作家であり「臨床僧の会・サーラ」事務局長でもある著者が、スケールの大きなその生涯を描く小説。

2020 年度主な刊行予定

日本書紀 1300 年史を問う

山下久夫・斎藤英喜編

『今昔物語集』の成立と対外観（仮）

荒木浩著

日欧の古代・中世書字文化—儀礼・象徴・意思決定—（仮）

河内祥輔、小口雅史、M・メルジオヴスキ、E・ヴィッター編

法隆寺史 中—近世—

法隆寺編

図説 大名庭園の近代（仮）

小野芳朗・本康宏史・三宅拓也・中嶋節子編著

大航海時代の海域アジアと琉球—レキオスを求めて—

中島楽章著

鈴木大拙 禅を超えて

山田奨治、ジョン・グリーン編

校訂 原本『古画備考』（全 5 巻）

古画備考研究会編

刺繍の近代

松原史著

万博学—万国博覧会という、世界を把握する方法—

佐野真由子編

図説 内国勸業博覧会（仮）

橋爪紳也著

絵で見る奈良絵本・絵巻事典（仮）

石川透編著

廣瀬千紗子著作集（仮）

廣瀬千紗子著

品 切 一 覧

書 名	本体価格	刊行年
幕末明治の文人 山中信天翁	3,000 円	2019
京都の御大礼	5,500 円	2018
訓読 豊後国志	7,000 円	2018
京料理の文化史	2,300 円	2017
陽明文庫蔵 舞絵〔舞楽散楽図〕・法隆寺旧蔵 拵鼓 (日本音楽史料叢刊)	2,700 円	2016
売茶翁の生涯	3,500 円	2016
利休の茶の花	3,700 円	2016
一瞬を重ねて	3,000 円	2016
墨と響きあう	3,000 円	2016
永観『往生講式』の研究	2,500 円	2016
日仏マンガの交流 (大手前大学比較文化研究叢書)	2,800 円	2015
南蛮・紅毛・唐人	6,800 円	2014
幕末・維新の西洋兵学と近代軍制	6,300 円	2014
軍医森鷗外のドイツ留学	3,000 円	2014
大徳寺伝来五百羅漢図	50,000 円	2014
料紙と書	5,800 円	2014
三河 風外本高墨蹟集	3,000 円	2014
『作庭記』と日本の庭園	5,000 円	2014
開学百周年記念 佛教大学附属図書館所蔵 貴重古典籍目録	30,000 円	2013
高野山正智院連歌資料集成 [全2冊]	20,000 円	2013
京都 伝統工芸の近代	2,500 円	2012
国宝油滴天目茶碗と国宝飛青磁花生	1,905 円	2012
増補 陰陽道の神々 (佛教大学鷹陵文化叢書)	2,300 円	2012
人生の歩み 業績録 レース・ゲスタエ	3,000 円	2012
新装版 富士川游著作集 [全10巻]	90,000 円	2011
いけばなにみる日本文化	2,600 円	2011
焼畑の環境学	9,000 円	2011
近代医療のあけぼの	4,700 円	2011
近世の環境と開発	7,500 円	2010
江月宗玩 欠伸稿訳注 坤	9,500 円	2010
西山浄土教の基盤と展開	4,000 円	2010
追憶の記	2,000 円	2010
天翔ける白鷗	1,600 円	2010
奈良 千三百年ものがたり	1,600 円	2010
房総風雅史 古代・中世編	5,700 円	2010
般舟讚私講	3,500 円	2010
武士と騎士	9,000 円	2010
入門 奈良絵本・絵巻	2,000 円	2010
平安京とその時代	9,000 円	2010
中世史科学叢論	9,000 円	2009

ディドロとルソー 言語と〈時〉	2,800 円	2009
九州の蘭学	2,500 円	2009
革新の書人 河東碧梧桐	5,000 円	2009
光芒の大正	5,000 円	2009
情熱の移植医	1,600 円	2009
緒方洪庵	2,500 円	2009
悟溪宗頼 虎穴録訳注	10,000 円	2009
日本の朝鮮・台湾支配と植民地官僚	13,000 円	2009
原三溪翁伝	16,000 円	2009
京都 芸能と民俗の文化史	7,500 円	2009
風俗絵画の文化学	6,500 円	2009
日本古代の伝承と歴史	6,000 円	2008
条約改正交渉史	6,500 円	2008
増補 郷土教育運動の研究	9,800 円	2008
江戸期文化人の死因	2,500 円	2008
正倉院展六十回のあゆみ	3,000 円	2008
俳句とジャポニスム	5,800 円	2008
経筒が語る中世の世界 (別府大学文化財研究所企画シリーズ)	4,800 円	2008
近世御用絵師の史的研究	7,500 円	2008
関西モダニズム再考	8,500 円	2008
竹の経済史	4,500 円	2008
ハンサムに生きる(新島襄を語る)	1,900 円	2010
魂の指定席(新島襄を語る)	1,900 円	2009
元祖リベラリスト(新島襄を語る)	1,900 円	2008
敢えて風雪を侵して(新島襄を語る)	1,900 円	2007
錨をあけて(新島襄を語る)	1,900 円	2007
ひとりは大切(新島襄を語る)	1,900 円	2005
千里の志(新島襄を語る)	1,900 円	2005
善導大師と法然上人	2,400 円	2008
酔うて候 河鍋晩斎と幕末明治の書画会	2,000 円	2008
摂関時代文化史研究(思文閣史学叢書)	9,000 円	2007
系譜伝承論	3,800 円	2007
室町・戦国期研究を読みなおす	4,600 円	2007
近世社会と百姓成立(佛教大学研究叢書)	6,500 円	2007
ブラームスと芭蕉たち	2,000 円	2007
丹後地域史へのいざない	1,600 円	2007
京都源氏物語地図	800 円	2007
近代新潟におけるキリスト教教育	3,000 円	2007
中国銅銭の世界(佛教大学鷹陵文化叢書)	2,400 円	2007
伝統工芸再考 京のうちそと	13,000 円	2007
伊藤孝男の百人一首・競技かるた	1,700 円	2007
経済史文献解題 1996(平成8)年版	9,800 円	1996
経済史文献解題 1997(平成9)年版	10,800 円	1998
経済史文献解題 1998(平成10)年版・1999(平成11)年版	各 11,800 円 1999～2000	

経済史文献解題	2000（平成12）年版	12,800円	2001
経済史文献解題	2001（平成13）年版	10,800円	2003
経済史文献解題	2002（平成14）年版・2003（平成15）年版	各11,800円	2004
経済史文献解題	2004（平成16）年版・2005（平成17）年版	各13,800円	2006～07
夏日漱石における東と西（大手前大学比較文化研究叢書）		2,800円	2007
昭和初期一移民の手紙による生活史		2,800円	2006
金鯢叢書	創刊号・第2輯	各5,000円	1974～75
金鯢叢書	第3輯	6,500円	1976
金鯢叢書	第4輯・第5輯	各7,000円	1977～78
金鯢叢書	第6輯・第7輯	各7,500円	1979～80
金鯢叢書	第8輯	9,000円	1981
金鯢叢書	第9輯・第10輯・第11輯	各8,000円	1982～84
金鯢叢書	第12輯	9,500円	1985
金鯢叢書	第13輯	8,500円	1986
金鯢叢書	第14輯・第15輯	各7,500円	1987～88
金鯢叢書	第16輯	8,500円	1989
金鯢叢書	第17輯	7,500円	1990
金鯢叢書	第18輯	7,000円	1991
金鯢叢書	第19輯	7,500円	1992
金鯢叢書	第20輯	8,000円	1993
金鯢叢書	第21輯	7,000円	1994
金鯢叢書	第22輯	9,500円	1995
金鯢叢書	第23輯	9,000円	1996
金鯢叢書	第24輯	10,000円	1998
金鯢叢書	第25輯	9,700円	1998
金鯢叢書	第26輯	8,500円	1999
金鯢叢書	第27輯	10,000円	2000
金鯢叢書	第28輯	8,500円	2001
金鯢叢書	第29輯	9,500円	2002
金鯢叢書	第30輯	10,000円	2004
金鯢叢書	第31輯	9,500円	2004
金鯢叢書	第32輯	10,000円	2005
金鯢叢書	第33輯	9,500円	2006
岩倉使節団における宗教問題		3,800円	2006
貴族院と立憲政治		7,600円	2006
東海地域文化研究		3,500円	2006
東アジアの交流と地域諸相		3,200円	2006
近世儒者の思想挑戦		7,500円	2006
裡園小石先生叢話		4,000円	2006
眼科医家人名辞書		4,000円	2006
関山慧玄と初期妙心寺		6,500円	2006
中国近世における国家と禪宗		7,500円	2006
本能寺史料 畿内・東国末寺篇		17,000円	1992

本能寺史料 西国末寺篇	18,000 円	1993
本能寺史料 本山篇上	18,000 円	1996
本能寺史料 本山篇下	20,000 円	1999
本能寺史料 古記録篇	22,000 円	2002
本能寺史料 中世篇	15,000 円	2006
上賀茂のもり・やしろ・まつり	2,800 円	2006
近代新潟におけるプロテスタント	3,000 円	2006
アートに学ぶ	2,400 円	2006
茶道と恋の関係史	3,800 円	2006
絶対透明の探求	5,800 円	2006
俊頼髓脳の研究	8,000 円	2006
ヴィクトリア朝英国と東アジア (大手前大学比較文化研究叢書)	3,200 円	2006
未知への模索 (佛教大学鷹陵文化叢書)	2,300 円	2006
想音	2,000 円	2006
私の中の 20 世紀の外国映画	1,900 円	2006
中国における妊娠・胎発生論の歴史	2,800 円	2006
仏教 文学 芸能	20,000 円	2006
朝顔明鑑鈔	4,000 円	2006
太宰文学の女性像	2,800 円	2006
禁裏・公家文庫研究 第二輯	9,800 円	2006
民芸運動と地域文化	4,900 円	2006
佐々木六角氏の系譜	2,200 円	2006
数奇の革命	2,000 円	2006
異文化・交流のはざままで	1,900 円	2005
続・鍼の道	2,000 円	2005
古代日本の生命倫理と疾病観	3,500 円	2005
黒正巖と日本経済学 (大阪経済大学日本経済史研究所研究叢書)	2,700 円	2005
文明随想 継承と移転	2,500 円	2005
文化の航跡	2,800 円	2005
民俗文化複合体論	6,600 円	2005
百人一首万華鏡	2,400 円	2005
延慶本『平家物語』の説話と学問	12,000 円	2005
古今和歌集への道	1,900 円	2005
言葉の力 (佛教大学鷹陵文化叢書)	2,300 円	2005
柳宗悦と民藝運動	4,600 円	2005
新島襄の交遊	2,800 円	2005
古代神祇信仰と仏教	3,800 円	2005
政治と行政の理論と実際	6,500 円	2005
文化史学の挑戦	13,000 円	2005
日本建築の構造と技法 [全 2 巻]	25,000 円	2005
眼病に効く温泉	2,500 円	2004
視覚芸術の比較文化 (大手前大学比較文化研究叢書)	2,800 円	2004
飛脚問屋井野口屋記録 第 1 巻 (大阪経済大学日本経済史研究所史料叢書)	8,800 円	2001

飛脚問屋井野口屋記録 第2巻 (大阪経済大学日本経済史研究所史料叢書)	9,600 円	2002
飛脚問屋井野口屋記録 第3巻 (大阪経済大学日本経済史研究所史料叢書)	10,400 円	2003
飛脚問屋井野口屋記録 第4巻 (大阪経済大学日本経済史研究所史料叢書)	11,800 円	2004
毒きのこ今昔	4,700 円	2004
宮津市立前尾記念文庫所蔵 元勲・近代諸家書簡集成	5,000 円	2004
近世の学びと遊び (佛教大学鷹陵文化叢書)	2,500 円	2004
環琵琶湖地域論	7,000 円	2004
現代医療の原点を探る	2,500 円	2004
日露戦争従軍記	2,800 円	2004
鍼の道	2,800 円	2004
新世紀を創る。(京都大学総合博物館図録)	2,300 円	2004
建築史論聚	9,000 円	2004
役者のパートナー マネジャーの足跡	1,900 円	2004
絵葉書で辿る日本近代医学史	22,000 円	2004
神仏分離の動乱	2,300 円	2004
近代日本画、産声のとき	3,200 円	2004
煎茶文化考	4,200 円	2004
慚愧の精神史 (佛教大学鷹陵文化叢書)	1,900 円	2004
鹿苑寺と西園寺	3,800 円	2004
本能寺と信長	2,200 円	2003
五山禅僧伝記集成	9,500 円	2003
茶人と茶の湯の研究	8,200 円	2003
房総風雅史	12,000 円	2003
岩倉使節団の再発見	3,600 円	2003
木村蒹葭堂	2,500 円	2003
日記が開く歴史の扉 (京都大学総合博物館図録)	1,600 円	2003
日本古代地域史研究序説	6,800 円	2003
古代日本の輝き	1,700 円	2003
オンドルと畳の国 (佛教大学鷹陵文化叢書)	1,800 円	2003
念仏の時空論考	3,200 円	2003
蘭室藤村正員年譜考	5,800 円	2003
経済史再考	12,000 円	2003
牧野標本館所蔵のシーボルトコレクション	5,400 円	2003
東アジアと『半島空間』	4,800 円	2002
壁紙のジャポニスム	3,200 円	2002
「王国」と「植民地」 (大阪経済大学日本経済史研究所研究叢書)	2,800 円	2002
英語の談話文法	2,000 円	2002
野中広務	1,800 円	2002
現代日本のボランティア像 (龍谷大学国際社会文化研究所叢書)	2,000 円	2002
人生と芸術の対話	1,800 円	2002

与謝蕪村筆「奥の細道画卷」	130,000 円	2002
日蘭交流史 その人・物・情報	15,000 円	2002
奈良絵本（龍谷大学善本叢書）	36,000 円	2002
中国浄土教と浄土宗学の研究	14,000 円	2002
石見銀山	15,500 円	2002
雑誌『太陽』と国民文化の形成	12,000 円	2001
孝子伝の研究（佛教大学鷹陵文化叢書）	3,000 円	2001
中国の古代都市文明（佛教大学鷹陵文化叢書）	2,000 円	2001
日本の通過儀礼（佛教大学鷹陵文化叢書）	1,900 円	2001
王朝千年記	1,800 円	2001
東と西の医療文化	8,500 円	2001
社会経済史学の誕生と黒正巖		
（大阪経済大学日本経済史研究所研究叢書）	2,500 円	2001
鎮守の森は甦る	2,200 円	2001
大津京跡の研究	8,800 円	2001
花園宸記 第10回配本（第17・19巻）	380,000円	2001
幕末・維新を考える（佛教大学鷹陵文化叢書）	1,700 円	2000
吉備と京都の歴史と文化（佛教大学鷹陵文化叢書）	1,900 円	2000
岩手県教育史（都道府県教育史シリーズ）	1,800 円	1986
山口県教育史（都道府県教育史シリーズ）	2,300 円	2000
大阪府教育史（都道府県教育史シリーズ）	2,800 円	1998
兵庫県教育史（都道府県教育史シリーズ）	2,800 円	1994
福井県教育史（都道府県教育史シリーズ）	1,800 円	1992
沖縄県教育史（都道府県教育史シリーズ）	2,300 円	1991
高知県教育史（都道府県教育史シリーズ）	2,800 円	1990
岡山県教育史（都道府県教育史シリーズ）	1,800 円	1988
青森県教育史（都道府県教育史シリーズ）	1,800 円	1985
島根県教育史（都道府県教育史シリーズ）	1,800 円	1985
富山県教育史（都道府県教育史シリーズ）	1,800 円	1985
大分県教育史（都道府県教育史シリーズ）	1,800 円	1984
長崎県教育史（都道府県教育史シリーズ）	1,800 円	1984
福岡県教育史（都道府県教育史シリーズ）	1,800 円	1984
秋田県教育史（都道府県教育史シリーズ）	1,800 円	1984
京都府教育史（都道府県教育史シリーズ）	1,700 円	1983
徳島県教育史（都道府県教育史シリーズ）	1,800 円	1983
愛媛県教育史（都道府県教育史シリーズ）	1,800 円	1983
愛知県教育史（都道府県教育史シリーズ）	1,800 円	1983
栃木県教育史（都道府県教育史シリーズ）	1,800 円	1983
高山辰雄の世界	2,800 円	2000
京都企業の光と陰	3,600 円	2000
20 世紀の経済と文化		
（大阪経済大学日本経済史研究所研究叢書）	3,500 円	2000
続撰吟集諸本の研究	13,000 円	2000
竹内栖鳳 近代日本画の源流	5,600 円	2000
平成新修古筆資料集 第一集	2,600 円	2000

古代・中世の浄土教信仰と文化	6,600 円	2000
人生工学うらおもて	1,800 円	2000
十二支放	30,000 円	2000
実学史研究Ⅰ	4,800 円	1984
実学史研究Ⅱ	4,800 円	1985
実学史研究Ⅲ	4,800 円	1986
実学史研究Ⅳ	4,800 円	1987
実学史研究Ⅴ	4,800 円	1988
実学史研究Ⅵ	5,800 円	1990
実学史研究Ⅶ	5,800 円	1991
実学史研究Ⅷ	5,800 円	1992
実学史研究Ⅸ	5,800 円	1993
実学史研究Ⅹ	5,800 円	1994
実学史研究Ⅺ	6,800 円	1999
「洛中洛外」の社会史	6,500 円	1999
近世社会と知行制	7,800 円	1999
日本の社会と真宗	6,500 円	1999
伏見学ことはじめ	3,200 円	1999
都市の近代・大阪の20世紀	2,200 円	1999
稽微録	6,500 円	1999
続日本紀の世界	2,900 円	1999
仏教・共生・福祉（佛教大学鷹陵文化叢書）	1,900 円	1999
神々の酒肴 湖国の神饌	3,200 円	1999
明治国家の教育思想	8,000 円	1998
佛教福祉研究	8,000 円	1998
寛永文化のネットワーク	3,800 円	1998
神主と神人の社会史（神社史料研究会叢書）	6,500 円	1998
和紙文化史年表	4,700 円	1998
日本近世文学研究の新領域	6,800 円	1998
仏教教化研究	15,000 円	1998
京都冷泉町文書 第1巻	13,000 円	1992
京都冷泉町文書 第2巻	13,000 円	1992
京都冷泉町文書 第3巻	13,000 円	1993
京都冷泉町文書 第4巻	13,000 円	1994
京都冷泉町文書 第5巻	13,000 円	1995
京都冷泉町文書 第6巻	14,000 円	1998
京都冷泉町文書 別巻	14,000 円	2000
雑誌『大大阪』CD-ROM	95,000 円	1998
幕藩制国家の成立と対外関係（思文閣史学叢書）	8,800 円	1998
阿蘭陀宿海老屋の研究 [全2冊]	17,000 円	1998
The Historical Background of English Education in Japan	2,300 円	1998
蓮如上人研究	10,000 円	1998
仏教思想と浄土教	12,000 円	1998
阪神・淡路大震災と歴史的建造物	7,800 円	1998
金（民衆生活の日本史）	2,500 円	1997

火（民衆生活の日本史）	2,427 円	1996
日本社会の史的構造〔古代・中世〕	15,000 円	1997
日本社会の史的構造〔近世・近代〕	13,400 円	1995
日本国家の史的特質〔古代・中世〕	15,000 円	1997
日本国家の史的特質〔近世・近代〕	13,400 円	1995
日本眼科を支えた明治の人々	12,000 円	1997
日本眼科の年表	7,000 円	1997
萬年山聯芳録（相国寺史料 別巻）	8,000 円	1997
芭蕉の文墨	2,000 円	1997
我生きて今ある命を	2,500 円	1997
日本近代都市史研究	7,800 円	1997
歴史の中の病と医学	12,000 円	1997
王者の武装（京都大学総合博物館図録）	857 円	1997
日本眼科学会百周年記念誌〔全 7 冊〕	60,000 円	1997
近代大阪の企業者活動	4,800 円	1997
南蛮学の発見	3,000 円	1997
真継家と近世の鋳物師	10,800 円	1996
仮名文章表現史の研究	6,000 円	1996
新撰 大洋	3,689 円	1996
診療報酬の歴史	14,400 円	1996
美術史を愉しむ	11,800 円	1996
欧米資本主義の史的展開	6,476 円	1996
呪術・科学・宗教	4,000 円	1996
莊園を読む・歩く（京都大学文学部博物館図録）	485 円	1996
中世村落と仏教（思文閣史学叢書）	8,800 円	1996
仏教説話の美術	38,835 円	1996
横井小楠の新政治社会像	3,200 円	1996
日本書紀の世界	2,800 円	1996
大阪川口居留地の研究	7,800 円	1995
現代語訳 啓迪集〔全 2 冊〕	33,000 円	1995
近江の歴史と文化	8,641 円	1995
旧石器人のアトリエ	1,942 円	1995
死の尊厳	3,786 円	1995
広瀬先賢文庫目録	7,000 円	1995
増訂富士谷御杖の生涯	4,175 円	1995
日本古代国家の展開 上	12,000 円	1995
日本古代国家の展開 下	12,000 円	1995
近代都市公園史の研究	6,796 円	1995
近世思想史研究の現在	11,800 円	1995
公家と武家	7,800 円	1995
ベルツの生涯	12,000 円	1995
熊本県の美術	19,417 円	1995
山口県の美術	19,417 円	1995
大分県の美術	19,417 円	1994
古代・中世の政治と文化	14,000 円	1994

戦国期東国の都市と権力（思文閣史学叢書）	10,800 円	1994
漢方と薬のはなし	2,621 円	1994
近世の女性画家たち	3,689 円	1994
まち祇園祭すまい	3,689 円	1994
医界風土記 関東・甲信越篇	2,427 円	1994
医界風土記 近畿篇	1,845 円	1994
医界風土記 九州・沖縄篇	1,845 円	1994
医界風土記 北海道・東北篇	2,039 円	1994
医界風土記 中国・四国篇	2,427 円	1994
医界風土記 中部篇	2,427 円	1994
黄檗版大蔵経刊記集	16,000 円	1994
近江の美術と民俗	7,282 円	1994
日本美術史論究 第1巻 序説	5,800 円	1978
日本美術史論究 第2巻 総説・古代	9,000 円	1994
日本美術史論究 第3巻 天平・貞観	6,500 円	1980
日本美術史論究 第4巻 藤原・鎌倉	8,000 円	1982
日本美術史論究 第5巻 室町時代	6,500 円	1979
日本美術史論究 第6巻 桃山・元禄時代	9,000 円	1990
河北倫明美術時評集 第1巻（美術時評 上）	7,400 円	1994
河北倫明美術時評集 第2巻（美術時評 下）	7,400 円	1994
河北倫明美術時評集 第3巻（作家評・作品評 上）	7,400 円	1992
河北倫明美術時評集 第4巻（作家評・作品評 下）	7,400 円	1993
河北倫明美術時評集 第5巻（美術思考）	5,800 円	1992
京都画壇の一九世紀 第2巻（文化・文政期）	24,272 円	1994
画集 下村為山	18,000 円	1994
名画はあなたが決める	2,000 円	1994
雑誌 茶湯 第1～3号	各 350 円	1969～70
雑誌 茶湯 第4・5号	各 400 円	1971
雑誌 茶湯 第6～19号	各 600 円	1973～83
雑誌 茶湯 第20～22号	1,400 円	1986～89
雑誌 茶湯 第23号	1,845 円	1994
古代文明と環境 文明と環境Ⅰ	2,233 円	1994
日本文化と民族移動 文明と環境Ⅱ	2,233 円	1994
火山噴火と環境・文明 文明と環境Ⅲ	2,233 円	1994
アウシュヴィッツの子どもたち	2,816 円	1994
燃ゆるん花の美しさ	2,524 円	1994
斎藤茂吉入門	2,330 円	1994
殿さまのひとりごと	2,718 円	1994
大阪青山短期大学所蔵品図録 第一輯	7,767 円	1994
紫金山古墳と石山古墳（京都大学文学部博物館図録）	1,650 円	1993
政教社の研究	7,000 円	1993
歴史とアイデンティティ	8,600 円	1993
大阪天満宮史の研究〔第2集〕	5,800 円	1993
曹洞宗の地域的展開	8,000 円	1993
念佛的自覚	2,000 円	1993

仏教の日本的土着	2,913 円	1993
精選 山頭火遺墨集	9,515 円	1993
21世紀のグランドデザイン	2,816 円	1993
新編 富士谷御杖全集 第1巻 (古事記研究・神道研究)	18,000 円	1993
新編 富士谷御杖全集 第2巻 (万葉集・随筆)	8,900 円	1979
新編 富士谷御杖全集 第3巻 (注釈・燈)	18,000 円	1989
新編 富士谷御杖全集 第4巻 (注釈・歌論)	17,000 円	1986
新編 富士谷御杖全集 第5巻 (歌論・歌集)	8,900 円	1979
新編 富士谷御杖全集 第6巻 (歌集)	18,000 円	1979
新編 富士谷御杖全集 第7巻 (言語)	8,900 円	1979
新編 富士谷御杖全集 第8巻 (土左日記燈)	17,000 円	1987
平家物語覚一本新考	9,600 円	1993
中世和歌の想念と表現	9,600 円	1993
中世和歌つれづれ	2,913 円	1993
正岡子規入門	1,942 円	1993
木を科学する	1,942 円	1993
吉田光邦 両洋の人	6,200 円	1993
岡山和歌俳諧人名辞典	2,900 円	1992
日本史における国家と社会	7,500 円	1992
札幌農学校と英語教育	3,800 円	1992
生命の意味Ⅰ	2,300 円	1992
生命の意味Ⅱ	2,300 円	1992
脳死は、死でない。	1,553 円	1992
紙一七人の提言一	3,107 円	1992
石川啄木入門	1,942 円	1992
月と西行	2,500 円	1992
視覚の一九世紀	5,800 円	1992
歴史災害のはなし	2,900 円	1992
五山文学全集 [全5巻]	65,000 円	1992
近代日本の学校文化誌	2,300 円	1992
「大化改新」史論 上巻	3,800 円	1991
「大化改新」史論 下巻	3,800 円	1991
大坂学問史の周辺	2,300 円	1991
磐水存響 乾・坤	19,000 円	1991
人間・科学・宗教	4,000 円	1991
中世考古美術と社会 (思文閣史学叢書)	9,800 円	1991
晶子と寛の思い出	1,748 円	1991
科学者の歩める道	2,800 円	1991
公家と儀式 (京都大学文学部博物館図録)	1,087 円	1991
大槻玄沢の研究	7,800 円	1991
医心方の伝来	9,800 円	1991
大阪天満宮史の研究	5,800 円	1991
自筆本 三輪物語	8,349 円	1991
新・漢方処方マニュアル	4,854 円	1991
先史時代の北白川 (京都大学文学部博物館図録)	1,049 円	1991

もう一つの中世像	3,800 円	1991
松平春嶽未公刊書簡集	12,000 円	1991
増補版 京の医史跡探訪	3,000 円	1991
日欧のかけはし	2,800 円	1990
京都・大枝の歴史と文化	5,800 円	1990
都市文化と東洋医学	6,800 円	1990
宮崎圓遵著作集 第1巻 (親鸞の研究上)	6,200 円	1986
宮崎圓遵著作集 第2巻 (親鸞の研究下)	6,200 円	1986
宮崎圓遵著作集 第3巻 (中世仏教と庶民生活)	6,500 円	1987
宮崎圓遵著作集 第4巻 (真宗史の研究上)	6,800 円	1986
宮崎圓遵著作集 第5巻 (真宗史の研究下)	8,000 円	1989
宮崎圓遵著作集 第6巻 (真宗書誌学の研究)	7,000 円	1986
宮崎圓遵著作集 第7巻 (仏教文化史の研究)	6,800 円	1990
キリシタン版「ヒイデスの導師」の原典的研究	17,000 円	1990
書道史より見る禅林の墨蹟	2,900 円	1990
大和(奈良)の紙(和紙文庫シリーズ)	19,417 円	1990
水玉紙・奉書紙・高野紙(和紙文庫シリーズ)	19,417 円	1990
楮・三桮・雁皮が紙になる迄(和紙文庫シリーズ)	19,417 円	1990
土佐の紙(和紙文庫シリーズ)	33,981 円	1990
佐賀の紙(和紙文庫シリーズ)	19,417 円	1990
近江の紙・津山の紙・ネリの話(和紙文庫シリーズ)	19,417 円	1990
日本の政策金融	3,600 円	1990
平生鈺三郎日記抄(全2冊)	34,000 円	1990
続木のはなし	1,800 円	1990
餅菓子即席 増補手製集(菓子文庫シリーズ)	14,563 円	1990
歴史の地層から	2,300 円	1990
大和の古代史跡を歩く	2,136 円	1990
魚雁集	2,300 円	1990
近代化の推進者たち	9,800 円	1990
近世日本の儒教と文化(思文閣史学叢書)	7,800 円	1990
熊沢蕃山の研究	11,000 円	1990
芸術の理論と歴史	13,000 円	1990
椿井大塚山古墳と三角縁神獣鏡 (京都大学文学部博物館図録)	1,000 円	1989
神名の語源辞典	3,500 円	1989
日本近代化と真宗地帯の研究	3,600 円	1989
佛光寺の歴史と信仰	15,000 円	1989
夜の解剖室	2,500 円	1989
中世東国の支配構造(思文閣史学叢書)	7,800 円	1989
日本の前近代と北陸社会	13,000 円	1989
浪速の町医師 上田秋成	1,845 円	1989
京都の美術史	3,800 円	1989
平安朝文学とその周辺	8,500 円	1989
書(一)鑑賞と表現	2,000 円	1980
書(二)教え方・学び方	2,000 円	1982

書（三）淳化閣帖からの展開	2,000 円	1984
書（四）美学と書教育・実技篇	2,000 円	1988
宸翰英華〔全4冊〕	98,000 円	1988
江戸の儒学	3,800 円	1988
近世日本の儒学と洋学	8,500 円	1988
字鏡集〔全2冊〕	32,000 円	1988
江馬細香来簡集	8,500 円	1988
西南地域の史的展開〔近世篇〕	16,000 円	1988
西南地域の史的展開〔近代篇〕	19,000 円	1988
旗本知行所の研究（思文閣史学叢書）	9,800 円	1988
日本教育史論叢	13,000 円	1988
鍼灸医学序説	2,800 円	1988
蘭学の背景	3,800 円	1988
平記・大府記・永昌記・愚昧記（陽明叢書記録文書篇）	14,000 円	1988
御堂閔白記1（陽明叢書記録文書篇）	9,500 円	1983
御堂閔白記2（陽明叢書記録文書篇）	9,800 円	1983
御堂閔白記4（陽明叢書記録文書篇）	9,000 円	1984
ザ・ヤトイ	7,300 円	1990
鍼灸古典入門	2,800 円	1987
石川九楊作品集しかし	20,000 円	1987
近世復古清涼殿の研究	3,800 円	1987
水車の技術史	2,600 円	1987
図録京都大学文学部博物館	1,000 円	1987
水と人	1,942 円	1987
明治文化と西洋人	9,800 円	1987
北方文化研究報告	98,000 円	1987
明治初年真宗門徒大決起の研究	3,800 円	1987
条約改正と英国人ジャーナリスト	2,800 円	1987
医学書誌論考	4,800 円	1987
同名異木のはなし	1,800 円	1987
源通具全歌集	5,800 円	1987
検証地震予知	3,300 円	1987
馬となまずと私と	2,300 円	1987
原田伴彦論集 第1巻（都市発達史研究）	6,800 円	1984
原田伴彦論集 第2巻（都市形態史研究）	6,800 円	1984
原田伴彦論集 第3巻（都市社会史研究）	6,800 円	1985
原田伴彦論集 第4巻（部落差別史研究）	6,800 円	1985
原田伴彦論集 第5巻（文化芸能史研究）	6,800 円	1986
近代医史学論考（阿知波五郎論文集 上）	6,000 円	1986
医史学点描（阿知波五郎論文集 下）	7,000 円	1986
禪宗文化史の研究	8,500 円	1986
明朝体の歴史	2,300 円	1986
新勅撰和歌集古注釈とその研究	45,000 円	1986
万国博覧会の研究	6,500 円	1986
杉浦重剛先生	10,000 円	1986

大燈国師語録〔全2冊〕	18,000 円	1986
補訂日本建築細部変遷小図録	9,800 円	1986
多紀氏の事蹟	6,500 円	1985
白隠和尚年譜（近世禪僧伝）	6,500 円	1985
能勢朝次著作集 第1巻（国文学研究）	6,600 円	1985
能勢朝次著作集 第2巻（中世文学研究）	4,000 円	1981
能勢朝次著作集 第3巻（近世和歌研究）	6,400 円	1983
能勢朝次著作集 第4巻（能楽研究一）	5,000 円	1982
能勢朝次著作集 第5巻（能楽研究二）	6,400 円	1981
能勢朝次著作集 第6巻（能楽研究三）	6,400 円	1982
能勢朝次著作集 第7巻（連歌研究）	6,600 円	1981
能勢朝次著作集 第8巻（連歌俳諧研究）	5,400 円	1982
能勢朝次著作集 第9巻（俳諧研究一）	6,900 円	1981
能勢朝次著作集 第10巻（俳諧研究二）	4,200 円	1985
竹取物語の国語学的研究	10,000 円	1985
図説万国博覧会史	7,500 円	1985
紙のふるさとを行く	2,800 円	1985
日本近代の成立と展開	9,800 円	1984
日本近代化の諸相	15,000 円	1984
空海と綜芸種智院（弘法大師の教育 上巻）	8,400 円	1984
空海といろは歌（弘法大師の教育 下巻）	8,400 円	1984
回想・杉浦重剛	10,000 円	1984
宮本又次史学館	2,300 円	1984
江馬家来簡集	8,500 円	1984
緒方洪庵と適塾生	2,500 円	1984
天皇親政	4,800 円	1984
雪江禅師語録	4,200 円	1984
日本仏教美術史研究	12,000 円	1984
岡田章雄著作集Ⅰ（キリシタン信仰と習俗）	2,900 円	1983
岡田章雄著作集Ⅱ（キリシタン風俗と南蛮文化）	2,900 円	1983
岡田章雄著作集Ⅲ（日欧交渉と南蛮貿易）	2,900 円	1983
岡田章雄著作集Ⅳ（外から見た日本）	2,900 円	1984
岡田章雄著作集Ⅴ（三浦按針）	2,900 円	1984
岡田章雄著作集Ⅵ（南蛮随想）	2,900 円	1984
木のはなし	1,800 円	1983
シーボルト参府旅行中の日記	2,800 円	1983
杉浦重剛全集 第1巻	20,000 円	1983
杉浦重剛全集 第2巻	24,000 円	1983
杉浦重剛全集 第3巻	24,000 円	1982
杉浦重剛全集 第4巻	19,500 円	1982
杉浦重剛全集 第5巻	17,500 円	1982
雲居和尚年譜（近世禪僧伝）	6,000 円	1983
増補津村別院誌	8,500 円	1983
原田伴彦著作集 第1巻（戦国社会史）	2,800 円	1981
原田伴彦著作集 第2巻（日本女性史）	2,900 円	1981

原田伴彦著作集	第3巻 (茶道文化史)	2,900 円	1981
原田伴彦著作集	第4巻 (部落問題論)	2,900 円	1981
原田伴彦著作集	第5巻 (近世社会史)	2,900 円	1981
原田伴彦著作集	第6巻 (人物史夜話)	2,900 円	1982
原田伴彦著作集	第7巻 (社会と文化)	2,900 円	1982
原田伴彦著作集	別巻 (近世都市騷擾史)	2,900 円	1982
奈良本辰也選集	第1巻 (師あり友あり)	1,800 円	1981
奈良本辰也選集	第2巻 (維新に生きる)	1,800 円	1982
奈良本辰也選集	第3巻 (歴史の甲乙)	1,800 円	1982
奈良本辰也選集	第4巻 (心ぞ翔ばん)	1,800 円	1982
奈良本辰也選集	第5巻 (美の風景)	1,800 円	1982
奈良本辰也選集	第6巻 (炉辺に語る)	1,800 円	1982
奈良本辰也選集	別巻 (初期論文集)	1,800 円	1982
沢庵和尚年譜 (近世禅僧伝)		5,400 円	1982
先学追慕		2,500 円	1982
吉田光邦評論集	1 (芸術の解析)	2,900 円	1982
吉田光邦評論集	2 (文化の手法)	2,900 円	1982
吉田光邦評論集	3 (文明の基軸)	2,900 円	1982
高橋貞一国文学論集		7,500 円	1982
中國戯曲善本三種		13,800 円	1982
九州の郷土玩具		2,300 円	1982
近代日本の医学		5,800 円	1982
呉秀三		14,000 円	1982
訓註空華日用工夫略集		12,000 円	1982
東嶺和尚年譜 (近世禅僧伝)		6,500 円	1982
鎌倉仏教雑考		9,800 円	1982
茶書の研究・茶人の研究 (全2冊)		29,000 円	1981
禅林墨蹟		230,000 円	1981
岡山縣古文書集 [全4輯]		35,500 円	1981
芳賀幸四郎歴史論集	第1巻 (東山文化の研究上)	10,000 円	1981
芳賀幸四郎歴史論集	第2巻 (東山文化の研究下)	8,000 円	1981
芳賀幸四郎歴史論集	第3巻		
	(中世禅林の学問及び文学に関する研究)	9,000 円	1981
芳賀幸四郎歴史論集	第4巻 (中世文化とその基盤)	12,000 円	1981
芳賀幸四郎歴史論集	第5巻 (近世文化の形成と伝統)	11,000 円	1981
帝国議会と教育政策		13,000 円	1981
医学序説		3,800 円	1981
禅宗史の散策		13,000 円	1981
上村六郎染色著作集	第1巻	6,500 円	1979
上村六郎染色著作集	第2巻	6,000 円	1980
上村六郎染色著作集	第3巻	6,500 円	1980
上村六郎染色著作集	第4巻	6,500 円	1980
上村六郎染色著作集	第5巻	6,500 円	1979
上村六郎染色著作集	第6巻	6,500 円	1981
うたひせう [全3冊] (龍谷大学善本叢書)	揃	34,000 円	1981

浪花和尚のえんま帖	1,400 円	1981
日本法制史論集	22,000 円	1980
集古〔全 9 冊〕	58,000 円	1980
禅録慣用語俗語要典	4,000 円	1980
典医の歴史	4,800 円	1980
西陣史	8,500 円	1980
東洞全集	7,500 円	1980
富士川游著作集〔全 10 巻〕	揃 60,000 円	1980 ～ 82
日本医史学雑誌 1	9,500 円	1978
日本医史学雑誌 2	9,500 円	1978
日本医史学雑誌 3	9,000 円	1978
日本医史学雑誌 4	9,000 円	1978
日本医史学雑誌 5	8,000 円	1978
日本医史学雑誌 6	8,000 円	1979
日本医史学雑誌 7	8,000 円	1979
日本医史学雑誌 8	8,000 円	1979
日本医史学雑誌 9	8,500 円	1979
日本医史学雑誌 10	7,000 円	1979
日本医史学雑誌 11	8,000 円	1979
日本医史学雑誌 12	8,000 円	1978
日本医史学雑誌 13	8,000 円	1978
日本医史学雑誌 14	8,500 円	1979
日本医史学雑誌 15	8,000 円	1978
日本医史学雑誌 16	8,500 円	1978
日本医史学雑誌 17	7,500 円	1979
日本医史学雑誌 18	6,500 円	1980
大坂蘭学史話	3,800 円	1979
かぶき論叢	13,500 円	1979
日本禅宗史論集 卷下之一	15,000 円	1979
日本禅宗史論集 卷下之二	15,000 円	1977
鉄斎米寿記念貽咲墨戯	390,000 円	1979
龍宝山大徳禅寺世譜	4,200 円	1979
手摺木版花鳥風月	320,000 円	1979
正法山六祖伝訓註	2,800 円	1979
行道佛教学	5,500 円	1979
京からかみ文様譜	28,000 円	1979
釜の歴史と鑑賞	3,500 円	1979
京都大地震	2,800 円	1979
源氏物語 3 葵・賢木・花散里（陽明叢書国書篇）	8,000 円	1979
箕作阮甫の研究	13,000 円	1978
園城寺之研究	15,000 円	1978
額軸鑑賞の知識	5,200 円	1978
禅と思想	5,190 円	1978
近松全集〔全 12 冊〕	80,000 円	1978
日本花押大観	2,900 円	1978

日本経済史の研究	12,000 円	1978
佛教藝術 1 号～20 号 [全 5 冊]	42,200 円	1978
佛教藝術 21 号～40 号 [全 5 冊]	40,400 円	1978
佛教藝術 41 号～60 号 [全 6 冊]	50,800 円	1978
佛教藝術 61 号～80 号 [全 6 冊]	53,700 円	1978
評註茶窓問話	2,500 円	1978
上代日本染織史	3,800 円	1977
日本染織工藝史 上	5,300 円	1977
仏教考古学論攷 第 1 卷 (寺院編)	4,900 円	1978
仏教考古学論攷 第 2 卷 (佛像編)	4,200 円	1977
仏教考古学論攷 第 3 卷 (經典篇)	4,900 円	1977
仏教考古学論攷 第 4 卷 (佛塔編)	4,900 円	1977
仏教考古学論攷 第 5 卷 (佛具篇)	4,500 円	1977
仏教考古学論攷 第 6 卷 (雜集篇)	4,500 円	1977
花林清賞 (華道古典名作選集)	6,500 円	1976
仙伝抄 (華道古典名作選集)	4,400 円	1976
插花百練 (華道古典名作選集)	5,500 円	1976
抛入花伝書 (華道古典名作選集)	5,400 円	1976
草木出生伝 (華道古典名作選集)	6,000 円	1976
生け花正意四季の友 (華道古典名作選集)	6,000 円	1976
頭書立華指南 (華道古典名作選集)	5,500 円	1976
立花初心抄 (華道古典名作選集)	4,900 円	1976
新撰瓶花図彙 [全 2 冊] (華道古典名作選集)	5,500 円	1977
立華時勢粧 [全 3 冊] (華道古典名作選集)	7,500 円	1976
慈雲尊者全集 [全 19 卷]	150,000 円	1977
石道寺譚絵	15,000 円	1978
手すきの紙郷	2,300 円	1978
三木金物問屋史料	10,000 円	1978
続平家物語諸本の研究	9,800 円	1978
禅学論攷	8,000 円	1977
造像量度経 (全 2 冊)	12,000 円	1977
新訳絵本伊勢物語	25,000 円	1977
昭和民芸紙譜 [全 5 冊]	32,500 円	1977
郷土玩具種々相	3,200 円	1977
慶長以前の石燈籠	5,800 円	1977
初期古代東北の研究	6,000 円	1977
図録 和紙の文化史年表	500 円	1977
染織史考	3,000 円	1977
染織文様史の研究	5,500 円	1977
徒然草を語る	1,800 円	1977
日本玩具史 [全 2 冊]	7,400 円	1977
日本染織史	5,800 円	1977
雛祭新考	3,200 円	1977
補訂 枕草子集註	5,200 円	1977
枕草子幻 想定子皇后	2,300 円	1977

和紙文化	2,190 円	1977
建碑記念 文晁遺墨展覽会図録 [全2冊]	35,000 円	1977
和漢紙文献類聚 古代・中世篇	13,000 円	1976
花籠と竹花入	2,900 円	1976
九八号古墳（北墳）発掘略報告書	2,200 円	1976
九八号古墳（南墳）発掘調査報告書	2,200 円	1976
新校太平記（上）	9,500 円	1976
新校太平記（下）	9,500 円	1976
慶州地区古墳発掘調査報告書	12,000 円	1976
禪と美術	10,000 円	1976
正法山誌	3,500 円	1975
新編真宗全書 [全30冊]	155,400 円	1975
絶海語録 第1巻	5,800 円	1975
絶海語録 第2巻	5,800 円	1976
絶海語録 第3巻	6,000 円	1975
花みる心 [全2冊]	8,400 円	1975
天馬塚発掘調査報告書	23,500 円	1975
日本建築様式の研究 [全2冊]	14,800 円	1975
歴世服飾図説	9,500 円	1975
大阪人物誌 [全2冊]	15,000 円	1974
韓国建築史図録	12,000 円	1974
茶道四祖伝書（茶湯古典叢書）	5,500 円	1974
真宗史料集成 全13冊	244,951 円	1974
宋元學案・宋元學案補遺人名字號別名索引	7,000 円	1974
日本写経綜鑒	8,500 円	1974
日本囊物史	8,500 円	1974
枕草子の婦人服飾	4,500 円	1974
日本画家辞典 [全2冊]	20,000 円	1974
東洋学説林	3,200 円	1974
欽定西清硯譜 [全2巻]	35,000 円	1974
幕末財政史研究	8,000 円	1974
宝石誌	5,000 円	1974
平安人物志 短冊集影	10,000 円	1973
室町時代庭園史	12,000 円	1973
平家物語百二十句本	4,000 円	1973
石燈籠 全4冊	45,000 円	1973
刊本花道書年表	1,000 円	1973
近世禪林僧宝伝 全3冊	17,000 円	1973
宋元明清書畫名賢詳伝 全4冊	28,000 円	1973
大日本地震史料	12,000 円	1973
日本建築史図録 全6冊	55,000 円	1973
日本古写経現存目録	7,500 円	1973
日本災異志	7,500 円	1973
朝鮮医書誌	25,000 円	1973
泌尿器科学史	9,500 円	1972

特選神名牒	18,000 円	1972
日本人名辞典	6,500 円	1972
越前人物志 全 2 冊	15,000 円	1972
増訂日本古紙幣類鑑 全 3 冊	25,000 円	1972
増訂日本貨幣史	20,000 円	1972
増補日本医事大年表	8,000 円	1972
体系世界医学史	25,000 円	1972
中国随筆索引	8,000 円	1972
広瀬淡窓	1,300 円	1972
重要美術品等認定物件目録	7,000 円	1972
蕉門珍書百種・和露文庫 [全 7 巻]	35,000 円	1971
神社叢録 [全 2 巻]	37,143 円	1971
人蔘史 [全 7 冊]	55,000 円	1971
阿波藍沿革史	6,000 円	1971
恵心僧都全集 全 5 冊	38,000 円	1971
菓子文庫 全 10 号	100,000 円	1971
杏林叢書 全 2 冊	10,000 円	1971
稿本日本眼科学史	3,300 円	1971
神祇志料・附考 全 4 冊	17,000 円	1971
神祇全書 全 5 冊	20,000 円	1971
神道叢書 全 3 冊	15,000 円	1971
増補 淡窓全集 全 3 冊	22,000 円	1971
大日本租税志 全 3 冊	17,000 円	1971
朝鮮古書画総覧	23,000 円	1971
東洋史研究文献類目 昭和 9 年度～昭和 16 年度	14,600 円	1971
華岡青洲先生及其外科	6,500 円	1971
百姓一揆の研究 全 2 冊	6,500 円	1971
箕作阮甫	5,500 円	1971
よはひ草 全 6 冊	12,000 円	1971
大阪府誌 全 5 冊	75,000 円	1970
呉氏医聖堂叢書	7,500 円	1970
増訂 古画備考 全 4 冊	30,000 円	1970
古画備考五十音別索引	1,500 円	1970
北越偉人 沙門良寛全伝	6,500 円	1970
越前和紙今昔絵図 和紙文庫	10,000 円	1969
滅亡高野紙見聞図説 和紙文庫	10,000 円	1969
檀紙考 和紙文庫	10,000 円	1969

書 名 索 引

あ		醫譚 [全3巻]	42
会沢正志斎書簡集	9	一宮ノオト	51
愛知県の教育史 (都道府県教育史)	[品切]	一休派の結衆と史的展開の研究	18
アウシュヴィッツの子どもたち	[品切]	一千年目の源氏物語 (シリーズ古典再生 1)	80
敢えて風雪を侵して (新島襄を語る 4)	[品切] 32	伊藤孝男の百人一首・競技かるた	[品切]
青森県の教育史 (都道府県教育史)	[品切]	祈りの文化	74
アーカイブズの構造認識と編成記述 [オンデマンド版]	29	異文化・交流のはざまで	[品切]
品子と寛の思い出	[品切]	異邦から／へのまなざし	73
秋田県の教育史 (都道府県教育史)	[品切]	今なぜ仏教医学か	46
朝顔明鑑鈔	[品切]	今村家文書史料集 [全2冊]	9
阿蘇下野狩史料集	9	医療の社会史	45
阿知波五郎論文集 [全2冊]	[品切]	医療福祉の祖 長与専斎	44
アーツ・アンド・クラフツと日本	60	岩倉使節団における宗教問題	[品切]
アートに学ぶ	[品切]	岩倉使節団の再発見	[品切]
アメリカン・ボード200年	52	岩倉使節団の比較文化史的研究	30
ありがとう、あなたへ	87	岩倉具視関係史料	9
阿波藍沿革史	[品切]	岩手県の教育史 (都道府県教育史)	[品切]
安房妙本寺日我一代記	50	石見銀山	[品切]
安祥寺資財帳 (京大史料叢書)	7	院政期政治史研究 (史学叢書)	16
い		院政とその時代 (佛教大学鷹陵文化叢書 8)	16
う		う	
飯沼慾齋	44	ヴァナキュラー文化と現代社会	76
医界風土記 [全6冊]	[品切]	ヴィクトリア朝英国と東アジア	
医学書誌論考	[品切]	(大手前大比較叢書 3)	[品切]
医学序説	[品切]	William Smith Clark の教育思想の研究	41
淀の文化史 (佛教大学研究叢書 25)	77	上村六郎染色著作集 [全6巻]	[品切]
錨をあげて (新島襄を語る 3)	[品切] 32	宇治拾遺物語 (陽明叢書国書篇 第13輯)	78
池田文書の研究 → 東大医学部初代総理池田謙斎	42	牛と農村の近代史	68
生け花正意四季の友 (華道古典名作選集 第7巻)	[品切]	うたひせう [全3巻] (龍谷大学善本叢書 2)	[品切]
いけばなにみる日本文化	[品切]	写しの力	55
医史学点描 (阿知波五郎論文集 下)	[品切]	器を楽しむ	65
石川九楊作品集 しかし	[品切]	馬となまずと私と	[品切]
石川啄木入門	[品切]	うま味の秘密 (和食文化ブックレット 7)	75
石田茂作著作集 [全6巻] → 仏教考古学論攷	[品切]	海を渡り世紀を越えた 竹内栖鳳とその弟子たち	54
石燈籠	[品切]	雲居和尚年譜 (近世禅僧伝 第3巻)	[品切]
石山寺の信仰と歴史	49	え	
胎咲墨戯 → 鉄斎米寿記念 胎咲墨戯	[品切]	栄花物語・大鏡の研究	12
医心方の伝来	[品切]	永観『往生講式』の研究	[品切]
伊勢御師と来田文書 (京大博物館の古文書 第7輯)	6	英国と日本	30
伊勢松本文書 (京大博物館の古文書 第12輯)	6	英語の談話文法	[品切]
伊勢物語・大和物語 (陽明叢書国書篇 第9輯)	78	永昌記 (京大史料叢書)	7
伊勢物語 → 新訳絵本伊勢物語	[品切]	永昌記紙背文書 (京大博物館の古文書 第11輯)	6
伊勢物語絵巻 → 住吉如慶筆 伊勢物語絵巻	59		

絵入謡本と能狂言絵	83	大阪天満宮史の研究 [第1・2集]	[品切]
描かれた祇園祭	56	大阪府誌	[品切]
恵心僧都全集	[品切]	大阪府の教育史(都道府県教育史)	[品切]
越前人物志	[品切]	大阪砲兵工廠の研究	69
越前和紙今昔絵図(和紙文庫 第一号)	[品切]	大坂名医伝	44
越境する漱石文学	85	大坂蘭学史話	[品切]
江戸期文化人の死因	[品切]	大槻玄沢の研究	[品切]
江戸後期儒者のフィロロギー	28	大津京跡の研究	[品切]
江戸時代唐船による日中文化交流 [オンデマンド版]	28	大手鑑・予楽院臨書手鑑(陽明叢書国書篇 第15輯)	78
江戸時代の図書流通(佛教大学鷹陵文化叢書7)	24	大手前大学比較文化研究叢書	85
江戸の儒学	[品切]	大山崎宝積寺文書(京大博物館の古文書 第8輯)	6
江戸文化が甦る(大手前大比較叢書12)	85	岡倉天心 五浦から世界へ	56
江戸湾をめぐる中世	16	岡倉天心の比較文化史的研究	72
絵葉書で辿る日本近代医学史	[品切]	岡田章雄著作集 [全6巻]	[品切]
愛媛県教育史(都道府県教育史)	[品切]	緒方郁藏伝	45
絵巻 大江山酒吞童子・芦引絵の世界	82	緒方洪庵	[品切]
絵巻聚成 [一](徳川黎明会叢書 物語篇一)	78	緒方洪庵と適塾生	[品切]
江馬家来簡集	[品切]	緒方洪庵の「除痘館記録」を読み解く	42
江馬細香来簡集	[品切]	緒方洪庵の蘭学	45
延喜式→九条家本延喜式	8	緒方惟準伝	45
延慶本『平家物語』の説話と学問	[品切]	岡屋関白記・深心院関白記・後知足院関白記 (陽明叢書記録文書篇 第2輯)	5
お			
黄金のとき 桃山絵画	59	岡山縣古文書集	[品切]
王権と神祇	51	岡山県教育史(都道府県教育史)	[品切]
王権と都市	72	岡山和歌俳諧人名辞典	[品切]
「王国」と「植民地」(大経大研究叢書)	[品切]	翁の生成 [オンデマンド版]	75
王朝千年記	[品切]	沖縄県教育史(都道府県教育史)	[品切]
王者の武装(京大博物館)	[品切]	奥の細道画卷 →与謝蕪村筆「奥の細道画卷」	[品切]
黄檗版大藏経刊記集	[品切]	オスマン帝国と日本趣味/ジャポニスム	56
黄檗文化人名辞典	4	おもてなしとマナー(和食文化ブックレット3)	75
欧米資本主義の史的展開	[品切]	オランダにおける蘭学医書の形成	45
近江の紙・津山の紙・ネリの話(和紙文庫シリーズ)	[品切]	阿蘭陀宿海老屋の研究	[品切]
近江の古像	57	園城寺之研究	[品切]
近江の美術と民俗	[品切]	園城寺の仏像 (天台寺門宗教文化資料集成 仏教美術・文化財編)	57
近江の歴史と文化	[品切]	御茶湯之記(茶湯古典叢書6)	63
近江文化財全集	34	オンドルと暹の国(佛教大学鷹陵文化叢書9)	[品切]
応用美術思想導入の歴史	61	陰陽道の神々(佛教大学鷹陵文化叢書17)	
大分県教育史(都道府県教育史)	[品切]	→増補 陰陽道の神々	[品切]
大分県美術	[品切]	怨霊・怪異・伊勢神宮	20
大阪青山短期大学所蔵品図録 [第1輯]	[品切]	か	
大坂医師番付集成	42	火(民衆生活の日本史 第2巻)	[品切] 10
大坂学問史の周辺	[品切]	開学百周年記念 佛教大学附属図書館所蔵 貴重古典籍目録	[品切]
大阪川口居留地の研究	[品切]	外国人のみたお伽ばなし	73
大坂蔵屋敷の建築史的研究	71	海国日本の夜明け	7
大坂城と城下町	24	回想・杉浦重剛	[品切]
大阪人物誌	[品切]		
大阪密売局の史的展開 [オンデマンド版]	34		

海賊史観からみた世界史の再構築	73	関西モダニズム再考	〔品切〕
科学者の歩める道	〔品切〕	関山慧玄と初期妙心寺	〔品切〕
額軸鑑賞の知識	〔品切〕	元三大師御籤本の研究〔オンデマンド版〕	39
革新の書人 河東碧梧桐	〔品切〕	欠伸稿訳注→江月宗玩 欠伸稿訳注	48
隔蓑記	8	元祖りベラリスト（新島襄を語る5）	〔品切〕 32
隔蓑記総索引	8	漢方と薬のはなし	〔品切〕
学問をしるもの	41	神主と神人の社会史（神社史料研究会叢書Ⅰ）	〔品切〕
神楽と祭文の中世	76	眼病に効く温泉	〔品切〕
火山噴火と環境・文明（文明と環境Ⅲ）	〔品切〕	環琵琶湖地域論	〔品切〕
菓子文庫	〔品切〕	刊本花道書年表	〔品切〕
菓子文庫シリーズ	73		
勸修寺家本職掌部類（京大博物館の古文書 第4輯）	6	き	
画集下村為山	〔品切〕	紀伊古代史研究	11
可睡斎史料集〔全5巻〕	47	祇園祭の中世	19
片桐石州茶書（茶湯古典叢書7）	63	儀式踐祚大嘗祭儀→訓読註釈儀式踐祚大嘗祭儀	9
葛川明王院文書（京大博物館の古文書 第10輯）	6	技術と文明〔1～41〕	69
脚氣の歴史	46	貴族院と立憲政治	〔品切〕
花道古書集成	66	貴族日記が描く京の歴史災害	35
華道古典名作選集〔全10巻〕	〔品切〕	基礎茶式	65
花道の思想	66	北垣国道日記「塵海」	8
仮名文章表現史の研究	〔品切〕	北太平洋の先住民交易と工芸	60
金森宗和茶書（茶湯古典叢書4）	63	北野天満宮 信仰と名宝	60
かぶき論叢	〔品切〕	貴重古典籍目録→開学百周年記念	
貨幣と鉾山	67	佛教大学附属図書館所蔵 貴重古典籍目録〔品切〕	
壁紙のジャポニスム	〔品切〕	喫煙伝来史の研究	73
鎌倉時代の権力と制度	17	畿内の豪農経営と地域社会	25
鎌倉時代の朝幕関係〔オンデマンド版〕	21	記念植樹と日本近代	72
鎌倉仏教雑考	〔品切〕	木のはなし	〔品切〕
釜の歴史と鑑賞	〔品切〕	吉備と京都の歴史と文化	
紙－昨日・今日・明日	63	（佛教大学鷹陵文化叢書3）	〔品切〕
紙－七人の提言－	〔品切〕	木村兼葭堂	〔品切〕
神々の酒肴 湖国の神饌	〔品切〕	木村重信著作集〔全8巻〕	54
上賀茂のもり・やしろ・まつり	〔品切〕	逆久如の日本生活文化	71
紙のふるさとを行く	〔品切〕	九州の郷土玩具	〔品切〕
賀茂信仰の歴史と文化（神社史料研究会叢書Ⅵ）	51	九州の蘭学	〔品切〕
花林清賞（華道古典名作選集 第1巻）	〔品切〕	九八号古墳（南墳）発掘調査報告書	〔品切〕
河北倫明美術時評集〔全5巻〕	〔品切〕	九八号古墳（北墳）発掘略報告書	〔品切〕
河鍋曉斎と幕末明治の書画会→酔うて候		宮城図（陽明叢書記録文書篇 別輯）	5
河鍋曉斎と幕末明治の書画会	〔品切〕	旧石器人のアトリエ	〔品切〕
河東碧梧桐→革新の書人 河東碧梧桐	〔品切〕	究理堂所蔵 京都小石家来簡集	43
寛永文化の研究（熊倉功夫著作集 第5巻）	66	京・近江・丹後大工の仕事	70
寛永文化のネットワーク	〔品切〕	京からかみ文様譜	〔品切〕
眼科医科人名辞書	〔品切〕	経筒が語る中世の世界	
漢簡の基礎的研究	36	（別府大学文化財研究所企画シリーズ1）	〔品切〕
観経疏之抄 玄義分（浄土宗叢書）	49	行道佛教学	〔品切〕
韓国建築史図録	〔品切〕	京都・大枝の歴史と文化	〔品切〕
韓国陶磁史の誕生と古陶磁ブーム	62	京都大地震	〔品切〕
韓国「併合」前後の教育政策と日本（佛教大学研究叢書8）	41	京都画壇の一九世紀〔全5巻〕	〔品切〕

京都 祇園祭	76	近世教育思想史の研究 [オンデマンド版]	40
郷土玩具種々相	[品切]	近世京都近郊の村と百姓 (佛教大学研究叢書22)	27
郷土教育運動の研究→		近世京都の都市と民衆 (史学叢書)	24
増補 郷土教育運動の研究	[品切]	近世京都の町・町家・町家大工	70
京都企業の光と陰	[品切]	近世京焼の研究	61
京都 近代の記憶	71	近世後期瀬戸内塩業史の研究	25
京都 近代美術工芸のネットワーク	62	近世鉱山社会史の研究	67
京都 芸能と民俗の文化史	[品切]	近世国家の教育思想	39
京都源氏物語地図	[品切]	近世御用絵師の史的研究	[品切]
京都 実相院門跡	57	近世寺社参詣の研究 [オンデマンド版]	28
京都雑色記録 [全3巻]	7	近世史小論集	27
京都大学史料叢書 [全23冊]	7	近世思想史研究の現在	[品切]
京都大学文学部博物館 →図録京都大学文学部博物館	[品切]	近世私塾の研究	38
京都大学文学部博物館の古文書 [第1～12輯]	6	近世社会と知行制	[品切]
京都 高瀬川	34	近世社会と百姓成立 (佛教大学研究叢書1)	[品切]
京都 伝統工芸の近代	[品切]	近世儒者の思想挑戦	[品切]
京都中世都市史研究 (史学叢書)	14	近世禅僧伝 [全8巻]	[品切]
京都の医学史 [全2冊]	43	近世禅林僧宝伝	[品切]
京都の御大礼	[品切]	近世禅林墨蹟 [全3巻]	57
京都の女性史	34	近世大名のアーカイブズ資源研究	28
京都の都市共同体と権力 (史学叢書)	18	近世中国朝鮮交渉史の研究	36
京都の美術史	[品切]	近世地域教育史の研究	39
京都の歴史災害	35	近世都市和歌山の研究	23
京都府の教育史 (都道府県教育史)	[品切]	近世長崎司法制度の研究	67
京都文化の伝播と地域社会 (史学叢書)	17	近世長崎・対外関係史料	8
京都町衆伊藤仁斎の思想形成	38	近世日蘭貿易史の研究 (史学叢書)	24
京都療病院お雇い医師ショイベ	42	近世日本釈奠の研究	39
京都冷泉町文書 [全6巻・別巻1]	[品切]	近世日本の儒学と洋学	[品切]
京の医史跡探訪 [増補版]	[品切]	近世日本の儒教と文化 (史学叢書)	[品切]
京の鴨川と橋	34	近世日本の銅と大坂銅商人	68
京の民間医療信仰	46	近世の王権と仏教	50
京舞井上流の誕生	75	近世の開幕と貨幣統合	29
京大和翠紅館→春秋 京大和翠紅館	70	近世の学校と教育 [オンデマンド版]	40
京料理の文化史	[品切]	近世の環境と開発	[品切]
杏林叢書	[品切]	近世の禁裏と都市空間	27
魚雁集	[品切]	近世の公家社会と京都	28
玉薬	5	近世の女性画家たち	[品切]
玉海・尾陽 (徳川黎明会叢書 古筆手鑑篇一)	78	近世の学びと遊び (佛教大学鷹陵文化叢書10)	[品切]
キリシタン大名の考古学		近世東アジア海域の文化交渉	36
(別府大学文化財研究所企画シリーズ2)	77	近世琵琶湖水運の研究	26
キリシタン版「ヒイデスの導師」の原典的研究	[品切]	近世復古清涼殿の研究	[品切]
桐火桶・詠歌一鉢・綺語抄		近世文化の形成と伝統	
(徳川黎明会叢書 和歌篇四)	78	(芳賀幸四郎歴史論集 第5巻) [品切]	
木を科学する	[品切]	近世妙心寺建築の研究	70
金唐革史の研究	60	近世吉野林業史 [オンデマンド版]	68
金鯢叢書 [第1～40輯]	10	近代医史学論考 (阿知波五郎論文集 上)	[品切]
近世上方歌舞伎と堺 (佛教大学研究叢書14)	27	近代医療のあけぼの	[品切]
近世上方大工の組・仲間	70	近代大阪の企業者活動	[品切]

近代化の推進者たち	〔品切〕	筥俣の研究	75
近代京都研究	31	俱舎論音義の研究	82
近代京都の施薬院	32	九条家本延喜式〔全5巻〕(東京国立博物館古典籍叢刊)	8
近代京都の美術工芸	62	くずし字辞典	4
近代工芸運動とデザイン史	61	熊倉功夫著作集〔全7巻〕	66
近代古墳保存行政の研究	32	熊沢蕃山の研究	〔品切〕
近代数寄者の茶の湯(熊倉功夫著作集 第4巻)	66	熊沢蕃山の思想冒険	39
近代数寄者のネットワーク	68	熊本県的美術	〔品切〕
近代西洋文明との出会い	23	熊本藩の地域社会と行政	26
近代地方政治と水利土木	30	呉氏医聖堂叢書	〔品切〕
近代茶道史の研究(熊倉功夫著作集 第3巻)	66	呉秀三	〔品切〕
近代茶道の歴史社会学	64	呉秀三著作集〔全2巻〕	43
近代天皇制と社会	34	軍医森鷗外のドイツ留学	〔品切〕
近代都市公園史の研究	〔品切〕	軍事技術者のイタリア・ルネサンス	69
近代新潟におけるキリスト教教育	〔品切〕	訓註空華日用工夫略集	〔品切〕
近代新潟におけるプロテスタント	〔品切〕	訓点資料の基礎的研究	80
近代日本画、産声のとき	〔品切〕	訓讀註釋儀式踐祚大嘗祭儀	9
近代日本公園史の研究	69	訓読 豊後国志	〔品切〕
近代日本高等教育体制の黎明	41		
近代日本(陳列所)研究	71		
近代日本と地域振興	31	け	
近代日本と幕末外交文書編纂の研究	30	慶安手鑑	58
近代日本における書への眼差し	58	経済史再考	〔品切〕
近代日本の医学	〔品切〕	経済史文獻解題	〔品切〕
近代日本の衣服産業	68	慶州地区古墳発掘調査報告書	〔品切〕
近代日本の学校文化誌	〔品切〕	芸術の解析(吉田光邦評論集Ⅰ)	〔品切〕
近代日本の空間編成史	33	芸術の理論と歴史	〔品切〕
近代日本の軍部と政治	30	慶長以前の石燈籠	〔品切〕
近代日本の都市社会政策とマイノリティ	32	稽微録(大経大史料叢書)	〔品切〕
近代日本のユダヤ論議	33	啓迪集→現代語訳啓迪集	〔品切〕
近代日本の倫理思想	41	系譜伝承論	〔品切〕
近代日本の歴史都市〔オンデマンド版〕	33	劇場の近代化	71
近代の「美術」と茶の湯	65	元勲・近代諸家書簡集成→	
欽定西清硯譜〔全2巻〕	〔品切〕	宮津市立前尾記念文庫所蔵	
金瓶梅研究(佛教大学研究叢書6)	86	元勲・近代諸家書簡集成〔品切〕	
禁裏・公家文庫研究〔第1～6輯〕〔2品切〕	7	言語のあいだを読む	85
禁裏本歌書の蔵書史的研究	82	源氏物語〔全16冊〕	
		(陽明叢書国書篇 第16輯)〔3品切〕	78
		源氏物語細流抄→	
		三条西公条自筆稿本源氏物語細流抄	79
く		源氏物語 千年のかがやき	80
空海といろは歌(弘法大師の教育 下巻)	〔品切〕	源氏物語の国語学的研究(中川浩文論文集 下巻)	80
空海と綜芸種智院(弘法大師の教育 上巻)	〔品切〕	源氏物語の史的研究(史学叢書)	10
空花集	48	源氏物語の地理	80
空華日用工夫略集→訓註空華日用工夫略集	〔品切〕	源氏物語 遊興の世界	81
公家茶道の研究	63	賢者の王国 愚者の浄土	50
公家と儀式(京大博物館5)	〔品切〕	検証地震予知	〔品切〕
公家と武家 I～IV〔I品切〕	15	顕岑院本	64
公家と武家の比較文明史→		憲政常道と政党政治	32
国際シンポジウム 公家と武家の比較文明史	15		

『狭衣物語』 享受史論究	80	社会経済史学の誕生と黒正蔵	
佐々木六角氏の系譜	〔品切〕	(大経大研究叢書)	〔品切〕
佐治重賢氏所蔵 小堀政一関係文書	6	石道寺譚絵	〔品切〕
雑誌「大大阪」CD-ROM	〔品切〕	社家文事の地域史 (神社史料研究会叢書Ⅳ)	51
雑誌『太陽』と国民文化の形成	〔品切〕	社寺造営の政治史 (神社史料研究会叢書Ⅱ)	51
雑誌茶湯 [1~23号]	〔品切〕	ジャポニスム入門	54
札幌農学校と英語教育	〔品切〕	沙門良寛全伝 → 北越偉人沙門良寛全伝	〔品切〕
茶道四祖伝書 (茶湯古典叢書1)	〔品切〕	朱印船貿易絵図の研究	37
実国・師光全歌注釈	81	周縁文化と身分制	16
The Historical Background of English Education in Japan		集古	〔品切〕
	〔品切〕	住心院文書	49
鯨島尚信在欧外交書簡録	7	修訂版上代学制の研究	
沙門良寛全伝 → 北越偉人沙門良寛全伝	〔品切〕	(桃裕行著作集 第1巻) [オンデマンド版]	9
ザ・ヤトイ	〔品切〕	十九世紀日本の園芸文化 [オンデマンド版]	29
豪華と面	76	一九世紀の豪農・名望家と地域社会	27
慚愧の精神史 (佛教大学鷹陵文化叢書11)	〔品切〕	十二支放	〔品切〕
三高の見果てぬ夢	40	一八世紀日本の文化状況と国際環境	26
三条西公条自筆稿本 源氏物語細流抄		重要美術品等認定物件目録	〔品切〕
(龍谷大学善本叢書25)	79	一六世紀イングランド農村の資本主義発展構造	
散所・声聞師・舞々の研究	16	(大経大研究叢書)	68
山頭火遺墨集 → 精選山頭火遺墨集	〔品切〕	守護所・戦国城下町の構造と社会	22
三匹獅子舞の研究	74	呪術・科学・宗教	〔品切〕
三藐院近衛信尹	58	春秋 京大和翠紅館	70
		書 [一] 鑑賞と表現	〔品切〕
し		書 [二] 教え方・学び方	〔品切〕
シーボルトが蒐集したシダ標本	69	書 [三] 淳化閣帖からの展開	〔品切〕
シーボルト参府旅行中の日記	〔品切〕	書 [四] 美学と書教育・実技篇	〔品切〕
シーボルトと鎖国・開国日本	24	荘園制成立史の研究 [オンデマンド版]	13
慈雲尊者全集	〔品切〕	荘園公領制の成立と内乱 (史学叢書)	14
慈雲尊者墨蹟集成	57	荘園を読む・歩く (京大博物館7)	〔品切〕
視覚芸術の比較文化 (大手前大比較叢書2)	〔品切〕	松花堂昭乗と瀧本流の展開	83
視覚の一九世紀	〔品切〕	相国寺史料 [全10巻・別巻1]	47
私家集・歌合 (徳川黎明会叢書 和歌篇二)	78	相国寺蔵 西笑和尚文案	48
識字と学びの社会史 [オンデマンド版]	40	正倉院染織品の研究	62
字鏡集 (龍谷大学善本叢書8)	〔品切〕	正倉院展六十回のあゆみ	〔品切〕
紫金山古墳と石山古墳 (京大博物館6)	〔品切〕	正倉院の香葉	62
詞源要略・和歌会席 (龍谷大学善本叢書24)	79	正倉院宝物と古代の技	61
自己発見のピルグリム (新島襄を語る別巻5)	32	正倉院宝物に学ぶ	56
死して巖根にあらば骨も也た清からん	87	正倉院宝物に学ぶ2	56
四十人集 (龍谷大学善本叢書18)	79	正倉院宝物に学ぶ3	56
地震予知 → 検証地震予知	〔品切〕	正倉院文書の国語学的研究	80
思想史における近世	38	上代学制の研究 → 修訂版上代学制の研究	9
実学史研究 [I~XI]	〔品切〕	上代学制論攷 (桃裕行著作集 第2巻)	
老舗に学ぶ京の衣食住	87	[オンデマンド版]	9
死の尊厳	〔品切〕	上代日本染織史	〔品切〕
自筆本三論物語	〔品切〕	象徴天皇制の形成と定着	40
島根県教育史 (都道府県教育史)	〔品切〕	浄土宗西山派と三鈔寺文書 (京大博物館の古文書 第9輯)	6
下村為山 → 画集下村為山	〔品切〕	浄土宗叢書	49

小児科学の史的変遷	44	真宗史料集成	〔品切〕
情熱の移植医	〔品切〕	真宗全書→新編真宗全書	〔品切〕
襄のライフは私のライフ（新島襄を語る別巻4）	32	新世紀を創る。（京大博物館）	〔品切〕
正法山誌	〔品切〕	人生工学うらおもて	〔品切〕
正法山六祖伝訓註	〔品切〕	人生と芸術の対話	〔品切〕
蕉門珍書百種・和露天庫	〔品切〕	人生の歩み 業績録 レース-ゲストエ	〔品切〕
条約改正交渉史	〔品切〕	新装版 富士川游著作集	〔品切〕
条約改正と英国人ジャーナリスト	〔品切〕	新撰大洋	〔品切〕
少林無孔笛訳注→東陽英朝		新撰瓶花図彙（華道古典名作選集 第10巻）	〔品切〕
少林無孔笛訳注（一）	48	新勅撰和歌集古注釈とその研究	〔品切〕
昭和初期 一移民の手紙による生活史	〔品切〕	新訂 法然上人絵伝	50
昭和民芸紙譜	〔品切〕	神道叢書	〔品切〕
書畫名賢詳伝→宋元明清書畫名賢詳伝	〔品切〕	神仏分離の動乱	〔品切〕
初期古代東北の研究	〔品切〕	神仏習合の歴史と儀礼空間 [オンデマンド版]	21
食材と調理（和食文化ブックレット6）	75	新編真宗全書	〔品切〕
統撰吟集諸本の研究	〔品切〕	新編富士谷御杖全集 [全8巻]	〔品切〕
続日本紀の世界	〔品切〕	神名の語源辞典	〔品切〕
織豊期主要人物居所集成 [第2版]	26	新説絵本伊勢物語	〔品切〕
織豊期の茶会と政治 [オンデマンド版]	28	親鸞の研究 [上・下]	
植民地朝鮮の勸農政策	37	（宮崎圓遵著作集第1・2巻）	〔品切〕
植民地朝鮮の日常を問う		診療報酬の歴史	〔品切〕
（佛教大学国際学術研究叢書3）	36	人類医学年表	43
植民地帝国日本における知と権力	34	神霊の音ずれ	74
諸国名物御前菓子秘伝鈔（菓子文庫シリーズ）	73	神話・伝承学への招待	75
書道史より見る禅林の墨蹟	〔品切〕	神話文学の展開	82
書の文化史	58		
シリーズ古典再生	80・81	す	
「塵海」→北垣国道日記「塵海」	8	水系都市京都	33
宸翰英華	〔品切〕	水車の技術史	〔品切〕
宸翰英華 別篇北朝	58	瑞泉寺史	48
新・漢方処方マニュアル	〔品切〕	瑞泉寺史別巻（妙心寺派語録 一・二）	48
神祇全書	〔品切〕	末宗廣著作集（茶書の研究・茶人の研究）	〔品切〕
鍼灸医学序説	〔品切〕	杉浦重剛全集 [全6巻]	〔品切〕
鍼灸古典入門	〔品切〕	杉浦重剛先生	〔品切〕
新校太平記 [全2冊]	〔品切〕	数奇の革命	〔品切〕
新興俳人の群像	83	図説日本医療文化史	46
新・小堀遠州の書状	29	図説万国博覧会史	〔品切〕
新纂校訂即非全集	48	崇徳院怨霊の研究 [オンデマンド版]	21
新纂校訂木菴全集	47	墨と響きあう	〔品切〕
神社叢録	〔品切〕	墨の興趣 短歌と墨紀行	60
人車記 [全4冊]（陽明叢書記録文書篇 第5輯）	5	住友史料叢書	6
神社継承の制度史（神社史料研究会叢書V）	51	住友の歴史 [上・下]	68
神社史料研究会叢書	51	住友別子鉱山史	67
神祇志料・附考	〔品切〕	角倉一族とその時代	28
真宗史の研究 [上・下]		住吉如慶筆 伊勢物語絵巻	59
（宮崎圓遵著作集 第4・5巻）	〔品切〕	駿河伊達家文書（京大博物館の古文書 第5輯）	6
真宗書誌学の研究		図録京都大学文学部博物館（京大博物館1）	〔品切〕
（宮崎圓遵著作集 第6巻）	〔品切〕	図録和紙の文化史年表	〔品切〕

せ		禪語辞典	4
		千載和歌集・長秋詠藻・熊野懷紙	
政教社の研究	〔品切〕	(陽明叢書国書篇 第3輯)	78
西山浄土教の基盤と展開	〔品切〕	先史時代の北白川 (京大博物館4)	〔品切〕
西笑和尚文案 → 相国寺蔵 西笑和尚文案	48	禪宗史の散策	〔品切〕
精神病医齋藤茂吉の生涯	44	禪宗文化史の研究	〔品切〕
政治と行政の理論と実際	〔品切〕	染織史考	〔品切〕
精選山頭火遺墨集	〔品切〕	染織文様史の研究	〔品切〕
西南地域の史的展開〔近世篇〕	〔品切〕	仙伝抄 (華道古典名作選集 第2巻)	〔品切〕
西南地域の史的展開〔近代篇〕	〔品切〕	煎茶文化考	〔品切〕
生の尊厳	46	善導大師と法然上人 (佛教大学鷹陵文化叢書 別)	〔品切〕
生命の意味〔全2巻〕	〔品切〕	禪と思想	〔品切〕
生命論と靈性文化 (佛教大学国際学術研究叢書1)	52	禪と美術	〔品切〕
西洋化の構造	30	塙仏の來た道	77
世界遺産と天皇陵古墳を問う	33	千里の志 (新島襄を語る1)	〔品切〕 32
世界喫煙伝播史	75	禪林墨蹟	〔品切〕
世界の医学史 → 体系世界医学史	〔品切〕	禪林墨蹟拾遺	57
世界を巡る美術探検	55	禪録慣用語俗語要典	〔品切〕
関ヶ原合戦と近世の国制	24		
セザンヌと鉄斎	59	そ	
絶海語録〔全3巻〕	〔品切〕	想音	〔品切〕
摂関院政期思想史研究	19	挿花百練 (華道古典名作選集 第3巻)	〔品切〕
摂関時代文化史研究 (史学叢書)	〔品切〕	宋元學案・宋元學案補遺人名字號別名索引	〔品切〕
雪江禪師語録	〔品切〕	宋元明清書畫名賢詳伝	〔品切〕
雪叟紹立 雪叟詩集訓注	82	漱石と世界文学	84
絶対透明の探求	〔品切〕	漱石文学の水脈	84
説話研究を拓く	82	造像量度経	〔品切〕
瀬戸内海地域社会と織田権力 (史学叢書)	17	宗達伊勢物語図色紙	59
先学追慕	〔品切〕	増訂 古画備考	〔品切〕
禅学論攷	〔品切〕	増訂 日本貨幣史	〔品切〕
一九三〇年代東アジアの文化交流		増訂 日本古紙幣類鑑	〔品切〕
(大手前大比較叢書9)	85	増訂 富士谷御杖の生涯	〔品切〕
一九二〇年代東アジアの文化交流		曹洞宗の地域的展開	〔品切〕
(大手前大比較叢書6)	85	増補 陰陽道の神々	〔品切〕
一九二〇年代東アジアの文化交流Ⅱ		増補・改訂 南北朝期公武関係史の研究	18
(大手前大比較叢書7)	85	増補改訂 新島八重と夫、襄	32
宣教と受容	30	増補・改訂 西村茂樹全集〔全12巻〕	38
前近代日本の病氣治療と呪術	76	増補・改訂 兵範記人名索引	11
戦国期関東公方の研究 (史学叢書)	17	増補 郷土教育運動の研究	〔品切〕
戦国期権力佐竹氏の研究〔オンデマンド版〕	18	増補 淡窓全集	〔品切〕
戦国期東国の都市と権力 (史学叢書)	〔品切〕	増補 津村別院誌	〔品切〕
戦国期六角氏権力と地域社会	22	増補 日本医事大年表	〔品切〕
戦国・織豊期大坂の都市史的研究	29	増補 妙心寺史	47
戦国大名権力構造の研究	19	増補 蓮月尼全集	83
戦国大名佐々木六角氏的基础研究	20	草木出生伝 (華道古典名作選集 第6巻)	〔品切〕
戦国大名武田氏の研究 (史学叢書)	14	続花道古書集成	66
戦国大名武田氏の権力構造	18	続木のはなし	〔品切〕
戦国大名の外交と都市・流通 (史学叢書)	17	続洪庵・適塾の研究	26

続々日本仏教美術史研究	57	橘為仲朝臣集	58
続中世東国の支配構造 (史学叢書)	14	ダーティントン国際工芸家会議報告書	60
続日本仏教美術史研究	56	田中久重と技術の継承 (佛教大学研究叢書36)	69
続・鍼の道	[品切]	田中不二麿関係文書 (京大史料叢書)	7
即非全集 → 新纂校訂即非全集	48	谷崎潤一郎と世紀末 (大手前大比較叢書 1)	85
続平家物語諸本の研究	[品切]	田能村竹田基本画譜	59
そそのの哲学	65	魂の指定席 (新島襄を語る6)	[品切] 32
徂徠学の史的研究	39	丹後地域史へのいざない	[品切]
空の調べ→戸田勝久画集 空の調べ	59	短冊集影 → 平安人物志短冊集影	[品切]
		檀紙考 (和紙文庫 第三号)	[品切]
		淡窓全集 → 増補淡窓全集	[品切]
た			
「大大阪」→雑誌「大大阪」CD・ROM	[品切]		
対外関係と文化交流 [オンデマンド版]	21		
「大化改新」史論 [全2冊]	[品切]		
大記 (京大史料叢書)	7	ち	
大工頭中井家建築指図集	70	地域開発と村落景観の歴史的展開	35
体系世界医学史	[品切]	地域社会から見る帝国日本と植民地	32
大航海時代の日本と金属交易		地域名菓の誕生 [オンデマンド版]	76
(別府大学文化財研究所企画シリーズ3)	20	『親信卿記』の研究	11
大正・昭和期の日本政治と国際秩序	32	近松全集	[品切]
太子信仰と天神信仰	52	「千種」物語	62
大乘起信論 → 訳注大乘起信論	52	知の伝達メディアの歴史研究	35
大徳寺伝来五百羅漢図	[品切]	茶会記をひもとく 逸翁と茶会	64
大燈国師語録	[品切]	着衣する身体と女性の周縁化	74
大地へのまなざし	34	茶書の研究・茶人の研究 (末宗廣著作集)	[品切]
大日本地震史料	[品切]	茶人と茶の湯の研究	[品切]
大日本租税志	[品切]	茶窓問話→評註茶窓問話	[品切]
太平記 (龍谷大学善本叢書26)	79	茶道と恋の関係史	[品切]
太平記 → 新校太平記	[品切]	茶道望月集 (顕学院本2)	64
太平記諸本の研究	81	茶と室内デザイン	71
太平記の世界の研究	15	茶湯 → 雑誌茶湯	[品切]
大本山くろ谷 金戒光明寺 宝物総覧	49	茶湯古典叢書	63
大名庭園の近代	33	茶の医薬史	64
大洋 → 新撰大洋	[品切]	茶の湯 恩頼抄	65
高雄山神護寺文書集成	9	茶の湯空間の近代	71
高木仙右衛門に関する研究	53	茶の湯交遊録 小林一三と松永安左エ門	65
高橋貞一文学論集	[品切]	茶の湯一心とかたち一(熊倉功夫著作集 第1巻)	66
高円宮コレクションⅡ→根付 高円宮コレクションⅡ	61	茶の湯とイエズス会宣教師 [オンデマンド版]	22
高山辰雄の世界	[品切]	茶の湯と音楽	65
多紀氏の事蹟	[品切]	茶の湯と茶人の歴史 (熊倉功夫著作集 第2巻)	66
沢庵和尚年譜 (近世禅僧伝 第1巻)	[品切]	茶湯百亭百会 (顕学院本3)	64
竹内栖鳳 近代日本画の源流	[品切]	茶の湯文化と小林一三	64
竹内栖鳳とその弟子たち →		茶の湯 連翹抄	63
海を渡り世紀を越えた 竹内栖鳳とその弟子たち	54	茶譜 (茶湯古典叢書5)	63
竹取物語の国語学的研究 (中川浩文論文集 上巻) [品切]		中華民国の誕生と大正初期の日本人	36
竹の経済史	[品切]	中近世農業史の再解釈	26
武野紹鷗 わびの創造	64	中国戯曲善本三種	[品切]
太宰文学の女性像	[品切]	中国近世における国家と禅宗	[品切]

中国語圏における厨川白村現象	84	中世の文学と学問（龍谷大学仏教文化研究叢書15）	81
中国五代国家論（佛教大学研究叢書12）		中世風狂の詩	47
〔オンデマンド版〕	37	中世仏教と庶民生活（宮崎圓遵著作集 第3巻）〔品切〕	
中国浄土教と浄土宗学の研究	〔品切〕	中世文化と浄土真宗	50
中国随筆索引	〔品切〕	中世文化とその基盤	
中国銅銭の世界（佛教大学鷹陵文化叢書16）	〔品切〕	（芳賀幸四郎歴史論集 第4巻）	〔品切〕
中国南北朝隋唐陶俑の研究	61	中世民衆生活史の研究〔オンデマンド版〕	22
中国における妊娠・胎発生論の歴史	〔品切〕	中世和歌集（陽明叢書国書篇 第6輯）	78
中国の古代都市文明（佛教大学鷹陵文化叢書6）	〔品切〕	中世和歌つれづれ	〔品切〕
中国文人画家の近代	54	中世和歌の想念と表現	〔品切〕
中古中世和歌文学論叢（龍谷大学仏教文化研究叢書9）	81	中右記〔全4冊〕（陽明叢書記録文書篇 第7輯）	5
中古和歌集（陽明叢書国書篇 第5輯）	78	長講堂領目録と島田家文書（京大博物館の古文書 第1輯）	6
中世アーカイブズ学序説	21	朝鮮医学史及び疾病史 →	
中世歌書集	79	補訂朝鮮医学史及び疾病史	43
中世畿内における都市の発達〔オンデマンド版〕	21	朝鮮医事年表	43
中世京都の空間構造と礼節体系	18	朝鮮医書誌	〔品切〕
中世京都の都市と宗教〔オンデマンド版〕	21	朝鮮科学史における近世	39
中世京都の民衆と社会〔オンデマンド版〕	21	朝鮮近現代史を歩く（佛教大学鷹陵文化叢書20）	36
中世京都文化の周縁（史学叢書）	14	朝鮮古書画総覧	〔品切〕
中世・近世の村と地域社会	25	朝鮮通信使の研究	25
中世近世和歌文芸論集（龍谷叢書15）	81	朝鮮独立運動と東アジア	37
中世禁裏女房の研究	22	鎮守の森は甦る	〔品切〕
中世公家領の研究（史学叢書）	15	鎮守の森の物語	74
中世蹴鞠史の研究	17	青島の都市形成史：1897-1945	36
中世後期の香文化	20		
中世後期の寺社と経済（史学叢書）	15	つ	
中世考古美術と社会（史学叢書）	〔品切〕	追憶の記	〔品切〕
中世国語資料（陽明叢書国書篇 第14輯）	78	通天楼日記	55
中世国語資料集（龍谷大学善本叢書33）	80	月と西行	〔品切〕
中世寺院社会と民衆	20	「月次祭礼図屏風」の復元と研究	60
中世寺院社会の研究（史学叢書）	16	月を愛でる	59
中世寺社信仰の場〔オンデマンド版〕	71	椿井大塚山古墳と三角縁神獣鏡	
中世荘園の世界	15	（京大博物館2）	〔品切〕
中世史料学叢論	〔品切〕	津村別院誌 → 増補津村別院誌	〔品切〕
中世寺領荘園と動乱期の社会（史学叢書）	16	徒然草を語る	〔品切〕
中世前期女性院宮の研究	18		
中世禅林の学問及び文学に関する研究		て	
（芳賀幸四郎歴史論集 第3巻）	〔品切〕	檀園小石先生叢話	〔品切〕
中世村落と仏教（史学叢書）	〔品切〕	帝国議会と教育政策	〔品切〕
中世村落の景観と環境	16	定子皇后→枕草子幻想定子皇后	〔品切〕
中世村落の景観と生活（史学叢書）	15	デイドロとルソー 言語と《時》	〔品切〕
中世東国の支配構造（史学叢書）	〔品切〕	手すきの紙郷	〔品切〕
中世東寺と弘法大師信仰（史学叢書）	14	鉄斎米寿記念貽咲墨戯	〔品切〕
中世都市共同体の研究（史学叢書）	15	鉄道日本文化史考	31
中世都市「府中」の展開（史学叢書）	16	鉄砲	23
中世長崎の基礎的研究	19	典医の歴史	〔品切〕
中世日本の政治と文化	17	天翔ける白鷗	〔品切〕
中世の契約社会と文書	19	天下人の神格化と天皇	27

西村茂樹全集→増補・改訂 西村茂樹全集	38	日本古紙幣類鑑 → 増訂 日本古紙幣類鑑	〔品切〕
西山地藏院文書（京大史料叢書）	7	日本古写経現存目録	〔品切〕
20世紀の経済と文化（大経大研究叢書）	〔品切〕	日本古代宮廷社会の研究（史学叢書）	10
21世紀のグランドデザイン	〔品切〕	日本古代国家の展開〔全2巻〕	〔品切〕
二松学舎大学学術叢書	76・82・83	日本古代国家の農民規範と地域社会	13
日欧のかけはし	〔品切〕	日本古代商業史の研究（史学叢書）	11
日蘭交渉史の研究（史学叢書）	23	日本古代即位儀礼史の研究〔オンデマンド版〕	14
日蘭交流史 その人・物・情報	〔品切〕	日本古代地域史研究序説	〔品切〕
日露戦争従軍記	〔品切〕	日本古代典籍史料の研究	12
日仏文学・美術の交流		日本古代都市史研究	77
（大手前大比較叢書10）	85	日本古代の伝承と歴史	〔品切〕
日仏マンガの交流（大手前大比較叢書11）	〔品切〕	日本古代の武具	12
日記が開く歴史の扉（京大博物館）	〔品切〕	日本古代文書研究	12
日記・古記録の世界	13	日本古代養鷹の研究	11
日光東照宮の成立〔オンデマンド版〕	28	日本国家の史的特質〔近世・近代〕	〔品切〕
日中演劇交流の諸相	72	日本国家の史的特質〔古代・中世〕	〔品切〕
日中実学史研究	23	日本古典随筆の研究と資料	
日中親族構造の比較研究（史学叢書）	11	（龍谷大学仏教文化研究叢書19）	81
日中戦争から世界戦争へ	31	日本災異志	〔品切〕
日中戦争についての歴史的考察	31	日本産科叢書	42
日本音楽史料叢刊	〔品切〕	日本産業技術史事典	69
日本医史学雑誌〔全18冊〕	〔品切〕	日本史における国家と社会	〔品切〕
日本医事大年表 → 増補 日本医事大年表	〔品切〕	日本社会の史的構造〔近世・近代〕	〔品切〕
日本医療文化史 → 図説 日本医療文化史	46	日本社会の史的構造〔古代・中世〕	〔品切〕
日本花押大観	〔品切〕	日本写経綜鑒	〔品切〕
日本画家辞典	〔品切〕	日本肖像画図録（京大博物館3）	58
日本貨幣史 → 増訂 日本貨幣史	〔品切〕	日本書紀の世界	〔品切〕
日本眼科学史 → 稿本 日本眼科学史	〔品切〕	日本人辞典	〔品切〕
日本眼科学会百周年記念誌	〔品切〕	日本禅宗史論集〔全4巻〕〔下之一・二 品切〕	47
日本眼科の年表	〔品切〕	日本染織工藝史 上	〔品切〕
日本眼科を支えた明治の人々	〔品切〕	日本染織史	〔品切〕
日本玩具史	〔品切〕	日本中世政治文化論の射程	19
日本教育史論叢	〔品切〕	日本中世の王権と権威〔オンデマンド版〕	21
日本近世貨幣史の研究	29	日本中世の環境と村落	20
日本近世染織業発達史の研究	62	日本中世の社会と寺社	19
日本近世地誌編纂史研究〔オンデマンド版〕	29	日本中世の政治権力と仏教〔オンデマンド版〕	21
日本近世の宗教と社会	26	日本中世の地域社会と仏教	20
日本近世文学研究の新領域	〔品切〕	日本中世の地域と社会	14
日本近代化と真宗地帯の研究	〔品切〕	日本中世の民衆・都市・農村	22
日本近代化の諸相	〔品切〕	日本中世の領主一揆	20
日本近代都市史研究	〔品切〕	日本庭園像の形成	70
日本近代の成立と展開	〔品切〕	日本的時空観の形成	13
日本経済史の研究	〔品切〕	日本で初めて翻訳した解剖書	42
日本建築細部変遷小図録 →		日本銅鉞業史の研究	67
補訂 日本建築細部変遷小図録	〔品切〕	日本の元氣印・新島八重（新島寛を語る別巻1）	32
日本建築史図録	〔品切〕	日本の心と源氏物語（シリーズ古典再生2）	81
日本建築の構造と技法	〔品切〕	日本の社会と真宗	〔品切〕
日本建築様式の研究	〔品切〕	日本の食の近未来	72

日本の政策金融	〔品切〕	幕末維新期の陵墓と社会	27
日本の前近代と北陸社会	〔品切〕	幕末・維新の西洋兵学と近代軍制	〔品切〕
日本の朝鮮・台湾支配と植民地官僚	〔品切〕	幕末・維新を考える	
日本の通過儀礼（佛教大学鷹陵文化叢書4）	〔品切〕	（佛教大学鷹陵文化叢書2）	〔品切〕
日本梅毒史の研究	44	幕末外交儀礼の研究	29
日本美術史論究〔全7巻〕	〔品切〕	幕末期長州藩洋学史の研究	24
日本囊物史	〔品切〕	幕末期の老中と情報	27
日本仏教美術史研究	〔品切〕	幕末軍事技術の軌跡	6
日本文学とその周辺		幕末財政史研究	〔品切〕
（龍谷大学仏教文化研究叢書33）	82	幕末・明治期の儒学思想の変遷	40
日本文学の「女性性」	83	幕末明治の文人 山中信天翁	〔品切〕
日本文化と民族移動（文明と環境Ⅱ）	〔品切〕	芭蕉の文墨	〔品切〕
日本法制史論集	〔品切〕	旗本知行所の研究（史学叢書）	〔品切〕
日本料理文化史（熊倉功夫著作集 第7巻）	66	八代抄・新後拾遺和歌集	
人間・科学・宗教	〔品切〕	（徳川黎明会叢書 和歌篇3）	78
人夢史	〔品切〕	華岡青洲先生及其外科	〔品切〕
入門 奈良絵本・絵巻	〔品切〕	花籠と竹花入	〔品切〕
庭と建築の煎茶文化	71	花園院宸記〔全35巻〕〔第10回配本品切〕	6
仁明朝史の研究	12	花みる心	〔品切〕
		早池峰岳神楽の継承と伝播	
ぬ		（佛教大学研究叢書18）	75
布がつくる社会関係	74	原三溪翁伝	〔品切〕
		原田伴彦著作集〔全7巻・別巻1〕	〔品切〕
ね		原田伴彦論集〔全5巻〕	〔品切〕
寧楽美術館の印章	37	鍼の道	〔品切〕
根付 高円宮コレクションⅡ	61	バリ万国博覧会とジャポニズムの誕生	72
年中行事としきたり（和食文化ブックレット2）	75	万国博覧会と人間の歴史	72
念佛的自觉	〔品切〕	万国博覧会の研究	〔品切〕
念仏の時空論考	〔品切〕	ハンサムに生きる（新島襄を語る7）	〔品切〕32
		般舟讚私講	〔品切〕
の		萬象録〔全9巻〕	6
能管の演奏技法と伝承	76	阪神・淡路大震災と歴史的建造物	〔品切〕
脳死は、死でない。	〔品切〕	阪神文化論（大手前大比較叢書5）	85
能勢朝次著作集〔全10巻〕	〔品切〕	磐水存響	〔品切〕
野中広務	〔品切〕		
野村得庵の文化遺産	65		
		ひ	
は		「ヒイデスの導師」の原典的研究→キリシタン版	
バーナード・リーチ再考	61	「ヒイデスの導師」の原典的研究	〔品切〕
俳句とジャポニズム	〔品切〕	比較詩学と文化の翻訳（大手前大比較叢書8）	85
俳句とスペインの詩人たち	86	東アジア経済史研究 第1集（大経大研究叢書）	67
売茶翁の生涯	〔品切〕	東アジアと『半島空間』	〔品切〕
葉隠の世界	39	東アジアの交流と地域展開	36
芳賀幸四郎歴史論集〔全5巻〕	〔品切〕	東アジアの交流と地域諸相	〔品切〕
白隠和尚年譜（近世禅僧伝 第7巻）	〔品切〕	東アジアのなかの日本	11
幕藩権力と寺院・門跡（史学叢書）	24	東アジアの本草と博物学の世界〔全2巻〕	25
幕藩政アーカイブズの総合的研究	28	東と西の医療文化	〔品切〕
幕藩制国家の成立と対外関係（史学叢書）	〔品切〕	東山文化の研究〔全2巻〕	
		（芳賀幸四郎歴史論集 第1・2巻）	〔品切〕

飛脚問屋井野口屋記録 [全4巻]		復活！不昧公大圓祭	64
(大経大史料叢書)	[品切]	仏教教化研究	[品切]
ビーコンヒルの小径 (新島襄を語る8)	32	仏教・共生・福祉 (佛大鷹陵文化叢書1)	[品切]
美術史を愉しむ	[品切]	佛教藝術 [全22冊]	[品切]
美女の図像学	84	仏教考古学論攷 [全6巻]	[品切]
備前岡山の在村医 中島家の歴史	45	仏教思想と浄土教	[品切]
ひとりは大切 (新島襄を語る2)	[品切] 32	仏教説話の美術	[品切]
日名子実三の世界	61	佛敎大学附属図書館所蔵 貴重古典籍目録→	
雛祭新考	[品切]	開学百周年記念 佛敎大学附属図書館所蔵 貴重古典	
泌尿器科学史	[品切]	籍目録	[品切]
響きあう東西文化	72	仏教東漸	52
百人一首万華鏡	[品切]	仏教東漸の旅	56
尾陽 [全9巻]	54	仏教と癒しの文化 (佛敎大学国際学術研究叢書4)	52
兵庫県の教育史 (都道府県教育史)	[品切]	仏教と社会 (佛敎大学国際学術研究叢書5)	52
評註茶窓問話	[品切]	仏教と平和 (佛敎大学国際学術研究叢書2)	52
兵範記 (京大史料叢書)	7	仏教の日本の土着	[品切]
兵範記紙背文書 (京大史料叢書)	7	仏教美術を学ぶ	57
兵範記人名索引→増補改訂 兵範記人名索引	11	佛教福祉研究	[品切]
漂流記録と漂流体験	25	仏教 文学 芸能	[品切]
平生釵三郎日記抄	[品切]	仏教文化史の研究 (宮崎圓遵著作集 第7巻)	[品切]
広瀬旭莊全集 [全12巻・別巻1]	5	佛光寺の歴史と信仰	[品切]
広瀬先賢文庫目録	[品切]	船簞笥の研究	61
廣瀬淡窓	39	部落差別史研究 (原田伴彦論集 第4巻)	[品切]
広瀬淡窓	[品切]	ブルームスと芭蕉たち	[品切]
ふ		古井喜実と中国	31
風外本高墨蹟集→三河 風外本高墨蹟集	[品切]	ふるさとの食べもの (和食文化ブックレット8)	75
風俗絵画の文化学	[品切]	古田織部茶書 [一・二] (茶湯古典叢書2・3)	63
風俗絵画の文化学Ⅱ	55	文学に見る痘瘡	46
風俗絵画の文化学Ⅲ	55	文学のなかの考古学 (佛敎大学鷹陵文化叢書19)	77
フェノロサ社会論集	40	文化芸能史研究 (原田伴彦論集 第5巻)	[品切]
福井県の教育史 (都道府県教育史)	[品切]	文化史学の挑戦	[品切]
福岡県の教育史 (都道府県教育史)	[品切]	文化の航跡	[品切]
福沢屋論吉の研究	30	文化の手法 (吉田光邦評論集Ⅱ)	[品切]
武家家訓の研究 (桃裕行著作集 第3巻)	9	文芸の創成と展開	10
富士川游著作集 [全10巻]		豊後国志→訓読 豊後国志	[品切]
→新装版 富士川游著作集	[品切]	文人画 往還する美	56
富士谷御杖全集 → 新編 富士谷御杖全集	[品切]	文人世界の光芒と古都奈良	31
富士谷御杖の生涯 → 増訂 富士谷御杖の生涯	[品切]	文見遺墨展覧会図録	[品切]
武士の精神とその歩み	35	文明随想 継承と移転	[品切]
武士と騎士	[品切]	文明と環境 [全3冊]	[品切]
藤村庸軒年譜考 [全2巻]	64	文明の基軸 (吉田光邦評論集Ⅲ)	[品切]
藤村庸軒流茶書 (顕孝院本1)	64	へ	
藤村庸軒をめぐる人々	26	平安歌合集 [全2冊] (陽明叢書国書篇 第4輯)	78
藤原惺窩集	38	平安王朝の葬送	13
藤原道長事典	13	平安期の願文と仏教的世界観 [オンデマンド版]	
伏見学ことはじめ	[品切]	(佛敎大学研究叢書2)	50
蕪村 → 没後220年 蕪村	59	平安貴族社会の秩序と昇進	12

平安京とその時代	〔品切〕	補訂 日本建築細部変遷小図録	〔品切〕
平安時代陰陽道史研究	12	補訂 枕草子集註	〔品切〕
平安時代書道史	58	減びと異郷の比較文化	84
平安時代貿易管理制度史の研究	12	本草学と洋学	24
平安時代の古記録と貴族文化〔史学叢書〕	10	本能寺史料〔全5巻・別巻1〕	〔品切〕
平安人物志短冊集影	〔品切〕	本能寺と信長	〔品切〕
平安朝文学とその周辺	〔品切〕	翻訳文学の視界	86
平記・大府記・永昌記・愚昧記			
〔陽明叢書記録文書篇 第6輯〕	〔品切〕 5	ま	
平家物語〔龍谷大学善本叢書13〕	79	マイナーなればこそ〔新島襄を語る9〕	32
平家物語覚一本新考	〔品切〕	前野良沢	45
平家物語生成考	82	牧野標本館所蔵のシーボルトコレクション	〔品切〕
平家物語諸本の研究→続平家物語諸本の研究	〔品切〕	枕草子幻想定子皇后	〔品切〕
平家物語百二十句本	〔品切〕	枕草子集註→補訂枕草子集註	〔品切〕
平氏政権の研究〔オンデマンド版〕	13	枕草子・徒然草〔陽明叢書国書篇 第10輯〕	78
平治物語・明徳記〔陽明叢書国書篇 第12輯〕	78	枕草子の婦人服飾	〔品切〕
平成新修古筆資料集〔第一〜五集〕〔第一集品切〕	79	正岡子規入門	〔品切〕
別府大学文化財研究所企画シリーズ	20・77	正岡子規と俳句分類	83
ベルツの生涯	〔品切〕	まち祇園祭すまい	〔品切〕
変容する聖地 伊勢	51	松江藩と洋学の研究〔桃裕行著作集 第6巻〕	9
		松岡恵庵本草学の研究	27
ほ		真継家と近世の鋳物師	〔品切〕
鳳凰台・水荃・集古帖		松平春嶽未公刊書簡集	〔品切〕
〔徳川黎明会叢書 古筆手鑑篇四〕	78	松前景広『新羅之記録』の史料的研究	26
「封建・郡県」再考	25	祭りのしつらい	74
		マネジャーの足跡→	
蓬左・霜のふり葉・八雲		役者のパートナー マネージャーの足跡	〔品切〕
〔徳川黎明会叢書 古筆手鑑篇二〕	78	円山応挙論	55
法制史料集〔陽明叢書記録文書篇 第9輯〕	5	萬年山聯芳録〔相国寺史料 別巻〕	〔品切〕
宝石誌	〔品切〕		
房総風雅史	〔品切〕	み	
房総風雅史 古代・中世編	〔品切〕	三河 風外本高墨蹟集	〔品切〕
法然絵伝を読む〔佛教大学鷹陵文化叢書12〕	49	三木金物問屋史料	〔品切〕
法然上人絵伝→新訂 法然上人絵伝	50	ミシンと衣服の経済史〔オンデマンド版〕	68
法然上人絵伝の研究	50	水玉紙・奉書紙・高野紙〔和紙文庫シリーズ〕	〔品切〕
法然伝承と民間寺院の研究	49	水と人	〔品切〕
法然伝と浄土宗史の研究〔史学叢書〕	49	見世物研究	73
蓬萊山と扶桑樹	77	未知への模索〔佛教大学鷹陵文化叢書14〕	〔品切〕
法隆寺史 上	53	光豊公記〔京大史料叢書〕	7
北越偉人沙門良寛全伝	〔品切〕	箕作阮甫	〔品切〕
保元物語〔陽明叢書国書篇 第11輯〕	78	箕作阮甫の研究	〔品切〕
戊辰内乱期の社会	33	御堂関白記〔全5冊〕〔1・2・4品切〕	
細川頼之と西山地藏院文書		〔陽明叢書記録文書篇 第1輯〕	5
〔京大博物館の古文書 第3輯〕	6	御堂関白記全註釈〔第1期・全8冊〕	8
没後220年 蕪村	59	御堂関白記全註釈〔第2期・全8冊〕	8
北方文化研究報告	〔品切〕	『御堂関白記』の研究	13
没理想論争とその影響〔佛教大学研究叢書27〕	84	源通具全歌集	〔品切〕
補訂 朝鮮医学史と疾病史	43	壬生狂言古衣裳	62

宮古島狩俣の神歌	74	モダン・アート論再考	54
みやこの近代	31	餅菓子即席増補手製集	
花洛（みやこ）のモード	62	（菓子文庫シリーズ）	〔品切〕 73
宮崎圓遵著作集〔全7巻〕	〔品切〕	桃山絵画→黄金のとき 桃山絵画	59
宮津市立前尾記念文庫所蔵		桃裕行著作集〔全8巻〕	9
元勲・近代諸家書簡集成	〔品切〕	燃ゆらん花の美しさ	〔品切〕
宮本又次史学館	〔品切〕	森有礼における国民的主体の創出	31
妙心寺史 → 増補妙心寺史	47	森田りえ子作品集	59
妙心寺派語録〔一・二〕（瑞泉寺史別巻）	48	森と火の環境史	73
三輪物語 → 自筆本三輪物語	〔品切〕		
民芸運動と地域文化	〔品切〕	や	
民芸と近代（熊倉功夫著作集 第6巻）	66	八重さん、お乗りになりますか	
民衆生活の日本史〔全3巻〕（火・金 品切）	10	（新島襄を語る別巻2）	32
民俗文化複合体論	〔品切〕	八重の桜・襄の梅（新島襄を語る別巻3）	32
明朝体の歴史	〔品切〕	焼畑の環境学	〔品切〕
		役者のパートナー マネジャーの足跡	〔品切〕
む		訳注大乘起信論	52
棟札の研究	25	八瀬童子〔オンデマンド版〕	75
村田正志著作集〔全7巻〕	9	柳宗悦と民藝運動	〔品切〕
室町期東国社会と寺社造営（史学叢書）	18	病いの克服	46
室町時代庭園史	〔品切〕	山口県の教育史（都道府県教育史）	〔品切〕
室町水墨画と五山文学	55	山口県の美術	〔品切〕
室町・戦国期研究を読みなおす	〔品切〕	大和（奈良）の紙（和紙文庫シリーズ）	〔品切〕
室町幕府管領施行システムの研究	19	大和の古代史跡を歩く	〔品切〕
室町幕府の東国政策	20		
室町幕府文書集成奉行人奉書篇〔全2巻〕	5	ゆ	
		幽霊の歴史文化学	76
め			
名家伝記資料集成	4	よ	
名画はあなたが決める	〔品切〕	洋学史論考（史学叢書）	23
明治期における不敬事件の研究	41	酔うて候 河鍋暁斎と幕末明治の書画会	〔品切〕
明治維新期の政治文化	30	陽明叢書記録文書篇〔全12輯・全31冊・別輯1〕	5
明治維新史という冒険		陽明叢書国書篇〔全15輯・全16冊〕	78
（佛教大学鷹陵文化叢書18）	31	陽明叢書国書篇 第16輯 源氏物語	
明治期外国人叙勲史料集成	6	〔全16冊〕〔3品切〕	78
明治国家の教育思想	〔品切〕	陽明文庫蔵『舞楽散楽図』・法隆寺旧蔵 措鼓	
明治初年真宗門徒大決起の研究	〔品切〕	（日本音楽史料叢刊1）	〔品切〕
明治前期の教育・教化・仏教〔オンデマンド版〕	33	横井小楠の新政治社会像	〔品切〕
明治の避病院	42	与謝蕪村筆「奥の細道画巻」	〔品切〕
明治博物館事始め〔オンデマンド版〕	72	与謝野晶子の『源氏物語礼讃歌』	84
明治文化と西洋人	〔品切〕	与謝野晶子と小林一三	84
名庸集 影印と解題	79	吉田清成関係文書〔全7冊〕（京都大学史料叢書）	7
滅亡高野紙見聞図説（和紙文庫 第二号）	〔品切〕	吉田光邦評論集〔全3巻〕	〔品切〕
		吉田光邦 両洋の人	〔品切〕
も		夜の解剖室	〔品切〕
もう一つの中世像	〔品切〕	よはひ草	〔品切〕
木（民衆生活の日本史 第1巻）	10		
木菴全集→新纂校訂木菴全集	47		

ら		歴史の中の都市と村落社会	23
楽市楽座令の研究	22	歴史の中の病と医学	[品切]
「洛中洛外」の社会史	[品切]	歴世服飾図説	[品切]
蘭学の背景	[品切]	暦法の研究 [上・下] (桃裕行著作集 第7・8巻)	
蘭学、その江戸と北陸	45		[オンデマンド版] 9
蘭溪和尚語録 (蘭溪道隆禅師全集1)	48	蓮月尼全集 → 増補 蓮月尼全集	83
蘭溪道隆禅師全集	48	蓮如上人研究	[品切]
蘭室藤村正貞年譜考	[品切]		
り		ろ	
立華時勢粧 (華道古典名作選集 第4巻)	[品切]	老僧が語る京の仏教うらおもて	87
立花初心抄 (華道古典名作選集 第9巻)	[品切]	老農・中井太郎と農民たちの近代	69
立憲国家中国への始動	36	鹿王院文書の研究	6
琉球船と首里・那覇を描いた絵画資料研究	59	鹿苑寺と西園寺	[品切]
龍谷叢書	81		
龍谷大学善本叢書	52・79・80	わ	
龍谷大学仏教文化研究叢書	81・82	若狭秦家文書 (京大博物館の古文書 第2輯)	6
龍宝山大徳禅寺世譜	[品切]	和菓子と日本茶 (和食文化ブックレット9)	75
律令国家の展開と地域支配 (史学叢書)	11	和歌題林抄・三千首和歌・萱草	
料紙と書	[品切]	(徳川黎明会叢書 和歌篇五)	78
料理新製以毛百珍 (菓子文庫シリーズ)	73	和漢紙文献類聚	[品切]
林氏塩瀬山城伝来記 (菓子文庫シリーズ)	73	和漢朗詠集・新撰朗詠集 (陽明叢書国書篇 第7輯)	78
琳派 響きあう美	55	和紙の文化史年表 → 図説和紙の文化史年表	[品切]
		和紙文化	[品切]
る		和紙文化史年表	[品切]
類聚古集 [全3巻] (龍谷大学善本叢書20)	79	和紙文庫 [1～3号]	[品切]
		和紙文庫シリーズ	[品切]
れ		和食手帖	76
歴史災害のはなし	[品切]	和食と健康 (和食文化ブックレット4)	75
歴史とアイデンティティ	[品切]	和食と日本酒 (和食文化ブックレット10)	75
歴史における周縁と共生	27	和食とは何か (和食文化ブックレット1)	75
歴史の地層から	[品切]	和食の歴史 (和食文化ブックレット5)	75
歴史のなかの源氏物語 (シリーズ古典再生3)	81	和食文化ブックレット	75
歴史のなかの天皇陵	35	私の中の20世紀の外国映画	[品切]
		我生きて今ある命を	[品切]

※大阪経済大学日本経済史研究所研究叢書 → (大経大研究叢書)
 ※大阪経済大学日本経済史研究所史料叢書 → (大経大史料叢書)
 ※大手前大学比較文化研究叢書 → (大手前大比較叢書)
 ※京都大学文学部博物館図録・京都大学総合博物館図録 → (京大博物館)
 ※京都大学史料叢書 → (京大史料叢書)

受賞図書一覧

第13回角川源義賞	中世東寺と弘法大師信仰	14頁
第21回角川源義賞	東寺・東寺文書の研究	17頁
第6回全国大学国語国文学会賞	一休派の結衆と史的展開の研究	18頁
第30回田邊尚雄賞	天皇・将軍・地下楽人の室町音楽史	19頁
第8回日本思想史学会奨励賞	摂関院政期思想史研究	19頁
第10回林屋辰三郎藝能史研究奨励賞	中世後期の香文化	20頁
平成28年度茶道文化学術奨励賞	茶の湯とイエズス会宣教師	22頁
第16回矢数医史学賞・第2回徳川賞	本草学と洋学	24頁
平成24年度歌舞伎学会奨励賞	近世上方歌舞伎と堺	27頁
第15回茶道文化学術奨励賞	織豊期の茶会と政治	28頁
第23回日本比較文学会賞	幕末外交儀礼の研究	29頁
第3回日本生活文化史学会賞	十九世紀日本の園芸文化	29頁
第16回サントリー学芸賞	西洋化の構造	30頁
第34回毎日出版文化賞特別賞	京都の医学史	43頁
第15回矢数医史学賞	天然痘根絶史	44頁
第3回角川源義賞	日本禅宗史論集	47頁
第26回ジャポニズム学会賞	ドイツにおける〈日本＝像〉	54頁
第14回林家辰三郎藝能史研究奨励賞	描かれた祇園祭	56頁
日本風俗史学会・野口信造賞	壬生狂言古衣裳	62頁
第16回茶道文化学術賞	公家茶道の研究	63頁
平成24年度茶道文化学術奨励賞	茶の湯と音楽	65頁
平成25年度茶道文化学術奨励賞	近代の「美術」と茶の湯	65頁
第8回優秀会社史賞	住友別子鉱山史	67頁
第7回高知出版学術賞	近世鉱山社会史の研究	67頁
第7回(1994年度)日本産業技術史学会学会賞	大阪砲兵工廠の研究	69頁
2016年度全日本博物館学会賞	近代日本〈陳列所〉研究	71頁
第5回建築史学会賞	中世寺社信仰の場	71頁
平成30年度茶道文化学術奨励賞	茶の湯空間の近代	71頁

2012年度芸術選奨文部科学大臣新人賞

	岡倉天心の比較文化史的研究	72頁
第20回日本比較文学会賞	日中演劇交流の諸相	72頁
第5回ジャポニズム学会奨励賞	パリ万国博覧会とジャポニズムの誕生	72頁
第35回サントリー学芸賞・第9回林屋辰三郎藝能史研究奨励賞・		
第46回日本演劇学会河竹賞奨励賞	京舞井上流の誕生	75頁
第4回林屋辰三郎藝能史研究奨励賞	翁の生成	75頁
平成26年度茶道文化学術奨励賞	西鶴の文芸と茶の湯	83頁
第17回俳人協会評論賞	正岡子規と俳句分類	83頁
第20回俳人協会評論賞	新興俳人の群像	83頁
第1回南方熊楠賞・第7回女性史青山なを賞特別賞・第18回山片蟠桃賞		
	もう一つの中世像	【品切】
第5回豊田実賞	近代化の推進者たち	【品切】
第4回矢数医史学賞	医心方の伝来	【品切】
第18回矢数医史学賞	絵葉書で辿る日本近代医学史	【品切】
平成8年度國華賞	仏教説話の美術	【品切】
第10回建築史学会賞	日本建築の構造と技法	【品切】
第3回建築史学会賞	まち祇園祭すまい	【品切】
第24回矢数医史学賞	近代医療のあけぼの	【品切】
江馬努賞	岡田章雄著作集	【品切】
昭和58年度徳島県出版文化賞	徳島県教育史	【品切】
第4回間中賞	鍼灸医学序説	【品切】
第44回毎日出版文化賞	京都の美術史	【品切】
第24回ジャポニズム学会賞	壁紙のジャポニズム	【品切】
第24回江馬賞	民俗文化複合体論	【品切】

●協力書店

〈北海道〉	コーチャンフォーミュンヘン大橋店	札幌	(011)817-4000
	コーチャンフォー新川通り店	//	(011)769-4000
	紀伊國屋書店札幌本店	//	(011)231-2131
	MARUZEN&ジュンク堂書店札幌店	//	(011)223-1911
	三省堂書店札幌店	//	(011)209-5600
〈岩手県〉	ジュンク堂書店旭川店	旭川	(016)626-1120
	ジュンク堂書店盛岡店	盛岡	(019)601-6161
〈秋田県〉	ジュンク堂書店秋田店	秋田	(018)884-1370
〈宮城県〉	ジュンク堂書店仙台TR店	仙台	(022)265-5656
〈福島県〉	岩瀬書店富久山店	郡山	(024)936-2220
	ジュンク堂書店郡山店	//	(024)927-0440
〈茨城県〉	ACADEMIAイーアスつくば店	つくば	(029)868-7407
〈群馬県〉	煥乎堂前橋本店	前橋	(027)235-8111
〈埼玉県〉	ジュンク堂書店大宮高島屋店	さいたま	(048)640-3111
	ブックデポ書楽北与野店	//	(048)852-6581
〈東京都〉	八重洲ブックセンター	八重洲	(03)3281-1811
	丸善日本橋店	日本橋	(03)6214-2001
	丸善丸の内本店	丸の内	(03)5288-8881
	三省堂書店神保町本店	神保町	(03)3233-3312
	東京堂書店神田神保町店	//	(03)3291-5181
	紀伊國屋書店新宿本店	代々木	(03)3354-0131
	ブックファースト新宿店	//	(03)5339-7611
	芳林堂書店高田馬場店	高田馬場	(03)3208-0241
	ジュンク堂書店池袋本店	池袋	(03)5956-6111
	MARUZEN&ジュンク堂書店渋谷店	渋谷	(03)5456-2111
	ジュンク堂書店吉祥寺店	吉祥寺	(0422)28-5333
	啓文堂書店吉祥寺店	武蔵野	(0422)79-5070
	オリオン書房ノルデ店	立川	(042)522-1231
	ジュンク堂書店立川高島屋店	立川	(042)512-9910
	MARUZEN多摩センター店	多摩	(042)355-3220
〈神奈川県〉	有隣堂伊勢佐木町本店	横浜	(045)261-1231
	有隣堂ルミネ横浜店	//	(045)453-0811
	ACADEMIA港北店	//	(045)914-3320
	有隣堂アトレ川崎店	川崎	(044)200-6831
	ジュンク堂書店藤沢店	藤沢	(0466)52-1211
〈千葉県〉	ジュンク堂書店柏モディ店	柏	(04)7168-0215
〈静岡県〉	戸田書店静岡本店	静岡	(054)205-6111
	MARUZEN&ジュンク堂書店新静岡店	//	(054)275-2777
〈新潟県〉	ジュンク堂書店新潟店	新潟	(025)374-4411
	萬松堂古町本店	//	(025)229-2221
〈長野県〉	平安堂長野店	長野	(026)224-4545
	MARUZEN松本店	松本	(026)331-8171
〈岐阜県〉	丸善岐阜店	岐阜	(058)297-7008
〈愛知県〉	ちくさ正文館書店本店	名古屋	(052)741-1137
	ジュンク堂書店名古屋店	//	(052)589-6321

	MARUZEN名古屋本店	名古屋	(052)238-0320
	精文館書店豊橋本店	豊 橋	(0532)54-2345
〈富山県〉	Books なかだ掛尾本店専門書館	富 山	(076)492-1192
〈石川県〉	うつのみや金沢香林坊店	金 沢	(0762)34-8111
〈滋賀県〉	ジュンク堂書店滋賀草津店	草 津	(077)569-5553
〈京都府〉	丸善京都本店	京 都	(075)253-1599
	大垣書店烏丸三条店	//	(075)212-5050
	大垣書店イオンモールKYOTO店	//	(075)692-3331
〈奈良県〉	豊住書店	奈 良	(0742)22-8500
	ジュンク堂書店奈良店	//	(0742)36-0801
〈大阪府〉	紀伊國屋書店梅田本店	大 阪	(06)6372-5821
	紀伊國屋書店グランフロント大阪店	//	(06)7730-8451
	MARUZEN&ジュンク堂書店梅田店	//	(06)6292-7383
	ジュンク堂書店大阪本店	//	(06)4799-1090
	ジュンク堂書店難波店	//	(06)4396-4771
	ジュンク堂書店天満橋店	//	(06)6920-3730
	ジュンク堂書店近鉄あべのハルカス店	//	(06)6626-2151
〈兵庫県〉	ジュンク堂書店三宮店	神 戸	(078)392-1001
	ジュンク堂書店三宮駅店	//	(078)252-0777
	ジュンク堂書店明石店	明 石	(0789)18-6670
	ジュンク堂書店西宮店	西 宮	(0798)68-6300
	ジュンク堂書店姫路店	姫 路	(0792)21-8280
〈鳥取県〉	今井書店吉成店	鳥 取	(0857)51-7020
	本の学校今井ブックセンター	米 子	(0859)31-5000
〈香川県〉	宮脇書店総本店	高 松	(0878)23-3152
	ジュンク堂書店高松店	//	(087)832-0170
〈愛媛県〉	ジュンク堂書店松山店	松 山	(089)915-0075
〈岡山県〉	丸善岡山シンフォニービル店	岡 山	(0862)33-4640
〈広島県〉	ジュンク堂書店広島駅前店	広 島	(082)568-3000
	フタバ図書 MEGA中筋店	//	(082)830-0601
	MARUZEN広島店	//	(082)504-6210
	フタバ図書 TERA広島府中店	府 中	(082)561-0770
〈福岡県〉	紀伊國屋書店福岡本店	福 岡	(092)434-3100
	MARUZEN博多店	//	(092)413-5401
	フタバ図書 TERAイオンモール福岡店	粕 屋	(092)939-7200
〈大分県〉	ジュンク堂書店大分店	大 分	(0975)36-8181
〈鹿児島県〉	ジュンク堂書店鹿児島店	鹿児島	(099)216-8838
〈沖縄県〉	ジュンク堂書店那覇店	那 覇	(098)860-7175

他、全国主要大学生協書籍部

思文閣出版広報誌〔無料〕

お う と う つ う し ん
鴨東通信

毎号ゲストの人柄がにじむ楽しいトーク「てーたいむ」を掲載。その他、中堅・若手研究者によるエッセイなど多彩な執筆陣による論考、新刊紹介、史料紹介など。ご登録いただいた方には年2回発行のつど郵送します。

●お申し込み方法

ご希望の方は、以下の①～④をご記入の上、「鴨東通信」希望と書いて小社までお申し込みください。メール・郵送・電話・ファックスで承ります。

①郵便番号 ②住所 ③氏名（フリガナ付） ④関心のある分野・テーマ

※バックナンバーご希望の方はお申込み下さい（欠号がございます）。

メールマガジン「思文閣出版ニュース」〔無料・毎月15日頃配信〕

新刊案内、学会出店情報などをお届けします。メルマガ登録者限定の特典もあります。右記ウェブサイトより、ご登録下さい。 → www.shibunkaku.co.jp/mailmagazine

株式会社思文閣出版

Shibunkaku Publishing Co., Ltd

〒605-0089 京都市東山区古門前通大和大路東入元町355

Tel. 075-533-6860

Fax. 075-531-0009

pub@shibunkaku.co.jp

www.shibunkaku.co.jp

